

幻の夢を追いかける花

或る記憶

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

1950年。北海道の函館にてとあるサラブレッドがデビューした。

10戦10勝。複数のレコードを記録し、人々の記憶に刻み込まれた3本脚で走る幻の馬。

日記が止まった1951年6月3日。東京優駿。

割れんばかりの熱狂の中、一生に1度の大舞台で颯爽と駆ける鹿毛の背中を追い掛ける誰からも見向きをされていなかった真っ黒なサラブレッド。

その馬は、一瞬の煌めきか、はたまた己の実力か、幻へ並び立つ程に近付いた。

同族から嫌われ、人間だけを愛していた真っ黒な馬は、スタート前に初めて自分から隣の鹿毛へと鼻を寄せたという。

真っ黒な身体が白く染まるのを見つめながら、

「悲しい話だ」

誰かが、苦しそうに鉛筆を滑らせた。

毎週日曜日、夕方18：30。

2023／11／05 ↓ If 『日本生まれジャパンカップ海外招待

粹』更新。

P・2 ↓真っ黒な馬がメイン。

If ↓真っ黒な馬の子供や孫達がウマ娘として登場する話。

競走馬 ↓ウマ娘は登場しない「馬」が中心の話

基本的にこの作品に出てくる競走馬(ウマ娘)と騎手、馬主、トレーナー等に元ネタはありません。

全て作者のオリジナルです。

「◇」がタイトルに付いているのは、競走馬の風味があるお話です。  
僕の考えた(多分)最強のウマ娘。

## 目次

キャラクター設定	1
◇雑談	5
感想	9
出会い	14
少し、足りない気持ち	17
優勝イベント	24
◇番外編：休日を	30
◇誰かの日記	32
イベント：季節は巡り、花は咲く。	38
◇馬がヒトに出会ってから、別れるまで。	42
トレセン学園での日常	48
初めての邂逅	53
語ったり語らなかつたり、ラジバンダリ	59
ウマ娘のアセビボタンが可愛い	73
アセビボタンに脳を焼かれた人々	86
必要な練習	100
◇或る馬主の話	106
馬酔木牡丹の独白	114
◇とある家族の欽慕	118
ライブをしよう	121
番外編：寒さと冬毛と金勘定と	129
運命的な出会い	132
帝王へ向けた花	136

初めて見る、馬酔木の花。	143
番外編：いつかのクリスマスは離れた場所で	147
◇馬、人、雪が降る世界	150
手綱と牡丹は紅霞に沈む	153
番外編：気まぐれ散歩	157
エピソード零？	162
ワガママ魔法少女と長女のお花	164
◇ある時代の、ある勝負の、或る実況	170
三冠バの演出家、一冠バの名花。	185
番外編？：チカラちゃんとかボタンちゃん	188
◇ちゃんねるで語り合う人々	191
新旧のステークス	203
今日だけは、桜色を捧げて	206
まだ、目覚めていない君は	216
◇下賜されるは、圧倒的な記録	222
再び出会えた奇跡を掌で重ねて	225
6月に隠される耳	233
猫は牡丹の花に集まるらしい	238
◇馬とウマ、忘れられない鬼籍のヒト。	240
少し昔の思い出と決意する心	243
空の川を眺めていた	245
口にしようが我が愛はいない	247
ヒトの子は昔の失恋を引き摺らない	250
◇死人に梔子、	253
ようこそ。	258

I fのプロフィール	263
アセビボタン、トレセン学園にて	270
アセビボタン：いつか見る栄光	274
アセビロード：ステップでリズムを刻んで	278
色とりどりを渡しに	283
◇アセビスズナ：慈愛／晴れ晴れと	286
◇アセビルピナス：電撃6ハロンの隣にいるウマ	290
反転した歴史	294
アセビツバキ：海を超えて、完璧へと至る	297
クリスマスは其々の思いの中で	305
アセビコウロ：まだ、走り始めたばかりの君へ。	308
明けましておめでとう御座います	311
番組ジャック……？	314
寒い季節を熱くする	328
幻覚の中で出会う2人	331
◇ご高覧あれ、美しき名花の走り	334
ステップの確認事項	338
強者達が舞う、未だ高い壁	341
憧れと癖者とG1初勝利	344
◇在りし日を思う	350
飛べ、その手が触れる前に	355
炎に焚べろ、新緑の香り	358
あどけない君へ偉大な2分間を	361
育成目標：オークスで3着以内	364

アナタがただ一つだけ、落としたものを  
笑ってしまう程簡単に、救われる時もある  
心を震わせる力はきつと、皆が持っている。

勝ったら一緒に

◇「きつと、現れますから」

◇眩しい色彩を

あの人よりも優先できるもの  
理解出来ないものに怪異の被せ物を

◇海に魅入られる

間に合いませーん!!!

海外の冠を手になせよ、乙女。

その馬は、突然変異。

皇帝へ無邪気に火を付けて

日本生まれジャパンカップ海外招待枠

### 競走馬

50年代の競走馬：アセビボタン

50～60年代の競走馬：アセビスズナ

70年代の競走馬：アセビルピナス

90～04年代の競走馬：アセビロード

90～04年代の競走馬：アセビツバキ

2020年代の競走馬：アセビコウロ

21世紀にいた競走馬：ポンポーソ トウカーナエ

その身体に触れながら

初めて見た、競馬の興奮。

適当な人

障害3歳以上未勝利。

皆と走るⅡ最高

愛が世界を超えるのならば、

牡丹の思いは時の碧落に沈む

446

449

451

454



## キャラクター設定

(公式サイト情報)

「いつか、全力のあの子と……勝負がしたい。」

Asebi Botan

アセビボタン

誕生日：4月16日

身長：170cm

体重：先月より少し減った

スリーサイズ：B89 W65 H90

普段はおっとりしているが、勝負事にはとても強いウマ娘。

ファン一号かつ大好きなお父さんに強くなった自分を自慢する為、今日もトレーニングを頑張ります。

脚には気合い、胸には闘志、記憶には応援の言葉を大切に最強の”あの子”に全力勝負で勝つのが夢。

清純だけど、舐めると危険な王者の風格を持っている。

耳飾りは「左」

幅が太めの白いリボンで、たれが長い。

結び目の所に牡丹の飾りを付けている。

(以下ゲーム情報)

「あなたと旅を」

アセビボタン

芝A ダC

短C マB 中A 長D

逃D 先A 差B 追G

「走れ、牡丹」

最終コーナー前でバ群にいた場合、あの日への激励を思い出し速度を上げ、更に所有している加速系スキルの中からランダムで一つ発動させる。

- ・ 集中力
- ・ 直線巧者
- ・ ペースキープ
- ・ 抜け出し準備 (Lv. 2)
- ・ 幻惑のかく乱 (Lv. 3)
- ・ 秋ウマ娘○ (Lv. 4)
- ・ 全身全霊 (Lv. 5)

固有二つ名

「幻に咲いた華」

桜花賞を3バ身差以上で勝利した後、日本ダービーで勝利。その後、天皇賞（秋）を5バ身差以上で勝利する。

アセビボタンのヒミツ①

「実は、お父さんの友人を”お兄ちゃん”と呼び慕っている。」

アセビボタンのヒミツ②

「実は、電車やバス以外での旅行にも挑戦したいと思っている。」

（ふんわりした原作バ）

馬主さんとは相思相愛、馬主の親友さん相手には脳を焼いたアセビ一族の長女。

元々は競馬に関係無く、馬主さんの元へやって来た普通の馬。

……… だったのだが、能力がとんでも無く「競走馬人生で一着を一回でも取れたら大々大金星だ」と言っていた馬主さんの予想を裏切って、多くの馬を置き去り、パーフェクトな彼に負け、最後に再び咲いた出来過ぎた物語を歩んだスーパーガール。

その後は馬主さんが残した言葉を記録で実行するのでは無く、物理で実行した親友さんにより血が残り、現代の競馬場でも「アセビ」という名前が残っている。

アセビの長女であるアセビボタンを筆頭に、競馬の神様から愛されており戦績は勿論、1頭1頭に面白いストーリーがある。

血統としては特に有名な馬がいる、という訳では無いが、馬自体が長生きの血統なのかアセビボタンから数えてもアセビコウロはまだ来孫くらい。そして、アセビボタンソウルを継承しているので温厚で人好きな馬が多い。

名前は現代にまで残っているが、プライベート状態での繁殖になっているので現在ウマ娘で実装しているキャラクターとの夫婦、血統的な関係性は無い。

(現在作品に登場している一族十名前のみ登場した架空馬十元ネタありのオリジナルウマ娘)

同期は作中でその要素は出てきませんが、調べてみたら面白かったので追加しました。

裏で作っている年表に当て嵌めてクラシックを勝った馬達をピツクアップしましたが、偶然ながら人気所と被っていました。

#### 【本編】

- ・アセビボタン (同期：ツキカワ、トキノミノル、キヨフジなど)
- ・トキノチカラ
- ・ポンポーソ (同期：ラインクラフト、シーザリオ、エアメサイア)
- ・トウカーナエ (同期：テイクアベツト、ホツコータルマエなど。中央ではジエンテイルドンナなど)

#### 【If】

- ・アセビスズナ (同期：ウイルデール、コマツヒカリ、ハククラマなど)
- ・アセビルピナス (同期：ハイセイコー、タケホープなど)
- ・アセビロード (同期：ジエニユイン、タヤスツヨシ、マヤノトツプガンなど)
- ・アセビツバキ (同期：プリモディーネ、ウメノファイバー、ブゼンキャンドルなど)
- ・アセビコウロ (同期：アルクトス、テイエムサウスタン、メイシヨウカズサなど。中央ではアフフォーリア、シャフリヤール、タイトルホルダーなど)
- ・オジュウチヨウサン

・アップトウデイト

## ◇雑談

あの時、あの馬には確かに一着を取れる力は残っていませんでした。しかしですね、最後のコーナー前で馬群の中からでも聞こえる様な大きな声で声援が向けられたんです。

「ボタン、走れ」って、「頑張りなさい」って

その声が聞こえた瞬間に、アセビボタンの脚が変わりましたまるで、あの時の走りに戻った様でした。牡馬に怯まず、誰にも影を踏ませず、圧倒的な力で勝負を終わらせていたあの時の様な

気付いた時には私達が一着で勝負が終わっていて、私には何が起こったかサツパリでしたよ

声援を送っていたのは円谷先生って事を知って、合点がいきましたあの子は、アセビボタンは、最後に見に来てくれた父親へ良い姿を見せたかったんだと。

523 : 名無しが適當語り ID : 3PZRLqN7c  
この話何度見ても好き。

524 : 名無しが適當語り ID : D352Cy6q0  
アセビボタンの話はなんぼあっても良いですからね。

525 : 名無しが適當語り ID : 44rLHLOND  
日本ダービー迄は最強牝馬で、日本ダービーで燃え尽きて、その後は全く勝てなくなってラストランの天皇賞で5馬身付けての一着と

526 : 名無しが適當語り ID : VrxONTMIb  
それなんてドラマ？

527：名無しが適當語り ID：HEWM/7B2E  
競馬なんてドラマがあつてなんぼだろ

528：名無しが適當語り ID：Dkzaxu13  
それはそう

529：名無しが適當語り ID：dUpJ2htog  
まあ、負けたと言つても日本ダービーからは4戦しかしてませんけど

530：名無しが適當語り ID：bdDXeUrfx  
それでもずつと1着or2着の馬がドベでしかゴールできなくなつてるから、相当やろ

531：名無しが適當語り ID：AbSjIcSVK  
然も前の馬と2馬身差とか付けられてのビリやもんな

532：名無しが適當語り ID：CbO682nlt  
まあ、出走数自体は馬主さんが競馬に本気じゃないタイプだったからしやーなし

533：名無しが適當語り ID：H7nxzSVE M  
ウマ娘の実装頼むよー頼むよー  
実装されたらフル覚醒できるレベルまで自引きするからよー

534：名無しが適當語り ID：8kHHQmh1G  
ウマ娘の実装は本気でして欲しいけど、マルゼンさんよりも余裕で一回り昔の馬やから周りがね…

535：名無しが適當語り ID：WNtes2aSj  
たづ…あのUMAは実装できんのか？

536 : 名無しが適當語り ID : jG62g8uvD  
いやー、キツイでしょ。

537 : 名無しが適當語り ID : EoueaWIGD  
リトルココンとか、ビターグラッセ、ハッピーミークみたいなライ  
バルポジならワンチャン

538 : 名無しが適當語り ID : OZIG5SJar  
勝てないヤツじゃん

539 : 名無しが適當語り ID : tZq9F/Viv  
あの馬に簡単に勝てる方がバグやろ

540 : 名無しが適當語り ID : 2re8Aamo e  
それもそう

541 : 名無しが適當語り ID : wOp4kY+gX  
アセビボタン大好きなんだよ……馬主さんも大好きなんだよ……  
両方実装しろ (豹変)

542 : 名無しが適當語り ID : XwJv+wScB  
アセビボタンが好きなオタク、同じ位馬主も好き説あると思います

985 : 名無しが適當語り ID : D5uX5DmNt

【速報】

アセビボタンがアプリ、ウマ娘プリティードービーに出走決定！  
詳細はまだ不明だが皆大好きボタンちゃんが、動いて喋ってライブ  
して走るぞー！





## 感想

「御免なさい、トレーナーさん」

「私はレースに対して、周りの子達みたいな強い思いが無いんです」

「欲しいのは誉れ高いG1や重賞の結果でも無くても、ただ一つ。あの子に勝利すること」

「きつと10回戦ったとしても勝てないであろうあの子と本気で走って、勝利すること」

「……それが、私の目標」

「そんな訳で、私みたいなウマ娘より、他の本気で勝負をする子達のためにその力を使って下さい」

・  
・  
・

126：名無しが適當語り ID：KuFlh3d/Q

ボタンのシナリオ良かったなあ…… (しみじみ)

127：名無しが適當語り ID：kEW03YmAf

史実が強かったが故の傲慢と、初めて負けた事に対する絶望感と、それを踏まえての新しい目標を見つける流れがミシユランレベルだった。

128：名無しが適當語り ID：ImFMr/Xs7

それに他のウマ娘シナリオよりも、トキ…… たづなさんとの距離が近くて匂わせ……!!! ってなった (語彙力)

129：名無しが適當語り ID：oAZZdqmUv

>>>128

分かる。分かる。

130 : 名無しが適当語り ID : un6BQ9iTf

原作のゲームとか作品がそうだと認めてないのにこんなに見せつけられることありゆ?

131 : 名無しが適当語り ID : fa12+6AiH

>>130

シナリオは書く人によって解釈が多少変わるものだから(目逸らし)

132 : 名無しが適当語り ID : jjpH2IDoq

でも、たづなさんが某UMAだろうが無かろうが、ウマ娘のアセビボタンのには||じゃ無いのでね

133 : 名無しが適当語り ID : V2kdYorYB

カフェも見えない相手を追ってたからアセビが姿も出ない相手を目標にしても違和感無かったしね

134 : 名無しが適当語り ID : ykFQTXxYg

というか、いない相手を匂わせたり追っていたりするのはウマ娘の常套句ですしお寿司

135 : 名無しが適当語り ID : 3oXY9H6ZC

>>134

それはそう

. . .

250 : 名無しが適当語り ID : Ac3OV1z0F

ボタンちゃんが節目のタイミングで口にしてた「旅をしましょうね」って言葉が妙に気になって、でも、馬主さんとか関係者で旅好きの人もいないし、そういう話も無いしで只のキャラ設定かと思っただけけど、アセビボタンの名前にも使われている植物の「馬酔木」に付けられている花言葉が「あなたと二人で旅をしましょう」で、それを知ってから馬主さんの「あの子は私と長い旅をしてくれました」が刺さった。

251：名無しが適當語り ID：53sAIR8cu

>>250

この馬主と所有馬相思相愛過ぎんよ〜

252：名無しが適當語り ID：9EQr8Ldvb

更に言うとな馬主さんには最初競馬をやるつもりも無くて、アセビボタンも違う名前になる筈だったんだけど、馬は走る生き物だからって言われてそれならと勝利を挙げられ無くて怪我無く走って、競走馬を終えられるようにって付けられたある意味願掛けでもある。

253：名無しが適當語り ID：jCMZ2khHd

>>252

クソ重くて好き

254：名無しが適當語り ID：6TIwB3ON4

始めてみたらとんでもない馬だったんですけどね

255：名無しが適當語り ID：vZ5HG9adz

成績もそうだけど、原作が出来上がり過ぎてる

256：名無しが適當語り ID：c4PpxZiAb

当時の人は脳焼かれただろうね

257 : 名無しが適當語り ID : /F4nHd0dz  
ウマ娘から入った人が次々焼かれてるんだから、リアルタイムで見  
ていた人なんて横山一家よ

258 : 名無しが適當語り ID : isYe gKZtg

>>257

確かに脳焼かれてるけれども

259 : 名無しが適當語り ID : IUovGX+uk

>>257 横山家はそんなに万能な言葉ではない(無言の腹パン)

260 : 名無しが適當語り ID : oKvFJdxrY

脳焼かれた結果がアセビコウロに繋がってるんですね……

261 : 名無しが適當語り ID : J5g/gfEVF

一番脳焼かれた人来たな

262 : 名無しが適當語り ID : YEsFu09SY

馬主さんの大親友でボタンのラストランを周りのサポートガチガ  
チに固めて連れて行って、亡くなる数日前に言われた「あの子の名前  
を残して欲しい」という馬主さん的には日記に書いという程度の言葉  
を血統として残している人じゃん

263 : 名無しが適當語り ID : bT+rQuZCu

>>262

所有馬のラストランだけど馬主さんはもう競馬場に行く体力が無  
い……… せや！ワイが医師とお手伝いさんと呼ばば大丈夫やな！

こうですか、分かりません

264 : 名無しが適當語り ID : kSSsb5BVhb

>>263

間違っていないのに脳筋に聞こえる謎

## 出会い

今でもずっと夢に見る光景。

私の前を鹿毛の髪を揺らして走る絶対に追い付けないあの子の姿。目を開けて、見慣れた木目の天井を見つめながら手元の携帯を持ち上げる。

時間を確認すれば目覚ましに設定した時間よりも2時間程早く、部屋は薄暗い。

またあの夢だ。

不快感も無く、悪夢でも無い、只私の心を奪う夢。

どうしたらあの子に勝てるのだろうか。

そればかりをずっと考えている。

・  
・  
・

この脚は人よりも速く走れる。

それは、自分がウマ娘だから当たり前ではあるが、それでも並大抵のウマ娘よりは速く走れる。

何回目かのレース、見慣れたゴール板を通り過ぎる。

アナウンサーが興奮した口調で私の勝利を賞賛していて、周りのウマ娘達からは”どうしてお前が”という目で睨まれる。

その目を横目にしながら耳と、目を動かす。

探すのはあの子の姿。

此処にもいないという事実を頭では理解していても、どうしても身体が動いてしまう。

鹿毛色のウマ娘、私が探す後ろ姿。

今日も、見つけられなかった。

・  
・  
・

「私を、スカウトしたい……？」

「ああ」

片手に収まるサイズの名刺には、若旅<sup>ワカタビ</sup> 伊吹<sup>イブキ</sup>という四字。初めて渡された名刺に、初めて言われたスカウトの言葉。

「御免なさい、トレーナーさん」

「私はレースに対して、周りの子達みたいな強い思いが無いんです」  
頭を下げて、正直な言葉を口にする。

こういう時は変に誤魔化すより正直に言ってしまった方がきっと良い。

「知ってるよ。君の走りを見ていたら、嫌でも分かる」

「?なら、どうして」

「君が、アセビボタンが勝ったのに嬉しそうじゃ無かったから」

「嬉しそう、じゃ無い……?」

まさかの言葉に思わず首を傾げてしまう。

レースに勝つのは嬉しい事だ。

あの子を探すのを一番の目標にはしているが、それでも勝ったら最低限の感情は湧き上がっている筈だ。

「俺は、君の走りを初めて見た時からずっと思っていたんだ」

「ゴール板を笑顔で駆け抜ける君の姿を」

やけに真っ直ぐな言葉を向けられて、なんだか恥ずかしくなる。

目を逸らして、釣られた様に私も声を出す。

「……私が欲しいのは、誉れ高いG1や重賞の結果でも無くて、ただ一つ。あの子に勝利すること」

「きつと10回戦ったとしても勝てないであろうあの子と本気で走って、勝利すること」

「……それが、私の目標」

「そんな訳で、私みたいなウマ娘より、他の本気で勝負をする子達の為にその力を使って下さい」

情熱を持って私をスカウトしてくれるのは嬉しいけれど、私はあまりにも周りの子とズレているから。

多分、あの子に勝つ迄は彼の言う”嬉しそう”なんてものは出ない

から。

一生を賭けても見つけられないかもしれない子に縋って彼の人生を狂わせるのは、きっと違う。

だから、やっぱりは、彼の言葉に頷けない。





—そ、そうですか。では、ズバリ！次回の予定は？

「秋の天皇賞。3, 200mに挑戦します」

—3……失礼ですが、それは春の天皇賞では？

「失礼。今は2, 000mでしたね」

—えー、それでは。本日は本当におめでとう御座いました。

「有難う御座いました、次回も頑張ります」

「アセビさーん、もう少しポップにいけないもんかね？」

「でも、あの子には追い付けないので……もつと、強くないと」

「あー。あの子、ね」

・  
・  
・

324：名無しが適当語り ID：Nm f j O k q a h

秋天のレース距離間違えちゃうアセビちゃん可愛いね

325：名無しが適当語り ID：H P H v m 9 i w h

>>>324

お婆ちゃん、秋天は84年に施工距離が変わったでしょ

326：名無しが適当語り ID：d V z D E j O Q 4

お婆ちゃん（誇張無し）

327：名無しが適当語り ID：i G w x D B P j y

流石、戦後の馬はちげーぜ！

328：名無しが適当語り ID：c R w p C N A i f

俺氏、競馬初心者のゲーム好き。

アセビボタンが育成前から引く程強くて運営の調整ミスだと思っ  
てただけど、そんななの？

3 2 9 : 名無しが適當語り ID : q Y n n i w e I 4

>>>3 2 8

そんなんやぞ

3 3 0 : 名無しが適當語り ID : y E a w g P a 3 X

>>>3 2 8

馬耕している馬を試しにぶっつけて走らせたなら無敗の三冠取った  
みたいな感じ

3 3 1 : 名無しが適當語り ID : h 9 Q s H z v k d

>>>3 3 0

僕の考えた最強のおうまさんじゃん

3 3 2 : 名無しが適當語り ID : a b j l O / z Y O

>>>3 3 1

実際そう

3 3 3 : 名無しが適當語り ID : E i V o I D a q H

まあ、レコードは取ってませんがね

3 3 4 : 名無しが適當語り ID : F 0 + Y 7 q k s P

レコード取ってたら天地ひっくり返っちゃうから……

3 3 5 : 名無しが適當語り ID : r Y R 4 z v j 6 I

それにボタンちゃんは「強さ」よりも「ドラマ性」が出てると思う

3 3 6 : 名無しが適當語り ID : B D P c A L C K e

分かります (麒麟並感)

3 3 7 : 名無しが適當語り ID : l X w r n v K V +

>>>3 3 5

今でもラストランの動画見て泣いてる。  
最終コーナー前の大声が馬主さんなんですよ

338 : 名無しが適當語り ID : 0c5eOBMOQ

>>>337

せやで。

当時はもう自分で歩けなかったレベルで弱ってた人が自力で立つて、声を張り上げた全力の叫びや。

339 : 名無しが適當語り ID : MeB9GHbez

>>>338

泣いちやいそう

340 : 名無しが適當語り ID : bd3vBwnWv

そんなアセビボタンが生まれた牧場では予約さえ取れば気軽に  
行けるから皆ルールを守りながらアセビボタンの孫達に会いに行つ  
てくれよな！（ステマ）

341 : 名無しが適當語り ID : UcinPP00S

あの牧場は良いぞ

何が良いつて、運営している一族が悉くアセビボタンに脳焼かれて  
小さいけど記念館があるレベルだ

342 : 名無しが適當語り ID : llysd2OJk

>>>341

ちよつと待てエイ！

あの一族の脳を焼いてるのはアセビボタン+その子供や孫達+ア  
セビボタンの馬主（当時親友だった）さんだ!!

343 : 名無しが適當語り ID : ljnx7SqIS

焼かれ過ぎでわ???

344 : 名無しが適當語り ID : DxucEcIkR

>>>343

でも実際、自分が何の気無しに友達の所有馬を競馬に誘ったらその馬が凄い勝ち方を連発するのを間近で見続け、スランプになったと思ったらラストランでお涙頂戴もビックリな勝ち方で勝利を飾って、友達からは泣きながら感謝されたら炭も残らないレベルで焼かれるだろ

345 : 名無しが適當語り ID : hj0m8ulsy

>>>344

「君が、私達を旅に誘ってくれたから、ここまで来れた。有難う。」だけ？

346 : 名無しが適當語り ID : j9LVd7S6P

アセビボタンの関係者「旅」の概念が好き過ぎる件

347 : 名無しが適當語り ID : 4U+Lk3kUQ

だって「アセビ（あなたと二人で旅をしましょう）ボタン（王者の風格）」だもん

なんや、王者の風格を纏って旅をするって出来杉君か？

348 : 名無しが適當語り ID : aOjvGE5Bn

>>>347

正にアセビちゃんのプロフィールじゃん

349 : 名無しが適當語り ID : tPGoHteVJ

あんな見た目幼めで可愛いのに……

350 : 名無しが適當語り ID : haQmlbVnD

運営はオタクを殺すのが上手いからな

351：名無しが適當語り ID：2PlQsZtat  
アセビボタン好きだ。是非、今後もアセビ一族をどうか、どうか……

352：名無しが適當語り ID：6jlt5oUJb  
>>>350

ウマ娘が流行った時期にTwitterでアセビボタンちゃんを逆プレゼンしてたからワンチャンあるで

353：名無しが適當語り ID：AOJxb6ZTr  
>>>350

マ!?

ワイ、アセビコウロとアセビツバキが特に好きなんやが期待してええんか??

354：名無しが適當語り ID：20Y+8gZNt  
>>>353

運営が出したいです！って言えば可能性はある。

コウロ君は現役だけど、前例が出来たのね

355：名無しが適當語り ID：fSo9GkOmv  
ツバキちゃんのほんとした顔で柵に顎乗せてる写真めっちゃ可愛い

356：名無しが適當語り ID：XIRZiNP3H  
>>>355

あれ好き

357：名無しが適當語り ID：5nyNSqvD  
アセビ一族公式Twitter様有難う

358 : 名無しが適當語り ID : yVF0ch+Xw

ボタンさんがウマ娘に出走決定した後のフォローが爆速で今までの数倍以上になってたのは正直笑った

359 : 名無しが適當語り ID : lEYKJLkNi

中の人が驚いてたやつ

360 : 名無しが適當語り ID : OTpnQQpV7

「あ?!一夜にして何が起こって!?!有難う御座います!今朝のロードお爺ちゃんです!」

361 : 名無しが適當語り ID : P2KcI6QgI

鳩と戯れてるお爺ちゃんカワヨ

362 : 名無しが適當語り ID : eR7j5+qMN

これにはドットさんも嫉妬

## 優駿イベント

一步を踏み出す、地面に脚が沈んでそれを蹄鉄で押し返す。ハッ、ハッ、と呼吸を丁寧にしながらロスを最小限にコーナーを回る。

横目で沢山の人が楽しそうにしているのが見える。

東京優駿競走、日本ダービー。

あの子がいつも私の前を走っているレース。

呼吸も、脚も、気力もまだ残っている。

最後の直線。私の前を走る鹿毛の色を幻視しながら、走る。

【今ッ!!王者が決まりましたッッ!!今年の、最も運のあるウマ娘は……】

ゴール版を駆け抜けて、直ぐに掲示板に目を向ける。  
数秒の静寂が何時間にも感じる。

【ビアンコグリモアッッッ!!】

アナウンサーの叫びにも似た声と同時にLEDの文字が浮かぶ掲示板。

ハナ差での敗北。初めての敗北。

大きな喝采で耳が痛くなる。

レース後特有の疲労感と、熱くなる身体とは裏腹に頭だけはやかに平常だった。

「……また、追い付け無かった」

然も、何度も夢に見たこのレースで。

この1回の為に今まで頑張ってきたと言っても過言では無い。

全ては今日の2分半にも満たない時間に賭けてきた。

それでも、届かなかった。

「おめでとう御座います。良い、レースでした。有難う」

涙を流すビアンコグリモアさんと握手をして、私はそのまま芝を去る。

この後はウイニングライブをしてトレーナーさんと今日の反省会



をしながら、次を決めよう。

地下の道を1人で歩く。

興奮が落ち着いて、漸く私にもレース結果の実感が湧き上がる。

「クソツツ……くそツツツツ!!……まだ、追い付けない……」

こんな感情になるのも全部、全部あの子の所為。

あの日、夢を見なければ。こんな悔しさを感じることもなんて無かったのに。

全部、あの子の所為だ。

「くや”しい”……!」

・  
・  
・

478：名無しが適当語り ID：COk/1+OSk

日本ダービーで負けた後の地下道イベント何回見ても良い

479：名無しが適当語り ID：YQ2jTjdY/

分かる

480：名無しが適当語り ID：n13JKNxvg

あの感情剥き出しで悔しがる所良いよね

481：名無しが適当語り ID：S9khxG4Dw

え、負けイベントなんてあるの？見た事無いんだけど

482：名無しが適当語り ID：jZuRSYaRU

>>481

日本ダービー前の3択で1番下を選ぶと見られるゾ

483：名無しが適当語り ID：YRXwh3woW

駄菓子菓子、ステの伸びがクソofクソなので本気の育成をしてい  
る時はオヌヌメできない。実質イベントを見る為だけの選択肢。

だからこそ知らない人も多い訳なんですけどね

484 : 名無しが適當語り ID : DA1k5YCbY  
運営の巧妙な罫

485 : 名無しが適當語り ID : qpmy4+dsr  
何が良いつて負けイベントを選択したら問答無用でその後のレース全部負ける事。原作再現が凄い。

486 : 名無しが適當語り ID : gRRZ8sSP4  
G1は勿論ゲームでは余裕のOPレースですら勝てなくなるからな

487 : 名無しが適當語り ID : FANqKdRo+  
え、じゃあもしかしてなんだけど、アセビさんのグッドエンディングってわざと1番下を選ばないといけない様になってる？修正されてないバグだと思ってたけど

488 : 名無しが適當語り ID : NDv34J9gN  
いぐざくとりーなんだよなあ……

489 : 名無しが適當語り ID : k5jXppq7Z  
プレイヤー心理として「こんな選ぶか！ペツ！」つてなる選択肢を用意する癖に選ばないとグッドエンディングにはいけないという。なまじアセビボタンの初期ステがぶっ壊れだから、普通は選ばない、と。

490 : 名無しが適當語り ID : bhOTLL193  
育成を取るか、ストーリーを取るかだよな。

491 : 名無しが適當語り ID : Z86TW1cC7

>>489

アセビボタンが昔の馬っていうのもありそう。

インターネット上には殆ど映像が残ってないし、直近で雑誌のインタビューで大々的に紹介された訳でも無い。

勿論、ウマ娘で実装されてる子との絡みも無い。

相当な競馬好きか、ゲームをやっていないおじちゃん層以外の言い方悪いかもだけどライト層はあんまり食い付かない感じする

492：名無しが適当語り ID：+KlvWuMWZ

俺達のボタンが最近の馬なら……

493：名無しが適当語り ID：/DOM8nSP+

>>492

お前はアセビボタンのなんなんだよ

494：名無しが適当語り ID：n7FPivHEe

うう……有名になって欲しいけど、このちよつとした優越感も持っていたい

495：名無しが適当語り ID：WO2QoH2Qo

でもそんなにバレないもんか？

496：名無しが適当語り ID：se9UCt/hZ

実際のお馬さんも大きなレース後に競走能力がくはあるし、バレないもんよ

497：名無しが適当語り ID：IlXay4J7N

アセビボタン系列のスレは過疎だし

幾ら牧場公式Twitterのフォローワーが伸びても、詳しい歴史のツイートは無いですしお寿司

498 : 名無しが適當語り ID : X v t M P E 2 g M

アセビボタンが1番有名馬だったのはインターネットなんて無かったから、その時の情報も他に埋もれて出て来辛い。”あの”トキノミノルとハナ差で負けたと言われても、トキノミノルの歴史的にダービーは不調だったからスポットらしいスポットは当たらず、あの2頭が戦ったのは後にも先にもあの1戦だけで、アセビボタンはその後は絶不調。今で言うG1は3勝もしている完全無欠の名馬だけだよ。やっぱり資料が少な過ぎる。

皆大好きウイキさんにもエピソードらしいエピソードが書かれてないので国会図書館にでも行って片っ端から競馬雑誌調べるしかない

499 : 名無しが適當語り ID : Z K s I y C 5 + D

情報源は牧場の記念館って1番言われてるレベルやからな

500 : 名無しが適當語り ID : 3 d Z 3 f e h O F

それでも好きなんだよなあ

501 : 名無しが適當語り ID : h G E u x N N H J

>>>500  
分かる

502 : 名無しが適當語り ID : / D O T J y B R I

>>>500  
それofそれ

503 : 名無しが適當語り ID : D h V B G i Q G I

話は変わるんだけど、実装して直ぐの牧場T w i t t e r 好き

504 : 名無しが適當語り ID : E Y 4 p a U J 9 2

あのロードお爺ちゃんにガチャ画面見せてるやつな

505 : 名無しが 适当語り ID : K P m D p b 6 z g  
お爺ちゃんの首傾げ一生見ていたい

506 : 名無しが 适当語り ID : i J R K C H R f D  
あれ見て実家帰りたくなつたもんな

507 : 名無しが 适当語り ID : K 4 L Q v M v Q x  
>>506  
それはわからん

508 : 名無しが 适当語り ID : r t r o u U c I z  
ロード爺ちゃんとツバキ姉さんの絡みはいずれ癌に効く様になる  
からもつと投下して欲しい

509 : 名無しが 适当語り ID : c E M w x 6 U F R  
分かるマン

510 : 名無しが 适当語り ID : g u r 6 n N i T G  
牧場の朝が早いのは当たり前として、毎日朝7〜8時に投稿される  
のが狡い。危うく満員電車で突然ニヤける不審者になる所だった

511 : 名無しが 适当語り ID : M 5 Z s t L f E n  
>>510  
ワイはなつたぞ

512 : 名無しが 适当語り ID : 1 9 F R 7 j I J D  
もしもしポリスメン？

## ◇番外編：休日を

トレセン学園にはウマ娘が全力でトレーニングに励み、レースへ出走出来る様、心身を整える施設や制度が充実している。

その1つ。直近で出走予定のレースが無い場合、申請しそれが受理されれば数日間の帰省が許される「短期帰省制度」。

アセビボタンはそれを利用し、金曜日から日曜日迄の帰省を予定していた。

「ボタン、忘れ物は無いな？」

「はい。トレーナーさんから受け取ったストレッチノートも忘れていないか3回確認しました」

「よし。今回は身体を休める為の帰省であつて、普段の様な激しいトレーニングは自主練だとしても控える様に。それ以外のストレッチや、軽いランニング程度なら忘れずにな」

「ええ、チカラちゃんとやり過ぎない様にします」

トレセン学園の校門前。

担当トレーナーである若旅伊吹と、何時もより大きめの荷物を持ったアセビボタンが立っている。

伊吹は忘れ物と、何点かの確認をして特に引き止める事無く別れようとしていたが、ボタンから放たれた新しい単語に思わず首を傾げた。

「チカラちゃん？」

「あつ、ええと。私と小さい時から遊んでくれていた近所のお姉ちゃんです。トキノチカラ、映像を見せてくれた事は無いので半信半疑なんですけど、天皇賞にも勝つたらしい本当だったらとても凄いウマ娘なんです」

「トキノチカラ……？悪い。俺もトレーナーとして特にG1を勝ったウマ娘なら詳しい自信があつたんだが、その名前は知らないな」

「トレーナーさんも？なら、やつぱり嘘かもしれないですね」

「嫌、俺が知らないだけかもしれない。嘘と決め付けるのは失礼だ」

「……それもそうですね。うん。もし嘘だとしたら、本人からネタバ

ラシをされるまで騙されておきます」

「それが良い」

「つと、電車の時間がありますのでここら辺で」

「すまない。引き留めた、気を付けて」

「はい。休日を楽しんでいます」

「ついだ、そのチカラちゃんに天皇賞の勝ち方。聞いて来い」

「！ええ。盗めるだけ、盗んで帰って来ますね！」

会話を終え、トレーナーへ軽い会釈をしてから駅の方へ脚を進め始めるアセビボタン。

その歩みは普段の彼女と比べて少し早い様に感じ、此方にも楽しみだという感情が伝わってくる。

アセビボタンの背を見送り、伊吹はこれからのトレーニングメニューとレースでの作戦を完璧に練り上げる為、分厚い本を求めに図書室へ。睡魔と戦う為に身体にはあまり宜しく無いドリンクを求めに購買へと脚を進めるのであった。

「それにしてもトキノチカラか……ボタンにはああ言ったが、何処かで聞いた事があるんだよな……」

頭を掻きながら、どこか落ち着かない感情が伊吹の頭の片隅を支配していた。

・  
・  
・

「いつか、私の馬と先生の馬が並んで走る姿を、見てみたいものです」

「ああ、そりゃあ良い！きつと、歴史にも名が残る様な時間になるだろうよ」

「アセビさんだけが”美しい”と話題に上がっても、恨みっこ無しですからね」

「何言ってるんだ。トキノの力を舐めてもらっちゃあ困るぜ。それこそ”美しく、強い名馬のトキノチカラ”なんて紙面を飾っちゃおうさ」

## ◇誰かの日記

異君に呼ばれて遊びに行けば、その沢山の声で賑やかな庭により一層賑やかな子が増えていた。

今迄は、犬猫を可愛がっていた事はあれど馬を飼いだめたのは正直ワタシも腰を抜かす程驚いた。

ワタシがどうしたんだと聞けば、牧場を開きたいから迎え入れたと返ってきた。

その答えを聞いて、ワタシは彼が自他共に認める動物好きなのだと再確認させられた。

細君もこればかりは頭を抱えていた。

ワタシは異君にこの馬を走らせるのはどうかと聞いた。

異君は動物こそ好きだが、特段馬を走らせる事に興味は無かったようだ。

しかし、ワタシはこの馬が牧場で草を食むばかりでは勿体無いと思うのだ。

この脚と撫でた時に感じる鼓動はきつと、良い結果をもたらしてくれ。漠然とだが、そう思ったのだ。

ワタシは、異君と出会って初めて、彼に我儘をしようと思った。

アセビボタンと名付けられた異君の馬が競馬場を走った。

ワタシの見立て通り、出だしは上々で、良い勝ち方だった。

異君は満足だと言っていたが、ワタシ的にはこのまま行けばあのクリフジにも並ぶ馬になると思うのだ。

ボタンはワタシ達が思ってた以上に恐ろしい馬であった。

誰にも影を踏ませない程に速く走るその姿は、正に神馬の様だ。



明日は遂に東京優駿競走だ。  
どうか、無事に。

ワタシは長い夢を見ていたようだ。

今でもボタンを撫でてはそう、思う。

異君が死んでからもう半年、ワタシは未だにあの日の事を夢に見る。  
病に弱り、もう1人で立つ事もままならない彼をあの場合へ連れて行き、ボタンの最後を見た。

馬群に飲まれる姿はもう駄目だという事をありありと示していた。

ワタシは、どんな結果であろうとアセビボタンを競馬に連れた責任がある。どんな結果であろうと、最後まで見なければいけない。

ワタシは祈るようにその姿を見つめていた。

隣から、酷く掠れた声が頑張れと応援した。

異君が、自分で立って、叫んでいた。

その信じられない姿にワタシは酷く驚いて、釣られてワタシも声を上げた。

最後の記憶は朧げだ。

しかし、あの日、アセビボタンが勝った事は忘れられない記憶となっている。

我が友の隣で、あの子と彼の旅路を見続けられた事はワタシが生まれてから1番の幸福であった。

と或る馬主さんの日記が突然投下される

1：名無しが適当語り ID：P t z G M Z g x I

なに：：：： ナニコレ？

2：名無しが適当語り ID：K x q v F 7 + 3 m

新鮮な脳焼き日記やん

3 : 名無しが適當語り ID : tBP8DsZi1  
どんな変態が探し出したのかと思っただら公式T w i t t e rでビ  
ビった

4 : 名無しが適當語り ID : w i A g H V U l 8  
思ってた以上に脳焼かれてそう

5 : 名無しが適當語り ID : / K A p 9 6 5 i X  
「著作権は切れているので、文句は言われなと思います」

6 : 名無しが適當語り ID : q D N R 8 A z G L  
>>>5  
つよい

7 : 名無しが適當語り ID : m R r 3 d l Z d K  
>>>5  
親友さんかわいそお

8 : 名無しが適當語り ID : z X 0 7 d 5 l z v  
>>>7  
某太宰治のノートに比べたらマシやろ

9 : 名無しが適當語り ID : w N c 8 r + Q 9 a  
>>>8  
隠せてないぞ

10 : 名無しが適當語り ID : z t p 3 t B b H l  
「我が友の隣で、あの子と彼の旅路を見続けられた事はワタシが生ま  
れてから1番の幸福であった。」  
この1文、最高に脳焼かれてる。

11：名無しが適當語り ID：V152vjVy2

>>>10

対アセビボタンにも読めるし、対親友さんにも読めるの良いいね。

12：名無しが適當語り ID：rgX9tuaVX

対親友さんだとおっさんずラブになっちまうよ……

13：名無しが適當語り ID：z/RAx dSW5

馬と人間の三角関係とかニツチやな

14：名無しが適當語り ID：5MA b8w92E

アセビボタン

(馬主さん好き！馬主さんとよく一緒にいるニンゲンさんも優しいから好き！)

馬主こと円谷巽先生

(動物全般大好き。アセビボタンも漏れなく大好き。親友君も頼れる仲間で大好き。)

親友こと高垣芳司

(巽君は大親友！好き！ボタンも世界に名を轟かせられる優しい女の子！好き！)

15：名無しが適當語り ID：2AW h7MD i x

>>>14

クソデカ矢印で殴り合うな

16：名無しが適當語り ID：N3 m32V q +A

>>>14

結局の所両思いでは???

17：名無しが適當語り ID：b6 t h9 /4 r s

親友さん、流石に血を残すのはやり過ぎでは？と思ってたけど、これは残しますわ

18：名無しが適當語り ID：n/QP3ncMM  
俺、ウマ娘でアセビボタンを知った競馬初心者。日記を読んで震える。

19：名無しが適當語り ID：TjETZ3IED  
>>18

昔の競馬おじさん達も震えてるからヘーキヘーキ

20：名無しが適當語り ID：REvxK/N I  
この日記が世に投下された事により、少しずつアセビボタンをリアルタイムで見えていたお爺様お婆様を持つ方が、競馬場で高垣さんらしき人を見た事があるという証言を出し始めてるの草

21：名無しが適當語り ID：vhOVllv9w  
盛り上がって参りました

22：名無しが適當語り ID：IR7s8wPp/  
そりや自分が誘ったんやし見に行くわな

23：名無しが適當語り ID：b5SAimul2  
愛が重い

24：名無しが適當語り ID：366t4aXOD  
アセビスズナくで、俺が生まれたってワケ。

25：名無しが適當語り ID：FjIcFN6uD  
出たなアセビボタン産駒筆頭

26 : 名無しが適當語り ID : waRM7r9VB

>>24

アセビボタンの一番最初の産駒且つ牡馬でありながら、スズナという名前の所為で牝馬と勘違いされてたアセビスズナさんチイーツス！

27 : 名無しが適當語り ID : C+E6jSp5A

アセビスズナ「法廷で会おう」

28 : 名無しが適當語り ID : ApuVP4hBf

でもお前（見た目は）牝馬みたいに可愛いじゃん

29 : 名無しが適當語り ID : HZBrE6CZp

牡丹「娘ちゃん」

30 : 名無しが適當語り ID : hNBKTSweO

菘「母ちゃん！俺は息子だ！」

31 : 名無しが適當語り ID : HxQ7b0tZi

ウオツカが息子弄りされてる現代において、半世紀以上前の馬が同じネタで弄られるとはなあ

32 : 名無しが適當語り ID : kTfnRQT58

感慨深い

33 : 名無しが適當語り ID : vB+Vu17x9

>>32

こんなん感慨深くなるな

イベント：季節は巡り、花は咲く。

夏の猛暑も過ぎ去り、冬の寒さへと突入し始めるこの季節に私は勝負服に身を包みその時間を待っている。

緊張は、していない。

只、私の走りをするだけである。

少し緩んだ耳飾りのリボンを結び直して、今一度鏡で全体を確認する。

和服と洋装をミックスした様な形の勝負服は、ファッションに疎い私に変わってトレーナーさんが考えてくれたものである。

大丈夫だと分かりつつも、靴紐を結び直す。

やっぱり緊張しているのかもしれないな。

「今大丈夫か？」

3回のノックの後に、くぐもったトレーナーさんの声。

その声に了承の言葉を返せば、トレーナーさんが控え室へと入る。

「緊張は、してないか」

「……しているかも、しれません」

「そうか。でも、お前なら大丈夫だよ。確かに、少しスランプにも悩まされたが、トレーニングは完璧にしてきた。後は当たって砕けるだ」

「砕けちゃ駄目でしょう？」

「それもそうだな」

少しの小言を言い合って、笑う。

あの日、日本ダービーで2着を取ってから私はスランプに陥っていた。

いつも通りの筈なのに勝てなくなって、怪我をしている訳では無いのに上手く走れなくなった。

あの日から、鹿毛のあの子へ追い付く所か影すら踏めなくなった。それなのに、そんな私なのにこの名誉あるレースへと招待が掛かって、これで勝てなければ本当に私は終わりだな。なんて、考えて。

「そろそろ時間か。パニックにはなって無いな」

「はい。教えられた事も忘れてません」

「良しッ！じゃあ、やってみようか」

「……はい」

初めての感覚に未だ戸惑う私は、トレーナーとの会話も上手く出来ない。

レースに出るのが”怖い”と思った。

目線はずっと下がったままで、トレーナーさんの顔すらも見る事ができない。

「アセビボタン！」

「へ!? あ、は、はいっ！」

「俺はボタンの走りを見た時に心を奪われた、惚れ込んだ！夢を応援したいと思った！でもよ、絶対に勝てるとも、絶対に勝てなんて言葉は俺の身分では言えない。だからさ、もう1度。俺にアセビボタンが笑顔で走る姿を見せてくれ」

「笑顔……？」

突然名前を呼ばれて、突然手を大きな両手で包まれる。

これも、初めての経験で今までトレーナーさんにされた事の無い行為。

だけど、どうしてか、酷く心が落ち着いた。

「ああ、気付いて無いだろうけどな。あの子に勝ちたい、勝負結果はどうでもくなんて言ってるお前、レース中も1着を取った時も最高に良い顔してるんだぜ？」

「そう、なんですか」

「そうなんだよ。だからさ、その顔を何万人来てるかは知らねえが、観客に見せつけようぜ」

「なんですか、それ」

「担当トレーナーからのお願いだよ」

「……ええ、そうですね。見せつけてきます、だから、1番良い所で見ている下さいね？2、000メートルの旅なんて、2分もあれば終わっちゃいますから」

苦しい、煩い、バ群に飲まれて身動きが取れない。

体力は残ってる筈なのに、周りを囲まれた所為で心が削られていく。

バ群は苦手だ。走る音しか聞こえなくなる。

他のウマ娘達が持つプレッシャーに脚がすぐくんでしまう。

【さあ！各ウマ娘最終コーナーへと差し掛かります！1番人気のアセビボタンはまだバ群の中か!?】

誰の声も聞こえない。

只の、雑音に包まれる。

「行けーッ!!ボタン!!走れッ!!」

—頑張りなさいッ!

【先頭はメカニカルバイパーまだ逃げる!3バ身開いて……おおつと、ここでアセビボタン抜け出した!ラストスパート、凄い脚だ!やはり、このウマ娘は強いぞ!メカニカルバイパーとの一騎打ちになるのか!】

声が、聞こえたんだ。

私を応援する声が。

きつと向こうから聞こえてきたあの声はトレーナーさんで、釣られて思い出したのはお父さんの声。

お父さんも、私が競走をする時はお兄ちゃんと一緒に応援してくれていた。

「ボタン、走れ」、「頑張りなさい」って。

まさかトレーナーさんから同じ台詞で応援されるなんて思ってたなかったけど

「ここで、頑張らないといけないんだッ!!」

【アセビボタン!今1着でゴールッ!凄い末脚で3バ身あったメカニカルバイパーとの差を交わす所か、5バ身の差へと変えた!!王者と言われた1輪の花がこの府中にて、再び咲き誇りました!!】



「……見て、いてくれましたか」

「見たさ。この目で、特等席でな」

天皇賞（秋）

1 着アセビボタン

2 着メカニカルベイパー

3 着ドカドカ

◇馬がヒトに出会ってから、別れるまで。

わたしは生まれてからずっと、お友だちがいなかった。

みんなからは「お前なんかなかまじやない」って言われて、わに入ってもらえなかった。

さみしくて、かなしくて。

がんばってなかまになろうと、お友だちになろうとみんなに話しかけたりもしたけれど、けられたり、むしされたりでやつぱりわたしは1人だった。

・

・

・

「ゆきかぜ」

わたしがもう、1人ですごすことになれたころ、知らないヒトがやって来た。

そのヒトはみなれたヒトたちとはちがってピカピカしていて、ずっと笑顔だった。

わたしはみんなより、優しくしてくれるヒトが好きだったから、そのヒトにもすぐにちかづいてかおをちかづけた。

優しくかおをなでってくれるヒト。

優しいこえでわたしの名前をよんでくれるヒト。

ゆきかぜ。

その響きがわたしの”名前”だということに、その時に初めてきがついた。

「これから宜しくね」

「つぶらやせんせい」と呼ばれていた優しいヒトと、ずっと遊んでいたら一緒に暮らす事になっていた。

わたしは、みんながスキじゃないからつぶらやせんせいといられるのがすごく嬉しくなっておもわず跳ねたら「あしもとがわるいから？」って、すこしおこられた。

つぶらやせんせいは「また明日」って言って、ばいばいした。

わたしは初めて明日が楽しみになった。

うれしい、たのしみだつてわたしを育ててくれているヒトに自慢したら「よかったね」って撫でられた。

つぶらやせんせいも好きだけど、ここにいるヒトも好きだった。ありがとうつて伝えたいな。

・  
・  
・

つぶらやせんせいのおうちに来てから「ほうじくん」がやって来た。ほうじくんはわたしの顔を見てすごく驚いていたけど、どうしたんだろう。

わたしは心配になって、かおをちかづけたらつぶらやせんせいと同じ様に頭を撫でてくれて、身体を撫でられた。

そうしたらほうじくんは嬉しそうにつぶらやせんせいと話し始めた。

つぶらやせんせいとほうじくんが話している間、わたしはつぶらやせんせいのおうちに住んでいるワンワンだったり、ニャンニャンと鳴く小さいお友だちと遊んでいた。

ほうじくんはわたしを「ケイバ」に出てほしいらしい。

ケイバがなんだかは分からないけど、ほうじくんのお願いだからやっても良いかなって思った。

つぶらやせんせいは笑顔じゃなかったのが気になったから、つぶらやせんせいがダメっていったら、ヤダって言おう。

・  
・  
・

あれから数日、つぶらやせんせいはわたしの頭を撫でながらウンウンとうなつてわたしを「ケイバ」にちょうせんさせることにした。

ケイバがなんのことなのかずっと分からなかったから、難しいことだつたらどうしようって不安になったけど、ヒトをおぶって走れば良いだけだったから、簡単だった。

ヒトをおぶって、走って、合図が出たら全力で走れば良い。  
わたしがみんなを追い越して1番で走ればつばらやせんせいも、ほ  
うじくんも、ヒトさんも喜んでくれるから、わたしは嬉しかった。  
わたしでも大切なお友だちができた。  
あの時のみんなにも負けない仲間だ。

・  
・  
わたしは足がはやいんだって。

たしかに、いつもケイバは1番でみんなよりもずつとはやく走り終  
える。

わたしはさいきよーなんだって。

「名花アセビボタン」がわたしのあだ名だって、いつもおぶっている  
「こがねいじよつきー」が教えてくれた。なんだか格好良い。

だけど、わたしは負けた。

初めて2番になった。

「トキノミノル」しらない名前。

どうしてだろう。

なんだかすぐく、ムカムカした。

気持ちはどうも出来なくて、思わずじめんを叩いたらこがねい  
じよつきーに優しくなでられて、久しぶりに大声でさげんだ。

こんなきもち、初めてだ。

わたしはつばらやせんせいに出会ってから、「初めて」を沢山沢山感  
じている。

・  
・  
・

トキノミノルに負けてから、わたしはじょうずに走れなくなった。  
早く走らないとって思うのに、じょうずに身体が動かせない。

今までは関係なかったみんなにかこまれて、こわいとおもった。

足がぶつかりそうになるのも、ドタドタと鳴る音も、ヒトの手がぶ

つまりそんなのもぜんぶが怖い。

こがねいじよつきーは、ばぐんがと言っていたけど、わたしはばぐんがきらいだ。

トキノミノルに負けてから、4回走って、4回とも1番さいごに走るのがおわった。

ずっと1番で終わってたのに、さいごじゃないと終われなくなつた。

「大丈夫。ボタンはよく頑張ったよ。次で終わりにしようね」

「アセビさん、私の大切な子。そろそろアセビさんの旅も、終わらせようね」

ふたりに撫でられる。

さいきん、つぶらやせんせいは丸いのがついたやつに座りながらいどうしてるから、むかしみたいに抱き締めてはくれない。

それに声もなんだか力がないみたい。

次、わたしが1番になったら、昔と同じようになってくれるかな。

・  
・  
・

はしる。走る。

まわりが煩い。嫌だ。こわい。

もう、あきらめちゃえばこの気持ちにならなくて良いのかしら。

「ボタン、走れー!!!」

「頑張りなさい！私のアセビボタンッ!!」

こえがきこえる。

わたしの名前を呼ぶこえ。

横目で辛うじてみえたむこうの景色。

つぶらやせんせいと、ほうじくんがわたしの名前を呼んでいる。

つぶらやせんせいがひさしぶりに立って、わたしの名前を呼んでいる。

昔とは違ってガサガサした声でわたしの名前を呼んでくれている。ほうじくんなんて大きな声でわたしの名前を読んだ後にゴホゴ

ホって、顔を下げてしまった。

わたしは2人の声を聞いて、ふしぎとぼぐんが怖く無くなった。

こがねいじよつきーが「いこうか、アセビボタン！」って合図を出してくれた。

思い出した。

思い出した！

こうみえてわたし、あしがはやいんだよツ!!

見えて！

つぶらやせんせい、ほうじくくん、こがねいじよつきー！

わたしが、1番になるところ！

泣きながらこがねいじよつきーがわたしの首に抱き付いて。

誇らしげにほうじくくんが頬を撫でてくれた。

つぶらやせんせいはやつぱり立てなかつたから、わたしがその分首を下げたらひさしぶりに身体全部でわたしの顔を抱き締めてくれた。

「アセビさん、あなたと共に旅ができて良かったです」

うん。私も円谷先生と旅ができて、楽しかったよ。

さいきん、ほうじくくと時々こがねいじよつきーが遊びに来てくれるばかりでつぶらやせんせいが遊びに来てくれない。

新しいお友だちも可愛いチビもいるから、悲しくはないけど、少し寂しい。

「ボタン。円谷先生が死んでから、もう1年が経つたよ。寂しくはないかい？つて言っても、君には理解できない事かもしれないね」

ほうじくくんはいつもみたいにながら、話してくれるけど、言葉を全部わたしは理解できない。

それでもつぶらやせんせいがもうこの場所には来ないんだなって

事は分かったよ。なんと無くだけれどね。

でもね、悲しく無いし、あんまり寂しくも無いよ。

お友だちがいてチビがいるって事は勿論だけど、どこかの世界でまた、つぶらやせんせいピカピカの服を着て、わたしに会いに来てくれる。って、そう思うから。

だから、その時はまた、一緒に旅をしようね。

## トレセン学園での日常

昼休み。雲一つ無い様な晴天の中、アセビボタンは1人外通路に設置されたベンチに腰掛けながら腹8分目に満たされたお腹を休めながら、午後の授業が始まる迄の休憩をしていた。

と言っても、何時もの癖で頭の中はトレーニングや今後の事を考えているのだが。

ニヤーン

人通りが多いとは言えないが、それでもある程度の騒がしさがあるこの場所に聞き慣れない小さく響いた声にボタンの耳が反応する。

音の主を探す様に無意識にピコピコと動く耳をそのままに顔を動かし、辺りを見渡す。

ニヤーン

再び同じ声が聞こえて、今度はその声に誘われるかの様に目線を動かす。

いつの間にか自分の隣、ベンチに相席していた1人の、嫌、1匹の小さい子。

黒い身体に所々明るい毛色が混じった所謂錆猫。

逃げる気配も、襲つて来る気配も無く只甘える様な高い声で鳴いている。

ニヤーン

アセビボタンは勝負の時こそ恐れられてはいるものの、それ以外では他のウマ娘、人間の女の子と変わらない。

ボタンはおずおずと錆猫に近い右の手で、その小さな頭を1回撫でる。

逃げる所か頭を擦り寄せてくるやけに人馴れした可愛らしい子。

錆猫が次を催促する様に「ニヤーン」と声を上げたので、もう1度、もう1度と優しく撫でる。

何回か撫でれば錆猫はベンチの上でねっ転がり自分の急所を堂々と晒す。

ボタンはその錆猫を慈しむかの様にクスクスと笑いながら頭から



お腹へと手が移らせ、その身体を優しく撫でた。  
アセビボタンは、動物好きで、更には好かれる体質だった。

・  
・  
・  
昼休みの終わりを告げる予鈴が鳴る前に、メイシヨウドトウは自分のクラスへ戻ろうと脚を進めていた。

転ばない様に注意しながら歩いているその途中、目の端に蠢く塊を見てしまった。

飛び出そうになった叫び声を押し込んで怖いもの見たさを抱えながら、もしもがあれば全力で走れば良いと少しずつ塊へと近付いて行く。

1歩。また1歩近付く度にその塊が得体の知れない物では無く、生き物が集まった所為で謎の塊に見えていたのだと理解する。

ワンワン、ニャンニャン、チュピチュピ、シカシカ、タヌタヌ。

何種類もの音が混じったその塊はトレセン学園へと迷い込んだ野生の、もしくは飼われている動物だった。

猫に始まり、犬、鳥、狸、鹿と動物園かと見間違えてしまいそうな数と種類。

ドトウは恐怖よりも驚きが勝った気持ちになりながら、自分でも見慣れたタヌキをそっと胸に抱いてみる。

そうすれば、タヌキがいなくなった隙間にニンゲンの顔が晒される。

ギョロリと動いた瞳孔と、自分の目が合ったその瞬間、メイシヨウドトウ渾身の悲鳴がトレセン学園へと響き渡った。

「……あ、あのく。大丈夫ですか……？」

「大丈夫です。何時もの事なの、で……」

「そ、そうですか？……それにしても、どこからやって来たのでしょうか」

？」

「ええ、どこからなんでしょうか」

「ああ！こんな所にいたんだねボクのプリンセスッ！」

「オ、オペラオーさん!」

「ぷりんせす……?」

693：名無しが適當語り ID：stlfv21G3

アセビボタンのサポートカードイベントが可愛いという話なんですけれども

694：名無しが適當語り ID：/t7TLb+gF

まさかオペドトウが出てくるとは思わなかった

695：名無しが適當語り ID：Z1tPqbL1P

史実の関係性が無いなら新しく作れば良いじゃない！

696：名無しが適當語り ID：tmeaRoKup

これには王妃もニツコリ

697：名無しが適當語り ID：M7U07MOxw

それにしてもドトウの叫び声は健康に良い

698：名無しが適當語り ID：lWiTmeUy

>>>697

分かる

699：名無しが適當語り ID：pPoGXUw27

最悪な健康法で草

700：名無しが適當語り ID：vfcagooQXC

にしてもイラストから何まで可愛いなあお前エ!!!

701 : 名無しが適當語り ID : r a b a u M q w E  
急にキレるな。訴えたら勝つぞ。

702 : 名無しが適當語り ID : d p M t Y Z X n X  
太陽に照らされてリボンの飾りがキラキラと光る中、聖母の様な微笑みでネコちゃんを抱き上げるアセビボタン……

703 : 名無しが適當語り ID : x m U E h x X H H  
>>>702  
俺のママ……

704 : 名無しが適當語り ID : y m l / i L F s r  
>>>702  
カーチャン……

705 : 名無しが適當語り ID : N j 4 g p D u X y  
>>>702  
マツマ……

706 : 名無しが適當語り ID : O R L M l / q H 5  
産駒ワラワラで草

707 : 名無しが適當語り ID : J 4 l / F C A q v  
自分をアセビボタンの産駒だと勘違いしている精神異常者の集まりやんけ

708 : 名無しが適當語り ID : X N K O P 6 p C A  
怖、近寄らんとこ

709 : 名無しが適當語り ID : VNLShlAhj  
くわばら、くわばら

710 : 名無しが適當語り ID : XScfXerFC  
アセビボタン「ヒトさん達だれ〜?」

711 : 名無しが適當語り ID : ht+5I7lmt  
アセビボタン史実が友好的過ぎる

712 : 名無しが適當語り ID : cFvCoT59g  
まあ、馬の輪に入れなかつた結果なんですけどね

713 : 名無しが適當語り ID : WlfpCcx

>>712

泣いちゃった……

## 初めての邂逅

「あなたにも、”お友だち”が見えているんですか？」  
「……え？」

昼下がり、学園の廊下で突然声を掛けられて振り向きながらも、思わず素っ気無い返事をしてしまう。

お友だち？見えている？お友だちというのは、普通、見えているものではない。

様々なハテナが頭を巡り、脳内がこんがらがる。

「えと、あなたは？」

「マンハッタンカフェ、です。アセビボタンさん」

「あ、私の名前、知っているんですね」

「はい。あなたは有名人ですから」

「有名人？」

不思議な空気を持つ彼女に会話の手綱を握られて、ペースを乱される。

それに、なんだか目が怖い。

私を見ている筈なのに、見ていない様な。

私と目が合っている筈なのに、別のモノと目が合っている様な。

思わず視線を外したくなる。

それに、ユウメイジンという6文字がヤケに気になってしまう。

「有名人？私が、ですか？」

「ええ。無敗での勝利、そして敗北。しかし、天皇賞での再起。誰かを追い掛けているその姿」

「誰かを、追い掛けている……」

「アセビボタン。あの子とは、誰ですか？」

金色の目にジツと見つめられる。

長い髪が落とす影をものともせず、怪しく光る2つの瞳。

怖い。淡々と、事実を述べられ疑問を投げ掛けられているだけなのに、説明のしようがない恐怖心。

「あの子は、あの子です。私の、目指すべき背中。緑と黒の耳飾りが特

徴的なお姉さん」

「緑と黒……?」

「はい。緑と黒の耳飾りに、鹿毛の髪。私が目指す彼女」

「そ、そうです、か……」

私の答えがマンハッタンカフェさんの期待する答えでは無かったのか、私の言葉を聞き届けた瞬間に先程まで感じていた威圧感が途端に霧散する。

なんだか、廊下の空気すら暖かくなった様な勘違いすら起こしてしまいそうで、失礼にならない程度に息を吐く。

「御免なさい。突然変な事を聞いて」

「いえ、別に」

「では私はこれで」

「はい。ご機嫌よう……?」

嵐の様に現れて、嵐の様に満足し、去って行く。

只々私は、その背を見つめる事しか出来なかった。

812：名無しが適當語り ID：dGOr8iNRS

アセビボタンとマンハッタンカフェの出会いが怖過ぎて泣い  
ちやった同士おりゆ?

813：名無しが適當語り ID：x2NA/o5EQ

おるぞ

814：名無しが適當語り ID：5oe6Ez4LL

泣いちゃったよね

815：名無しが適當語り ID：lIEUIDPeb

怖過ぎて（主にマンハッタンカフェ）

816：名無しが適當語り ID：ZvCoRm9/F

>>>815

主にどうかマンハッタンカフェ”だけが”なんだけどな

817：名無しが適當語り ID：EH9PR89MU

あの時のマンハッタンカフェ雰囲気も怖かったし、なんならゲームのBGMから怖かった

818：名無しが適當語り ID：gje6XeJcW

カフェがボタンに話し掛けた瞬間からBGM変わるのやめちくり  
くく

819：名無しが適當語り ID：TZJNSBl iw

でも、マンハッタンカフェが怖かったからこそアセビボタンの可愛さが際立った訳なんですけれども

820：名無しが適當語り ID：b8eMCy y f x

>>>819

分かる。ぎこちないボタンちゃん可愛かった

821：名無しが適當語り ID：20ilO9gRu

トレーナー気付いちやっただんですけど、秋天勝つてからのアセビボタン可愛くないですか？

822：名無しが適當語り ID：8ieabBOY4

>>>821

気付いてしまったか……

823：名無しが適當語り ID：z7abcuLL5

>>>821

アセビボタンは最初から可愛いだろ！いい加減にしろ！

824 : 名無しが適當語り ID : Z z m w + N U C b

>>821

元馬から可愛いアセビボタンさんの話した？

825 : 名無しが適當語り ID : C b w c 2 L b o m

競走馬の中で1番美形は誰だっていうのは定期的に聞くけど、1番可愛いのはだとマジで5本の指に入るよな

826 : 名無しが適當語り ID : N y k N b z B H c

ドットさんにも勝てる？

827 : 名無しが適當語り ID : F y y 5 3 A f Y 2

>>826

時と場合と写真によつては

828 : 名無しが適當語り ID : 6 U 7 q q + 8 a K

>>827

元ネタドットさん強過ぎんだろ……

829 : 名無しが適當語り ID : m U G / G z q h y

アセビボタンさんの牧場での動く動画があれば……！

830 : 名無しが適當語り ID : t X B M K X 2 d J

時代が悪かった

831 : 名無しが適當語り ID : d U d 6 U r z o i

悪かった(ガチ)

832 : 名無しが適當語り ID : A 7 W O O j d V 3

長生きした馬だから8mmフィルムとかで残ってれば最高なんだけど



833 : 名無しが適當語り ID : J4wBInBtl  
見つかつてても現像できる場所が現代だとな……

834 : 名無しが適當語り ID : 0vMvpMgAl  
昔の馬の宿命だな

835 : 名無しが適當語り ID : w46jANXiB  
映像は無い！写真は少数！雑誌等の資料も最低限（発見難易度・高）  
！

836 : 名無しが適當語り ID : IZQuTpv18  
>>>835  
無理ゲーでは??

837 : 名無しが適當語り ID : ynB6n5FED  
一般トレーナーの俺らには関係者さんが動いてくれるのを待つし  
かできないのだ……

838 : 名無しが適當語り ID : qo/w7gWO+  
ワインデイちゃんもこればっかりは……

839 : 名無しが適當語り ID : ZhfuGOhaS  
親友さんの日記を勝手に全世界へ公開した関係者だ。信じろ。

840 : 名無しが適當語り ID : d+qm7nbBj  
>>>839  
なんだろう、凄い信じられる不思議

841 : 名無しが適當語り ID : mTTcseETs  
>>>839

アセビボタンと親友に脳を焼かれた人間の孫達はきつとやってくれる（小並感）

語ったり語らなかつたり、ラジバンダリ

1：名無しが適當語り ID：AGsUPdEjG  
という訳で公共交通機関諸々を乗り継いで牧場に行ってきた。  
アセビ一族の長女さんにも会ってきたゾ

2：名無しが適當語り ID：ET6xm8IO1  
>>>1  
いいわね

3：名無しが適當語り ID：+XZQM17XD  
>>>1  
羨ましい

4：名無しが適當語り ID：lBcm7xOPv  
>>>1  
素敵だわ

5：名無しが適當語り ID：mxhFshld  
アセビボタンきっかけで牧場に行ってみたんだけど、やっぱり大  
変？

6：名無しが1 ID：refoCKaU4  
>>>5

牧場という施設である以上栄えている場所にある訳じゃ無いから、  
同じ県に住んでも行くのは大変だと思う。

でも、公式HPに載ってる見学可能日に予約を取ることができたら  
最寄りの駅から牧場が案内出してくれるので、駅↓牧場は楽。  
最寄り駅までの道と、予約が取れるかの2点が大変かな

7：名無しが適當語り ID：W2YzoyJlF

>>6

サックス

8 : 名無しが適当語り ID : X z F x C P k 0 V  
予約が取れるか (最重要)

9 : 名無しが適当語り ID : o 3 C l Q k 2 8 9

>>8

それ

10 : 名無しが適当語り ID : y X u Z Q u m L M  
予約が取れませんッ  
!!!!!!!

11 : 名無しが適当語り ID : P h B U r M V n J  
ウマ娘効果ってスゲー

12 : 名無しが適当語り ID : + O i c s i u H E  
ワイ地元民。元々動物好きで、ウマ娘とか関係無く牧場には遊びに行ってたけど、アセビボタンが実装される前はワイしか見学者がいなかったレベルなのに、実装後は1度も予約が取れなくて泣きそう。

13 : 名無しが適当語り ID : n m H A x H / y V

>>12

可哀想

14 : 名無しが適当語り ID : B O K b e H n d M

>>12

それは泣いてもいい

15 : 名無しが適当語り ID : W z S V V Z O q L  
で、肝心の牧場はどうだったんです？

16 : 名無しが1 ID : 3Xb0mzppb

>>>15

月並みだけど凄く良い場所だった。

花畑と勘違いするレベルで沢山の花が咲いてて、馬の他にも動物がいて、お墓も整えられてたし。

残念なのが触れ合いNGな馬が1番人間に寄って来て触りたい欲を刺激してくること。

俺は涙を堪えながら羊と犬と猫撫でてた。ちな、牛もおる。

17 : 名無しが適當語り ID : Dmzu4YhVR

>>>16

文章を見ただけでも行きたくなる

18 : 名無しが適當語り ID : K2Ltn+g9

>>>16

動物さんわらわらでかわE

19 : 名無しが適當語り ID : B4niTpVtP

>>>16

噂で聞いた事あるけど、アセビボタンのお墓にメッセージ彫られてるってマ？

20 : 名無しが1 ID : n45lflUwl

>>>19

マだったよ。

お墓の裏に「美しき華アセビボタン。共に駆けた旅路へ感謝を」ってあった。

21 : 名無しが適當語り ID : PEGCK3Lut

>>>20

てえてえ……？

22：名無しが適當語り ID：vKhYJdNob  
でもアセビボタンが亡くなる前には、じゃない？

23：名無しが適當語り ID：fJ/u aVuQA  
脳焼かれ「頼まれてました！」

24：名無しが適當語り ID：U4zPNMxQp  
>>23  
うーん、この有能

25：名無しが適當語り ID：kYQXExoPk  
>>23  
草

26：名無しが適當語り ID：hA6aValmQ  
>>23  
脳味噌高垣芳司定期辞めろ

27：名無しが適當語り ID：wb9cK2No6  
>>23  
脳焼かれで誰が分かるのほんま草

28：名無しが適當語り ID：hXBgweGph  
私も牧場行ったことあるけど、メツセージの後に円谷異って彫って  
あつてアセビズナからは引き継いだ高垣さんが建墓したことにな  
ってるんだけど、アセビボタンだけは円谷さんが建墓したことにな  
ってるんだよね。

29：名無しが適當語り ID：z27XusuJr

>>28

良い……

30 : 名無しが適當語り ID : r m v l Y 2 d f k

>>28

愛が重い(通常運転)

31 : 名無しが適當語り ID : 4 f D V u d A J W

>>28

アセたつ強火民じゃん

32 : 名無しが適當語り ID : s Z E G a i c h 9

>>28

アセビボタンが現役時代から後方で腕を組んでいたオタクだ、面構えが違う。

33 : 名無しが適當語り ID : y n J C s 2 x 9 k

日記も晒されてるしな

34 : 名無しが適當語り ID : 9 z 4 K J q + U 6

日記は何度読み返してもヤベーなってなる

35 : 名無しが適當語り ID : b H z V + 8 l k Q

アセビボタンだけでもあんだだけ脳焼かれてたのに、アセビボタンよりもずつと前から知り合いだった円谷先生へ向けた日記は無いんですか？

36 : 名無しが適當語り ID : y O A h u U V H Y

>>35

それはもう焦土と化してると思うよ

37：名無しが適當語り ID：G/m9J9E5U  
人間に対して友好的過ぎる円谷先生が悪い

38：名無しが適當語り ID：g6jILmzZl  
高垣<sub>ニ</sub>円谷<sub>ニ</sub>アセビボタン

39：名無しが適當語り ID：McHEPlnAl  
>>>37  
とんでもない飛び火で草

40：名無しが適當語り ID：8bE57p9ge  
>>>37  
良い人ってだけなんだよなあ

41：名無しが適當語り ID：xuChJ/t8U  
良い人と相思相愛だったからこそ産駒達もその性質を受け継いで  
るの良いよね

42：名無しが適當語り ID：6vGxyVJpQ  
アセビスズナ（ツンデレだけど人も馬も好き）  
アセビルピナス（人の言う事が分かる）  
アセビロード（人と馬以外なら鳩が友達）  
アセビツバキ（牧場以来最高のリードホース）  
アセビコウロ（厩務員さんとイチヤイチャしてる姿は確認済み）

43：名無しが適當語り ID：MRVlvdXIa  
>>>42

これ気性難の馬とアセビ一族合わせたら良いバランスの子が生ま  
れるのでは？

44：名無しが適當語り ID：KGYXMSsQE



>>43

確か未勝利戦を勝って直ぐ怪我しちゃって引退したアセビの子のお父さんが気性難だったけど、その子自体は至って普通で関係者から「あいつの子供とは考えられん」みたいなこと言われてたのもらんかったっけ？

今は何処の競馬場で誘導馬やってたと思う。

45：名無しが適當語り ID：+2hurzk0S

>>44

恐るべしアセビの血

46：名無しが適當語り ID：PXWCLsh7m

>>44

それポンポーソ君じゃない？

今は誘導馬も引退して引取先でホースセラピー兼アイドル馬やってるよ。

47：名無しが適當語り ID：C9kzmEqTF

>>46

マジ？

48：名無しが適當語り ID：f/nzaIGns

>>47

近所の牧場で経歴がそれらしい子がいるから自信満々では無いけど、合ってると思う。

49：名無しが適當語り ID：dgGCekU48

アセビの一族優しい子が多くてボタンちゃんも鼻が高いやろなあ

50：名無しが適當語り ID：AX2nBvMI

ボタンは馬嫌い定期

51 : 名無しが 適當語り ID : M0m w v d R d 6

>>>50

残念、アセビボタンは馬が苦手ってだけで嫌いでは無いゾ。

それにスズナちゃんを産んでは母性に目覚め、最終的には馬好きにもなってしまったんだよなあ……

52 : 名無しが 適當語り ID : / e g y A c 2 K i

菘「牡馬……」

53 : 名無しが 適當語り ID : k b / n b R w A b

>>>52

可愛いねスズナちゃん！

54 : 名無しが 適當語り ID : J l i D k z t A X

>>>52

スズナちゃん可愛いよー!!!

55 : 名無しが 適當語り ID : K 7 1 L U A y F H

スズナ「ニンゲン嫌い」

56 : 名無しが 適當語り ID : x E f H W + W T 6

>>>55

人參を貰ったらそそくさと自分から離れる癖に、人間が離れたら立ち止まって顔を向けてる動画バラされてるけど平気？

57 : 名無しが 適當語り ID : X / S 2 5 d x 6 n

あの動画ほんま可愛い、毎日撮取しないと駄目な身体にされたわ

58 : 名無しが 適當語り ID : H A 7 Q + 9 c P 2

>>>57

分かる

59 : 名無しが 适当語り ID : X q b x R r T P L

>>55

人間嫌いとか言ってるけど、ヘイローの前でそれ言えるか？

60 : 名無しが 适当語り ID : K G q 2 x 8 Z V Z

>>59

ガチの気性難はNGやぞ

61 : 名無しが 适当語り ID : h k V / 1 R K C i

ヘイローの前に立ったら、スズナは泣いてしまうぞ

62 : 名無しが 适当語り ID : W H z 9 O w S D K

そこで颯爽とロードさんが助けてくれるのか

63 : 名無しが 适当語り ID : 4 q D t O z b 2 U

ロードお爺ちゃん馬界のハシビロコウだから……

64 : 名無しが 适当語り ID : C 4 5 u a D P J c

グラスお爺ちゃんとロードお爺ちゃんが並んでるの一生見ていた

い

65 : 名無しが 适当語り ID : G v 6 Q Y 7 P Z R

グラスは蒲公英を、ロードは鳩を見つけたら動くんだよね

66 : 名無しが 适当語り ID : O d j V Y 2 3 g s

鳩「来たやで」

67 : 名無しが 适当語り ID : l u I m + a r + +

馬が別の動物と仲良くしている姿は健康に良い

68 : 名無しが適當語り ID : t 4 l J W Q V t P  
でもなんで鳩？

69 : 名無しが適當語り ID : b x X g M G I L X  
>>>68  
従業員さんも首を傾げる永遠の謎や

70 : 名無しが適當語り ID : e l 8 A e K D i c  
>>>68  
知らん内に仲良くなってたらしい

71 : 名無しが適當語り ID : c s H N C S O 9 8  
厩務員さんが「ロード君は何もしないと日向ぼっこばかりになるから、友達の鳩がいるとそれを追いかけて動いてくれるので有り難い」っていう位には仲良しな鳩（いつ仲良くなったかは永遠の謎）

72 : 名無しが適當語り ID : 6 r t p O Q C F P  
>>>71  
名前とか無いんか？

73 : 名無しが適當語り ID : b + r I Y j q O Q  
>>>72  
一応は野生の鳩らしいので、名前は無いけどツイートの中では「鳩丸」って呼ばれてたよ

74 : 名無しが適當語り ID : b / H N V D A f W  
そういえば、ツバキさんはまだリードホースやってるんだっけ

75 : 名無しが適當語り ID : E f G + P a t x I  
>>>74

やってるし、なんなら仔馬の他に羊のリードシープ(馬)やってる

76 : 名無しが適当語り ID : aZuIKYeWT

>>>75

ツバキさんの後ろを仔馬が追いかけてる横で羊も追いかけてるの好き

77 : 名無しが適当語り ID : D7/1x17e/

>>>75

ちよつと前まで桜花賞でうおおおお!!!!ってなって、宝塚でヒョワ……ってなって、海外遠征でわ、わああああ!!?!?!?!ってなってたアセビツバキちゃん……好きだ……!!?!?!

78 : 名無しが適当語り ID : vZBsuggXf

>>>77

脳焼かれてんね

79 : 名無しが適当語り ID : guCUdUli1

ツバキちゃん、戦績的にはシルコレみたいな立ち位置だけど人気の高さエグかったよな

80 : 名無しが適当語り ID : eQWEvA7bv

>>>79

だいたい2着になったのがハナ差とか、クビ差みたいなのが多いからね

81 : 名無しが適当語り ID : MN0az9cin

>>>80

全力でぶつかって、後1歩届かなくて、でも最後に1着を取るジエネリック旅程みたいなことされたら男の子興奮しちゃうから……

82 : 名無しが適当語り ID : F Q h A j E f u d

>>81

女の子も興奮したんだよなあ……

83 : 名無しが適当語り ID : C P p O W 3 j i y

「眩しい馬体を輝かせ、日本からやって来たたびする少女！アセビツバキ！（和訳）」

「漸く咲いた美しき花！アセビツバキ!!その芦毛の馬体を、海を越えたこの地で咲かせてみせました!!G1初勝利!!」

日本の実況は決め打ちだとしても、アセビを知らない海外の実況でもピンポイントなこと言ってくるの興奮する

84 : 名無しが適当語り ID : r O 6 + s d k g l

>>83

ぞ  
両方を反復横跳びしながら聞くと最高の気分になれてオススメだ

85 : 名無しが適当語り ID : N T j h V Y + Y V

>>84

たまんねえよな

86 : 名無しが適当語り ID : + u p S T G T h K

ツバキちゃんのG1制覇は陣営もそうなんだけど、デビューからずっと乗ってたジョッキーがバチくそ泣いてたのも釣られる

87 : 名無しが適当語り ID : 5 U k E 7 e g z N

>>86

「もう、望むものではありません。2度と馬に乗れなくなっても良いくらいに」

勝利者インタビューより抜粋

88 : 名無しが適當語り ID : e q X C P C P B O

>>>87

やだ、脳焼かれてる

89 : 名無しが適當語り ID : j O v I 7 a C W I

>>>86

これ言った後に馬主さんから「アセビの血がなくなるまで辞めさせねえから」って怒られてて草なんだ

90 : 名無しが適當語り ID : 4 D F n W i X l Q

>>>89

またジョツキーと競走馬がニコイチしてる

91 : 名無しが適當語り ID : u X R R J J + Z b 6

ジョツキーと競走馬のニコイチ概念だけを摂取して生きていきたくない

92 : 名無しが適當語り ID : n H g g N P l a K

今思っただけどさ、アセビ一族に関係する人悉く脳焼かれてない？

93 : 名無しが適當語り ID : y Y 3 C a f K X H

>>>92

アセビの血は良い意味で濃く遺伝するからね

94 : 名無しが適當語り ID : v L J f I D c U Y

>>>92

だからといって脳が焼かれる部分を遺伝させなくても……

95 : 名無しが適當語り ID : Z 3 S P L P P A p

でも脳焼かれるの好きだろ？

96 : 名無しが適當語り ID : eOJylqOSF

>>>95

正直好きです

97 : 名無しが適當語り ID : qIzRWo+Tk

>>>96

健康に良いよね

98 : 名無しが適當語り ID : UcCMlRcFl

今週の日曜日、アセビコウロ君が初の重賞に挑戦するから皆見よう  
ね

99 : 名無しが適當語り ID : J9cx2S+Dq

>>>98

泣く準備はできてる

100 : 名無しが適當語り ID : iQwcuYn5E

>>>98

早く日曜日来い。待ち切れん。



## ウマ娘のアセビボタンが可愛い

1 : 名無しが適當語り ID : R G s 6 k R S D /  
皆アセビボタン好き?

2 : 名無しが適當語り ID : w J + N g U N A D  
>>> 1

好きです (即答)

3 : 名無しが適當語り ID : G 5 8 / 8 H z w H  
>>> 1  
当たり前だよなあ?

4 : 名無しが適當語り ID : 0 S 6 5 6 R s P 7  
>>> 1  
逆に好きじゃ無い人いるんですか?? (過激派)

5 : 名無しが適當語り ID : L X 3 9 g m f Q 4  
>>> 4  
性能厨

6 : 名無しが適當語り ID : 8 i 5 u Q S 6 V A  
>>> 5  
なんでやボタンちゃん性能もええやろがい!!!

7 : 名無しが適當語り ID : R r 4 4 W p L b 0  
あの事実準拠にしたら強過ぎてサイレントナーフ受けた疑惑のあ  
るアセビボタンちゃん

8 : 名無しが適當語り ID : l v H H l a E Z d

まあ、実際はそんな事無かった訳ですけど

9 : 名無しが適当語り ID : gN29jvBH5  
ボタン好きだ。今すぐ新衣装寄せ。

>>> 10 : 名無しが適当語り ID : I I u C G E u z v  
>>> 9

それはそう。でも初期実装組から実装して欲しい欲もある。

11 : 名無しが適当語り ID : f H x Z K G B 9 0  
>>> 10

1回で全員分実装すれば問題無し

12 : 名無しが適当語り ID : I D e Z T q d T l  
オタクは欲張り

13 : 名無しが適当語り ID : d 7 E l k b v y 4  
皆、アセビボタンちゃんのどこが好き？

14 : 名無しが適当語り ID : g A M F r m P v v  
>>> 13

全部だ！

15 : 名無しが適当語り ID : V 7 F E h 5 z s W  
>>> 13

声が…… 良いですよ……

16 : 名無しが適当語り ID : n T m b W T W S J  
>>> 13

まず可愛いでしょ？その次に可愛くて、やっぱり可愛いですよ

17 : 名無しが適當語り ID : FwVnZuBcD  
>>13

あの顔付きで実装ウマ娘の中では4位に着く高身長なのが良  
いっすね

18 : 名無しが適當語り ID : VN7FmtXaZ  
>>13

時々50年代トークし始めるの好き

19 : 名無しが適當語り ID : EvGOVF3LF  
>>18

お出掛け先の家電量販店で興奮してたの滅茶苦茶かわい  
かったよね

20 : 名無しが適當語り ID : +9b1k3J7s  
>>19

「.....こ、これが現代のカラーテレビ.....」

21 : 名無しが適當語り ID : RTxS7TicW  
>>20

ここほんま好き

22 : 名無しが適當語り ID : 5nSFTTOMC  
>>20

お婆ちゃんじゃん

23 : 名無しが適當語り ID : GVOER2tWu  
>>22

お婆ちゃんやぞ

24 : 名無しが適當語り ID : zZoO5QB8R

まず持つてるだけで携帯すら使いこなせて無いからな

25：名無しが適當語り ID：h2Gyv4Rpu

>>>24

トレーナーが介護職になった瞬間である

26：名無しが適當語り ID：zRZvBhXwF

あの娘、トレーナーに出会う前はよく生活できてたな

27：名無しが適當語り ID：Eo3zRJd+O

>>>26

トレセン学園は寮生活だからね。それさえできれば大丈夫だったんやろ（適當）

28：名無しが適當語り ID：JU899umos

現代に追い付いてないからこそ周りのウマ娘から教えられてお目キラキラさせてる姿が見えるんや…… ありがてえ……

29：名無しが適當語り ID：k9kvXQD2y

ストーリー中にヘリオスと出会わなくて良かったなあ

30：名無しが適當語り ID：FzOOXsh9R

ヘリオスと出会ってたら今頃ボタンもウエイ、ウエイ！してたんやろか

31：名無しが適當語り ID：LMFGQs8H5

見たい様な、見たく無い様な

32：名無しが適當語り ID：SMJvInt5t

でもThe・大和撫子みたいな見た目からのウエイ！は聞きたい

33 : 名無しが適當語り ID : BRUIVU6iX

>>32

分かる

34 : 名無しが適當語り ID : rZIkra23U

>>32

パマちゃんみたいに最初は困惑してたら尚良い

35 : 名無しが適當語り ID : RSkYEHJD i

ずっと疑問だったんだけど、アセビボタンって同期とか夫婦的な事実は無いけど仲良いキャラクターっておったりする？

36 : 名無しが適當語り ID : qNohvyeTY

>>35

ウオダスとか、フラウンズみたいな関係性は全く無いけど、動物繋がりでドトウ、見えない存在を追ってるという意味でカフェ、偶に懐かし目の語彙枠でスーパーカーとかじゃない？

37 : 名無しが適當語り ID : WUz0xv / t +

>>36

チヨベリバさん……

38 : 名無しが適當語り ID : Q5wjZnKTP

>>36

999

39 : 名無しが適當語り ID : uGDKV9I3m

公式的にはアセビボタンが目指すミノルは無理だと思うんだけど、ボタンが匂わせたチカラちゃんは欲しいよなあ……

40 : 名無しが適當語り ID : 3Tk6vrC7B

>>>39

またウマ娘の年齢層が上がってしまう

41：名無しが適當語り ID：XaLQ8wR／8

>>>39

チカラちゃんって元ネタ誰？ライバル？

42：名無しが適當語り ID：AV0oyNgdH

>>>39

チカラちゃんはトキノチカラって言って、アセビボタンよりも10年位前に活躍した馬。

馬主の円谷氏と菊池氏が仲良しで、所有馬と一緒に走らせてみたいな！的な会話をしてたのでストーリーで匂わせてきたと思われる。

ちなみにトキノチカラは菊池氏の所有馬だけど、トキノミノルはトキノ冠を受け継いだ別の人の所有馬。

43：名無しが適當語り ID：nGPACP72x

>>>39

はえり、サンクス

44：名無しが適當語り ID：+5I8CEERj

馬主同士も仲良しだし、馬も片方が天春、片方が天秋でバランスが良いんだよな

45：名無しが適當語り ID：gU9w7kkjK

仲良し可愛い

46：名無しが適當語り ID：6hYAO rFYw

こんなにもアセビボタンは可愛いのに全然公式の資料が出て来ないのバグやろ

47 : 名無しが適當語り ID : cP4uJnDrL

>>46

悲しい

48 : 名無しが適當語り ID : LG5oSZVWN

>>46

ほんま、ほんま

49 : 名無しが適當語り ID : NsqD8fOXG

>>46

新規実装のウマ娘がいると何故かピンポイントで情報を共有してくれる競馬サイトですら、アセビボタンの時は動き無かったもんな

50 : 名無しが適當語り ID : zuL67Ov3U

俺史実は全く知らんから、アセビボタンの勝負服が可愛いことしか分からん

51 : 名無しが適當語り ID : FCgsRUPX1

>>50

間違い無い

52 : 名無しが適當語り ID : 08BANMYUy

>>50

あの和装と洋装ミックスの勝負服好き

53 : 名無しが適當語り ID : 6oX7f7u g+

3Dだと貫通問題とかあるのにようやつとる

54 : 名無しが適當語り ID : xhkZ6XVkr

個人的にスカート？が膝下まであるのが個人的にポイントが高い

55：名無しが適當語り ID：GcXW4ZAc

>>54

分かる。布面積多いの助かる。

56：名無しが適當語り ID：Ps/WpFaox

時代的に履いてもロングスカートが多いから、制服・勝負服・私服  
全て膝丈なの最高。

他のウマ娘が駄目って訳じゃ無いけど、偶にこういった風味の娘が  
いるとお”っ”!つてなる。

57：名無しが適當語り ID：aDnlb5yrz

>>56

濁点が汚い

58：名無しが適當語り ID：ZnzdlWZ/z

話の流れを変えてスマンやけど、アセビボタンのSSRサポカと衣  
装違いとイベントはどこ？

59：名無しが適當語り ID：2x1ojGLVN

>>58

イベントだと影も無いのさあ

60：名無しが適當語り ID：lMSP+eKv8

マルゼンさんとアセビさん2人でジュリアナ東京行く話とか欲し  
い

61：名無しが適當語り ID：Rdw+82eR9

>>60

お爺ちゃん、ジュリアナ東京はもう……

62：名無しが適當語り ID：Zok/iOEBM



親父臭くなってきたな

63 : 名無しが 适当語り ID : mcVkrI+wh  
实际どんなイベント欲しい?

>>>63  
64 : 名無しが 适当語り ID : wvWucUmio  
>>>63  
っぱ、動物園やろ

>>>63  
65 : 名無しが 适当語り ID : 9orUA35Gk  
>>>63  
牧场

>>>63  
66 : 名無しが 适当語り ID : V8B95CS36  
>>>63  
逆に近未来とかサイバー系

>>>63  
67 : 名無しが 适当語り ID : WG9IS15sU  
>>>63  
迷子とアセビの冒険譚

>>>63  
68 : 名無しが 适当語り ID : lhVy6VudT  
>>>63  
癖を前面に押し出して良いなら、シチーに何らかの理由でスカウト  
されてランウエイ

>>>68  
69 : 名無しが 适当語り ID : r1MKDI5GO  
>>>68  
何それ見たい

70 : 名無しが 适当語り ID : lZr1YvS9n

>>>68

ウマ娘の顔の良さ(初期装備)を存分に活かし、ビビりながらラン  
ウェイを歩いてくれ〜〜

71:名無しが适当語り ID:7LqqxC7tQ

>>>70

アセビボタンのビビり顔は健康に良い

72:名無しが适当語り ID:KE2aHUBBo

>>>71

邪悪な健康法やな

73:名無しが适当語り ID:aU4/IcVKL

でも中の人的にもっと感情ぐちやぐちやになるストーリー欲しい

74:名無しが适当語り ID:sPLZufpjm

>>>73

お?地獄か?

75:名無しが适当語り ID:f+T/P/QvT

>>>73

日本ダービーの負けイベント良かった

76:名無しが适当語り ID:L9vf gDNaJ

あの演技で「新人です〜」されても信じられんわ

77:名無しが适当語り ID:gbdNmEBbU

名前が無い、所謂モブ的な役は吹き替え含めちよくちよく名前見る  
んだけどね

78:名無しが适当語り ID:yfnNXih8p

逆に何でモブしかやってないんや。

1話退場とかのキャラでも喜怒哀楽から感情剥き出しの演技まで最高やろがい！

79：名無しが適當語り ID：WGe7cF/r9

厳しい世界やからな……

80：名無しが適當語り ID：hvOXtHjKO

>>79

厳しい世界は勿論として、そもそも声質があんまりアニメ向きでは無いと言うか、アセビボタンが偶々最高級の合い方しただけで女の子にもお姉さんにもコレジヤナイ感生んじやう声してる気がするんな。

説明音声とか朗読とかで化けるんじや無いかとは思ってる。

81：名無しが適當語り ID：5FuPEIx0j

>>80

分かる。声優さんだから滑舌は良いし、綺麗な声はしてるんだけどアニメの中で前面に出てくるとなん、なんだろうな？って気持ちになる

82：名無しが適當語り ID：J7H6Q3hgw

ウマ娘の番組にゲスト出演して話してる時に「ああ、ボタンが話してる……」ってなった

83：名無しが適當語り ID：Ao80ob1G2

>>82

分かる

84：名無しが適當語り ID：HCuD3XtFE

チドリ コウ 千鳥 洗さん声が滅茶苦茶良いのは当たり前として、キャラクターの

解像度が高いのも好きだし、牧場に行って脳焼かれてんのも好き。

85：名無しが適當語り ID：VA00RWbz1

「あなたと歩き、旅をしている今が、人生で1番の幸福です」

ボタンの誕生日に牧場の写真を添えてツイートしてたの震えた

86：名無しが適當語り ID：OfA9TlASe

>>>85

これはアセビ民

87：名無しが適當語り ID：aKHdtM3du

>>>85

その後の個人ラジオで時間全部使ってアセビ回にしてたの笑った

88：名無しが適當語り ID：YAzqVfV9D

>>>87

やっぱりオタクなんやなって

89：名無しが適當語り ID：OJPRIGeOn

アセビボタン、見た目も、スタイルも、勝負服も、私服も、声も良  
いとか悪い所無さ過ぎやろ。優遇か??

90：名無しが適當語り ID：zLsWwNtmI

>>>89

会に行けない(マイナスポイント)でバランス取ってるんやぞ。

91：名無しが適當語り ID：/jJnlfq/H

>>>90

会に行けないは他のウマ娘を含めしょうがない無い所はあると  
しても、資料が全く無いのはガチでマイナスポイントやろ。

92 : 名無しが適当語り ID : N j B 5 q N 5 U 6  
後、現代について行けてないもマイナスポイントや

93 : 名無しが適当語り ID : h / z 6 h / h 5 i

>>>92

それは可愛いからマイナスじゃ無いぞ

94 : 名無しが適当語り ID : f r 6 p R i N v N  
資料なあ、なんか新しいの出て来ないもんかねえ

95 : 名無しが適当語り ID : B Z U Q d F U B z  
アセビボタンのスレだと10割出てくる資料問題

96 : 名無しが適当語り ID : G b d W K r u N r  
トレーナーちゃん何とかして

97 : 名無しが適当語り ID : 3 l J I p I 4 f a

>>>96

お前がトレーナーだろ、何とかしろ。

98 : 名無しが適当語り ID : l y D j p P 8 x d

>>>96

おう、テレビ局探し回ってこい

99 : 名無しが適当語り ID : Q j 7 t q E Z w s

>>>96

ラジオ音源の発掘も宜しくな

100 : 名無しが適当語り ID : e j G R n y U L f

うわっ…アセビボタンの資料、少なすぎ…？

アセビボタンに脳を焼かれた人々

1：名無しが適当語り ID：BvN66YAkR

アセビボタンさんをウマ娘で初めて知り、且つ、ウマ娘で明かされている以上の情報を知らないんだけど、検索のサジェストに「脳焼かれています」が出てきて気になっている。

そんなに凄い馬だったん？

2：名無しが適当語り ID：v1I8/DN6r

>>>1

凄いよ。

馬で言うのとウカイテイオーみたいな事をしている。

3：名無しが適当語り ID：XR4jON8y/

>>>1

馬主さんが文字を書く仕事もしていた人だから、それに似てか出来過ぎな程に浪漫がある。

4：名無しが適当語り ID：RyVtjCjz/

>>>1

馬主とアセビボタンの所為で馬主の親友だった人が脳を焼かれ、その結果、今の我々が脳を焼かれ、担当声優が脳を焼かれている。ちなみにアセビボタンに乗っていた騎手さんも若干焼かれている。

5：名無しが1 ID：iOJhC9Qav

>>>4

満遍なく焼かれてるじゃん

6：名無しが適当語り ID：ACLP2r8SR

>>>5

満遍なく焼かれてるし、焼いた。

7：名無しが適当語り ID：3eWVgmfaO  
何がとは言わないけど……

「アセビさん、あなたと共に旅ができて良かったです」

「我が友の隣で、あの子と彼の旅路を見続けられた事はワタシが生まれてから1番の幸福であった。」

「あなたと歩き、旅をしている今が、人生で1番の幸福です」

8：名無しが適当語り ID：SYK90WeIf

>>>7

この中で1番軽い言葉が馬主さんの言葉ってマ？

9：名無しが適当語り ID：QqLBS247d

>>>7

こんがりしてんねえ

10：名無しが適当語り ID：czPq288Rj

>>>7

まあ、馬主さんと親友さんは兎も角せんどりさんの焼け方おかしいやろ。

11：名無しが適当語り ID：JhV+nMV7r

>>>10

【ここに例の画像】

12：名無しが適当語り ID：w9x5cjaFC

テンプレ出たな

13：名無しが適当語り ID：x4yMBntuL

まあ、千鳥さんは良い意味で元ネタとか作品をよく見る人だから焼

けちゃったんやろなあ……

14 : 名無しが適當語り ID : 3WdXUMz9F  
確かボタンの役に決まって直ぐ牧場行ったんでしょ

15 : 名無しが適當語り ID : jPYTgmb2  
>>>14  
せやで。

マネージャーさんから決まりましたよ報告貰って、その足のまま  
丁度休みと被っていた見学可能日に予約して、日帰りレベルで牧場だ  
け堪能して帰って来た方や。

16 : 名無しが適當語り ID : 8SGHcSLNW  
>>>15  
行動力の塊。

17 : 名無しが1 ID : 2Y/e1bKef  
>>>7  
なにこれ初めて見た。

アセビとか、ボタンとか、ちゃん付けしてる人は沢山いるけど、ア  
セビさんってなるとなんか生々しいね。

18 : 名無しが適當語り ID : 9DkVNjvFk  
>>>17  
やっぱり生々しいよな

19 : 名無しが適當語り ID : lvsrrzrPhp  
冠名である「アセビ」がなまじつか人間の苗字っぽくも聞こえるか  
ら、完全に好きな人と呼んでいる感じになるんよな。

20 : 名無しが適當語り ID : +zR5u3inX



【いっくに例のgif】

21 : 名無しが適當語り ID : JkPxRFRk

>>>20

貼られてないのに何貼られたか分かる不思議

22 : 名無しが適當語り ID : 9qLcmGvme

>>>20

ねっとり撫でるの辞めろ

23 : 名無しが適當語り ID : 75DEudoh

>>>20

うーん、これは事後？

24 : 名無しが適當語り ID : UhACsJuld

アセビボタンと円谷氏はもつと清いお付き合いです!!!!!!

25 : 名無しが適當語り ID : Z89Gvbkgg

>>>24

gifの人だって脳焼かれてるだけで清いお付き合いだぞ、多分……

26 : 名無しが適當語り ID : IaoLv7Ect

>>>25

言い切れ

27 : 名無しが適當語り ID : e/Gy8K9mz

そう言えば噂程度に聞いたんだけど、アセビボタン関係の資料見つかって本当？

28 : 名無しが適當語り ID : 143dfnJVb

>>27

資料じゃ無いけど、写真が見つかったらしい

29：名無しが適当語り ID：QAZDiZy+E

Twitterでちよつと盛り上がったな

30：名無しが1 ID：6yoWezAVp

>>29

Twitterなんてあるの!?

31：名無しが適当語り ID：BTMLp42FP

>>30

全然ある、牧場名検索に入れたら出てくるやで

32：名無しが1 ID：RNNm5f40G

>>31

ありがてえ!

33：名無しが適当語り ID：U50/E597+

現像できたら良いね、できたら良いなあ

34：名無しが適当語り ID：zY6GuxtYZ

>>33

それな

35：名無しが適当語り ID：2Pc/Lqwk2

Twitterだちよつと保存状態がくって言ってたから、それだけが怖い

36：名無しが適当語り ID：LuWdWbkUb

ワンチャン感光しても良いから出してくれと思ってしまう

37：名無しが適當語り ID：J n a n r g B 7 v

>>>36

分かる。

半分見えなくても！3／4見えなくても！

38：名無しが適當語り ID：9 m y a 5 F D X P

オタクは欲張り。でも、欲張りしちゃうよね

39：名無しが1 ID：X 5 3 X s I U Z 7

スレ見てて、アセビボタンの馬主さんとか声優さんが脳焼かれてるっていうのは何となくわかってきたんだけど、もしかしてスレ民も脳焼かれてる……？

40：名無しが適當語り ID：1 C X + G g 1 0 1

>>>39

スレ民が脳焼かれるんじゃないやなくて、アセビボタンを知った者全てが脳焼かれるんじゃないぞ

41：名無しが適當語り ID：Y B o b 0 D / b b

>>>40

これがアセビボタンじゃ無かったらとんでもないミーム災害で草

42：名無しが1 ID：c g J K R y y E W

後思ったけど、馬主さんと声優さん、スレ民と親友さん？が脳を焼かれているとして騎手はどうなん？

43：名無しが適當語り ID：v U s / a k 0 u 5

>>>42

騎手はアセビボタンに出会って以降はアセビ冠の馬しか乗らず、牧場にも定期的に遊びに行っていた程度だよ。

怪我で引退が早かったから、あんまり勝利数とかは上げられなかったらしい。引退後は競馬に関係無い所へ行ったから、現役も短かつたはず。

44 : 名無しが1 ID : KcM7PktJF

>>43

脳焼かれてるのでは？

引退後に競馬界から離れた所が特に

45 : 名無しが適當語り ID : EtTtOrTJk

>>44

何というか、他のメンバーが焼かれ過ぎててあんまり話題には上がらないんだよね……

46 : 名無しが適當語り ID : lhVA4Kskz

>>44

焼かれてはいるんだろうけど、ジョッキーという仕事上、同じ馬に乗り続けるとか、同じ馬主さんに連続で任される事があるのを考えるとそんならなるのかもしれない。

怪我からの引退だしね。

47 : 名無しが1 ID : VGpdFESQs

>>46

成る程なあ

48 : 名無しが適當語り ID : BzzzXgUiS1

アセビボタン、魔性の女やで

49 : 名無しが適當語り ID : YiphjlRl /

魔性の青鹿毛？

50 : 名無しが適当語り ID : p m s w t W f g u  
それは3冠馬や

51 : 名無しが適当語り ID : K R j V q y 3 g j  
魔性の青鹿毛で思い出したけど、アセビボタンには異名とか無いんか？

52 : 名無しが適当語り ID : 7 t U b j S e D W  
無いんじゃない？

53 : 名無しが適当語り ID : L D t H I m Z S l  
聞いた事は無い

54 : 名無しが適当語り ID : A f N i 9 j 5 7 p  
(情報が少ないので) 分かりません

55 : 名無しが適当語り ID : G P 0 5 / G 2 L s  
名前や花言葉から「花」「旅」みたいな例えを使われたり、戦績からウマ娘でも「再び咲いた」「完璧に挑む」といった文は出てくるけど、異名では無いからなあ

56 : 名無しが1 ID : + f P 2 d s 7 R e  
非公式だけど「名花」ってどう？

57 : 名無しが適当語り ID : k 3 A S 4 w c i v  
その心は

58 : 名無しが適当語り ID : o r C V 6 K 6 P i  
何て読むんや

59 : 名無しが適當語り ID : 5 o R j 7 m x h D

>>55

ええやん (素振り)

60 : 名無しが適當語り ID : F J p M / k W O w

何となく花関係の良さげな言葉を調べてたら「名花(めいか)」って言葉が出て来て、調べてみたら意味に「優れて美しい花」があつて名前合つてゐるなつて。

他にも、優れて美しい花の例えに牡丹もあつて、アセビボタンのボタンつて花の牡丹からでしょ? 良い感じじゃない?

61 : 名無しが適當語り ID : Q 7 4 V c J l e u

>>60

ええやんおじさん「ええやん」

62 : 名無しが適當語り ID : u v 8 4 7 Z 8 G 4

>>60

公式では無いけど、公式にしたくなる

63 : 名無しが適當語り ID : 9 7 Z G V r G Y H

>>60

今すぐ運営にプレゼンしに行け

64 : 名無しが適當語り ID : v E P V W v 3 C c

まさかスレでボタンちゃんの異名(非公式)が決まるなんてなあ。  
天国で高垣氏も手叩いて喜んでるやろ

65 : 名無しが適當語り ID : v f h c l f i v o

手叩いて喜ぶ高垣氏の横で円谷氏がニコニコしてる姿が見えるわ

66 : 名無しが 適當語り ID : HP19+5ouB  
今だここにせんどりさんのニコニコ顔も追加されるんだよな

67 : 名無しが 適當語り ID : DwObEjtUk  
せんどりさん美人なのに笑顔が何か怖いんだよな

68 : 名無しが 適當語り ID : o7aTlMORQ

>>>67

オタクの笑みだからでは？

69 : 名無しが 適當語り ID : eMEQxxum8

>>>67

千鳥さん本人も気にしてるから……

70 : 名無しが 適當語り ID : pr7icI5NY

ゝスレが50を超えて未だ馬主と親友の深い話無しゝ

71 : 名無しが 適當語り ID : g+0UqIrxD

>>>69

だつてもう語り尽くされてる感あるし

72 : 名無しが 適當語り ID : 2dkGDT8K7

>>>69

インターネットにある様な話はし尽くしてしまったので、新しい何かが出てこない限り、我々は虚無で作った架空の話を永遠としなければならぬのだ……。

73 : 名無しが 1 ID : Op4XxtYdI

>>>72

ちよつと見てみたいと思つてしまった

74 : 名無しが 适当語り ID : v1EXbS2av

>>>73

この先は地獄だぞ

75 : 名無しが 适当語り ID : 7GGHrtgKZ

【朗報】

新しく見つかった写真の現像が終わった模様。

76 : 名無しが 适当語り ID : 7H3ice88Y

>>>75

!?!?!?

77 : 名無しが 适当語り ID : yB6jnn8SA

>>>75

やったぜ

78 : 名無しが 适当語り ID : 5kKeebV6X

Twitter見てきた。これはてえてえでは!?

79 : 名無しが 适当語り ID : 0a6TDMNod

アセビボタンと馬主さんの写真かな？

80 : 名無しが 适当語り ID : cnaik4KqS7

>>>79

車椅子に乗ってるから馬主さんやね

81 : 名無しが 适当語り ID : /mpXpLSRl

円谷さんが車椅子って事はアセビボタンからしたら新しい方の写真か

82 : 名無しが 适当語り ID : ES1bE4C+V



ボタンちゃんの顔が馬主さんに向いてるの可愛い。相思相愛だ……。

83：名無しが1 ID：Gy3g9hhD8

馬主さん完全にお父さんの顔してるやん

84：名無しが適當語り ID：YefuM/ZM+

>>83

動物キチやからな

85：名無しが適當語り ID：GIDBv5jsE

>>83

当時から円谷動物園って周りから言われる位には動物好きだった人だから、アセビボタンにも勿論お父さんの顔する

86：名無しが適當語り ID：6rnQgTWRX

にしても2枚目はちよつとしんみりする写真ね。

87：名無しが適當語り ID：QQSDBVEdP

>>86

牧場？の写真って事は…… やもんな

88：名無しが適當語り ID：HP58S6IQc

ボタンのお腹大きく見えるからスズナちゃんがお腹にいる時？

89：名無しが適當語り ID：g6sMpM8aA

>>89

多分そう

90：名無しが1 ID：EFtvzn+UD

隣にいるの誰？

9 1 : 名無しが 適當語り ID : X 3 9 c y S j l l

>>>9 0

向かって左が高垣氏で、右が騎手の小金井氏では

9 2 : 名無しが 1 ID : Q 8 6 9 3 K d U D

>>>9 1

成る程サックス

9 3 : 名無しが 適當語り ID : F K i D X E w r n

俺らがスレでだらだらアセビボタン可愛いを連呼してたら写真出てきちゃった

9 4 : 名無しが 適當語り ID : a W V s X j C m l

>>>9 3

ボタンちゃん可愛いヤッター!!!

9 5 : 名無しが 適當語り ID : q U 6 f k G 6 m 2

にしても元ネタアセビさん本当に可愛いな

9 6 : 名無しが 適當語り ID : H G r x u f S N 4

これは牝馬の貫禄

9 7 : 名無しが 適當語り ID : B d V t j R e C s

この可愛さが娘にも遺伝したんやね

9 8 : 名無しが 適當語り ID : y V V P l b h n s

>>>9 7

スズナ「俺は牡馬だぞ!!!!」

9 9 : 名無しが 適當語り ID : 7 4 m 0 h z W 9 f

>>98

これもまたテンプレ

100:名無しが適当語り ID:nDolsNViw  
これに続いてもっと新しい資料が見つかります様に!!

## 必要な練習

「ダンス、ですか？」

「ああ。レースに出るとなると、結果によっては必ず必要になるスキルだ。今まではどうしてた？」

「えっと、興味が無かったので、辞退していました」

「興味…… そうか。じゃあ、ダンスができないって訳じゃ無いんだな？」

「ダンス。盆踊りや、お祭りの踊りはダンスに入りますか？」

「…… 成る程。理解した」

鏡に映る自分を見ながら言われた通りに身体を動かす。

聞き慣れない横文字の説明をされ、調べながらも頭をパンクさせながら何時間も同じ事を繰り返している。

曰く、関節が柔らかくて動き自体は悪く無い。

曰く、簡単な動作は綺麗。

曰く、やり慣れない動きになると途端に駄目になる。

これが私に向けられたダンスの総評だった。

2週間程前にトレーナーさんからダンスはできるのか？と聞かれ、レッスンが始まった。

今まで生きてきた中で地元のお祭りで踊っていたからそれで大丈夫だと思っていたけど、案外それでは駄目らしい。

トレセン学園の中では評判な方々に教えて貰って、ダンスと歌を両立させて行うのはすごい技術だなと他人事の様思った。

「うん！そこでファンサービス！」

「ふあんさーびす……？」

「そう！手を振ったり、投げキッスしたり、ウインクとか！」  
「手を振る」

「も〜！それだと偉い人のやり方みたいだよ〜！」

「慣れないもので」

「じゃあ、ウインクは？」

「……ういんく」

「両眼、閉じちやうね」

「すみません。……やった事が無く」

「ううん、大丈夫だよ！カレンがついてるもん！」

「お世話になります」

500：名無しが適当語り ID：PmHOvTFjG

俺の女が別の女にダンス教えてて可愛いんだが??

501：名無しが適当語り ID：qPkOZ9vS+

>>500

おはやすだ

502：名無しが適当語り ID：n+Ejv5kEj

>>500

某調教師は俺の女発言以外そんな事言わない

503：名無しが適当語り ID：sH2GRpolq

>>502

俺の女発言は間違ってるのほんま草

504：名無しが適当語り ID：IfX5nhrxs

ウインクができないアセビちゃん可愛いね

505：名無しが適当語り ID：Dwn8fGuW9

>>504

それを教えるのがカレンちゃんなのが良い

506：名無しが適當語り ID：MLaYRvJ3h  
カレンチャンと初邂逅の時「カレンチャンさん」って呼んでて草生えたけど、思えば馬からしたら違和感は無いんだよな、多分。

507：名無しが適當語り ID：23U8VzmSC  
カレンチャンが性格的にさんは要らないよ〜って言ってくれて、人間が感じる違和感が自然に無くなって助かった

508：名無しが適當語り ID：CeAaqoJHO  
ボタンちゃんが通常はフルネーム+さんだけど、カレンチャンが敬称は要らない発言で呼び捨てになったただけなんだけど、1人だけ距離が近い雰囲気になって良い

509：名無しが適當語り ID：JuKUCBarR  
>>508  
これはボタカレてえてえの波

510：名無しが適當語り ID：KlUPyIhMs  
>>509  
カレボタ派です（）

511：名無しが適當語り ID：h/PVLYO3S  
ウマ娘は百合作品では無い（過激派）

512：名無しが適當語り ID：OYIRmRW4A  
>>511  
それは、そう。

513：名無しが適當語り ID：OKHwg i89m  
どうでも良いけどカレボタって、棚ぼたみたいな語感だね

514 : 名無しが適當語り ID : 0D35xqfcu

>>513

棚ぼたをしてくれたお陰でボタンちゃんに新しい関係性が生まれ  
たからな。棚ぼたには脚向けて眠れんわ。

515 : 名無しが適當語り ID : hYpZh47fL

>>514

棚ぼたに足向けるってなんだよ(なんだよ)

516 : 名無しが適當語り ID : S9Nzc40Lc

カレンチャンとの絡み見てて思ったんだけどさ、もしかしてアセビ  
ボタンってポンコツ度高め？

517 : 名無しが適當語り ID : k1Lm4vrAT

>>516

ポンコツというか、自分の興味が無い部分にとことん興味無い感じ

518 : 名無しが適當語り ID : 1oQX+v+XF

>>517

トレーナーに出会う前の過去シーンだと本当に、寝て起きて食って  
勉強して練習して以外して無さそうだな

519 : 名無しが適當語り ID : 10mv6qSfg

今でこそちよこちよこ他キャラクターとの絡みが出始めたけど、過  
去シーンとかトレーナーと出会ってから暫くはキャラクターとの絡  
み0だったし

520 : 名無しが適當語り ID : 7qIdE9qtq

それもこれも乾巧って奴の所為なんだ

521 : 名無しが適當語り ID : X h m 2 y d M i L

>>520

またたつくんの所為にされてる

522 : 名無しが適當語り ID : R z D 2 z L 3 U h

>>520

お前は首折られてろ

523 : 名無しが適當語り ID : I / Z w h z j V F

なんだか、内向的な孫に新しいお友達ができた気分

524 : 名無しが適當語り ID : n n V + h Q I N H

>>523

孫なのがポイント高い

525 : 名無しが適當語り ID : g L U K H C J U y

>>523

敢えて孫を選ぶ所に拘りを感じる

526 : 名無しが適當語り ID : 3 3 r / O H A D y

というかアセビのチームメイトとかおらんのか？

527 : 名無しが適當語り ID : K f f 0 K M d m Z

チームは逆に明かされている方が珍しいですしお寿司

528 : 名無しが適當語り ID : w L 9 i T T u 2 T

個人的にチームメイト全員アセビ一族で固めて欲しい

529 : 名無しが適當語り ID : u H u v o Q I 3 b

>>528

分かる



530 : 名無しが適当語り

ID : 2Y09CUI44

>>528

なにそれ最高か？

## ◇或る馬主の話

私の人生は、動物と共に生まれたと言って過言では無い。

初めて触ったのは、女中のトヨさんがお世話をしていたフウと呼ばれていた仔犬だ。

フウは、幼い私那不躑に、その小さな身体を力任せに触っても怒らず、逆に頭を擦り寄せ共に走ってくれる様な可愛い命であった。

私はフウと接する内に、動物に対して慈しむ気持ちを持つ様になった。仔犬のフウから教わった1つだ。

それからの人生は勉強と、専ら動物に時間を掛けていた。家を継ぐ為に厳しい躑もされたが、私には心の拠り所があり、友がいたのだ。

芳司君から私の家が動物園の様だと言われた。

確かに、妻と私。まだ2人きりの家にしては音が多い。

コチ、マチ、マメ、ヨウ、ハク、ウメ、シマ、ユサ、ナコ。そう言えば、妻と見合いをした時も彼女は困った様に笑って、ワタシが犬嫌い、猫嫌いだったらどうしたんですか。と、聞かれたな。

最近、畑の手伝いに馬を迎え入れたいと思っているのだが、ミツ子さんは許してくれるだろうか。

雪風という名前の雌の馬を買った。

本当なら、力が強い雄の馬が良かったが、一目惚れをしてしまったのだから仕方無い。

ミツ子さんも最初は本当に馬が来たと驚いていたが、次第に受け入れ、今では雪風の子供が楽しみねと笑っている。

いつか、私の息子が雪風の背に、子供達に乗る日が来たらと思ってしまう。きっと、良い思い出になる。

芳司君にも雪風を見せてやろうと呼んでみたら、彼は腰を抜かしかけた！と笑い、驚いていた。

人好きな雪風は直ぐ芳司君に顔を寄せ、芳司君もまた、その身体を撫でていた。そうして暫く、芳司君は何かに気付いたかの様に心臓の辺りをしきりに触って、息を吐いた。私は、何事かと息を止めてしまった。

雪風を競馬に出したいと言われた日、私は初めて芳司君の意見に否を出した。

雪風は畑の手伝いをして貰う為、珠子や蓮之介を背に乗せて貰う為に我が家にいる。何の訓練も積んでいない。競う世界へと脚を向けるには、あまりにも小さい身体なのだ。

雪風、アセビボタンは強い馬だったらしい。

あの後、私は芳司君から熱烈な言葉でまんまと丸められ、雪風を人へ預け、あまつさえミツ子さんと植物の図鑑を開いてどの名前が綺麗かと話し、懇意にして頂いている菊池サンの元へ脚を向けていたのだ。我ながら流され易いというか、甘いというか。マア、アセビさんに怪我が無いなら良い。あの子が、健康に生きて、死ねるなら、私はそれで良い。

イヤ、これは私のエゴイズムだな。

最近、身体の調子が悪い。

身体が思う様に動かない。

直ぐに咳き込んでは疲れ、1歩歩けば疲れを繰り返している。

アセビさんの応援に行く所か、会いにも行けやしない。

アセビボタン、私の子。会いたい。

珠子と蓮之介が芳司君の計らいで馬の背に乗ったらしい。今の時代は良いな、写真がある。私がいなくてもその瞬間を見る事ができる。ここ最近は何調が良い、芳司君に御願いをしてミツ子さんも誘い、アセビさんに会いに行こう。

私の事を覚えてくれていたら嬉しい。

私は競馬に詳しく無いから、競馬については芳司君に殆ど任せていたが、次の天皇賞で引退、という形になると聞いた。どうにか私も行けないものか。

芳司君が私が競馬場へと行ける様に何やら手配してくれるそうだ。

美しいものを見た。

どうか、どうか、あの子が幸せであります様に。

1 : 名無しが適當語り ID : t j 9 Z R 6 S s U  
This is ナニコレ

2 : 名無しが適當語り ID : X k / T n o Z + F  
>>> 1  
馬主さんの日記。

3 : 名無しが適當語り ID : E / 2 2 C i K L 5  
>>> 2  
正論で返すな。

4 : 名無しが適當語り ID : H H A l f 7 T I 5  
>>> 2  
即レスで答えを出すな

5 : 名無しが適當語り ID : R Y D p O R W G J  
馬主さんの資料がまさかこんなとはな…… (褒め言葉)

6 : 名無しが適當語り ID : e K 9 q M H G A s  
円谷氏の生家を補修+整理をした際に見つけたものを許可貰って公開したんだっけ?

7 : 名無しが適當語り ID : 6 d 0 y X a 7 h 9  
>>> 6

せやで。因みに、円谷氏のお孫さんの方からこれはあなた達が持っているてと牧場の方に寄贈?されたらしい。

8 : 名無しが適當語り ID : / P H J R N 2 e P  
許可を貰って公開？ 妙だな……

9 : 名無しが適當語り ID : o 7 j L r p b b c

高垣氏の方は著作権切れてるので平気や！ って公開してるけど、相手方のはちゃんと許可取る所好きだよ

10 : 名無しが適當語り ID : h A c X L Z E d V

>>> 8

脳焼かれ日記は身内のやつやからね、仕方ないね。

11 : 名無しが適當語り ID : i 9 t 4 V Z t 7 X

最後の方になると文字数少なくなるのホンマさあ……

12 : 名無しが適當語り ID : l D p w + M h T G

>>> 11

文字多くても最初とは違って震えてるのもなあ

13 : 名無しが適當語り ID : b p 5 f g a w 0 j

>>> 11

命とは儚いものだね

14 : 名無しが適當語り ID : p i x C / 7 M v F

>>> 11

日記ではこんなにも弱ってるのに、高垣氏とボタンちゃんに会いに行った時は車椅子以外普通だったって残ってるのがね

15 : 名無しが適當語り ID : H r 5 2 7 D V 7 C

最後がもう死亡フラグ立ちまくりな終わり方してるけど、折れなかつたんだよなあ

16 : 名無しが適當語り ID : /xvm7jWtC

>>>15

引退して直ぐに牧場へギリギリの身体に鞭打って、アセビボタンと5分くらい顔を合わせてからは直ぐだったらしいね

17 : 名無しが適當語り ID : cqhtONgvL

>>>16

円谷氏も何となく悟ったんだろうね

18 : 名無しが適當語り ID : fXG3rsjFz

女中さんとも仲良くて、家族と奥さんとの関係も良好で、子供も愛して、動物も好きで、歳上の人に可愛がられて1対1で酒酌み交わすくらいには良い人。

円谷先生ちよつと属性過多過ぎんよ〜〜

19 : 名無しが適當語り ID : MSa3pxp2J

>>>18

現代に生きてたら詐欺被害とか凄そう

20 : 名無しが適當語り ID : xboyi9j1X

>>>19

ちよつと草

21 : 名無しが適當語り ID : 12qEnwyJ1

>>>19

「お前の馬が全力で走る姿見たくないのか?!?!? (意識)」で競馬うーんからまあ、怪我しないなら……. . . . . になつてるから間違い無く被害には遭う。

22 : 名無しが適當語り ID : S18ywoike

>>21

円谷先生もうちよつと鋼の意思持つてもらて

23 : 名無しが適當語り ID : 57cQ7dj74

でも、円谷氏家に押し入った強盗を論して自首させたくらいには凄  
い人だよ

24 : 名無しが適當語り ID : 1D5E6rESU

>>23

ええ、ほんまにござるかあ〜  
????

25 : 名無しが適當語り ID : 0ba6DUh3m

>>23

家に強盗が入る

←

偶々家にいた円谷先生が話し掛けて、訳を聞いていたら実は生活が  
出来ないから盗みをしているという理由を聞く

←

円谷先生「じゃあ、私の会社で働くと良い」

←

でも、やった事は悪い事だからその罪は無くしちゃいけないよ

←

犯人自首

こうやぞ

26 : 名無しが適當語り ID : 5JfqXXt7H

>>25

2つ目から分かん

27 : 名無しが適當語り ID : jlcrjPiO

>>25



その後高垣氏に死んだらどうする!?! って本気で怒られてるんだよな

28 : 名無しが適当語り ID : w4msahThm

>>>27

正論 of 正論

29 : 名無しが適当語り ID : s5AMDwXRU

>>>27

ぐうの音も出ない

30 : 名無しが適当語り ID : ax00oBEPB

この馬にして、この馬主ありって話やな

## 馬酔木牡丹の独白

「先生は、旅行をしに行ったんだ。だから、少しの間会えなくなる」  
お兄ちゃんは、優しい言葉と共に私の頭を撫でてくれた。

だけど、私は知っていたの。

先生がどうなったかを。私だって馬鹿じゃ無いもの。

でも、お兄ちゃんからの言葉は現実を受け入れたく無い私には嬉しくて、寄り掛かるには十分だった。

本当は恥なんて考えずに泣き叫びたかった。どうしても先生を叩いてやりたかった。

だけど、私は先生が愛してくれたウマ娘だから、溢れた涙を雑に拭ってしやんとしていた。全部が終わる迄、必死に押し込んだ。

全部が終わって、私はベッドの中でタオルを顔に押し付けて漸く泣けた。泣いて、泣いて、日が昇った頃に次に泣くのは自分の為にと涙を仕舞い込んだ。

・  
・  
・

舗装はされているものの、少し年季が入り、歩き辛くなっている混泥土の道を両手に荷物を持って歩く。

学園からは少し遠くて、何度か電車を乗り継いだ場所にあるこの場所。  
慣れたルートを迷わず辿って、脚を止める。

周りとは比べても特別大きな大理石で作られた先生の眠る場所。

雑草や苔が生えている事は無く、花立には私が持つて来た物の入る隙間が無い程に瑞々しい季節の花が美しく飾られている。

何年経つても先生を慕う人が絶えず、この場所を綺麗なまま保つてくれている。

……私もなんだか、鼻が高い。

「先生」

何本かの線香を香炉へと入れ、元々の花に邪魔にならない程度に飾

る。

話し掛けても昔の様に返ってくる事の無い先生へと気にせず独り言を口にする。

「私、秋の天皇賞に勝ったんだ。あのミスターシービーさんや、タマモクロスさん、トーセンジョーダンさん、名だたるウマ娘達が名前を残している誉を、私も貰ったんだ」

「スランプ。も、したけどさ、チームの皆がトレーナーが助けてくれて、手を引いてくれて、私はもう1度走れたんだ」

「美しいものを見なさい」、”旅をきなさい”。先生からの教え。私はまだ、守ってるんだよ」

「だからさ、先生も旅をしながら時々で良いんだ。私達の事、見ていてね」

「貴方がいたから、私は今、此処にいる。幸せに生きている。」  
「これからも、旅をしよう。ね、お父さん」

200：名無しが適當語り ID：aOm8Z+/ww

アセビさん家の長女ストーリー、例のシーンで泣いたオタクおらん？

201：名無しが適當語り ID：bOQd72a8Q

>>200

初回で泣いたし、なんなら今でも見返して泣いてるぞ

202：名無しが適當語り ID：uKVXTRw/2

>>200

あんなん泣く

203：名無しが適當語り ID：tUjTBc11L

>>200

例のシーンを見て泣いて、プロフィールが生死関係無く読める様に

なってるのに気付いて泣いた

204 : 名無しが適當語り ID : oBKc1FR2h

フェスタさんが原作改変されて夢を見せてくれたのに対し、原作通りに行くボタンさんに泣いた

205 : 名無しが適當語り ID : Sw+udUc6Q

>>204

フェスタも泣いたけど、ボタンも同じくらい泣いた

206 : 名無しが適當語り ID : uzjUH5wvE

ごめん、史実ニワカオタクなんだけど、例のシーンだけボタンちゃんがお父さんの事を「先生」って呼んでる事に何か元ネタある？

207 : 名無しが適當語り ID : A4BPIOfph

>>206

元ネタというか、馬主である円谷さんが小説家と実業家をしている人で、周りからも基本的に先生って呼ばれていたの、実馬の方のアセビボタンにも「円谷さんが来てくれたよ」ってよりは「先生が来てくれたよ」「円谷先生が来てくれたよ」って言った方が反応が良かったみたいな話がある。

208 : 名無しが適當語り ID : tToXPWE0o

>>207

また元ネタボタンさんの事を知ってしまった

209 : 名無しが適當語り ID : sUi4Qdiq

>>207

アセビボタンがウマ娘化してから新しいエピソードが出る様になつてありがてえ、ありがてえ!!

210 : 名無しが適當語り ID : n w t Z d P m V y

例のシーン、始まった瞬間に察してしまってお兄ちゃん言葉から  
ボロ泣きしてしまった

211 : 名無しが適當語り ID : 0 T E s A 4 I n F

>>>210

分かる

212 : 名無しが適當語り ID : F N 8 g 7 I 6 z S

>>>210

お兄ちゃんの優しい声が逆に辛いリアルで良かった

213 : 名無しが適當語り ID : 9 r Z h j I b R l

先生に私達を見守ってって言うの最高にお姉ちゃん

214 : 名無しが適當語り ID : y b u Z U H l p F

>>>213

これはチームリーダーですわ

215 : 名無しが適當語り ID : N A N j 9 R O b z

>>>213

流石アセビの祖

## ◇とある家族の欽慕

騎手としての思い出？ そうだなあ。……やっぱり、あの馬だろうね。アセビボタン。俺の心に刺さって抜けない思い出であり、唯一の心残り。

ああ、心残りっていうのは悪い意味では無くてね。あの日、落馬なんてしなければもっとアセビの夢を見れていただろうなという、俺の我儘なんだよ。

……有難う、確かにそうだ。今は俺の我儘を任せられる相手がいるからね。

話を戻そうか。俺とアセビボタンの出会いは偶然で、偶々高垣さんと知り合いだったってだけなんだ。

騎手となってからずっと、良い言い方で鳴かず飛ばず、本来の意味なら俺は勝てない技術不足の人間だった。

そんな私が任されたのが、あのアセビ冠の祖だった。

最初は可愛い馬、という印象だったかな。牝馬だし、名前も相まって綺麗な馬だと思った。まあ、その実力は可愛く無かったのだけど。

まるで、夢みたいな時間だった。あの子から、勝負を教わったと言っても良い。あの子と出会う為に騎手になったと言っても良い。まるで、初恋の様だった。

美しく生まれ、強く走り、慈しむ母。

本当なら、アセビの馬にもっと乗っていたかった。共に、走りたかった。あの日、あの時、着地の方法を間違えなければと何度も夢に見る。

まあ、過ぎた事を気にし過ぎては駄目だね。着地を間違えはしたけど、俺の命は残ってる。馬も無事だった。それで良いさ。

……そうだね。次の大きな休みにでも牧場に行こう。こう見えても、俺はあの牧場の常連なんだ。

これかい？ これはね、”君も無事に”って円谷さんから貰ったものなんだ。もうほつれてボロボロだけど、よく見たら円谷って読めるだろう？

それ、やるよ。お守りにしとけ。

良いか、忘れるな。俺の背を指すなら、怪我にだけは気を付けろ。そうして、いつか訪れる夢と共に走り、夢を見せる側になれ。

お前にも、俺でいうアセビボタンになる子ときつと巡り会う。

なんたって、小金井近江の息子なんだからな！はっはっは！！

騎手になったきつかけは、端的に言えば、父の影響ですね。

私の父は小金井近江と言つて、あのアセビボタンに騎乗していたジョッキード、私はその父の背中に憧れて騎手を志しました。

反対はされましたね。特に母や、兄妹から。なんたって、愛する父が、尊敬する父が、1度は川を渡りかけたのですから。

それでも私は、騎手になりたかった。他の競馬に関わる形では無く、騎手として。アセビの背に乗つて、父の言っていた夢を見てみたかった。旅を試してみたかった。

騎手になるのには私は他の方より時間が掛かりました。緊張して面接が上手く出来なかったり、思う様に身体を動かせなかったりと、競馬学校自体をギリギリで合格して、ギリギリで卒業した。

最初は声を掛けて貰える事も無く、馬を掲示板に入れる事すら出来なくて。

正直、辞めようと思いました。私が父の背を追う事自体が間違いだったのだと。良い事と形容するのは間違いですが、先程の通り家族の殆どには反対されてましたから、実家に戻る事も苦しい選択では無かったです。

私の人生が変わったのは、あのアセビの馬に乗る事が決まった時です。

アセビツバキ、私が憧れ父が夢を見たというアセビの名を持つ牝馬。本来なら別のジョッキードへ騎乗依頼をされていたのが、悉く予定が埋まっただけで言っただけでしまえば陣営にとってハズレ籤を引かされた様なもの。

絶対に負けられないと思うと同時に、実力で選ばれ無かった悔しさ

と、プレッシャーで本当に私で良いのかと三日三晩考えて、ツバキで結果が出せなかつたら、それは本当に向いて無い仕事だったのだと辞める決心をしました。

結果、アセビツバキと走った6年間は私にとって、かけがえの無い、正に夢の様な時間になりました。

クラシックは1冠も取る事無く終わってしまい、顔向けできなかつた。でも、海を渡った先で漸く冠を手にする事ができた。

そのお陰で、私は今ここにいます。こうして、インタビューを受ける事ができています。

本当に、ツバキには脚を向ける事ができませんね。



ライブをしよう

「常々思っていたんだが」

「?何でしょう?」

「ウイニングライブってのは、どうもレースとの間隔が短くは無いかな?」

「そうですねえ……思わなくは無いですけど、そこはウマ娘パワーと、言いますか……」

「確かになあ。何千メートルも全力で走った後に直ぐライブだもんなあ、俺だったらクールダウンも出来ずに倒れて終わりだ……身体は大丈夫か?」

「ええ。ライブをするくらいなら全く」

「じゃあ、俺はお前さんのレッスンの成果を特等席で見せて貰おうかな」  
「期待していて下さいね」

「おう」

863 : 名無しが適当語り ID : k z l h M O l p R  
アセビボタン、歌が上手い。

864 : 名無しが適当語り ID : T j H 2 V U O 7 q  
~~~~~863  
分かる

865 : 名無しが適当語り ID : 6 w 5 B e 0 7 f B  
~~~~~863  
古事記にも書いてある事を今更どうした?

866 : 名無しが適当語り ID : F G U h A f r I G  
~~~~~863

当たり前だよなあ？

867：名無しが適當語り ID：6LcYH3MGp

アセビボタンの歌い方、というか千鳥さんの歌ってあれだよね、一発で「上手い!!」つてなるよりも、何時間、何十時間聴いていても永遠と味が無くならない謎の魔力あるよね

868：名無しが適當語り ID：LnhrpuOFD

千鳥さんウマ娘のライブに出演してくれないかしら……

869：名無しが適當語り ID：E3FJoFgUp

ボタンちゃんが実装してからライブ的なイベントには1度もなんだっけ？

870：名無しが適當語り ID：U5P9pQHMG

>>869

せや。

871：名無しが適當語り ID：TUMLIqYDV

オタクとしては全裸待機してでも出て欲しいと思ってしまう強欲な所があるんだけど、せんどりさんってやり直しが出来ない生歌とか人前で歌う事を事務所に宣言してるくらいには超絶苦手としているから無理強いは出来ひんのよな

872：名無しが適當語り ID：vwI3LZ1Vi

>>871

初耳

873：名無しが適當語り ID：nIbbOCXQO

>>871

それはもう、いつか洗さんの気が変わるのを気長に待つしか無いわ

ね。

874 : 名無しが適當語り ID : P t g A Z Q + J I  
アセビボタン、はよソロ曲出して。

875 : 名無しが適當語り ID : Y N O j Z 5 X l l  
>>874

ソロ曲は実装当初から言われてるから

876 : 名無しが適當語り ID : s o N G p L S z A  
>>874

ストーリー読んだオタク達が挙ってソロ曲を求めるゾンビになつて腹抱えて笑った記憶ある

877 : 名無しが適當語り ID : n z g t 7 L h b +  
>>876

その後、実装されていなければ存在すらしていない架空のソロ曲を幻視、幻聴してるオタクまでの流れが美しかったな

878 : 名無しが適當語り ID : M q U 7 2 N M l l  
今の所『シネマ』と『ヒトツボシ』が優勢

879 : 名無しが適當語り ID : N z S f y A l s m  
>>878

ボカロとJ-popで分かれてるのオタクが考えてるイメソングって感じ

880 : 名無しが適當語り ID : 0 6 H l 6 / R p 7  
>>878

絶妙にシネマがアセビ一族、ヒトツボシが円谷先生↓アセビボタンに聴けるの好き

881：名無しが適當語り ID：5Z6z+UJ66  
イメソンという立ち位置だけど、ここまで雰囲気合うんだからガチ  
のソロ曲どうなってしまうんや

882：名無しが適當語り ID：dlCL4wDm／  
>>881

オペラオーの『Lily』でこんがりだったんだから、もう何も  
残らないよ

883：名無しが適當語り ID：njueEK2kv  
>>882  
こわひ

884：名無しが適當語り ID：HmtPkmsjz  
公式はホラ、イメソンとCMを早く作るんだよ

885：名無しが適當語り ID：loqpMfpdx  
(映像素材が)ありません!!

886：名無しが適當語り ID：LCKXaIQZB  
>>885  
公式の倉庫には残つとるやろ

887：名無しが適當語り ID：AGQbjkz6c  
>>886  
ギリJRAすら出来上がる前だけど大丈夫？

888：名無しが適當語り ID：7Rk+JcKEV  
>>887  
え、そんなに前なん??

889 : 名無しが適當語り ID : 9 + E X P / 7 Z A

>>888

J R A 創設1954年、アセビボタン引退1953年

890 : 名無しが適當語り ID : J L M u N p x M 4

激マブがトレセン学園の中でお姉さんってだけでアセビボタンもメンバーが固まっている80年代後半〜90年代組だと思つてたわ…… (歴史ミリしらオタク)

891 : 名無しが適當語り ID : n K K Z 6 H x R c

アセビボタンマジでお婆ちゃんなんすよ……

892 : 名無しが適當語り ID : A y S 7 a b M l A

じゃあウマ娘の素材で作つてクレメンス (他力本願寺)

893 : 名無しが適當語り ID : X m f 7 c V N i q

>>892

それはもう有志が作つてくれてるから動画サイトに貼り付いて見ろ。3億回は再生しろ。

894 : 名無しが適當語り ID : f F e / 2 q b i q

>>892

これすぎ

h t t p s : / / y o u t u . b e / U n a s u k i

895 : 名無しが適當語り ID : 6 t P Y z b 7 7 b

>>894

二次創作CMの中で至高の作品やん

896 : 名無しが適當語り ID : s j 9 K j Q V L C

>>894

これ映像だけで泣けるんだけど、合成音声にナレーションさせて完成されてるのと同じでもない

897：名無しが適當語り ID：XWR4vGYDD

>>896

これ合成音声なん？

898：名無しが適當語り ID：S/gUGdqdf

>>897

せやで。

製作者のTwitterで、本来なら自分でナレーション撮ってたんだけど、羞恥で死んだから合成音声にしたって言った。

899：名無しが適當語り ID：nOVPrBjl

>>894

見た。泣いた。

900：名無しが適當語り ID：4JaS/YHLi

製作者さんウマ娘からアセビボタンを知ったって言ったのに、投稿してる桜花賞と、天皇賞（秋）の解釈がリアルタイムで見えました？ってレベルの解釈してるのほんま凄いです

901：名無しが適當語り ID：60DcqbwG5

オタク君は多彩やなあ

902：名無しが適當語り ID：azUEX5Luj

これも見ろ。

https://youtu.be/Unasukii

903：名無しが適當語り ID：JAWXjYJVk

>>902  
泣いた。

904：名無しが適當語り ID：3FztMupo2  
>>902

ウマ娘のストーリーでも泣いたのに、二次創作でも泣くなんて思っ  
て無かった

905：名無しが適當語り ID：FfrIxClJ  
>>902

絵がうめえや！

906：名無しが適當語り ID：56RRqAlZj  
アセビ一族が花と創作で表現し易いものから名前が付けられてる  
から、4分の中に要素がこれでもかと思われられて涙腺にきた

907：名無しが適當語り ID：Qf8rDzylz  
動画途中のボタンちゃんが指揮棒持つるのはポンポーソ君要素  
？

908：名無しが適當語り ID：GhQ7nSduQ  
>>907  
多分そう

909：名無しが適當語り ID：WNS/ZCV9a  
>>907  
芸が細かい

910：名無しが適當語り ID：0GFia6zIz  
>>907

花畑の中で指揮棒持ってポンポーソ君匂わせと、アセビ一族の匂わ

せと、ポンポーソの意味である豪華さも表現している全部乗せ感だい  
すき

911：名無しが適当語り ID：M9a68／uTT

あれ？ライブの話は？

912：名無しが適当語り ID：W+KhNa6M0

>>911

オタクは会話が脱線しがちだから…… 仕方ないね。



## 番外編：寒さと冬毛と金勘定と

12月。1年の中でも特に重大なイベントとして取り上げられる事の多いクリスマスが控えるこの月は、周りのテンションとは裏腹に私にとってはとても気分が落ち込む日々の本格的な始まりを告げる月だった。

制服の下には＋〇の謳い文句で有名なインナーを着て、スカートの下には140という数字のタイツを履く。

それでも私には耐え難く、寮からトレセン学園の移動までにコートとマフラーを必須として「重装備」の3文字が似合うこの格好が恒例だった。

周りのウマ娘さん達はある程度寒さには強いと言うが、私はその真逆な体質を持っていた。

「お早う。今日も寒いな……って、見慣れた着膨れっぷりだな」

「お早う御座います。動き始めたら大丈夫なんですけど、それまでがやはり」

「なんか、その格好のボタンを見ると冬が来たなって感じがするよ」

「あはは。私も移動中なんか反射したこの姿を見て1年の終わりだ……って感じます」

チームに与えられる教室にトレーナーさんと2人で向き合いながら座れば、暖房で部屋が暖まる迄の着膨れした私と、寒さを口にしない割にコートを脱がないトレーナーさんとのやり慣れた雑談を、お互いに暖かい飲み物を手にしながらポツリポツリと静かに行う。

そうして、何回目かのキャッチボールを終えたタイミングでトレーナーさんが視線を上げながら首を傾げる。

「そういえば、ずっと気になってはいたんだが」

「はい。何でしょう?」

「ボタンの耳。トレセン学園でも偶に見るが、冬になるとやけにモフモフというか、言葉を選ばずに言うとも深くなるよな」

「毛深く……ああ、確かに、そうかもしれませぬ。何ででしょう?」

「人間は秋や春先だと抜け毛が多くなると言うが、耳だし、なんなら生えてきている訳だしなあ……犬や猫みたいな冬毛なのか？」

「冬毛、なのでしょうか……確かにここまで耳が毛で膨らんで見えるのはこの季節だけですけど」

「やっぱり冬毛かな？」

「冬毛、ですかね」

自分の耳を自分で触りながらトレーナーさんと同じ様に首を傾げる。

今まで気にした事も無かった事実。

なんだろう、なんだろう。と考えているうちに、暖かい空気が部屋中に循環して過ごし易い温度になってくる。

「そろそろ大丈夫そうか？暖房が良い感じに効いてきたと思うんだが」

「そうですね。次の行動を始めましょうか」

「よし。それじゃあ、コート預かるよ」

「あつ！有難う御座います……！」

一足先にトレーナーさんが椅子から立ち上がり、扉近くのコート掛けに自分の着ていた物を掛ける。

そして、私の脱いだコートやマフラーも受け取って同じ様に皺が出れない様に丁寧に掛けてくれる。

その一連の流れを見ながら、トレーナーさんの着ていた物へ注目する。私の物とは比べ物にはならない程、上等な物。

昔、同じ事を聞いた事があるが、トレーナーさんは少しだけ恥ずかしそうにしながら「注目されるウマ娘を相手にしているのだから、自分の格好でウマ娘の品位を下げない様に」と、トレーナーさんはある程度良い物を身に付けていると言っていた。

ぶつきらぼうに見えながらも、誠実なその優しさが私はとても好ましい。だからこそ、トレーナーさんの存在を落とさない様に私もレースで大きな結果を残したい。

「それじゃあ、ミーティングを始めよう」

「はい！」

「今日は、次のレースとトレーニングについてだけど……凄いい気合入ってるな」

「へ？そうですか？」

「ああ。なんだか出るレース全部で快勝してやるって顔してるぞ」

トレーナーさんが薄く笑うのを見ながら、自分の顔をペタペタと触る。

そんなやる気な顔になっていたかな？

「まあ、でも全部勝つくらい、強くなりたいです！」

「そうだな。アセビボタンの名前を世界中に示すくらい強くなるろう」

「はいっ！」

## 運命的な出合い

待ち遠しい旅行にトレーニング、殆ど初めてな飛行機に乗って珍しく興奮した感情を抑え込みながら日本を飛び立ってから10時間以上のフライトを経て、私はイギリスの地面に脚を付けた。

冬休み前にトレーナーさんからの提案を受けた時は、どうなる事かと思っただが、旅行を計画したお兄ちゃんの計らいで少しではあるがイギリスでのトレーニング時間を確保する事が出来た。

携帯を覗けば新着のメッセージにはトレーナーさんから「ターフの上で待っている」というメッセージ。

時間を無駄にしない様に、待たせない様にと思い手早くジャージに着替え、更衣室を後にしてターフへと向かおうとして、見慣れない地図を頼りに歩いていたのが一向に景色は変わらず、最悪の結末が頭に浮かぶ。

「……もしかして、迷った?」

どうすれば良いのだろうか。

知らない土地、知らない場所、案内図は現在地が分からないから使い物にならない、言葉も違う。更衣室の場所も分からなくなってしまう。

不安よりもまず焦りに襲われる。

こういう時は、どうすれば良いのだろうかと一縷の望みでポケットに手を入れれば、感じた確かな感触。

トレーニング時は普段だと持ち歩か無い携帯電話。

助かったと思い、画面を付けたその瞬間に遠くから1つの声が聞こえる。

「You there!」

薄暗い通路の真ん中で反響する、私とは違う、美しい声。

音に導かれるまま顔を上げれば、あの子と似た鹿毛の髪を靡かせ、少し大きめな耳を此方に向けて心配そうな顔を向けてくれているウマ娘。

「Feeling unwell? Shall I take you

u t o t h e i n f i r m a r y ?」

滑らかな発音。

私の耳では到底聞き取る事の出来ない本場の英語。

「え!? あ、あーゆー? ど、どうしよう……何て言って……すろーりーわんもあぷりーず?」

「ニホンゴ……アナタ、日本のウマむすめ?」

「お、おーいえす。いえす! じゃぱにーずうまむすめ!」

「そうなのね。ふふつ、ワタシ少しかだけ日本語分かるわ」

「! あ、あのあのあの! 私、この場所に出たいんです!」

日本語が分かるのならばと、思わず持っていた紙の地図を開いて指を指せば目の前のウマ娘さんは当たり前だが、慣れた様子で場所を把握する。

「ここに行きたいのね? なら、ワタシが案内しますね?」

「良いんですか? 貴女も、練習があるんじゃない?」

「大丈夫よ。困っている所を助けたんだもの、怒られないわ」

「……では、お願いします」

「うん。任せて!」

名前も分からない相手なのにいざ隣に並んで歩くのは何故かとても緊張する。

日本にいる知り合いだつて綺麗なのに、何かが違う。

言葉で形容は出来ないけれど、とても高貴なナニカを持っている様な雰囲気を感じた。

暫く歩いて、少しだけボコボコとした地面と、日本と違う感触の芝の上に立つ。洋芝が使われていると聞いたイギリスのバ場。

肌寒い空の下、私は初めて海外の馬場に脚を踏み入れた。

物珍しさに脚を動かしていれば、彼女はまた美しい声でお淑やかに笑う。

「ど、どうしたんですか?」

「ううん。只、とってもラブリーだなんて」

「らぶリー?」

「ええ、そうよ……そうだ! 何かの縁よ。連絡先を交換したいわ!」

「へ!？」

「日本とは時差があるから、きっと頻繁には出来ないけれど、良いかしら?」

「わ、私で良ければ」

結局使う事の無かったポケットのの中にある携帯を取り出して、慣れない手付きで画面を出せば、彼女は私と違って慣れた手付きで連絡先を交換してしまった。

「アナタの名前、アセビボタンっていうのね。ボタンって呼んでも良いかしら?」

「構いませんよ。貴女の名前は」

ハイ……携帯に表示された名前を呼ぼうと口を開いた瞬間、唇に彼女の指が当てられる。

首を傾げれば、美しく笑う彼女の顔。

「ワタシの名前はね、この国にあるお城と同じ名前なの。だから、調べて、見つけて欲しいわ……今日から1週間後に電話をするの。その時に初めてワタシの名前を呼んで。ボタンがシャーロック・ホームズになるのよ。その方が、きつと楽しいでしょ?」

「……そうですね。分かりました、きつと見つけます」

「ええ、ええ、約束よ」

「はい!間違えても笑わないで下さいね?」

「笑わないわ。見つけようとしてくれたその事実も大切なもの……なんだか不思議。ワタシとアナタ、初めて会ったのに初めての気がしない」

「そう、ですか?」

「うん。もしかしたらワタシ達、何処かですれ違っていたのかもしれないわね。ワタシも、日本に行った事があるもの」

「日本には、袖振り合うも多生の縁という言葉があります。本当に小さな事でも前世からの縁かもしれないね。という意味です。だから、きつと」

「まあ!素敵な言葉だね。ワタシ達、そでふりあうもたしようのえん。ね!」

彼女と手を合わせて、2人だけの約束を交わす。

そうして名残惜しいまま別れ、私はトレーナーさんが待っている場所へ歩く。振り返った時にはもう、彼女の姿は見えなくなっていた。

トレーナーさんは、矢張りと言うべきか私に来るのが遅く心配を掛けてしまっていた。

大丈夫です。と、すみません。を返して、貴重な時間を無駄にしない様にストレッチを始める。

彼女と別れ、この場所までほんの少し歩いて来ただけに改めて理解した。

海外で戦うのは難しい。

私の周りにも海外に挑戦して勝ち星を挙げたなんて報告は少ないし、この国に関しては殆ど聞いた事が無い。

勝ちたい。

純粹に湧き上がる思いと、私の前に立ちはだかる高い高い壁。

それを、私はいつか超えてみせる。

## 帝王へ向けた花

夕方、廊下をオレンジ色が染める中、ポニーテールを揺らし松葉杖を使って歩くウマ娘が1人。

そのウマ娘は浮かない顔をしたままとある教室の前で立ち止まる。確か、今日は用事があるから教室で作業をしていると教えて貰った。それでもどこか緊張と、心配の感情が入り混じる。

「……よしっ」

深呼吸を1つ落として、誰にも聞かれない大ききで覚悟を決め、そつと横開きの扉をスライドさせる。

丁度真ん中の列の少し後ろに唯一座っているウマ娘。

同じチームの仲間とは違う真っ白な、だけど、毛先だけが黒く染まっている髪の毛。

「あ、あのツ……！」

扉から離れる事が出来なかった彼女が思い切って、声を上げれば白髪のウマ娘は耳を少し動かして目線を上げる。

「どうか、しましたか？」

「あ、あの、えつと……アセビボタンさん。ですか？」

「ええ。アセビボタンは私です」

「良かった……ボク、中等部のトウカイテイオーって言います。少し、お話を聞きたくて」

「?構いませんよ。どうぞ、此方へ。この時間だと誰も来ないでしょうから、好きな席へ座って下さい」

「は、はいー」

トウカイテイオーと名乗ったウマ娘は、目的であるアセビボタンの元まで未だ緊張した面持ちでその隣の席へ腰を下ろす。

人が居ない教室はオレンジ色が綺麗だが、ヤケに静かで落ち着かなかった。

「それで、お話とは？」

「あの、ですね……ボク。見た通り怪我をしちゃって、それも初めて



じや無くてもう何回目かの怪我で、タイムだつてマックイーン……同じチームの仲間とは競え無いくらい遅くなつちやつて、それで、なんて言うか、どうやって復活してやるーかなー、なんて……ハハ……」

「それで、私の所へ？」

「はい……アセビボタンさんもスランプから、一気に強くなつたら」

「成る程、ちよつとだけ気持ちの先が折れちやつたんですね。でも、まあ、簡単に言いますけど大丈夫だと思えますよ」

「へ？」

「私がスランプと呼ばれた状態を脱したのは天皇賞秋でトレーナーさんからの応援が聞こえて、それに釣られるようにお父さんから頑張れーつてかけっ子の時に言われていた事を思い出して、それで、”じゃ、頑張らないと!”となつて、気付いたら元の様に走れてました」

「そんな、簡単な事で？」

「ええ。簡単な事で、です。同じチームのメンバーの為に、もしかしたら周りから頑張れと応援されて、簡単な、それでいて心動かされるナニカによつて、きつとトウカイテイオーさんはまた走れる様になります」

時計の針だけが音を鳴らすこの教室にはアセビボタンの声と、時折トウカイテイオーの声が混じるのみ。

「……そつか」

「御免なさい。私、言葉が上手く無くて、トウカイテイオーさんの求める答えじゃ無いかもですが、脚。早く治ると良いですね」

「うん。また、走りたい。会長みたくになりたいんだ」

「シンボリルドルフさんですか？」

「そう、ずっと、ボクの憧れなんだ」

「それは良いですね。私も、追い掛ける背中があります」

「そうなの？」

「はい。遠い遠い先にある背中が、まだ、追い付けて無いですけど」

「そつか、へへ……なんだか、不思議」

「不思議ですか？」

「うん！だつと、アセビボタンって言ったたらトレセン学園で勝てるウマ娘はリギルでも一握りだーって、言われるくらいなんだよ？ボクも、最初は話し掛けるの緊張した」

「そんな事は無いと思うんですが……まあ、勝負において”勝ちは一着のみ”ですから、その枠を奪い取るのならそれ相応の振る舞いをとるは心掛ける様にはなりました」

「へえ、なんか格好良いね」

「格好良い、ですか？初めて言われました」

本人の雰囲気なのか、声質なのかいつの間にか抱えていた緊張がいつの間にか無くなっていった。

本来ならば、注意されるかもしれない先輩へのラフな態度もアセビボタンというウマ娘は許してくれる。受け入れてくれる。

自然と笑顔を見せるトウカイテイオーに、アセビボタンも釣られて笑顔を見せてくれる。

オレンジ色に染まるトレセン学園。

その一角で今日だけは、ずっと、ずっと穏やかな笑い声が響いていた。

155 : 名無しが適當語り ID : z v D Z m b q q E  
良いか、クリーク。

これが本物のママだ。

156 : 名無しが適當語り ID : s m + O b l S h q  
天然のママだ、破壊力が違う

157 : 名無しが適當語り ID : U n 8 0 d j d l g  
>>156

そんなクリークが養殖のママみたいなの……

158 : 名無しが適當語り ID : / K c Q u 6 8 j 5

>>157

本物のママなら、複数人にでちゆねを要求しないんだ

159 : 名無しが 适当語り ID : vkB6WdpiI  
それはそう

160 : 名無しが 适当語り ID : cydPCsl8v  
なんも言えん

161 : 名無しが 适当語り ID : VjDOnjoxk  
でも別にボタンはママになろうとしている訳では無いのでは(名推  
理)

162 : 名無しが 适当語り ID : H8AqjU8Nu  
>>161  
だからこそ時々出るのが良いんだろうが!!!!

163 : 名無しが 适当語り ID : RTrAqizsY  
普段はクリークで心臓に水を掛けて、良い所でボタンをキメるんだ  
よ

164 : 名無しが 适当語り ID : 0e34Pcpdl  
>>163

※ウマ娘は合法です。

165 : 名無しが 适当語り ID : OKZbSdIwT  
>>164

元の競走馬も合法やろがい!!

166 : 名無しが 适当語り ID : TyGSMtUaS  
嫌、何故か金が無くなるから違法では??

167 : 名無しが適當語り ID : mhZru2Suf

>>>166

競馬場行く前にATMに通うの辞めろ

168 : 名無しが適當語り ID : Dh7d0JXJ7

>>>167

そこに競馬系列のアプリケーションと、登録されたウェブサイトがあるじゃろ？

消せば解決やで。

169 : 名無しが適當語り ID : iYGr6c9UQ  
(単勝に100円なら大丈夫やろ。記念馬券や、記念馬券)

170 : 名無しが適當語り ID : 8GZOZ/qXz

>>>169

そう言いながら破滅していくのが競馬民かあ

171 : 名無しが適當語り ID : ytXe2CMGh

1週間後には金融行つてそう

172 : 名無しが適當語り ID : JzH7kGy5H

トウカイテイオーとアセビボタンの絡み良いなと思って来たのに、ナニココ怖。近寄らんとこ。

173 : 名無しが適當語り ID : oV17stSE

>>>172

危険予知できて偉い

174 : 名無しが適當語り ID : ND1aZ3ZDF

>>>172

もうダメですこのスレ

175 : 名無しが 适当語り ID : 9E3eCl0sc  
でもこのストーリーをアニメでやられたら泣く自信ある

176 : 名無しが 适当語り ID : y5k9x35rg  
>>175  
分かる

177 : 名無しが 适当語り ID : 7yDb1K0dj  
>>175  
アセビボタン3期で出ますか？

178 : 名無しが 适当語り ID : wSf9kjXfh  
>>177  
無理かも、ですねえ

179 : 名無しが 适当語り ID : qgrm2i24A  
>>177  
ちよつと難しいかなあ

180 : 名無しが 适当語り ID : nEwDL4nfa  
悲しいなあ

181 : 名無しが 适当語り ID : n3heFjWix  
アニメは100歩譲るとしても、俺の端末にアセビボタンいないの  
可笑しく無い？

182 : 名無しが 适当語り ID : tdGJS/POa  
>>181  
ほらそこに手を付けてないジュエルがあるじゃろ？

183 : 名無しが適當語り      I D : j y r K n V K r l

>> 181

ご利用は計画的にな

184 : 名無しが適當語り      I D : r X H s k K L + y

金融行く前提なの草

## 初めて見る、馬酔木の花。

俺は昔から運動が好きだった。

公園にあるアスレチックは俺が1番遊んでいた自信があるし、怒られる事もあったが遊び方のアレンジは学校1。嫌、世界1。

特に走るのが俺の中ではお気に入りだった。骨さえ折れていなければ、何時でも何処でも楽しむ事が出来たから。

だから走って、競って、勝って、笑って、俺の夢はアスリートになる事だった。走りに特化をした、ウマ娘なんかにも負けないアスリート。

ある日の事だ。

俺がまだ中学生の頃、近所に越して来たウマ娘と知り合った。生まれて初めてのウマ娘の知り合いだった。

その子はまだ小学生にもなつて無い、世間的にはまだ小さい部類の俺でさえも「小さいなあ」と思う程には小柄な女の子で、人間とは違う位置にある耳で身長をカサ増ししている様に見えて可愛らしかった。

しかし、その頃の俺は所謂反抗期が始まったばかりのクソガキで、自分が学校では上位の運動神経を持っていたからこそ勝負を持ちかけた。

未だ保育園児のウマ娘と、中学生の俺による速さ勝負。

結果はまあ、お察しの通り。

ウマ娘のポテンシャルを舐め腐っていた俺は、赤子の手を捻るが如く置いて行かれて初めて敗北を味わった。

そこからはまあ、酷いもので。反抗期が始まった心に遊びとはいえ敗北の事実が耐えられない悔しさだったのか、一気に性格は酷くなり、汚い言葉で親を呼び、部屋に籠っては夜更かしをし、学校をズル休み。

懐いてくれていたウマ娘のあの子とは会話所か、顔を見る事も無くなった。

今思い出しても、とんでもない人間だなんて思うよ。

そんな俺が変わったのは、テレビでとあるウマ娘が引退をするというニュースを見たからだ。

そのウマ娘は大きな功績こそ無かったが、期待の新人としてインタビュウをされる事も多かったからレースには無縁の俺でも名前を知っていた。

しかし、その期待を応える様に練習に没頭して膝を壊して、簡単に現役を退く事となった。

誰が悪いのかと言われれば、多分持ち上げた方と、練習メニューを詰め込み過ぎたトレーナーと、自分の身体が出したサインを見逃したウマ娘本人か。

俺はニュースを見て、正直、馬鹿だなあって思った。

俺だったら誰が見ても無理だと分かるメニューなんて詰め込まないのについて、ハードスケジュールをするのならそれに耐えられるだけの頑丈さとトレーニング以上のメンタルを含めたケアが必要なのについて。

そこ迄が頭に浮かんで、俺は気付いた。

俺は、運動が好きなのは勿論だが、”運動をする方を支えるのも好きなんじゃないのか？”って。

反抗中の脳味噌をフル回転させて思い出してみれば、思い当たる節があった。

俺は公園や学校のアスレチックを制覇し、アレンジして遊ぶ男だったがそれ以上にその遊び方や、攻略方法を友達に教えていた記憶。走る時、ドロケイ中に人の走り方に「こうすればもつと走れるぞ！」って自己流のやり方でケチを付けていた記憶。

まるで、まるでウマ娘を一流にする為に支えるトレーナーの姿。

身体に電撃が走った様だった。気付いてしまったからは、どうにも身体が熱くなって悲しいニュースの筈なのに、テレビから目が離せなかった。

”俺が育てたウマ娘が祝福され、歴史を作る光景”

きつと、俺の心に芽生えた想いは実現するには難しく、今活躍し



ている一流トレーナーでも難しいこと。

それでも、それでも、夢が出来てしまったのなら仕方ないだろ。夢が出来た俺は、まず目標をトレーナーになる事に定め行動を始める事にした。

今までの反抗期が嘘みたいに性格が変わり、なけなしの小遣いでトレーナーになる為の資料を買い漁り始めた俺を見て両親はとても驚いた顔をしていたが、その時の俺は反抗期なんて3文字は頭から完全に抜け落ちていた。少し不思議な反抗期の終わり方だったと思う。

高校生になってからは、立派な小学生となっていた近所のウマ娘と再び話す様になって、教本を読みながら指導の真似をした。あんなに酷い扱いをした俺ですら笑って、ブルーシールを奢るだけで許してくれた。

成長期の身体に負担が掛からない様に自分なりに意識して、時々大人を交えながらトレーニングをしてみればあの子は今までが嘘の様に速かった脚は更に速くなって、昔は感じていた悔しいという感情を通り越して憧れと尊敬の感情を向けていた。

トレーナーになるべく大学からは地元を離れ、上京して、初めて東京という土地を踏んだ。

何処にいても人がいて、何処を見てもウマ娘がいる。

俺が暮らしていた沖縄とは比べられない程の人がいた。

初めて、人酔いを経験したのもその時だった。

大学で自分なりに学び、トレーナー資格を受験して有り難い事に中央での合格が決まってから早数ヶ月。

広い、広いトレセン学園の芝のコース。

そこで、俺は初めてその背中を見た。

選抜レース。メイクデビュー前の学園内だけで行われる、言わばトレーナーへのアピールレース。

平日の昼。実況の熱も無い、見ているのは俺含めたトレーナー数人

と、出走するであろうウマ娘の友人が数人だけ。

そんな世界で1人のウマ娘に目を奪われた。

圧倒的な走りである筈なのに周りの誰も気にしない。

俺が知っているウマ娘とは、正反対の顔で走るウマ娘。

俺は、あの子を一目見て心を奪われた。

まるで俺の夢を見つけた時の様な感覚だった。

「……あの子が、笑顔で走っている姿」

それを考えただけで俺の脚は自然に動いていた。

もしかしたらもうスカウトをされているかもしれない。

もしかしたらこんななりたてのトレーナーには指導されたく無い

かもしれない。

もしかしたら俺が話し掛けても無視をされるかもしれない。

様々な「かもしれない」が頭に浮かんで消える。

でも、それはそれだ。断られたら諦める。何回か粘って駄目なら手

を引こう。

そう思ってしまう程に、若旅伊吹は、あの子の夢を叶えたいと思っ

てしまった。

選抜レース、4枠8番、アセビボタン。

あの子は祝福され、歴史を作るウマ娘にきつとなる。

番外編：いつかのクリスマスは離れた場所で

「……そういえば、ボタンは冬休みは帰省するんだっけか？」

「はい。今年は年末にレースも無いですし、クリスマス前から年明けまで少し長めの帰省になります」

「ふーん。じゃあ、またトレーニングメニューは作って渡すわ」

「有難う御座います」

「ちゃんと休めよ」

「ふふっ、はい」

午後のトレーニングを開始する前のミーティング時間、私はストレッチをしながら、トレーナーさんは練習メニューが書いてあるバインダーを覗きながら何時もの様に雑談に花を咲かせる。

周りに目を向ければトレーニング中のチームはあれど、私達のようなトレーナーが1人にウマ娘が1人の構成は少ない。

「トレーナーさん」

「んー？何だ」

「何時も思ってたんですけど、トレーナーさんって他のウマ娘さんをスカウトはしなかったんですか？」

「え？何だよいきなり」

「だって、他のチームだとウマ娘が数人にトレーナーさんが1人のチームが多いでしょう？」

「……あー、まあ、そうだな。でもな、俺ってこう見えて新人のトレーナーなんで、そんな人間が1人でウマ娘複数人とか無理。ボタン1人のトレーニングメニュー考えるだけで徹夜してるっつのに。……というか、新人でありながらサブトレーナーじゃ無くてトレーナーとして活動できてるのが奇跡なんだよ」

「まあ……それはそれは、私はその労力に応えなければいけませんね」  
「そうだぞ。しっかりと応えてくれよな」

ウォーミングアップとして1,000メートルを1周、2周と緩く走り、その後はウツドチップのコースも使いながら本気で走る。

季節柄、吸い込む酸素が冷たくて内臓が違和感を訴えてくる。去年は、この違和感に慣れなくて冬場のレースは散々な結果が多い。

メンタル面もそうだが、まだ、私には課題が山積みだ。

チカラちゃんにも聞いてみようかな。天皇賞の話みたいにはぐらかされそうだけど。

「よし、それじゃあもう1本行くぞ。今度は全力も全力でな」

「はい」

指定の場所に立ち、トレーナーさんが掲げている旗が地面に向いた瞬間地面を踏み込む。

沢山考えたい事はあるけれど、今はトレーニングに集中しよう。

「本日のトレーニングメニューはこれで終了とする」

「はい。有難う御座いました!」

1日のトレーニングが終わり、トレーナーさんへ今日の気になった事も報告し、ストレッチに入る。

時計は16:30を指しているが、もう辺りは暗くなり始めている。

「気になっていたんだが」

「?何でしょう」

「ボタンの家って、クリスマスとかしたりするのか?」

「え?普通に、しますが……何か変ですか?」

「いや、なんて言えば良いのか……ちよつと前に俺とボタンで消耗品を買いに行った事があるだろ?その時、家電売り場のテレビにやけに驚いてたから、凄く古い家なのかなって」

「トレーナーさん、失礼ですね……?」

「すまん。でも、ちよつとな」

「トレーナーさんは私を舐め過ぎですね。クリスマスは私の家に親戚

が集まって大人はお酒で、私達はカルピスを持ったどんちゃん騒ぎです。お兄ちゃんやんがチビ達にキャラメルを1粒ずつ配って、私は長女なので2粒貰えるんです！それで、夜になったら庭の松の木に飾り付けた電気の飾りがキラキラ光って、それを皆で雪見窓から覗き込むんです！素敵な夜なんですよ！」

「……やっぱり、ちよつと古いよな」

「え!？」

「ゲームとか、しないのか？」

「花札にカルタ、双六に将棋。私の家には基本何でもありますよ？」

「おばあの家感が凄い」

## ◇馬、人、雪が降る世界

毎日をチビと他のお友だちと過ごしていると、上から白いのが降ってくるんだ。

ヒトが言うには「雪」と言うらしい。

昔、わたしが呼ばれていたゆきかぜと少し被っていてなんだが好きだ。

この雪がたくさん降ると世界がしろくなつて、ちよつと前のゆでられるみたいな気分がわるくなる日とは違った日が始まる。

草が無くなつて、葉っぱが無くなつて、音が無くなる。

だけど、ちよつと前よりマシな日々。

「寒く無いかい？ボタンももう17歳だからね、少し心配だよ」

有難う、ほうじくん。大丈夫だよ。

それよりチビが心配だよ。あの子、あんなに小さいのに雪のかたまりに自分から入つて行くんだ。

「でも食は問題無い様だし、そこは心配ないけど」

ご飯美味しいもん。まだまだ沢山食べるよ。もう少し、増やしてくれても良いくらい。

走り回っていたチビが戻ってくる。

チビは「かげろう」って呼ばれてるけどわたしはチビっていう言い方の方が慣れてるから、ずっとチビって呼んでる。

それにわたしみたいの名前が変わるかもしれないし。

ほうじくんはわたしとチビを撫でて、満足げに他の子達の所へ行つてしまった。

少し暗い空をながめて、もう1度周りを見渡す。

お友だちとほうじくんと、走り回るチビ。

地面がちよつとずつ白くなり始めていて、なんだがワクワクする。

ねえ。つぶらやせんせい。

あなたもこの雪を何処かで見えてくれるのかな。

今日もチビが元気に走ってるよ。

ほら、見えるかな？

—————

今年もまた、この季節がやってきた。

少し前の茹だる様な暑さからは一点寒さ厳しい季節が始まる。

私はどうにも冬が苦手で、特注で作った生地分厚い洋服を毎日着ては、その上からコートを羽織っていた日々。

友人の1人には冬など知らぬといった様子で1年中薄着で駆け回る者もいるが、私には到底真似できない。

だけど、今日はどうしても行きたい場所があるのだ。

人の波をふらふらと漂って、目的地へと向かう。

栄えた場所よりもずっと静かな場所へ。

あの場所へはもう何ヶ月、下手したら何年と言っていない筈なのに、自然とこの脚と、脳味噌は覚えた道筋をすすると進んで行く。

風景が変わる度にこの心は期待に包まれる。

もう直ぐで、もう直ぐで会える。

あの子をもう1度この目で映す事ができる。

普通なら、こんな寒い時期に来るなんて日本人からしたら首を傾げてしまうが、まあ、些事だ。些事。

「確か、この通りを……」

記憶の奥にある道を辿ってやって来た場所。

沢山の花が咲き誇るであろう花壇と、動物が飼育されているであろう形の柵。

奥からは羊、犬、馬の鳴き声が聞こえてきて涙が溢れそうだった。

私の、最愛の1つ。

「(あの子の元へ)」

首を必死に動かして、あの子を探す。

見慣れた黒い身体の子。

「(……見つけた)」

自分の記憶より、幾分か色の抜けた身体。

小さな仔馬に顔を寄せて母の様な優しい顔をするあの子。

そうか、私がいなくなった後にあの子は母となったのか

「アセビさん……」

誰にも聞かれない声で名前を呼ぶ。

そうすれば、アセビさんがタイミング良く顔を上げて、私の声に  
えてくれた様で嬉しくなる。

「どうか、幸せであります様に」

私が愛するもの全てが、健やかに生きられます様に。



## 手綱と牡丹は紅霞に沈む

夕方、トレセン学園。

太陽が本格的に傾きオレンジというよりも赤い色が濃くなった時間。

グラウンドから人が消え、微かに有難う御座いましたと聞こえてくる芝の上で1人のウマ娘が靴紐を結び直していた。

周りにトレーナーの姿は無く、そのウマ娘もこれから帰るといふよりは、まだトレーニングを続けるといった様子で明らかなオーバーワークである。

「……ボタンさん。アセビボタンさん」

ウマ娘の元へ、1人のニンゲンが近付いて声を掛ける。

特徴的な緑色のスーツを見に纏った理事長秘書、駿川たづな。

「はい、どうしましたか？ 駿川たづなさん」

「他のウマ娘の皆さんはもう練習を終えましたよ。追加の練習にしても、些かオーバーワークだと思えます」

「大丈夫です。これくらいなら」

「……今は大丈夫でも、いつか必ず怪我に繋がります。続けるのなら、少し休憩にしましょう」

「……………分かりました」

アセビボタンと呼ばれたウマ娘は、たづなの言葉に長考した後頷き、芝の上に腰を下ろす。

ドリンクボトルを傾け、タオルを肌当てる。

「あの……………」

「はい。なんででしょうか？」

「少し、近くありませんか」

「そんな事はありません。私はアセビボタンさんがちゃんと休めているか、確認しなければいけませんから」

「そういうものですか」

「はい。そういうものですー！」

広々としたグラウンドの隅で並んで座る。

ここから見える風景は遠くのビルとグラウンド特有の等間隔に並んだ木々と、芝生と柵。

面白みが無さ過ぎて黙っていると、息が詰まってしまおう。

「……あの、駿川さん」

「なんででしょうか、アセビボタンさん」

「ずっと不思議に思っているんです。駿川さんはどうして私に目を向けるのですか？」

「？私はウマ娘さん全員に目を向けていますよ」

「そう、では無くて……他と比べて話し掛けられる頻度が高いと言いますか」

「……気の所為ですよ」

会話が終わる。お互いにお互いの事をよく知らないから、立場の違いもあって直ぐに会話が途切れてしまう。

沈黙が辛くなって、時計を確認すれば座り始めてからだいたい5分程経っている。

これならば大丈夫だろうと、コースに戻ろうと1歩を踏み出す。

「アセビボタンさん……！」

呼び止められる。なんだろうと思って、後ろを振り返れば変に手を伸ばした駿川さんの姿。

「アセビボタンさんは、走る目標はありますか？」

「目標……あの子に勝つ事です」

「あの子？」

「はい。私の中には鹿毛の髪の毛を揺らしてずっと、ずっと先を走るウマ娘がいるんです。きつとその子は私の幻覚で現実にはいない。だけど、追い付きたくて、追い付けなくて……実は、貴女を見るとその子が現実にいる様で苦しくなる。只の嫉妬、なんですけど」

トレセン学園に入学して、駿川さんを初めて見た時に私は衝撃を受けた。

だって、私が嫉妬に狂い、焦がれる背中にあまりにも似過ぎていたから。

私が追い越したいと必死に顔を歪めて走っている時ですら、強さの持ち主はあんなにも優しい顔をしているのかと悔しくなる。

「奇遇ですね」

「奇遇?」

「私も幼少期に見た絵本のキャラクターに憧れていたんです。そのキャラクターは誰にでも優しく、子供達を愛して、家族を愛して、外に出れば綺麗な髪がキラキラと輝いて」

「はあ……」

「そうだ! 私達、似た者同士だと思うんです! だから、これからはもっと仲良くなれる様に名前呼び合ってみませんか?」

「え、ええ……?」

「私の名前は駿川たづなです。アセビボタンさん」

駿川さんが良い事を閃いたとばかりに手を叩く、手を握られて顔を寄せられる。

初めて駿川さんとまともに話したが、まさかこんな人だとは思わなかった。

確かにあの子は強いけれど、あの子に似た姿の駿川さんも押しが強い。

どうにかこの場を切り抜けられないかと再び考えて、思い出す。

「……やっぱ、理事長秘書という役職の貴女を友達のように呼ぶなんて不敬な事、流石にできませんよ」

「では誰もいない時お願いします。丁度、今の様な。ね、良いでしょう?」

私が考え付いた案を、呆気無く彼女は通り越してきてしまう。どうして、こうなったのだろうか。

「ハア……たづな」

「はい、ボタン」

風が吹く、私達の髪の毛が揺れる。

全てが赤色に照らされる世界は今だけ2人きりで、向こうから楽し

そうな声が響いてくるばかり。

静かに揺れている彼女の鹿毛と私の苜毛は混じる事は無い。

けれど、時折2色が触れ合うのを横目に見て、無性に”こうしてみ  
たかった”と不思議な感覚に襲われた。

## 番外編：気まぐれ散歩

薔薇で作られたアーチ、池に浮かんだ蓮、いつ咲くか分からないリュウゼツラン。

色とりどりに囲まれた植物園を歩く。

ーレースが始まるから、今の内にリフレッシュをしとけ。

新しい年になって、私も冬休みからレースへと出場する選手へと変わる。

次はG1である桜花賞の予定ではあるが、その前にステップとしてレースを何回か挟む予定だ。

どのレースも、どんな場所でも気を抜く事は出来ないし、トレーニングを怠る事も出来ない。

だからこそ、今の内に心身を充分に休めておく必要があると言われて、前から気になっていた植物園にやって来た。

「綺麗」

花は好きだ。

自分の名前にも付けられているからか、なんだか親近感というか子供の様な気持ちで見えてしまう。

デイジーの花に、チューリップ、コスモスに、椿。

温度が調節されていて季節が重ならない花でも1度に見れて、なんだかお得な気持ちになる。

「私も、3つの花を手に入れられるウマ娘へ」  
溢れた願望は、誰の耳にも届かない。

572：名無しが適當語り ID：mpvA88si+

アセビボタンのお出掛けイベントすこ

573：名無しが適當語り ID：0qyAISb+2

>>>572

分かりみが深い

574 : 名無しが適當語り ID : fvr0Mplcu

名前に花が付いてるウマ娘が季節関係無く花が咲き誇っている植  
物園に行つて、バラバラの季節に挑戦するレースで3つの花が欲し  
いってなるの

575 : 名無しが適當語り ID : Q1GDtgNZa

一般人としては檜の木に花が咲く所がびつくりポイント

576 : 名無しが適當語り ID : UUMmc7XOb

>>>575

俺も調べてへえつてなった

577 : 名無しが適當語り ID : ze+OwmRe9

プレイヤーにも学びをくれるゲーム、それがウマ娘プレイヤー  
ビー

578 : 名無しが適當語り ID : mjaczp5+v

※偶にプリティーが無くなります。

579 : 名無しが適當語り ID : Vwc97s9kS

>>>578

あ”あ!!?

580 : 名無しが適當語り ID : q6WFXPI9B

イナリワンのプリティーどこ………(こ)………

581 : 名無しが適當語り ID : PqZii+ES8

アプリではプリティーだろうが！いい加減にしろ！



名目がりフレッシュやかな、トレーナーがいたら休まらんやろ

591 : 名無しが適當語り ID : A r s 2 i Q 8 A /

ボタンのシナリオを担当したライターさんから「アセビボタンとトレーナーはCPさせない」という熱い情熱を感じる

592 : 名無しが適當語り ID : Y + 1 F + J H h W

>>591

ボタンはあの子ともう……

593 : 名無しが適當語り ID : z d Y Y E 1 m d i

>>591

なんかボタンは創作でカップリングする気にならんのかな

594 : 名無しが適當語り ID : 5 X Y 1 9 5 O S j

言い方は変かもしれないが、そもそも史実がカップリングみたいなものなので……

595 : 名無しが適當語り ID : C N 3 k G y R A 3

>>594

それや

596 : 名無しが適當語り ID : X G i S b 1 1 t B

>>594

成る程スツキリ

597 : 名無しが適當語り ID : w u O Y O E 6 n m

>>594

今世紀最大の領きをしてしまった

598 : 名無しが適當語り ID : J Y h t N 4 g / F



公式が最大手というやつか？

599 : 名無しが適当語り ID : NG59qFgDw  
最大手過ぎるやろ

600 : 名無しが適当語り ID : kuwdbFYK3  
写真が見つかった時の盛り上がりエグかったもんな

601 : 名無しが適当語り ID : apdt1h6S  
数年前の俺も、まさか自分が馬主×馬にハマるとは思っても無かつただろうな

## エピソード零？

今から少し前のトレセン学園。

チームに分け与えられた小さな部屋の中で1つの机を囲み、1人のトレーナーと、1人のウマ娘がスケッチブックを見つめている。

鉛筆と色鉛筆が散らばる中、トレーナーが口を開く。

「やつぱり、ボタンには和装の方が似合うよな」

口許に手を置き、唸る様に首を捻るその姿に対面に座るウマ娘、アセビボタンが反対に困った顔で続いて口を開く。

「あの、トレーナーさん。勝負服を考えて下さるのは嬉しいのですが、流石に早くないですか？私はまだメイクデビューしたばかりですよ」

「いいや、ボタンのポテンシャルを考えると今すぐに考えておいた方がよい。トレーナーなりたての俺からしてもとんでもない力を持っているのが分かるからな」

トレーナーである若旅伊吹が素直な気持ちで口にすれば、目の前のアセビボタンは照れた様に顔を逸らすが、言った本人はスケッチブックに集中している為それに気付かない。

「……なあ、ボタンはどっちが好きだ？マルゼンスキーみたいな洋装と、サクラチヨノオーみたいな和装」

「個人的な好みでは和装ですけど、皆さんの勝負服を見ている限り少し、丈が短くて」

「丈？」

「はい。私は生まれてこの方肌が出る服装をあまりしてこなかったのですが、ちよつとソワソワすると言うか……制服もスカートの丈を私は他より長くして貰ったんです」

「成る程な。まあ、そこは丈を長めにお願ひすれば解決だな。じゃあ、デザインだけど」

「……あつ！私、牡丹の柄を入れたいです。名前にも入っていて思い入れがあるので！」

「フム。となると、スカート？の部分に入れるのが良いか？」

「ヤエノムテキさんの様に、腰にリボンをつけて結び目の所に牡丹の花飾りを付けるのも可愛いですよ」

「ヤエノムテキか……個人的にはボタンは装飾を少なくしたシンプルの方が良いと思うんだよな」

「？そんなんですか？」

「いや、本当に個人的な意見だが、ボタンの髪の毛は特徴的な色をしているから、その部分も含めて1つの形にしたいなあ」と

「髪色……確かに、私も自分の色は好きです」

あれやこれやとお互いに意見を出し合えば、段々とエスカレートし止まらなくなる。

それは、しつかり者である2人の意識を逸らすのには充分で普段は学園の芝コースや、ウッドチップコースを走り回っている時間になっても話し合いは止まらずに、部屋の中がオレンジに染まって漸く気付く。

「ええと、明日は真面目にトレーニングするという事で、手打ちに、しましょう、か？」

「あー、そう、ですね……！」

今後の活動に対し、大切な話し合いという部分という点においては特に問題が無いのだが、トレーニングを忘れて話し合う初めての経験に2人は困惑しながらも机上に転がる鉛筆や、色鉛筆を片付ける。

時間を忘れる経験は2人にとって困惑を伴う経験ではあったが、そのお陰で「アセビボタンを象徴するもの」の1つを完成させた。

## ワガママ魔法少女と長女のお花

特に目的も無く、リフレッシュ。というか気分転換として学園内も目的も無く歩いていけば、後者裏の方から特徴的な声。それも叫び声が聞こえてきた。

何か事故でもあったのかと思って駆け足に声の方へ向かってみれば、長い髪をこれまた特徴的なツインテール？にした子がしゃがんでいた。

周りに人は居らず、事故では無く怪我の可能性かと思ひなるべく怖がらせない様に声を掛ける。

「あの……」

「！な、なによ！」

私の声に振り向いたその子は目に涙を溜め、絵本で見る魔法使いの帽子、もしくはサンタさんが被っている様な先が垂れた形の帽子を両手で大事そうに抱えていた。

そして、声だけだと気付けなかったが、帽子を抱えるその子は私もテレビで見た事があるウマ娘だった。

「叫び声が聞こえましたので、何かあったのかと」

「そ、それは申し訳無かったわ……でも大丈夫よ」

帽子を被って立ち上がるその子は何事も無かった風に応えるが、私の目には不自然な所が映ってしまう。

「もしかして、帽子の飾りが取れてしまったとか……？」

「!?……どうして分かったの!？」

「耳の横の所が少し解れている様に見えて、あと、お顔を見てあなたがスイープトウショウさんと分かりました。スイープトウショウさんの帽子には赤いリボンのトレードマークが付いていた筈です」

私がそこまで言えば、彼女、スイープトウショウはもじもじと手遊びしていた両手を開く。

小さな可愛らしい紅葉の上に取りれてしまった赤いリボン。

「差し出がましくて恐縮ですが、其方の帽子を、私に直させて頂けませ

んか？」

「直せるの……？」

「はい。裁縫の技術なら、この学園で1番になれる自信があります」

「ほ、本当に？」

「はい！お任せ下さい！」

シヨックからなのか少し震える手を支えて目線を合わせる。

再び溢れそうになるその瞳を見れば、この帽子をどれだけ大切にしているかが分かる。

「直して……お願い、します」

「ええ。では、少し待っていて下さいね！教室から急いで裁縫道具を持って来ます！」

「い、良いわ！お願いするのはアタシだもの。アタシも一緒に行く。あなたの、ええと、」

「申し遅れました。私、アセビボタンと言います。宜しく願いしますね、スイープトウシヨウさん」

教室までの間、スイープトウシヨウさんは私の半歩後ろを歩いていた。

噂では「ワガママ」「魔法少女」なんて呼ばれているのを聞いた事があるが、後者はともかく、前者の雰囲気は感じられ無かった。

・  
・  
・

机に裁縫道具を広げて、糸を通した針を針刺しに刺してスイープトウシヨウさんから帽子を受け取り、なるべく補修した跡が見えないように気を付けながら大切に縫い合わせる。

しっかりとリボンを付けて、パチンと糸を切り、針刺しに針を戻してスイープトウシヨウさんの頭にそつと帽子を乗せる。

やっぱり、こちらの方が可愛い。

「はい、できました」

「……有難う」

帽子の両端を持って顔を隠す様に深く被る魔法少女。

なんだか妹を見ている様で、思わず帽子の上から頭を撫でてしまった。

1：名無しが適當語り ID：aJefVf61c  
唐突にアセビボタンのサポカをお出しされ、うひょく！とテンションが上がって満足。と思ったら、高火力のボタン×スイーピーの組み合わせを見せられた皆様こんばんは。今墓です。

2：名無しが適當語り ID：uKAcFk780  
絶対に殺してやるという鋼の意志を感じた

3：名無しが適當語り ID：sByOKaAF1  
鋼の意思是桐生院だけが持てるものではなかったのか!?

4：名無しが適當語り ID：OwVNyvu4f  
いやでも思わんで、

5：名無しが適當語り ID：KSSJGcIoM  
久し振りにボタンのサポカ出すで↑有能

それに伴いボタンの新しい一面見せたい↑有能

史実でアセビの祖だしお姉さん要素欲しいな↑有能

せや、スイーピーと絡ませたる！↑!?!?!

6：名無しが適當語り ID：wONiwqebl

なんでスイーピーなんだろうと思っただけど、スイーピーの性格って姉妹の末っ子とかで普通にいそうなんだよね

7：名無しが適當語り ID：gi57MnrDl

我儘だけど、皆から可愛がられてるのが完全に末っ子

8 : 名無しが適当語り ID : k x s o X H S d u  
そりやあもうボタンちゃんのお姉さんフィルター掛かりますわ

9 : 名無しが適当語り ID : 8 8 I x r q L P B  
突然お姉さんムーブしてるのに、クリークとの違いとは

10 : 名無しが適当語り ID : B S i D D z v w G  
>>>9  
クリークほら、あれじゃん

11 : 名無しが適当語り ID : f E u 7 I O 6 K Q  
>>>9  
クリークは自分から出す。ボタンはふとした瞬間に出る。  
この違いよ

12 : 名無しが適当語り ID : I E W U j a o i Q  
味濃いものの後つて水とか飲みたくなるじゃん？そういう事だよ

13 : 名無しが適当語り ID : f t F M E i e / K  
>>>12  
どういう事だよ

14 : 名無しが適当語り ID : k X f e 2 v J l n  
話題に出ないんでお出ししてしまうんですけど、スイーピーとボタンの身長差良くないですか？

15 : 名無しが適当語り ID : h K g + F U 8 l i  
公式設定を見比べると余裕で頭1個分ある身長差ええぞ

16 : 名無しが適当語り ID : i K B 3 P 6 3 E l  
マジでスイープが妹になってしまう

17：名無しが適當語り ID：U/i l F V r h v  
「スィープ、君もアセビ冠にならないか？」

18：名無しが適當語り ID：M A y y D q J X H  
アセビスィープはちよつと語呂が悪いので…

19：名無しが適當語り ID：p H O i L C K l e  
まあ、その後ヤダヤダするんですけどね

20：名無しが適當語り ID：A u g A i l 6 E p

>>>19

安心感すらある

21：名無しが適當語り ID：v Y b O k K U Q F  
スィープが帽子の一件で滅茶苦茶牡丹に懐くのほんま可愛い

22：名無しが適當語り ID：U 4 a N f N h 9 e  
これにはトレーナーもニツコリ

23：名無しが適當語り ID：J m K a I g F w g  
ガチ困惑だったかな

24：名無しが適當語り ID：M Z 3 H x t 2 r A  
また雪が積もるまで待たされるんだろうなあ

25：名無しが適當語り ID：M F N j X d l 0 T  
頑張れトレーナー

26：名無しが適當語り ID：8 y Q U p j n U t

>>>26



トレーナーはお前だぞ

27 : 名無しが適当語り ID : 1HKi3p+HT

>>>26

おまトレーナー定期

28 : 名無しが適当語り ID : LdonrTWX0

でもなんか、サポカのストーリーー見てやっぱり俺アセビボタン好きだ。つてなつたわ。

29 : 名無しが適当語り ID : ruKVgPTIz

>>>29

分かる

30 : 名無しが適当語り ID : 61IHSXOL

>>>29

それは、そう。

◇ある時代の、ある勝負の、或る実況

日本ダービー残り200メートルであります。

先頭は未だトキノミノル。その後ろには××がいて、××がおりますが、追い付けそうにありません。

残り150メートル。ここでアセビボタンがトキノミノルに迫る勢いで走って参りました。

身体半分はまだ距離が縮まっております。

残り100メートル。先頭は未だトキノミノルであります。アセビボタンがピッタリと横についております。

これは勝敗がどうなるか分かりません。

3番手は××、××、××が続きます。

残り50メートル。アセビボタン、トキノミノル一向にスピードが落ちません。歓声が響いております。

どうなるか、どうなるか、どうなるか。

今、ゴールを切りまして日本ダービー。

息も吐けない程の勝負でしたが、トキノミノルが一着、トキノミノルが一着であります。

1951年、東京優駿競走―日本ダービー―。

アセビボタンは後方の馬群に飲まれています。

先頭は××。続いて××、××。アセビボタンが勝つには厳しい状態です。

第4コーナーを曲がりまして、他の馬が動き出す中アセビボタンは動き無しであります。

もう、あの馬に力は残っていないのか。

先頭は未だ××、変わらず××が続いています。

アセビボタンが動いた。

アセビボタンがあの日と同じ走りを始めました。

どんどん他馬を追い越して行きます。

残り100メートル。まるであの日の日本ダービーを見ているか  
の様であります。

あの馬が、力を貸しているのでしょうか。

アセビボタンが今、先頭に変わりました。独走。

残り50メートル。誰も追いつけません。

夢を見ているかの様です。

アセビボタン、一着。アセビボタン一着。

1953年、天皇賞―秋―。

352：名無しが適當語り ID：d g 9 n u f H b F

ステイゴールドもビックリの鼻肩実況大好き

353：名無しが適當語り ID：Q p h d K 7 / Q 1

ダービー見てアセビボタン好きになっちゃったんだってのがよ  
く分かる

354：名無しが適當語り ID：l s 6 r O 6 x V E

あのアナウンサーさんが現代におつたらコントレイルの菊ばりに  
良実況してそう

355：名無しが適當語り ID：f l j l V u X t s

「あの日、共に競った彼と比べて劣っているなんてもう言わせない。  
まぐれなんてもう言わせない!」

「アセビボタンが馬群の中からやって来たぞツ!もう周りは眼中に無  
し!あの日の夢を!只1人と1頭だけが走る旅路に敵は無し!」

「天皇賞―秋―の勝者はアセビボタン!彼女はもう1度!パーフェク  
トな走りを魅せました!」

356：名無しが適當語り ID：w u Y A Q y l I w

>>>355

見たい、見せろ（豹変）

357：名無しが適當語り ID：4QKpNEJys

名前の通りパーフェクトだったけど、唯一身体だけは弱かったトキノミノル。

パーフェクトでは無かったけれど、身体の強さだけは唯一無二だったアセビボタン。

この対比すこ

358：名無しが適當語り ID：m5ueTI fCN

これでヒーロー列伝、名馬の肖像、どちらも無いってマ？

359：名無しが適當語り ID：ae4Vu8wqF

>>>358

写真がね

360：名無しが適當語り ID：／gFqmFTU7

>>>358

まあ、戦績やエピソードが良くても選ばれてない馬は沢山おるし、時代が時代だから区切りのなものでも仕方無いというか  
全ての馬を対象にしたらそれこそ運営が死んでしまうのでね

361：名無しが適當語り ID：u55K4BJJN

>>>358

無ければ作ればええんやぞ。

某牧場は作つとる

362：名無しが適當語り ID：VwTlphHQ t

流石や

363 : 名無しが適當語り ID : v s W f C x M o U  
あの1族がアセビボタン系列でやってないもの無いやろ

364 : 名無しが適當語り ID : F 9 r v T W c i 6  
>>>361

俺も牧場見学に行つて、噂の記念館入つたら手作りのヒーロー列伝と、名馬の肖像あつて変な笑い出た

365 : 名無しが適當語り ID : V Z f q E / m C t  
脳が焼かれているというレベルでは無い

366 : 名無しが適當語り ID : t Q l p r 5 e t T  
あれはもはやDNAの1部

367 : 名無しが適當語り ID : O K 3 N u 5 u e A  
遺伝子に刻まれてるなら仕方ないね

368 : 名無しが適當語り ID : P B h + F 4 c u Y  
【あなたへ】  
出会いは偶然で

欲なんてものも無かつたけれど  
あの日、

一緒に見た見た夢だけは本物で。  
身体に感じる風をそのままに  
共に走り抜けた  
ああ、楽しかった  
美しいものを見た  
どうか、どうか、あなただけは  
幸せであります様に。

369 : 名無しが適當語り ID : q w a / J k j l 5

>>>368

何この、何？

370：名無しが適當語り ID：d6NRYB7Or

>>>368

突然のポエムは心臓に悪い

371：名無しが適當語り ID：dzKZqogW9

これが某牧場名物、非公式名馬の肖像（アセビボタンVer）だ。  
震えろ。

372：名無しが適當語り ID：FggPgAiiQ

>>>368

これ作ったの親友さんじゃ無くて暴走した子孫の方なんだよね

……

373：名無しが適當語り ID：/7te8aYDR

>>>372

!?!?!?

374：名無しが適當語り ID：Fk8QlA3KU

>>>372

それでこの解像度なの？

375：名無しが適當語り ID：QR35vKS2z

>>>372

高垣さん家、ちよつと怖過ぎる

376：名無しが適當語り ID：rkxourZng

何が怖いってアセビボタンを円谷氏、アセビボタンを小金井騎手の  
全てを網羅してる所

377 : 名無しが適當語り ID : K T H j t 4 k M c

周りが目立ってるだけでイメージ無いけど、実は強火な小金井近江  
騎手

378 : 名無しが適當語り ID : 5 m 7 h y i B g K

>>>377

息子がああなので確実に遺伝してる

379 : 名無しが適當語り ID : 0 N f j k 9 d j B

息子「もう2度と馬に乗れなくても良いです」

380 : 名無しが適當語り ID : k O g M q l v V 5

>>>379

名インタビュー

381 : 名無しが適當語り ID : H b e e W x g 8 J

>>>379

あのインタビュー本当に満足そうで、満ち足りた顔してるの何回  
見ても貫い泣きする

382 : 名無しが適當語り ID : R k 7 f e f Y x T

関係者からこれからもアセビの馬に乗れ！って言われなかったら  
本当に辞めてたんだらうなって

383 : 名無しが適當語り ID : Y d k l + i P c j

【花束を君へ】

漆黒の身体は美しく、強く、晴れやかで。

物足りない日々も今では思い出の1つになった。

頑張ってくれて有難う。

今日からは白い彼女と生きてゆく。

これがヒーロー列伝Ver

384：名無しが適當語り ID：60cC+AVqp

>>383

お腹いっぱいだよ

385：名無しが適當語り ID：VLaNvpxQ

あまりにも高カロリー

386：名無しが適當語り ID：RWYTSimr9

ねえ、本当に現役は見てないんだよね？知らないんだよね？

387：名無しが適當語り ID：Oew4XoKcR

映像は残ってるから……

388：名無しが適當語り ID：8ulHdjCX9

競馬好きな俺でもこうはなつた事無いぞ

389：名無しが適當語り ID：2UZyKaqqK

馬主からしたら所有馬は娘・息子みたいなものだから多少はね？

390：名無しが適當語り ID：hEmi53IVE

>>383

名馬の肖像もそうだけど、こんな強火なものを抱えてるのにTwitterだと普通なの二面性どころの話じゃない

391：名無しが適當語り ID：qtzWqPWJw

牧場のTwitterで「新しい資料が見つかりました！」でキャツキヤしてるの見て今まではやったー！ってなつてたけど、実は内側はこうだったと思うとよく「やったー！」だけの感情で済んだなど



392 : 名無しが適當語り ID : jLYYPsaha

>>391

140文字に収まる様に濾して濾して「やったー！」だけが表に出てるのでは

393 : 名無しが適當語り ID : zDdnWJyWH

>>392

有難う文字数制限

394 : 名無しが適當語り ID : 56a03t0PC

コウロ君が勝った時も「良かった！頑張りました！」ってツイートしてたのも濾して濾した結果が微レ存

395 : 名無しが適當語り ID : ozBkPIvPF

しかも重賞だったからな、元は原稿用紙10枚くらいあったと思うよ

396 : 名無しが適當語り ID : AaY2mPPuW

愛が重い

397 : 名無しが適當語り ID : LNjOzbAJz

>>396

重いだけで済んでるか？

398 : 名無しが適當語り ID : vbmzgpBgt

所有馬を可愛がつてる馬主さんは沢山おるけど、ここまで1族で好きな馬主おる？いや、いないね。

399 : 名無しが適當語り ID : Rvg5Tortt

>>398

お爺ちゃん、お父さん世代ならまだしも子供も含めてやもんな

400 : 名無しが適當語り ID : O / T 8 C Z i T b  
た、た……

>>401 : 名無しが適當語り ID : X G S b x l V a P  
>>400

そのお方は殿堂入りだから

402 : 名無しが適當語り ID : x T M y g p W T +  
>>400

ガチ勢来たな

403 : 名無しが適當語り ID : l 0 q T j E q z L  
しかし、アセビボタンの話題も尽きないね

404 : 名無しが適當語り ID : l r y 6 z k 7 Z w  
尽きないと言うか尽きたと思ったタイミングで生えてくるという  
か

405 : 名無しが適當語り ID : i v O S F d 5 r A  
ねえ、アセビボタンとトキノミノルが1度しか戦ってないし、面識  
もそれつきりなのに仲良しだった。って本当？  
調べてもイマイチ分からなくて

406 : 名無しが適當語り ID : e U R r F K k o D  
ほらな？

407 : 名無しが適當語り ID : Y 2 v Z f W l b u  
生えてきたな

408 : 名無しが適當語り ID : 4R8i11+EY  
アセビボタン関連のスレこういうのばっか(もつとやれ)

409 : 名無しが適當語り ID : a z / e I 7 I m d  
草

410 : 名無しが適當語り ID : 47Y5I g N r k  
タイムリーだったな

411 : 名無しが適當語り ID : z Y D I R I G 5 U  
仲良しというか、日本ダービーの時に鼻を寄せたりして相性が良さ  
そうやなあ……って話が、高垣氏の日記にちよろつと載ってたってい  
うのは牧場の Twitter で呟かれてる。  
たられただけど、トキノミノルが健康だったら繁殖で子供いたかも

412 : 名無しが適當語り ID : n g X s C 8 v 8 I  
>>>411  
はえー

413 : 名無しが適當語り ID : w J K K g I O 2 /  
>>>411  
たらればでも夢があるね

414 : 名無しが適當語り ID : f 9 R h 9 Q J 9 o  
>>>411

これでどちらかが恋してました。だってらあまりにもバトエン過  
ぎてパピエン厨の俺が泣く

415 : 名無しが適當語り ID : 6 1 C i 8 t b t k  
だからゲームでもあんな絡みがあったのか

4 1 6 : 名無しが適當語り ID : +J l I t l b y c  
夕方グラウンドの話は辞めるんだ

4 1 7 : 名無しが適當語り ID : b f g w B Z o n k  
……てえてえ

4 1 8 : 名無しが適當語り ID : P r b O E s u R P  
最後の「こうしてみたかった」っていうボタンの独白があまりにも、

4 1 9 : 名無しが適當語り ID : 6 s G o n 4 K T O  
アセビボタンに対してたづなさんがめっちゃ絡みに行くのそういう事だったんだ

4 2 0 : 名無しが適當語り ID : H j 6 2 f X R V G  
たづなさん || トキノミノル説

4 2 1 : 名無しが適當語り ID : h H g 2 Z 3 l b x  
映像で見たかったなあ

4 2 2 : 名無しが適當語り ID : r Y f c o z O v l  
こればかりは神のみぞ知るだね

4 2 3 : 名無しが適當語り ID : Y m K e d H W 6 x  
ウルセエ!!! 俺は描くぞ!!!

4 2 4 : 名無しが適當語り ID : 8 l o s y v 5 F U  
>>> 4 2 3  
その遅しさ好き

4 2 5 : 名無しが適當語り ID : J u O d E O c B a

>>425

良い値を払うから見せろ

426 : 名無しが適當語り ID : 53r6Qn5o3

たぬきで作るかあ

427 : 名無しが適當語り ID : a d x j Q r Y K a

>>426

アセビボタンの素材あるんか?!?!?

428 : 名無しが適當語り ID : / Q 9 X 3 j z T F

たぬきにはなんでもある定期

429 : 名無しが適當語り ID : x P C 5 3 l I e l

キンタマーニすこ

430 : 名無しが適當語り ID : T K h 6 s c f S p

もはやあれは金の玉なんよ

431 : 名無しが適當語り ID : R o B l c l q G f

キンタマーニ(そのままの表現)

432 : 名無しが適當語り ID : I 0 3 4 B Q O E O

キンタマーニへのイメ損

433 : 名無しが適當語り ID : 0 T 7 Y e Z a / l

じ、実装されてないから……

434 : 名無しが適當語り ID : o H h Q L + L a q

苦しい言い訳過ぎる

435 : 名無しが適當語り ID : z l B A 4 e F W J  
アセビボタンの話題どこ行つた

436 : 名無しが適當語り ID : G Z r V o S b T l  
>>>435

アセビボタンのスレは初めてか? 力抜けよ

437 : 名無しが適當語り ID : n U q R 0 q Q v L  
>>>435

アセビボタンのスレは直ぐに話題がとつ散らかる事で有名

438 : 名無しが適當語り ID : I b c D i r l H C  
これも全て乾巧つて奴の

439 : 名無しが適當語り ID : U Y c Y k e J k o  
>>>438

(首が折れる音)

440 : 名無しが適當語り ID : F 5 V 7 l x E 0 0  
あまりにも早い首が折れる音、俺でなきや見逃しちゃうね

441 : 名無しが適當語り ID : O 2 D E e p i k E  
アセビボタンとトキノミノルのでえてえ話は何処へ

442 : 名無しが適當語り ID : e Y 9 F 7 x p A Q  
そこに無ければ無いですね

443 : 名無しが適當語り ID : G Z F T l g 3 H V  
>>>441

そんなあ

444 : 名無しが適當語り ID : LuPx dC nK P  
もう終わりだよこのスレ

445 : 名無しが適當語り ID : + g f K j k 4 E /  
へーきへーき後10スレ後にはアセビボタン可愛い！って言うて  
るから

446 : 名無しが適當語り ID : E Y L U H 5 m T u  
アセビボタン可愛いやったー！

447 : 名無しが適當語り ID : d B j p / F E j o  
1スレ後やないかい！

448 : 名無しが適當語り ID : Z R g x S l n l f

【あなたへ】

出会いは偶然で  
欲なんてものも無かったけれど

あの日、

一緒に見た夢だけは本物で。

身体に感じる風をそのままに

共に走り抜けた

ああ、楽しかった

美しいものを見た

どうか、どうか、あなただけは

幸せであります様に。

449 : 名無しが適當語り ID : k W V F v C O 7 l

>>448

フル詠唱辞めろ、お茶を濁すな

450 : 名無しが適當語り ID : x R 6 G X P 5 x 8

これはもう1歩半の後継者では？

451：名無しが適当語り ID：DHZJR4mAG

>>448

見たの2回目だけど、オタクだからちよつと泣いた



## 三冠バの演出家、一冠バの名花。

「ねえ、その君！」

誰かが、誰かを呼ぶ声が聞こえる。

「あれ？聞こえていないのかな……君だよ、君！」

再び誰かを呼ぶ声が聞こえて、私の肩が軽く叩かれる。

どうやら、私を呼び止める声だったらしい。

なんだか申し訳なく思いながら後ろを振り返れば、見慣れない「C B」という飾りが特徴的な帽子？を身に付けたウマ娘が立っていた。

はて、私はこんな美人に話し掛けられる用事があつたらうか。

「何でしようか」

「いや、特に急ぎの用事がある訳では無いんだけどね。君、アセビボタンでしょ」

「……ええ、私はいかにもアセビボタンですが」

「アタシ、ミスターシービー。宜しくね」

ウインクを添えたフランクな口調。

ミスターシービー、それは学園の中でも知らない人はいないと言われる程の有名なウマ娘さん。

尚更どうして私なんかに。

「えっと、ミスターシービーさん。私に何か御用ですか？」

「実はね、君の走りが”旅をしている様だ”って言われていたから、気になって……ねえ、ちよつとだけ一緒に走ってみない？」

ミスターシービーさんの口から告げられるまさかの言葉。

私が想像していたとは違う、返答。

まあ、それ以上に私の走りがそんな期待をされているなんて思ってもいなかった訳だけど。

「それは、それは、有難い形容と提案ですが、私には貴女に見合う能力はありませんから」

「過ぎた謙遜は、褒められたものでは無いよ？」

「ははっ。でも、謙遜しますよ、あの三冠バさんに目を掛けられている

のですから」

そっかあ、なんて少し残念そうにするミスターシービーさんの顔を見て何となく疑問に思う。

どうして彼女は私と走りたいと思ったのだろうか。

「どうして、ミスターシービーさんは私と走りたいと思ったのですか？」

「え？……そうだなあ、君が、アセビボタンが自由に走るから。かな？アタシも自由な場所を走るのが好きなんだ」

「自由な、場所？」

「うん。小鳥が初めて飛んだ日みたいに、伸びやかで、どこまでも止まらない。君はそんな走りをしている。アタシはそんな姿を見て、同じターフを走ってみたいって思ったんだ」

真っ直ぐな目で見つめられる。

世界の音が彼女の声だけになって、まるで1番前の1番良い席で、私だけに向けられた演劇を見ている様な気持ちになる。

私だけに向けられた言葉。今だけは私だけが求められている舞台。差し出された手に私の手を添えて動き出せば、きつと。

”もう一度、君とミスターシービーの対決を!!”

ハッと、思い出す。

最近、毎日の様に学園内で囁かれているあの言葉を。

「御免なさい。やっぱり、私は貴女と同じターフを走れません」

「どうして？」

無垢な顔で分かり易く疑問を浮かべるその顔に、不快にならない笑みを返す。

私では駄目なのだ。今は、私だと。

「貴女は私以上に同じレースを走るべき相手がいますよ」

「ええ？そんな子、いたっけなあ」

「いますよ。直ぐ隣に」

「……いないけど？」

「視覚では無く、ターフに……世間に疎い私にも届いていますよ。」  
もう一度、カツラギエースとミスターシービーの対決を!!”って囁かれ

ているのが」

「へえ！それは知らなかった」

「今すぐにでもレースの予定を立てるべきですよ。待っている人は沢山いるんですから」

「そうかな？」

「ええ。悲劇や喜劇を飛び越えたレースという劇場の観客になりたい貴女達のファンが、きつと」

「ふふっ……なんだか、小難しい事を言うね？」

「そうですね？でも、貴女が自由な時間を望むのならば、貴女が貴女であるのならば、どうか、私というさよならが遠い存在を優先しないで下さい」

笑い合いながら少し話して、ミスターシービーさんは1度何かを考えた素振りをしてから、踵を返して歩いて行く。

目的を持った足取りで、只、歩いて行く。

今、世の中に求められているのは演出家と翔馬ミスターシービー カツラギエースの対決なのであつて、私では無い。

だから、君よ、振り向くな。

私アセヒボタンはまだ、喝采の対象では無いのだから。

## 番外編? : チカラちゃんとボタンちゃん

都会とは言い辛く、地方都市とも違う少し長閑な、静かな土地。

その丁度真ん中辺りに位置している立派な日本家屋。

周りの現代的な家々とは一線を画す、歴史に取り残されてしまったかのような佇まい。

ふわりと香るイ草の匂いを楽しみながら2人のウマ娘が縁側に並び、座っている。

「チカラちゃんはさ、本当に天皇賞を勝ったウマ娘なの?」

牡丹の飾りが付いた芦毛のウマ娘がおずおずとお茶に口を付けながら言う。

それを聞いた紫の耳カバーにパールの飾りを付けたウマ娘がコーラを口にしながら答えた。

「えー、トキちゃんまだ疑われてるカンジ? ちょっとシヨツクかな?」

「だ、だって……映像とかも見た事無いし、盾だってチカラちゃんの家は無かった」

「ちっちっちー。たったそれだけの要素でトキちゃんを押し量るのはナンセンスだぞ? トキちゃんは、ボンちゃんの知らない所で努力してたのだ」

「うー」

「まあ、トキちゃんが走ってたのは昔だし、映像残ってないのもトウゼン? ってやつ」

「……そんなに歳離れてない癖に」

「なにをー!? こうしてやるー! コチヨコチヨコチヨ」

「え!? うわっ、何!? …… 擦りたい! んふふふ」

静かな街の中に笑い声が響く。

2人が縁側に倒れ込んだ音に、日中の留守を頼まれている女中の1人が慌てた様に顔を出す、2人の様子を確認して微笑ましそうに笑いまた仕事に戻っていく。

寮生活で頻度は減ってしまったもののこれが、この家での日常風景

だった。

「あつ、そうだ！ボンちゃん秋の天皇賞に出るんだっけ？」

「……ええ、まあ」

「ン？なんだか元氣無さげだね？」

「元氣が無いというか、私、少し前までは少しばかり勝ち星を上げてたけど、今はもうすっかり駄目になっちゃったから、招待自体はされたけど、勝てるかどうか」

「フーン……じゃあさ、ボンちゃんが勝ったらトキちゃんとも走ろうよ」

「?どうしてそうなるのさ」

「だってー、トキちゃんが天皇賞勝ったのか気になるんでしょ？それを証明する為には一緒に走るのが手っ取り早いかなー?って、でも、今のボンちゃんだとトキちゃん圧勝しちゃうし……せめて秋の天皇賞勝ってくれないと同じ土俵にも上げて上げられないかなー?」

「自信满满だね」

「うん。だって、今のボンちゃん、誰から見ても弱つちいモン」

「……あーあ、言っちゃったな？」

「言ったよ。だから、勝っておいで。トキちゃんが持つてる栄誉と同じ名前の栄誉を。3, 200メートルをゼンリヨクで」

「そっか。そうだね、ちよつと、頑張ってみる」

夕暮れに染まり始めた空の下、大きな門の前で不器用な激励を送るチカラと、それを受け取るボタンは笑い合う。

年齢は少し離れているけれど、気の置けない親友である事に間違いは無い。

じゃあねと手を振って自分の家へと歩いて行くチカラの背を見送って、家に戻ろうと1歩を踏み出したボタンは気付き、その背中に大声を出した。

「あ、あの！チカラちゃん!!秋の天皇賞は2, 000メートルだよ!!!」

「へっ?!?!? そうだったっけ!?!?」

やっぱりどこか締まらない、2人のやり取り。

もう1度、笑い合つて、それでも頑張ると話したボタンに、頑張りな!と返すチカラ。

秋の風が吹き抜けて、洋杯と盾が並ぶのは、もう少しだけ後の話。

◇ちやんねるで語り合う人々

1 : 名無しが適当語り ID : GaGR Lt G + P  
ワイ、ウマ娘から競馬に入った民なんやが、アプリに実装されてるアセビボタンのジョッキーってどんな人だったん？  
現役のジョッキーみたいな面白エピソードとか、強火なエピソードがあんまり出てこなくて気になるから、息子の斗真氏と共にエピソードがあつたら教えて欲しい。

2 : 名無しが適当語り ID : 8 r 4 i C N b f 5  
脳焼かれてる

3 : 名無しが適当語り ID : x 2 o Y S K q 5 V  
小金井家も漏れなくこんがりや

4 : 名無しが適当語り ID : 7 Q L W l z z N h  
ジョッキーって、愛車欄にお手馬の名前書いたりするやん？それくらいはまあ……

5 : 名無しが適当語り ID : 2 u A O m K H 6 /  
お手馬でG1勝った時に「もう馬に乗れなくなっても良い」と泣きながら答えた息子はあまりにも有名

6 : 名無しが適当語り ID : Y e J G l c t V U  
落馬事故してから馬には乗っていなかった近江騎手が、番組の企画でn年振りに牧場で補助付きだけど馬に乗って涙ぐみながら「もう少し、この光景を見ていたかった」と呟いた回を見て俺は泣いた。

7 : 名無しが適当語り ID : L + 3 K r T E e O

文字だけでも泣ける

8：名無しが適当語り ID：hcqPLSVV6

>>>6

The 昭和親父の風貌で静かに涙ぐむ姿に俺の情緒もかき回されたよね

9：名無しが適当語り ID：zRnAvLl1Q

>>>6

私も騎手エピソードはあまり知らんのだけど、落馬事故の後PTSDにでもなってしまったんか？

10：名無しが適当語り ID：/ErzaHXRC

>>>9

PTSDというより、自分のミスで他の騎手や馬、騎乗していた馬を危険に晒してしまったから申し訳ない。信頼してくれた厩舎の人、オーナーにも合わせる顔が無いって感じで自分から十字架を背負いまくってた。

落馬事故の瞬間は映像で残ってるけど、素人目にはどう粗を探しても「しようがない」って言えるものだった。でも、職人気質の人にはしようがないで済ませられなかったんだと思われる。

その後、番組の企画で背負ったものと折り合いが付けられて、斗真氏のTwitterに投稿されたアセビの馬を語る近江氏に繋がるんじゃ。

11：名無しが適当語り ID：XoAesJizi

番組のラストでアセビの牧場に行つてボタンやスズナのお墓に手を合わせ、遅くなったなって撫でる光景を見て泣く斗真を見て泣く視聴者。

12：名無しが適当語り ID：lvrrphRcwK



>>11

あの光景はマージで泣いた

13：名無しが適當語り ID：jyZTMBq4o

>>11

その後、高垣氏と語り合ってる姿はあまりにもあまり。どうして神様は……

14：名無しが適當語り ID：2T1xQ7QOY

文読んだけるだけで泣けるんだけど、お前らよく知ってるな。

高垣氏と近江氏が語ってるって事は2000年より前の話だろ？  
よく映像見つけたな

15：名無しが適當語り ID：sorBR37SB

>>14

見つけたのでは無く、公式が何故かアセビボタンが実装するタイミングでリマスターした映像をお出ししてきたんやで

16：名無しが適當語り ID：OzAxZM4j5

公式ちゃん、あまりにもフツ軽

17：名無しが適當語り ID：p189Sdvgd

どういう事なの

18：名無しが適當語り ID：/m4hu2VWr

>>17

今すぐURL先を見に行くのです。金払わんと見れないコンテンツ  
ツだけど、この貴重な映像の前なら実質収入なのです。

https：／／

19：名無しが適當語り ID：FTNgBByS4

この映像見る度に斗真わつつつか!!! ってる

20 : 名無しが 适当語り ID : b2gXR3DD4

>>>19

分かる

21 : 名無しが 适当語り ID : lurcNb/uY

あの人も 騎手補正で若く見えるだけで 実際は結構いい歳や

22 : 名無しが 适当語り ID : EyVSznAcS

>>>10

Twitterの動画見返してきたけど、心残りとは言いつつも笑いながら思い出語って泣いちゃった

23 : 名無しが 适当語り ID : D64jpmc0V

俺だって、近江さんがもつと馬に乗ってる姿見たかったやで

24 : 名無しが 适当語り ID : jbdmM21MP

高垣氏と語り合う動画からの引用

「異さんがこの場所について思いますね。彼もこの場所に、この机を囲んでいるものと、あの時の俺だったら信じて疑わないでしょうね。どうして、才能ある人間を、神は愛するのでしょうか、凡人の俺は生き残ったと言うのに」

25 : 名無しが 适当語り ID : SllYvrjCY

おっも

26 : 名無しが 适当語り ID : mPcPLcgwU

これは 騎手重いエピソード入りですわ

27 : 名無しが 适当語り ID : J9j/syTEA

人間ちゆわん、自分自身を追込しないでもろて

28 : 名無しが適當語り ID : yB a p g t l m C  
十字架を背負うな

29 : 名無しが適當語り ID : n H l 7 Z i a b s  
俺はこの空気を変えるぜ!

小金井斗真騎手と言えば、お付き合いもプロポーズも奥様からだけ  
ど、その度に「貴女より馬を優先してしまうかもしれない」って言うつ  
てるエピソード誠実なのか、馬キチ過ぎるのか分からんけどとても好  
き

30 : 名無しが適當語り ID : d L r B j 4 l 7 o  
両方だと思うぞ (換気助かる)

31 : 名無しが適當語り ID : 5 x y P X p T M e  
貴女より優先してしまうかもって言われても、そんなお前が好きな  
んだよ!! (意識) する奥様格好良い。推させて。

32 : 名無しが適當語り ID : u n j R E c z R O  
奥様は今でも都合が付くレースの時は競馬場に行くらしいですね

33 : 名無しが適當語り ID : m n H R d Z q C c  
とま氏、こんな事言いつつ奥様の妊娠が分かった時は自分から騎乗

依頼を調整したり、臨月に入ってから騎乗数を最低限まで減らした  
りと推せるエピソードが出ててきまくるのさあ

34 : 名無しが適當語り ID : + L Q j e D o / N  
33

そんなん好きになっちゃうじゃん

35 : 名無しが 适当語リ ID : r j T V v V 5 Q G

そんなお父様の姿を見てか、娘さんも競馬関係(バレット)の道へ

36 : 名無しが 适当語リ ID : r e s J l T P 7 s

バレットってなんぞ

37 : 名無しが 适当語リ ID : b m o N m H U s t

>>>36

ざっくり言うとか騎手の助手みたいな感じ

38 : 名無しが 适当語リ ID : M 2 0 h D Q b J 8

>>>37

はえり、サンガツ

39 : 名無しが 适当語リ ID : e G u E J w a I k

娘さんのSNSで偶に投下されるお父様、お母様との家族写真で助かっている日々

40 : 名無しが 适当語リ ID : H 6 E R o + J y L

あの幸せそうな写真見て、此方も幸せになるという良い循環

41 : 名無しが 适当語リ ID : A o u U E F R S F

SNSはお仕事関係のRT程度&それに付随したツイートしかない小金井斗真さんの貴重な情報源

42 : 名無しが 适当語リ ID : u v Y 0 + s m y u

騎乗予定纏めてくれるの本当に助かっています。有難う娘氏。

43 : 名無しが 适当語リ ID : O o R U v / w O O

娘氏との絡みなら、フアンの人が撮ってた騎乗後に斗真騎手のヘルメットとかを受け取った娘さんへ有難うって言いつつ、頭撫でてあつ……ってなる動画がととてもとてもね

44：名無しが適當語り ID：VzG4IR18q

>>>43

俺が初めて声上げた動画じゃん

45：名無しが適當語り ID：sLJwf0TA／

>>>43

あつてなるって事は、無意識。無意識って事は普段からしている。

46：名無しが適當語り ID：E2iTvwey4

はくくく!!!

メディア露出少ない癖に、露出したらしたで核弾頭級のものをお出ししてくる小金井斗真くくく!!!

47：名無しが適當語り ID：ce2rNvxge

ウマ娘から本家を調べ始めなければ知らなかったおじさん萌え概  
念

48：名無しが適當語り ID：d+bUV5LfO

競走馬と共に魅力的な騎手が多過ぎるのがいけない

49：名無しが適當語り ID：VSSXKaWgd

全部、小金井って苗字の奴らがいけない

50：名無しが適當語り ID：iH5ZXcdM

小金井斗真騎手を知って、SNSを覗き、本人の年齢にビビったあの日

51：名無しが適當語り ID：dIIFyzElm

>>50

分かる。あの人若者っぽい文字書くよね

52：名無しが適當語り ID：VZKhQx/h0

とある極一部の界限で見た「小金井斗真ギャル概念」はSNSが元ネタなのか

53：名無しが適當語り ID：Id2VuDu/D

なんだよギャル概念って

54：名無しが適當語り ID：UWiTSv/Zu

知らない概念持ち出さないでクレメンス

55：名無しが適當語り ID：iz95bAEFV

知りたく無いけど、滅茶苦茶気になる

56：名無しが適當語り ID：hgIesW8vd

そんなギャルの方が2000勝&ツバキ姐さんが20歳のお誕生日に投稿したのがこちら

「今でもあの時の歓声を思い出します。

出会えた事は偶然だとしても、私にはとても大切な旅の日々でした。

どうぞ、これからも息災で。」

57：名無しが適當語り ID：kL6/PDWhE

か、核弾頭級ですわね……

58：名無しが適當語り ID：B99QpL7mf

然も2000勝目がジャック・ル・マロワじゃ無いけど海外レースで、牝馬の芦毛というね

59 : 名無しが適当語り ID : C q n Y n K m U u  
あまりにも出来過ぎている

60 : 名無しが適当語り ID : L P n I K d N N I  
というか、お父さんもそうだけどこの父子似てる所多いよね。偶然  
で後のG1馬を任されてたり、最初はあんまり上手く無い騎手だった  
り、思い出の馬が芦毛の牝馬だったり

61 : 名無しが適当語り ID : 6 I I b p n j w p  
>>60  
あと脳焼かれてるも追加で

62 : 名無しが適当語り ID : o o Y y S x f H i  
い  
斗真騎手のツイート、普段は私的な事を呟かないからこそ威力が強

63 : 名無しが適当語り ID : R / z O H + 4 o /  
もしかして、最近話題の牧草贈るやつでツバキ姐さんに贈られたT  
・Kさんって……

64 : 名無しが適当語り ID : K z d R 9 K O + 6  
>>63  
あつ……

65 : 名無しが適当語り ID : m R V M e 7 e U Z  
>>63  
あつ……

66 : 名無しが適当語り ID : 2 r I N q / m D X  
嫌、流石に違うと思う。

斗真騎手結構流行に疎い所あるから

67 : 名無しが適當語り ID : F+T5dewQO

>>66

でも、娘さんが教えてたら？

68 : 名無しが適當語り ID : H1+WElU5D

>>67

あつ

69 : 名無しが適當語り ID : iOjdH/+NF

TとKの組み合わせなんて幾らでもあるから！

70 : 名無しが適當語り ID : aUylg+hge

知らぬ方が良い事もある。

.  
. .

986 : 名無しが適當語り ID : OuW5npp5o

【朗報】

私的ツイートをしなくて話題の小金井斗真氏、(二元)お手馬達に会い  
に行った写真をツイートする。

https://

987 : 名無しが適當語り ID : 0XWCx1X0W

あまりにも良過ぎる

988 : 名無しが適當語り ID : HTGHyRnCa

相変わらず鳩さんおるの草



989 : 名無しが適當語り ID : jXvCOs0Jt  
そういえば、ロードお爺ちゃんにも乗た事あるんだっけか

>>>986  
990 : 名無しが適當語り ID : mwbd5xV/g

あ、あのあのあの、この写ってる御守りって

>>>990  
991 : 名無しが適當語り ID : zLHigIdfI

円谷オーナー↓小金井近江騎手↓斗真騎手と受け継がれてきたやつですねえ!!

992 : 名無しが適當語り ID : hN6N5bDV3  
真っ白ツバキ姐さん相変わらずふつくしい

993 : 名無しが適當語り ID : mLWqE/0n7  
でもどうして急に?

994 : 名無しが適當語り ID : 95TbPiu0i  
もしや：ツバキ姐さんが勝ったジャック・ル・マロワの開催日

>>>994  
995 : 名無しが適當語り ID : yWA6mKs3G

そういえば今日やんけ!!!!

>>>994  
996 : 名無しが適當語り ID : MKMIYIPR

愛が重いくく!!!!

997 : 名無しが適當語り ID : Fq19n2ID6  
かーッ!これだから小金井は!!

998 : 名無しが適当語り ID : R O f x B T f y k

こんな終わる寸前でネタが降ってくるスレは久々だよ

999 : 名無しが適当語り ID : s t Z O e 6 r W v

にしてもお写真の斗真騎手とツバキ姐さん、近江騎手とボタンちやんと同じくらいラブラブっすね〜

## 新旧のステークス

「今、アセビボタンが1着でゴールッ!!桜花賞へ向けて期待のできる走りでしたね!」

アネモネステークス、1, 600メートルの桜花賞へ向けたトライアル競走の1つ。

俺は先日契約したウマ娘であるアセビボタンが余裕そうな表情で後続を離し、先頭でゴール板を駆け抜けたのを確認して地下道へと脚を進める。

アセビボタンは「あの子」を目的にして、周りのスカウトを受けず練習レースにばかり出走していたから、実力はあっても本物のレースでは大丈夫なのかと心配したのだが、蓋を開けてみたら大丈夫。というよりも、余裕の一言。

何時もの澄ました顔で、表情を崩す事なく終わった先程のレース。しかし、僅かにだが脚の使い方が物足りない、様な、気がする。それを見ると、アセビボタンの適正距離はマイルというよりも中距離と言った所だろう。

まあ、ボタンの素質を見るにとんでもないものを持っているのは確か。本人が望むなら、距離に関係なくレースに出走させてみるのも良いかもしれない。

「よっ、お疲れ様」

「……はい。お疲れ様です」

「どうだった?公式のレースは」

「どうと言われましても、私は私の走りをして、あの子を目指すだけ」  
「相変わらずだな。だが、俺がいる事で出れるレースが増える事も事実!」

「ええ。そして、私が更に強くなる為に必要な歯車の1つ」

「……お、おう。そんな事言ってくれるんだな」

「当たり前です。トレーナーと契約したのですから、実力を示して頂けなければ困ります。どうぞ、宜しくお願いしますね。私をあの子に

勝てるウマ娘にして下さい」

「ああ……勿論だよ」

ボタンと軽く話して、脚に怪我が無いかのチェックをする。

細くもあるが、しつかりとした筋肉もある脚を軽く触りながら考える。

やっぱり、レースに勝てる。では、無いんだな。

騒がしい競馬場。

重賞では無いものの、かなりの人数が集まるこの場所で俺はたった1人でレース板の前に立っている。

2,000メートルに設定されたレースは概ね2分半あれば終わり、カップラーメンですら完成しない間に全ての結果が出る。

ファンファーレが鳴り、ウマ娘達が俺達からは離れた位置でゲート入りを完了させ、一斉に走り出す。

モニターで黒い体操着を確認し、走りに問題が無いかを大まかに把握する。

今の所は特に問題無く、教えた通り、自由に走っている様だった。ラストの4角を周り切って、ボタンが逃げの作戦を取るウマ娘へとじわじわと脚を進める。

離れた場所にいるこの俺にでさえ走る音が聞こえてきそうな踏み込み。

レースの終わりに近付くにつれ盛り上がる観客。

空気が揺れると呼べる程の熱気こそ重賞と比べ足りないが、それでも”想い”なら、重賞にこそ引けを取らない。

【アセビボタンが今、白富士ステークスを1着でゴールツツ!!】

「……よしっ!」

誰にも見られない程小さな言葉とガッツポーズ。

それを俺は直ぐに隠して、表情を戻す。

着順が確定され、3の数字が掲示板の1着の部分へ映し出される。それを確認し、地下道へ向かおうとすれば未だターフへ残っていたボタンが俺を見つけ駆け寄って来る。

「あの、トレーナーさん」

「?どうした?」

「また今日も、あの子には負けちゃいました」

「……そうか」

「でも、レースには勝てました。勝利のブイです……!」

俺に対して遠慮がちにVサインを向ける。

恥ずかしがっていた割に、表情自体は誇らしそうだ。

「ああ、おめでとう。ボタン」

「はい!次も頑張ります」

昔と比べ、ヤケに性格が変わったボタンを微笑ましく思いながら早くターフから戻る様に誘導する。

「……いや、性格が変わったというより、余裕が生まれたの方が正しいな」

誰にも聞かれない声で、俺は1つの答えに辿り着いた。

今日だけは、桜色を捧げて

2人の逃げウマ娘がレースを引っ張り、そこから約3馬身程離れて先行の集団が走る。俺の担当であるアセビボタンは集団の中では先頭。彼女にとっては1番良いポジション。

そのまま流れに沿って走り、何事も無ければきつとアセビボタンは勝てる。

レースに絶対は無いけれどあの皇帝と同じ様に”絶対がある”と言えるポテンシャルがあると、俺は信じている。

「オネストワーズとアップツリーの2人が数多のウマ娘を引き連れて最終コーナーへと差し掛かります!!1つ目のティアラを手にするまでは後500メートルと少しの距離!!ウマ娘達にとって最も苛烈な勝負所です!!」

2人のウマ娘は今の所順位が変わらずに逃げている。

しかし、追込、差しのウマ娘はじわじわと脚を進め、先行集団もラストスパートをかける為にそろそろ勝負をかけ始めるタイミングだろう。

アセビボタンは未だ脚を溜めているが、バ群に囲まれたらどうなるのか経験のないボタンがどうなるか少しだけ焦る気持ちに襲われる。落ち着け、走ってるのは俺じゃない。

俺は、この場所から彼女を応援するだけだ。

「……走れ、頑張れ、ボタン!」

強く握っていた手に一層の力が入る。

「最終コーナー曲がりまして、残り約474メートル!ここで先頭変わってアップツリー!オネストワーズの脚はもう伸びないか!!……おおっと!アンチエンジンが凄いい脚だ!!最後尾から一気に先頭へとやって来たぞツ!!1番人気のエーネアスはバ群に阻まれて少し苦しいか!!」

「行け、ボタン……アセビボタンツ!」

「このままアップツリーの逃げ切り勝ちか!……ここで1人のウマ娘

が突っ込んで来る!?あれは、アセビボタン!!2番人気のアセビボタンがここで阪神ジュベナイルフィリーズと変わらない末脚で突っ込んで来る!!前に届くか、届いてしまうのかーッ!!」

1人だけ違うエンジンを積んでいるかの様な末脚、ここまで音が聴こえてくるかの様な強烈な踏み込み。

黒い勝負服と、白い芦毛を揺らしたそれは遠い遠い先頭の影にすりきつと届く。

「ゴールッッ!!!1,600メートル、1つ目のティアラを手にしたウマ娘はアセビボタン!!このままトリプルティアラを手にするのか、それともアセビボタンを阻む1人が出てくるのか、今から見逃せないシーンとなりました!!」

もう数えるしか咲いていない様な葉桜から、祝福する様に桜の花が舞った。

「……お疲れ様、ボタン」

「お疲れ様でした。トレーナーさん」

優勝レイを肩に掛け、大方の写真撮影やインタビュを終えて控え室に入る。

これからは軽く身支度を整えてから、ウイニングライブとなっている。

「次はオークスカ。良い状態で走れる様に、トレーニングをやっていこう」

「あの、トレーナーさん。その事なのですが」

俺の提案に、ボタンは困った様に表情を歪めて、おずおずと声を上げる。

ボタンの目標はあの子に勝つ事だから、もしかしたらティアラには興味が無いのかもしれない。

「私、オークス……もですが、ダービーにも、出たいんです」

「ダービー?」

「はい。ずっと昔から、ダービーにだけは出なければいけない様な気がしていて、ダービーに出ないとあの子と同じ土俵にすら立てない様な、そんな、感覚があるんです」

「……そうか」

「ご、御免なさい変な事言つて！無茶ですから、どっちかに絞らないと駄目ですもんね！」

「嫌、そんな事は無いさ。ウマ娘が出たいレースに出て、勝てる様にサポートするのが俺の、トレーナーの仕事だ。だから、日本ダービーに出よう」

「本当、ですか!？」

「ああ！勿論だ！でも、1つだけ約束してくれ。ダービーとオークスは感覚が短い。もし、オークスの後に疲れが残っていたり、少しでも問題があれば許可はできない。良いな？」

「分かりました。有難う御座います！」

「それじゃあ、まずはウイニングライブを終わらせよう。アセビボタンの晴れ舞台だからな！」

「はいっ！」

笑顔になったアセビボタンと次の目標を決めて、俺は彼女が着替えられる様に控室を出る。

扉に背を預け、目を閉じる。

日本ダービー。数多くのウマ娘が挑戦して、夢叶い、敗れてきた最高峰のレース。

そして、オークスから間隔の短過ぎるローテーション。

俺は、その頂点へ自分のウマ娘を導けるトレーナーになれるのか。怪我をさせる事無くボタンが存分にパフォーマンスができる状態で持っていけるか。

「やってみなきゃ分からない。だな」



1 : 名無しが適當語り ID : i w B x 2 1 1 4 O  
この時期の阪神第11R芝1, 600mG1を見る度にあの馬を思  
い出します

2 : 名無しが適當語り ID : N 6 O s Y 0 Y B T  
映像も何も残ってないのにここまで語られるの稀有な存在やね

3 : 名無しが適當語り ID : D 5 1 G w a M 9 I

>>>2

ケウちゃん?!?!?

4 : 名無しが適當語り ID : Q N Y 0 q t 1 7 G

>>>3

おう、後ろに立って蹴られてこい

5 : 名無しが適當語り ID : X q e 2 H 2 3 Z F

突然500台に体重減ってたから驚いたぞケウちゃん

6 : 名無しが適當語り ID : i F s 5 v z 0 k P

500後半の体重あるのに驚かれる馬も珍しいわ

7 : 名無しが適當語り ID : s Q 4 N f A 1 d w

それはそれ、これはこれなんですけど今日に合わせてボタンの桜花  
賞イベ見直して泣いた奴おる？

8 : 名無しが適當語り ID : k + Q 9 v b N b B

>>>7

俺の話か？

9 : 名無しが適當語り ID : y p V P H i W 7 p

>>>7

突然ワイの事話すなよ、照れるだろ

10：名無しが適當語り ID：bTrwDyLDR

ハゲデブの照れた顔とか見てらんないわ

11：名無しが適當語り ID：ga4t8dncX

>>>10

なんだア？てめエ……

12：名無しが適當語り ID：oTz2dLnRd

ウマ娘だとボタンが走った阪神3歳ステークスは今だと阪神JF  
になって格もG1だから桜花賞だと2回目の勝負服着用になるけど、  
史実準拠で行けば初めて着たピカピカの勝負服でお父さんに初めて  
のG1の景色を見せるっていうね

13：名無しが適當語り ID：8vIOaEHOP

しかもボタンの勝負服って色が本当に最小限で作りもシンプルだ  
から、優勝レイを肩に掛けたら色が映えて満開の桜を見ている感じに  
なるの良いやね

14：名無しが適當語り ID：b/57ClzLj

>>>13

オタクにあるまじき語彙を見せるな

15：名無しが適當語り ID：SCUa/4Jkd

>>>13

君、一歩半の才能あるよ

16：名無しが適當語り ID：bxTVij/5l

なんだよ一歩半の才能って

17：名無しが適當語り ID：3YY+ngJJ3  
素直に「良いこと言うやん」でええやんけ!!!

18：名無しが適當語り ID：X8qBdL3qS  
桜花賞だところな泣けるストーリーなのに、この後が暫く曇り一辺倒なの本当に合ってます？

19：名無しが適當語り ID：rVDWjjzR5  
>>18

史実準拠なので

20：名無しが適當語り ID：RobH3vmK7  
>>18

アセビボタンは頂点から転げ落ちて再び頂点に上り詰める物語なので曇らせはある程度必要なのだ

21：名無しが適當語り ID：iMYKXjRFB  
思ったけど、ウマ娘の中で日本ダービーに出走した事がある繋がり  
でウオツカとも何かあると思ってたんだけど、今の所匂わせどころか絡みも無いよね

22：名無しが適當語り ID：q348/xtAe  
>>21  
そこ欲しくて永遠と待ってるけど、永遠に何も起こらん

23：名無しが適當語り ID：ST7Yk9Rh7  
ウオツカが勝った日本ダービーの映像を見る（or現地に行つて見ていた）アセビボタンに何故か話し掛けるたづなさんとか欲しい

24：名無しが適當語り ID：Se4ksuMoN

どうしてたづなさんが……？

25：名無しが適當語り ID：wiXo86DQw  
仲良しやからじゃない？（すつとぼけ）

26：名無しが適當語り ID：DdXJxufj0  
そりやあもう、たづなさんがトキ

27：名無しが適當語り ID：lgzJL3aAi  
……あれだけ戸締りには気を付けろと

28：名無しが適當語り ID：LEIZZPA3y  
>>>26

死んだか

29：名無しが適當語り ID：sm0giJwn  
本当にワンシーンだけで良いんで、「こんにちは」「うつつ！こんに  
ちは！」「一言だけのやり取りで良いんで欲しい

30：名無しが適當語り ID：nfSy7WDVo  
>>>29

それはそう

31：名無しが適當語り ID：K/QU3AdSk  
>>>29

ホンマに頼むわ

32：名無しが適當語り ID：/VopA7njA  
アセビボタン新衣装Verのイベントできたら良いなあ

33：名無しが適當語り ID：GJ4Rpm3Yt

そういえば、ウマ娘の公式が投稿するイラスト見た？

34：名無しが適當語り ID：tR6Ek5Bxr

>>>34

当たり前だよなあ!?

35：名無しが適當語り ID：q+mTG2Igt

>>>34

見ない人とかいるんですか!?

36：名無しが適當語り ID：cUIgaCPHf

>>>34

デアタクと並んでるのが堪らないですよ

37：名無しが適當語り ID：eQ3wqPrWr

タクトとポタンが背中合わせに桜の花を持っている構図が美しくてな、お爺ちゃん額に飾ろうかと思っただんじやよ

38：名無しが適當語り ID：CItyyJesT

真ん中の「あなたに捧げる桜色」って文章でオタクの涙腺はポロポロ

39：名無しが適當語り ID：bQjuZjYzS

ポタンはお父さん(馬主)、タクトは三冠と一緒に獲った騎手かな?って考えて俺は勝手に死んだね

40：名無しが適當語り ID：f0qZKZMFL

黒白のデアリングタクトと白黒のアセビポタン、バランスが良い

41：名無しが適當語り ID：Y+0e2/nWB

和装と洋装で分かれてるのも好き

4 2 : 名無しが適當語り ID : U M k J F V V k t

運営的には絶対狙った訳じゃ無いんだけど、このしっくり感凄い

4 3 : 名無しが適當語り ID : N Y 1 L O M E W 1

今気付いたけど、記念イラストの2人桜花賞勝ち馬だけじゃ無くて、実装されているウマ娘の中では活躍した時代が最古と最新のキャラって繋がりもあるんか

4 4 : 名無しが適當語り ID : E P H 7 + D O / z

>>> 4 3

ホンマやんけ!!

4 5 : 名無しが適當語り ID : f Y Z x 3 f 2 U Y

>>> 4 3

可愛い以外の繋がりがまだあったのか!

4 6 : 名無しが適當語り ID : V X b z u 5 G U 7

経緯は全く違うけど、ボタンも1度勝てなくなつてから復活の勝利を挙げたし、タクトももう1度つて思つてしまう。レースがそんな簡単じゃ無いっていうのは百も承知で

4 7 : 名無しが適當語り ID : 9 q I i G b o p 8

>>> 4 6

分かる

4 8 : 名無しが適當語り ID : F l K d e j f l e

>>> 4 6

ワイもタクトがもう1度優勝レイを肩に掛けている瞬間を見たい

4 9 : 名無しが適當語り ID : y E 9 W Y 5 l O O

ウマ娘を知ってからこんなばっかりや  
応援したい子が沢山いて時間が足らん

50：名無しが適当語り ID：usUVDHICg

>>49

良い事やで！無理はしない程度にな！

まだ、目覚めていない君は

東京競馬場。第11R。

18人のウマ娘で争われるGIIで、2着迄に入ればオークスの優先出走権が与えられるトライアルレース。フローステークス。

私はトレナーさんをお願いして、本来はトレーニング日だった筈の予定を変更して貰い、レースを見に来ていた。

「それにしても珍しいな、ボタンが敵状視察をしたいなんて」

「そうですね。基本的に私は相手の事を調べる、という事をしませんが、何となく。本当に何となく、見たいなど」

「そうか、それなら有力株の走りをしっかりと見て本番に活かさないとなー!」

「はい……!」

こんな事を話してる間にも枠入りが終了し、レースがスタートする。

始まってからは前情報の通り1人の逃げウマ娘さんが先頭に躍り出て、最初のコーナーを曲がる頃には先行集団へと6バ身程の差を作り上げる。

今日のレースは、逃げのウマ娘さんが1人、先行のウマ娘さんが10人、差しのウマ娘さんが2人、追い込みのウマ娘さんが5人という何ともアンバランスというか、先行と追い込みのウマ娘さんが少し多い印象である。

第1コーナーの奥からスタートして第2コーナーを回り向こう正面の直線、まだ動きは無い。

1000メートルのハロン棒を通過して、第3コーナー。徐々に後方のウマ娘さん達が動きを見せる。

残り600メートル、最後のコーナーを曲がれば約530メートルの直線。

差し、追い込みのウマ娘さん達全員が勝負を仕掛けるが、それは先行して走るウマ娘さん達も同じ。



逃げていたウマ娘さんはスタミナ切れか、単純に後ろがラストスパートをかけたからかバ群に沈んで行く。

ゴール板を団子状態になったウマ娘さん達が通過して掲示板へ着順が表示される。

フロールステークスは重賞、そしてGⅠであるオークスへのトライアルレースという事もあり1着、2着になったウマ娘さんはお互いがライバルである事を忘れて抱き合いながら喜んでいた。

「……………どうだった?」

2人でレースを走ったウマ娘さん達へ拍手を送りながら気になったウマ娘さんを報告し合う。

「私は、9番のウマ娘さんが印象に残りました」

「9番って言えば、ええと、11着の子だな」

「ええ。最後はバ群から上手く飛び出せずに惜しい結果となりましたが、光るものがあるかと……………もしかしたらオークスは難しいかもしれませんが、もう少しだけあの方が成長した後にとっても大きな偉業を成し遂げるかもです」

「二目惚れみたいだな」

「二目惚れ、しちやったかもしれないですね」

―育成ウマ娘イベント―

「気になる「二目惚れ?」

426：名無しが適当語り ID：Y6+o+uQF4

そういえばアセビボタンの育成イベントでのフロールステークスの9番って、アセビツバキの匂わせで合ってます?・

427 : 名無しが適當語り ID : neRaBBjxS  
バチバチの匂わせで合ってるぞ

428 : 名無しが適當語り ID : zTs r34OJw  
アセビツバキ戦績

フローステークス 11着

スイートピーステークス 5着

奇跡的にオークスへ出走できた！ 3着

429 : 名無しが適當語り ID : k a r Y W L s y Y

ツバキちゃん本場にシルバーコレクターというか、日本での結果が振るわないというか

430 : 名無しが適當語り ID : Y k E k N c u I Z

中央の重賞出れてる時点で上澄みも上澄みなのに、アセビ冠が付いたボタン後初の牝馬って事で変な期待されまくってたからね

431 : 名無しが適當語り ID : u 5 w 3 q F G u T

※尚、本馬の海外適正

432 : 名無しが適當語り ID : + y 2 w 8 p + l U

>>431

向こうで慣らしたとはいえ、国内であんまりだったのが海外G1だもんな

433 : 名無しが適當語り ID : a 8 r A M c L b 4

もしかして：凱旋門賞

434 : 名無しが適當語り ID : D t m y e q r V o

安直に凱旋門、凱旋門言えないけど日本よりも比較的重めの斤量背負ってあの末脚できたんなら、あのまま滞在して調教続けてたら揭示

板には入れたとは思う。

435 : 名無しが適當語り ID : o o 0 8 U t K o C  
ツバキちゃんやっぱり強かったよな

436 : 名無しが適當語り ID : y H k 2 8 j 0 H w  
国内G1は取れてないにせよ、G1含めた重賞で好走するし掲示板にも割と入ってたし、海外レース制覇は紛れもない強々牝馬さんや

437 : 名無しが適當語り ID : 6 m H M D J 6 Y N  
実装はできそうですか？

438 : 名無しが適當語り ID : Z 1 3 Q n o Y I X  
海外レースがウマ娘に実装できないとなんととも……

439 : 名無しが適當語り ID : R O v M E W E k k  
シリウスさんもそうだけど海外遠征要素をメインとしてお出で  
きない限りは難しいのでは

440 : 名無しが適當語り ID : n y G G O s L C E  
シリウスさんはいつ実装されるんですか!?

441 : 名無しが適當語り ID : H N E R n w M O C  
>>>440  
その前にビコーなんだよなあ……

442 : 名無しが適當語り ID : + J N u Z n 8 t y  
ビコーちゃん本当に早く来て。ポーノとトレーナーが待ってるん  
ですよ

443 : 名無しが適當語り ID : V 9 M B 6 T c E 6

まあまあもちつけ。

ツバキ姐さんの最新画像でも見ろ。

[https://](#)

444 : 名無しが適當語り ID : L3CypFI d 2

>>443

可愛い

445 : 名無しが適當語り ID : dAx6XPXNQ

>>443

これは紛れもなくKAWAII

446 : 名無しが適當語り ID : miPCF5fkb

>>443

シャワー浴びながら目キラキラさせとるの堪らん

447 : 名無しが適當語り ID : uKswZp5mY

ツバキ姐さんが可愛いのは勿論だけど、身体洗ってる牧場の方がニコニコしてるのも良いね

448 : 名無しが適當語り ID : poiqpMOVm

やっぱり姐さんは牧場の看板娘

449 : 名無しが適當語り ID : 2DFCwj+m2

>>443

一瞬間の洗い場が写ってるけど、もしかしてお爺ちゃんか？

450 : 名無しが適當語り ID : 6OSaB6pEm

>>449

毛色と鬘結んであるからお爺ちゃん間違いない

451 : 名無しが適當語り ID : N / UCjDxS8  
ロードつて鬣結んでゐるタイプのお馬さんなんか

452 : 名無しが適當語り ID : CMk / uKN6g  
>>>451

現役時代の調教助手さんが、障害は平地とは別の危険があるから無事に戻つて来ます様についてレース前、願掛けで一房だけ三つ編みにしてたのが受け継がれたんやで

453 : 名無しが適當語り ID : OfYH48g8w

>>>452  
はえゝ

454 : 名無しが適當語り ID : ArsuVQc6G

今では無事に戻つてじゃ無くて、お爺ちゃんが動きます様について願掛けになつてゐるけどな

455 : 名無しが適當語り ID : XfPCsXpHm

>>>454  
草。

お爺ちゃんは健康の為に真面目にお散歩して

## ◇下賜されるは、圧倒的な記録

最近ではもうあまり姿を見なくなったらしいVideo Home System、略してVHS。コンパクトカセットを大きくした様な見た目のそれを突然家にやって来て、突然渡してきたチカラちゃんに困惑しながら機械に入れ、読み込ませる。

そして、読み込みが終わりに再生ボタンを押せば少しノイズの混じった音と映像がテレビに流れ始める。

【第纏阪？回天皇賞―春―！今回のレースは異例も異例！阪神競馬場、――。――。――の3、200メートルにて行われます！！まずは出走ウマ娘を見ていきましょう！】

所々聞き取り辛い部分があるが、私とチカラちゃんの年齢差を考えたもそんなに驚く程の変更はされていない筈だ。

それにしても天皇賞という大きなレースで出走ウマ娘が7人とは、確かに異例も異例である。

【1番人気はこの娘！GI、菊花賞を含めた現在9連勝中の綱楯Nタケ！今日のレースで10連勝という記録に昇華できるのか！2番人気はトキノチカラ！GI勝利こそありませんが、特別ルールでの中山記念制覇や阪急杯でのレコード勝利など、長距離レースで素晴らしい結果を残しているウマ娘です！】

画面に水色を基調として差し色に所々紫の入った勝負服を見に纏うチカラちゃんが、お客さんへとファンサービスをしている。

映像越しに見ても仕上がりは絶好調といった風で、ありきたりだが「強そうだ」という感想を覚える。

「ねえ、チカラちゃん。アナウンサーさんが言っていた特別ルールって？」

「ああ、それね。なんかURAが先取りレトロブームだったのか昔のレース状態でやってみよう！ってなったらしいよ……だから、中山記念も今は冬の1、800メートルだけどあの時は春と秋開催で3、200メートルだったし、阪急杯だって今は芝の2、400メートル



【さあ！異例尽くしの阪神競馬場、天皇賞という大舞台は残り1,000メートルを切りましてこのままトキノチカラが独走してしまうのか！】

アナウンサーさんが興奮した様に叫んでいるが、流れている映像は言葉通りの独走。

これはきつと、能力差というよりもダートへの適性、トレーニングで得たスタミナの差が出ているのだろう

【ああ!!トキノチカラが逃げ切るぞ！後ろも懸命に追うが追いつけない！これはもうセーフティリードだ！】

沢山の土を巻き上げてチカラちゃんだけの蹄跡だけが刻まれる。

確かにこれは、私の走りに取り入れられ無い。

見慣れない必死な顔で汗を流しながらチカラちゃんがゴール板を駆け抜ける。

【天皇賞―春―の勝者はトキノチカラ！トキノチカラです！勝ちタイムはなんとレコードの3.25.2！着差にして実に4バ身以上！2着には.....更に3バ身開いて3着は縋ッ縋「縋上ち

！クビ差4着は縋槭Nタケ。大きく離されて縋輔け縋サ縋、縋ウ、ゴーフ縋エ縋シ縋ウ。.....は途中で競走中止しています】

終わってみれば、レース結果も異質なものとなった天皇賞は矢張りというべきか特別ルールによって見た事が無い結果となった。

レースから意識を戻し息を吐き、お茶を一口飲んで純粋な感想を口に出す。

「これは.....参考にできない、かも」  
「でしよー？」



## 再び出会えた奇跡を掌で重ねて

一部の人間にとっては見慣れたも同然な特徴的な紫色の制服。顔の横、俗称として触覚なんて呼ばれる部分を片方のみ垂らし、三つ編みのハーファップを揺らした1人の女性。

白い耳に牡丹の飾りが特徴的なリボンを巻いたその人は、とある重賞レースが終わった後、記念撮影のタイミングでターフに現れ、関係者の横に並ぶ。

パシャパシャとシャツターが切られると、馬主と思わしき男に気前良く促され、勝ち星を挙げた馬に触る。

撫でられて気を良くしたのか馬は女へと顔を寄せ、女も寄せられた顔を抱き締めた。

紫色の制服を知らない競馬のファンにとっては見慣れないが、少し絵になる光景だった。

1：名無しが適當語り ID：W a q / 5 J K T 7  
今日もお疲れ。

適当に語って良いよ。

2：名無しが適當語り ID：T U O + 8 r Y 8 I

### 【速報】

ウイナーズレディ×ウマ娘コラボとしてアセビボタン役千鳥洗さんが登場。

<https://twitter>

3：名無しが適當語り ID：Q X I G h I k h G  
まさか現れるとは……

4：名無しが適當語り ID：o V U 6 6 M 2 v R  
せんどりさんこういうの絶対やらないタイプだと思ってたのに、ま

さか過ぎて椅子から転げ落ちた

5 : 名無しが適當語り ID : 2S r i K d r h 5

千鳥ネキが出て来るなら行けば良かった……ちくせう……

6 : 名無しが適當語り ID : b E e y T L j U N

>>1

それにしてもせんどりさん美人やな

7 : 名無しが適當語り ID : z 9 A v P p L b o

洗さんアセビボタンであれだけ脳焼かれてんのに、本物？のコस्प  
レして平気なんか???

8 : 名無しが適當語り ID : 5 B H d D U o A 3

流石に大丈夫やる。大丈夫だよな？

9 : 名無しが適當語り ID : f E l b V j / q t

ウイナーズレデイ用の制服がよくお似合いで

10 : 名無しが適當語り ID : C k / j K M v R P

俺現地行ってた民。

歴戦の競馬おじさんらしき男性と、一般競馬おじさんらしき男性  
(恐らく孫?) がいてウイナーズレデイとして出て来た千鳥さんの姿  
を見て「なんだあれは?」「あれはこれこれこうで」って会話してい  
るのが近くに立ってたから偶々聞こえてたんだけど、男性が説明して  
る時の「」で、あの方は声優さんでアセビボタンって名前のウマ娘を  
担当しているんだよ」って言い終わった後に「アセビボタン?!」って  
反応してたのが凄かったです (小並感)。

11 : 名無しが適當語り ID : B X O S I S I e C

>>10

俺もそれ多分見てたわ。

年代的にボタンをリアルタイムで知ってる人はまだご存命な年齢だし、歴史の生き証人を見た気分だったわ

12：名無しが適當語り ID：wmcn6xFS p

ボタンでもギリおるんだし、スズナとかのアセビ冠をリアルタイムで見てた人もいるんだよなあ

13：名無しが適當語り ID：Qh27IVLEW

>>>10

そのシーンを撮影してた人おるけど、お爺ちゃんが「アセビボタンののか!？」って驚いてる声に千鳥さんが反応して、ちよつと振り向いた後手を振ってたのマジで所作がアセビボタンだった

14：名無しが適當語り ID：MFLQUyZIU

流石アセビボタン過激派オタクや

15：名無しが適當語り ID：uqDVWno4M

アセビボタンに相応しい女になりたくてジム通い始めた女は違うな

16：名無しが適當語り ID：UiHy6IOSo

>>>15

また千鳥さんの知らないエピソードが増えてる……

17：名無しが適當語り ID：mGzQiLsq q

千鳥洸、一年くらい不摂生な生活になってたらしくお風呂に入った時に見た自分の身体があまりにもあまりで、こんな身体でボタンの視界に映るなんて、とジムと食生活の改善を開始。目に見えて体調が良くなった模様。

18 : 名無しが適當語り ID : 6 r Y d l f g B U

でも、千鳥さん言い方は悪いけど不摂生してた割にデブってるとかはなかったよね

19 : 名無しが適當語り ID : v l H / 2 a v W h

まあ、インターネッツにおける様なドカ食い気絶部みたいな不摂生はしてないからな

20 : 名無しが適當語り ID : s M Z b k X w Z T

ガチ底辺ニートとある程度忙しくしてる人の不摂生の違いや

21 : 名無しが適當語り ID : H T l B y F L g n

>>>20

お?泣いてええか?

22 : 名無しが適當語り ID : 8 o B h i W v 5 5

>>>21

泣く前に働け

23 : 名無しが適當語り ID : B L a G H W B O H

それにしてもレース後の記念撮影の時に勝ち馬が千鳥さんの方がン見してる写真好き

24 : 名無しが適當語り ID : B m r 6 C H T Y k

あれ好き

25 : 名無しが適當語り ID : X + K B I w l W t

本物の馬にも同類だと思われてる可能性

26 : 名無しが適當語り ID : J c e B c m M 7 q

>>>25

流石にそれは無い。無いよな？

27：名無しが適当語り ID：sKh025QVw  
ただ単にじつとしてられないだけやろ

28：名無しが適当語り ID：uvt aFx3Pi  
ワンチャン騎手とかを見ている可能性もあるしな

29：名無しが適当語り ID：hMNB4sRR5  
勝利ジョッキーも小金井騎手だったし、推しと推しの共演は健康に  
良い

30：名無しが適当語り ID：dLWU6tuTi  
>>>29

勝利ジョッキー斗真氏だったのか!!  
まだしつかり情報見れてなかったから驚いた！なんと！

31：名無しが適当語り ID：Ma iMNa I / l  
アセビボタンがウイナーズレディのタイミングで小金井近江の息  
子が勝つとか筆乗ってるな

32：名無しが適当語り ID：vBn1b+B77  
競馬の神はこういうのがお好みなのね

33：名無しが適当語り ID：/Qx1RZ0ta  
自分でもちょろいと思うけど、今日の勝ち馬が俄然気になってきた  
な

34：名無しが適当語り ID：OSxOhOVlg  
>>>33

競馬なんてそんなもんや

35 : 名無しが適當語り ID : 6WKz+ / f7w

>>33

今日のレースで重賞初勝利だけど6歳で馬主的にももう直ぐ引退になっちゃうから、残りレースは何がなんでも買え。そして引退後も見守り続ける。

36 : 名無しが適當語り ID : /UFJD1Ccj

>>35

そうなのか、有難う

37 : 名無しが適當語り ID : 6yDjYpioA

今週はせんどりさんのウイナーズレディやったし、来週はVMだしで盛り沢山やね

38 : 名無しが適當語り ID : q / w / iqBF1

来週もウイナーズレディとして出て来んかな……生ボタン見たい……

39 : 名無しが適當語り ID : VSjd8QZ7c

出ると良いな。俺も見たい。

40 : 名無しが適當語り ID : 678CIFQHr

というかVMデーの日に千鳥さんがウイナーズレディするとして、更に白毛のアイドルが連覇なんてしたら

41 : 名無しが適當語り ID : bgEZiyLhy

>>40

美“じゃん

42 : 名無しが適當語り ID : FyRqOdGCL

>>>40

あー駄目駄目、そんなカメラの容量足りなくなっちゃいますわ

43：名無しが適當語り ID：oEQ5VD76Y

>>>40

大外も大外だけど追い付け追い越せ引っこ抜けできればワンチャ  
ン

44：名無しが適當語り ID：adja fjGM3

>>>43

誰がゴリラだって???

45：名無しが適當語り ID：HUTCmb8aH

>>>44

言っていないんだよなあ……

46：名無しが適當語り ID：LlX8rNHbd

>>>44

トレーナーが掛からないで

47：名無しが適當語り ID：S3f5XwPRS

アースちゃんでも良いよね。

三冠を期待された二冠馬と、三冠確実だと言える能力があつた一冠  
馬。

48：名無しが適當語り ID：9cu7EGLZT

>>>47

良い……。

49：名無しが適當語り ID：z/WvtqCTI

競馬に絶対は無いし、ボタンと並んで欲しいから他の馬は負けろな

んて意見は以ての外だけど、その2頭の何方かが勝ったら脳みそ焦土化するかもしれん

50：名無しが適當語り ID：K/CvdMMQK  
分かる。

でも、俺から言えるのは皆頑張れ〜!!!

怪我には気を付けてな〜!!!

馬、人間がターフから去った後、関係者しか入れない場所で制服を着た女へ、白を基調とした勝負服を着た男が声を掛ける。

「えっと、千鳥洗さんで、合ってますよね？私は小金井斗真と申します」

「ご丁寧にどうも。ウィナーズレディとして並ばせて頂きました、ウマ娘のアセビボタンを担当しています。千鳥洗です」

「すみません、突然話し掛けてしまって。厳密には違うものとは言え、私にも縁がある名前ですから」

「はい。私もいつかお会いしたいと思っていました」

サラブレッドでは無く、人間。

小金井近江では無く、その息子。

あの時代の日本を盛り上げた存在そのものでは無いけれど、確かに名を受け継いだ新しい1頭と1人の縁がこの瞬間に結ばれた。



## 6月に隠される耳

上質な生地、白で統一された着物は裏地が赤く染められている。金糸がふんだんに使われた鶴や花の刺繍が珍しくも無いが、あまり見る事も無い程に沢山。それでいて華美になり過ぎない絶妙なデザイン性を保っている。

着物を纏う女性の顔は、殆どが綿帽子に隠れていた。

荘厳な森の中、何千年と歴史が紡がれている建物の前で佇む姿は一言で表すなら正に「美」。

木々の隙間から落ちる光と、錦帽子が落とす影、整えられた髪の毛から覗く瞳は藤紫。

女性向けファッション誌の1ページ。本来ならば場違いだと言われても仕方無い結婚という結びを主題にした写真。世界に名を轟かせているデザイナーが初めてデザインした白無垢。

A4変型サイズいっぱいに掲載された写真は数多くの女性を虜にし、出版社が発したSNSでの広告からいつしか性別、見ている層関係無く広まっていき、雑誌では珍しい重版を重ねる事となる。

しかし、全ての人間、全てのウマ娘から目を奪った写真のモデルの情報は一切無く、プロフィールすら見つからなかった。

数多くの事務所を探しても、業界の人間が是非にと探し回っても髪の毛一本分の情報すら手にする事は無かった。

いつしか件のファッション誌は「伝説」なんて身の丈に合わない呼び方をされ、写真のモデルは社会を巻き込んだ胡蝶の夢となった。

1：名無しが適当語り ID：jubJErpy

で、結局あの雑誌のモデルは誰だったの？

2：名無しが適当語り ID：Ilrtrxlrx

分からない

3 : 名無しが適当語り ID : A O H h z e N V t  
永遠の謎

4 : 名無しが適当語り ID : E d N i J 2 I Z 4  
雰囲気としてはウマ娘さんっぽいよね。特別美人Ⅱウマ娘さんつて図が勝手にできてるだけなんだけどさ

5 : 名無しが適当語り ID : p F d V w j X 9 Q  
>>>4

なんかそれ分かるわ。人間でもうわ美人!! って人沢山いるけど、ウマ娘はそれとはまた違う美しさというか

6 : 名無しが適当語り ID : P f a p X B X M 8  
ウマ娘さんでも見つけたりそうだけどなー

7 : 名無しが適当語り ID : 6 V P o 4 i P q x  
ステルス能力が高過ぎるツピ

8 : 名無しが適当語り ID : a c Z o Y R b R U  
マジで誰 i s どの人

9 : 名無しが適当語り ID : h + W u K j N B y  
出版社はモデルについてはダンマリだし、事務所に所属しているモデルさんでそれっぽい雰囲気の人はおらんかったし、なんなら事務所側がうちの事務所に!!! してたけど見つからなかったから夢だったのかもしれん

10 : 名無しが適当語り ID : A i t z M G u Z p  
雑誌の重版がかかる程の夢……???

11：名無しが適當語り ID：bD52VId  
もしかしたら、一般の、モデルとか芸能界とかには何も関係ない子  
だったりする？

12：名無しが適當語り ID：2/m9JVboh

>>11

それは無いやろ

13：名無しが適當語り ID：rPATIjrRA

>>11

それこそ一般の子だったら事務所に所属するやろ

14：名無しが適當語り ID：CBn4Rs2Fc

でも、その子が本当にウマ娘だったら？ウマ娘ってシチーちゃんみ  
たいな例もあるけど、基本的にレースが1番じゃん？

15：名無しが適當語り ID：33EdwfDt7

そう言われたらそんな気もする

16：名無しが適當語り ID：+zKCEdZjq

ウマ娘だったとして、突然プロの現場にどうも！って出来る？

17：名無しが適當語り ID：YjImgSwzh

それは、あのデザイナーさんだからよ……

18：名無しが適當語り ID：o3savgnj

そういえば今回の白無垢デザインしたのって……

19：名無しが適當語り ID：iSYQFIU5Y

俄然有り得そうな気がしてきたな

20 : 名無しが 適當語り ID : 0E7NmIxLN  
あの 人 突飛な 事をする 事 で有名だからな

21 : 名無しが 適當語り ID : L9frVTdzT  
突飛過ぎて T G K でお客さんを引張ってランウェイ歩かせたんだもんな……

22 : 名無しが 適當語り ID : x9uqve7G /  
まあ、その方が今はパリコレモデルになってるんですけどね

23 : 名無しが 適當語り ID : GOAt2KrvM  
ほんとあの 人 倫理観を犠牲にして才能を見出す目を入れたからな

24 : 名無しが 適當語り ID : MAetCferW  
じゃあ、あのモデルさんは日本 or 海外の一般ウマ娘さんという事で宜しいですね？

25 : 名無しが 適當語り ID : V8lAhg7uK  
>>>25  
悲しいけれど意義無し

26 : 名無しが 適當語り ID : KqF4fhyoe  
>>>25  
もうそれ以外無いでしょ

27 : 名無しが 適當語り ID : Iicw8xfhf  
いつかまたあの 人 の写真見たいなく。本当に綺麗だったもんね。

28 : 名無しが 適當語り ID : 58cHjNO4J  
>>>27

それはそう

29 : 名無しが適當語り ID : 80SQC15W0

>>27

めつつつちや分かる

30 : 名無しが適當語り ID : ri / uVZDHA

デビューを願って

## 猫は牡丹の花に集まるらしい

アセビボタンは動物に懐かれやすい。

幼少期から実家で飼っていた犬や猫、小鳥やハムスター等に触れていたからか、元来のアセビボタンが持つ才能か。

トレセン学園という一種の閉鎖空間に身を置くまではアセビボタンが野良猫を惹き付けて、ハーメルンの笛吹きウマ娘をする事で有名だった。

トレセン学園。

数多くの個性豊かなウマ娘が切磋琢磨する日本屈指の学び舎。

時刻は昼の12時、食事をするウマ娘、会話に花を咲かせるウマ娘、休息を取るウマ娘と様々である。

「……あれ？」

毛先だけが黒くなった特徴的な芦毛を揺らすアセビボタンは、目の前の通路に1匹の猫が寝転んでいる姿を見つける。

野良猫にしてはヤケに落ち着いていて、毛艶も良い。

誰かの飼った猫かとも思うがトレセン学園の寮はペット可の物件だったか？

それとも、過去にあった鹿や狸に懐かれた時の様な、突如現れたタイルプなのか？

ボタンは様々な事を考えて、取り敢えず遠い距離にしゃがみ、手を伸ばす。

「猫さん」

ボタンの声に反応した黒い毛並みの猫は寝転んだ地面からゆつくりと立ち上がり、伸ばした手に擦り寄ってくる。

無意識に自身の尻尾が揺れる事を感じながら、徐々に触れる範囲を広げていく。

そうすれば直ぐに猫はお腹を見せ、ゴロゴロと喉を鳴らす。

「猫さん、猫さん、かいらしいね」

類が緩むのを自覚しながら、残りの昼休憩一杯までこの場所にと心に決め掛けた所でボタンの耳に突然大きな音が響く。

「はーっはっはっは!!!そこにいるのは紛れも無くプリンセス!!!」

「にゅ!?……あ、ティエムオペラオーさん」

「この場所では出会うのも何かの縁!……おや?その美しい髪色に隠れている猫は……」

「この子ですか?多分、野良猫さんだと思うんですけど」

「フム。しかしプリンセス、その子はボクのもの、いやボク達のもの!!!探し猫なのさ!!!」

「あつ、そうなんですね。どなたかの飼い猫さんですか?」

「理事長のだね!!!」

「りじ……まあまあ、それは」

ボタンが抱き上げた猫は飼い主を心配させている事は気に留めず、腕の中で呑気に今も鳴いている。

「心配させては駄目ですからね」

「ニヤーン」

「あらあら」

「では、プリンセス。差し支えなければボクが理事長室までエスコートをしてもらおう」

「ふふっ、お願いしても良いですか?」

「勿論だよ!任せちゃったまえ!」

嬉しそうに動くオペラオーの尻尾を見つめながら、ボタンは可愛らしい子だなあなんて思いながらその背を追う。

何故か呼ばれる様になった「プリンセス」なんて渾名に少しだけ、恥ずかしいなあと思いつつながら。

◇馬とウマ、忘れられない鬼籍のヒト。

「アセビさん、」機嫌は如何かな？」

うん。元気だよ。

つぶらやせんせいはお元気かな？会いに来てくれたのが久しぶりだから、わたしはとつても嬉しいの。

でも、ここはお外じゃ無くてお部屋の中だから騒がない。むかし、それで怒られたからちゃんと言えたの。

「身体も、もう、白くなってきたね。アセビさんは芦毛だから成長がとでも分かり易いよ」

んふふ、そうでしょう？

わたし、素敵なオトナになるんだもの。

わたしをいじめてた子達よりも綺麗でりっぱなオトナになるの。

あつ。つぶらやせんせいの頭もちよつとだけ白いわ。わたしと同じ、お揃いだね。

だけど、つぶらやせんせいは昔とちがつて、最近はゴホゴホってしているから心配なの。わたしの手とせんせいの手は違うから、わたしはせんせいの頭を撫でて「大丈夫」をしてあげる事ができない。

「……心配してくれて有難う、アセビさん。私は大丈夫だよ」  
「先生。これ以上はお身体に障ります、もう休みましょう」

「そう、ですね……アセビさん、大丈夫。私は大丈夫だから、ね」

わたしはお返しにせんせいを撫でる事ができない。だから、代わりに精一杯顔を寄せてわたしの元氣をつぶらやせんせいとにあげるの。

わたしのお鼻を寄せて「元氣になあれ」って、たくさん沢山お願いするの。

カラカラって音を立てながら、つぶらやせんせいが丸いが付いたイスに乗ったまま帰って行く。

わたしはすつごく寂しくなるけれど、また来るねって約束してくれ



だから、わたしはお利口さんにして待っているの。  
早く、つぶらやせんせいが来ないかしら。  
せんせいに会えるのがとつても楽しみなんだから。

目覚まし時計の音が聞こえて、強制的に意識を戻される。

身体を起こせばカーテンから漏れる光に照らされる部屋と、歪んだ視界。目に異常でも起きたのかとそつと両手で触れてみれば、漸く私が泣いていた事に気付く。

幸せな、夢を見ていた気がする。

幸せで、ずつとずつと続けば良いなど願った日常を見ていた気がする。

それなのに何も思い出せない。

私の他に誰かがいた。

きつと大切な人の筈なのだ。

なのに、顔も声も思い出せない。

心の底から大好きで、大切な誰か。

「……もう一度、会いたかった」

無意識に零れ落ちた言葉の矛先は誰なのか。

この、形容し難い小さな悲しさはどうすれば良いのか。

「先生が生きていたら、教えて、くれたのかな」

朝から心の中に生まれる違和感を抱えて学園に行く準備を進めていけば、その途中にカレンダーが目に入る。

ああ、そうか。今日は父の日なのか。

久し振りに先生に会いに行こうかな。先生なら、私の知らないこの気持ちの答えを教えてください。

そうだね。きつと、それが良い。

沢山の透百合を持って、会いに行こう。



## 少し昔の思い出と決意する心

「ローカルシリーズの上半期ダートチャンピオン決定戦帝王賞！残り500メートルを切ったが先頭はまだ逃げる！後続に3バ身のリード付けているが差が縮まらないッ！」

トウインクル・シリーズとは違い、平日の午後から開催され、ナイターと呼ばれる夜にもレースが開催されているローカルシリーズ。

その中で特に位の高いJpn1、帝王賞。このレースはローカルシリーズの子も、トウインクル・シリーズの子も等しくレースに出走する交流戦。しかし、歴史としては矢張りと言うべきかトウインクル・シリーズに所属している子の方が優勝率も、レース結果の総合的な順位としても高い。

だが、今日は違う。

ウマ娘の中でも特に特徴的な、緑の髪を揺らして後続を寄せ付けずに只一人。先頭を走る少女。

海を越え、九州の地からこの東京の地にやって来た俺の、幼馴染。

俺が地元から上京してしまった事もあって久しく姿を見ていなかったが、記憶にあるちんちくりんな姿とは打って変わって、見た目も技術も立派になっている。

「そのまま逃げろ、走れ、トウカーナエ」

きつと、周りに掻き消されて聞こえない応援を必死に送る。

レースの終わりに比例して歓声が一段と大きくなる。

【独走状態で今ゴールインッ！後続にこれだけの差を付けて5年振りにローカルシリーズ所属のウマ娘が1着！サガトレセン学園所属のトウカーナエが優勝です！トウインクル・シリーズにも負けない輝きを示しました！】

トウカーナエがゴール板を追い越した場所で笑いながら観客へと手を振っている。此方は久し振りのローカルシリーズ所属のウマ娘が優勝ともあって興奮冷めやらぬといった感じで、暫く次に進みそうもない。

記念と思い一枚だけ幼馴染の写真を撮って、俺は優勝インタビューまで待たずにレース場を後にする。

明日もまた、朝が早いから。

数多くのカメラに囲まれて、大きな照明に照らされる砂の前に勝負服を身に纏い、肩から優勝タイトルの刺繍されたレイを掛けたまるで沖繩の海のような髪色をしたウマ娘がマイクを向けられる。

「それでは、帝王賞を優勝されたトウカーナエさんへインタビューを行います。まずは、率直に今のお気持ちをお願いします！」

誰もが一人の少女を祝福する中、緊張した面持ちでその口を開く。

「あの、まだ………実感が湧かなくて………えっ、と、まさか、帝王賞に勝つとは、思うとらん、やった。

ばってん、うちの指導してくれたトレーナーさん………応援してくるっ皆さんへ、立派な姿ば見せらるっごと必死に走った。

………ダートん、頂上決戦と名高かこん名誉ば手にすっ事ができてほんなこっ嬉しか！」

あいがとう御座った！よか夢ん見れそうばい！」

ローカルシリーズ所属のウマ娘特有の言葉使い。

時にそれは難解で、理解に苦しむ事になるのだが、トウカーナエの発する言葉は分かり易い。

たっぷりと時間を掛けて、訛りを織り交ぜて言葉を言い終わった再び惜しみの無い賛辞が送られる。

そして、少女は漸く、緊張を解して大輪の笑顔を咲かせたのだった。

## 空の川を眺めていた

七月七日、織姫と彦星が1年に1度、唯一顔を合わせる事が出来る  
とされている日。

街は瑞々しい笹で彩られ、トレセン学園にも大きな笹が飾られた。  
深い緑を飾り立てる色取り取りの長方形に込められた願い。

「脚が速くなりますように」

「怪我が早く治りますように」

「これからも健康に過ごせます様に」

「あの子に勝つ!!!」

「G1獲る!絶対獲る!」

人それぞれ、何百もの願い。

今頃は煙に乗って空に届けられているのか、はたまた水に乗って未  
来へ進んでいくのかは分からないけれど、私は強欲だから、全ての願  
いが叶います様にと願ってしまおう。

「チカラちゃんはお願い事書いた?」

「ソー?うん。書いたよー何書いたかはヒミツだけどね」

「ええ?そう言われたら気になるなあ」

「ダメだよ。お願い事言ったら叶わなくなるって言うじゃん?ボン  
ちゃんが教えてくれるなら、言ってもいいけど」

「ふふっ、私も嫌だよ」

【デシヨ?】

たった1日しか飾られていなかったにも関わらず、強烈な存在感を  
放っていた笹が無くなった広場の真ん中でチカラちゃんと笑い合う。

一体、チカラちゃんはどんなお願いをしたのだろうか。

「長生き」

「お金持ち」

「世界一」

「恐竜になりたい」

チカラちゃんの性格を考えるのならば、こんな感じか、少し前に恐

竜になりたいって言っていたし、真面目にそう書いてそうで面白い。

「あつ、もう少しで授業始まるから、そろそろ切るね」

【あー。午後もガンバッテね、かましていけ〜！100回手上げてこ】

「100回は無理だけど、沢山頑張るよ」

【オー！】

もう慣れたやり方で通話を切って、身体を伸ばす。

教室に戻ろうと、携帯をポケットに仕舞って見慣れた影を見つける。

「トレーナーさん、こんにちは」

「……ボタンか。こんにちは」

「まだ数時間後の話ですけど、今日もトレーニング宜しくお願いしますね！」

「任せとけ」

「あつ！トレーナーさんは、七夕にお願いしましたか？」

「え？ああ、七夕か……七夕ね……残念な事に、この歳になると、イベントに疎くてなあ」

「何を言いますか。まだお若いのに」

「お若いって言っても、四捨五入して三十路はもうな」

「そんなもんですか？」

「そんなもんなんだよ」

ふーん。なんて、相槌を打ったら、狙いすましたかの様に予鈴がなる。後5分で午後の授業が始まる。

トレーナーさんとの会話を切り上げて、私は怒られない程度に廊下を走る。

階段を登って、自分の席に着き、教科書を机に乗せる。

「あつ」

偶然視界に映った世界の遠くで、一筋の煙が見える。

野焼きか、それとも、願いを込めた帝の想いか。

口にしようが我が愛はない

「あれ？こんな所でどうされましたか。もしかして、体調が優れませんか？」

「ん……ああ、嫌。違うよ。只、息がしたくてね」

「息ですか？……矢張り、喘息の症状でも……」

「そうじゃ無いんですよ。本当に、この場所で呼吸したいだけ、今日は破滅する気持ちでも無いから」

「？不思議な方」

「そうかな。そういえば、君は夢に身を寄せなくて良いのかい？」

「夢。私は今日、夢を見る日では無いので」

「そう」

騒がしいレース場。それも大きなレースが始まる瞬間の、沢山の目が一点を見つめる微かな時間に世界で2人だけが誰もいない空虚に隣り合わせで存在している。

1人はスーツを着た男。1人は頭の上に耳を生やした女。

2人にまともな音は無く、少し時間を隔てた喝采の様な盛り上がりも無い。

「お兄さん。レースはお好きなんですか？」

「お兄さんと呼ばれる歳でもないんだけどね、まあ、好きなんじゃないかな」

「そうですか。あつ、私の顔は知ってます？」

「知らないよ。僕は馬の顔しか知らないから」

「ウマの顔……やっぱり不思議。貴方と話していると、なんだか自分が特異な存在だと勘違いしそうになります……お兄さん、好きなウマ娘はいるんですか？」

「ウマ……馬か。僕が好きなのは雷神様だったけれど、このセカイにはいないんだ」

「いない？まだデビュー前？それとも引退された方？」

「君が気にするものでも無いさ……そうだね、あの、ミスターシー

ビー。その名前には注目しているよ。今度は最後まで見れると良いんですけどね」

「そうですか。それは良かった」

「良かった？」

「ええ。お兄さんに趣味があつた、それだけで我々が生きる意義が生まれる。ノンフィクションを届ける意味がある。お兄さんに趣味が無かつたら、それこそ百鬼夜行の様に、沢山の人を不気味に演技させる様な雰囲気があるから」

「それはもう、してしまつたかもしれないね」

「……なんだそれ」

1人の女はクフクフと笑う。

1人の男は笑いたく無いとばかりにぎこちなく顔を歪める。

2人の耳の奥に薄い歓声が響く。

男はそれを聞き届けると、壁に貼り付けた背を剥がす。

きつともう帰るのだろうかと察した女がその背中に声を届ける。

「また、遊びに来て下さいね……！」

「うん。また来るよ」

「今度は人が沢山いる中で、棧敷にでも座つて、悲喜交交を夢に見に来て下さい」

「どうか……競馬、レースには、棧敷があるかな」

「無ければ作つて頂戴な！」

「無責任だね」

「貴方だって、無責任にウマ娘を応援するのですから、お互い様ですよ」

「それも、そうだね」

男は静かに歩いて消えて行く。

先程まで静かだと感じていた世界から目を覚ますと、案外自分が五月蝍い世界にいたのだと女は気付く。

「あのーサイン貰えませんかー！」

なんて、小さな小さな女の子が身体と同等の色紙を差し出して、女は笑顔でそれを受け取る。



手に収まる様な小さな色紙に名前を書いて、今更気付く。

「あの人の名前、聞き忘れちゃった」

まるで、文学青年らしい真面目そうな風体を成していた男の人。少し恥ずかしがり屋そうな独特な近寄り難さを身に纏うヒト。

## ヒトの子は昔の失恋を引き摺らない

私は今は引越して東京に住んでいますけど、幼少期は別の県、別の土地に住んでいました。

そこは田舎過ぎる事も無く、地方都市と呼んで差し支えないだろうなあ？といった風の土地で、バスもあればコンビニもあり、スーパー、ドラッグストアも一通り揃っている便利な場所でした。

だけど都市部では無いので、家の周りには畑があつて竹林があつて、森がありました。

森は幼少期の私にとって、格好の遊び場です。

ある夏の日、危ないからと大きな水筒を持たされて、2時間経つたら帰りなさいと親心からの制限がキツくなつていた日。

私は、神様に会いました。

信じられないのは当たり前で、私だって今でもあれは夢だったんじゃないのかって思う事もあります。

でも、あの日の風景が目には焼き付いて離れないんです。

私の住む場所の近くには1つの神社があります。

神主さんもない様な、名義上管理する人がいる程度の小さな神社で私は生まれてからあの日まで気にした事も無かった場所です。

私が遊んでいたあの日、休憩しようと思つて偶々日陰になつていた神社へ行きました。

お母さんから持たされた水筒に口を付けて次は何をしようかなつて考えている時に、真っ白い神様がいたんです。

神様は美しい声で「何をしているの」って聞いてきました。

私が「遊んでいるの」って返したら、「気を付けなさい」って頭を撫でてくれたんです。

一緒にいたのはほんの数分だけだったんですけど、本当に綺麗で、優しい神様でした。

私、久し振りに神様に会えました。

今回は一対一では無くて、私が一方的に見つけただけ。

神様はウマ娘の神様でした。

暇だからと付けたテレビの中で中継されていたウマ娘のレース。

そこに、神様がいたんです。

昔と何一つ変わらない美しい髪に、二つの瞳。

着ているものは違いましたけど、間違い無く私が出会った神様です。

神様はゲートに入っても静かで、ただ前だけを見つめていました。

ゲートが開いて、神様が走り出します。

神様は我々の心配なんて気にも止めずスツと前に出て、そのまま涼しい顔のまま後ろに何十メートルと差を付けてゴールをしまいました。

神様は美しくて、強いウマ娘の神様でした。

でも、最近、神様は死んでしまいました。

あの日から半年以上経って、また、神様に会いたくなりレース映像を見ました。

その中にいた神様は昔の様な静かな雰囲気は無くなって、応援する観客に手を振っています。

「神様は、ただのウマ娘になってしまった」

私はそう、理解しました。

そうなのだと理解してしまいました。

「もう……会えないんだ……」

私の神様は、いなくなってしまうました。

あの刃の様な冷たさを纏った静かなウマ娘は、ヒトの世に降りて来てしまったのです。

## ◇死人に梔子、

1頭の馬が隣に立つもう1頭へ鼻を寄せる。馬特有の挨拶の仕方。それだけならば特に珍しい光景でも無いが、鼻を寄せにいった馬は大の「馬嫌い」だと言われていた。

馬に乗る騎手、小金井近江はそれを見て思わず珍しいと口にした。「どうしました？」

「ああ、いや。こうしてボタンが挨拶をするなんて珍しいなど」

「内気な性格なんですか？」

「そうでは無くて、生まれ育った牧場で周りと馴染めなかった様で馬よりも、人に懐くんです」

「へえ。だったら、この光景は珍しいですね」

「全くです」

“もしかしたら、一目惚れかもしれませんね。”

馬に乗る人間は笑う。

これから一世一代の勝負が始まるというのに、馬達の可愛らしい「もしも」に話が弾む。

1951年6月3日、東京優駿競走（日本ダービー）。

どこまでも駆けて行ってしまった幻と、どこまでも人と歩む事を選んだ華。

アセビボタンのジョッキキーが語った昭和から始まる恋物語の行方は、令和となった今でも答えは出ていない。

1：名無しが適当語り ID：WM3cxASr0

【超超朗報】謎多き馬？のアセビボタンに纏わる話が出てきた模様

<https://>

2 : 名無しが適當語り ID : OEOnX5IbB  
お勞しい

3 : 名無しが適當語り ID : eTq+06E5B  
え? お辛い話だったんだが???

4 : 名無しが適當語り ID : 3 / NR4miQ1  
もう単純にたづボタてえてえとか言つてられない……

5 : 名無しが適當語り ID : acwHN1 / qW  
馬の気持ちなんて完璧に分からないけど、これがもし本当なら悲恋  
どころの騒ぎじゃない

6 : 名無しが適當語り ID : 8k011kzv6  
ボタンの話つて事は円谷先生の文字だと思ふけど最後の一文がと  
ても辛い

7 : 名無しが適當語り ID : Nqn4CeU3P  
言い換えれば娘の恋を全力で応援しようとしてた瞬間にお相手の  
男性が急逝してしまつたつて事だもんな

8 : 名無しが適當語り ID : /eC+1XIR3  
>>>7  
こうするとあまりにも救いが無い

9 : 名無しが適當語り ID : 9HYMibcv+  
円谷先生ちよつと掛かつてはいるけど、もし現実なら凄く綺麗な名  
前で想いも込められて生まれた子供がいる筈だったのか

10 : 名無しが適當語り ID : 6nX5TjqQG

スズナちゃんが長男じゃ無くて次男だった可能性か

11：名無しが適当語り ID：F/eEpK5nk

質感的に鉛筆だと思うんだけど、消しゴムじゃ無くて線で消してるのがリアル感あつて無理。泣く。

12：名無しが適当語り ID：SZQzXVpYL

ごめん。流れ切ってしまうんだけど、円谷先生の新情報とか今回も含めて高垣さんサイドから出る事が多いけど、円谷先生の親族の方は馬にはもう関係してないの？

13：名無しが適当語り ID：76XL5bUpK

円谷巽先生が亡くなって、馬主を高垣さんが引き継いでからは正直音沙汰は無いかな

14：名無しが適当語り ID：DNcecjTkg

高垣さんの親族もとい牧場アカウントがTwitterで公開しているから、円谷家との関係は切れてないから高垣さんが昔みたいによらへん？すればまあ、って感じ

15：名無しが適当語り ID：yGRjDB2Ev

円谷先生のお家、資産的には馬主資格は取れるから天地ひっくり返ればね

16：名無しが適当語り ID：JGTyDHWaN

円谷一族、企業としての情報はあるけどパーソナルな情報は全く出てこないのまぼろしのポケモン感ある

17：名無しが適当語り ID：rHzmU5mCd

アセビボタンの新情報が出る横で円谷一族の謎が深まるのオモロ

18 : 名無しが 適當語り ID : w5h7cP2rQ  
マジで情報「無」だからな

19 : 名無しが 適當語り ID : bP0V7FgND  
でも牧場の Twitter 的にはアセビの馬応援してたり、遊びに  
来てくれてるらしいけど

20 : 名無しが 適當語り ID : 4/0warFUX  
巽先生ちよつと Twitter かブログやらん？

21 : 名無しが 適當語り ID : o4Q5T8VIJ  
蘇らすな

22 : 名無しが 適當語り ID : 06mcxKNlk  
円谷先生蘇らせるならボタンとミノルも蘇らせろ

23 : 名無しが 適當語り ID : 80Xs7wKfq  
それだとキノミノルが1人と1頭になっちゃうよ

24 : 名無しが 適當語り ID : Q0nKFHOjP  
ん？

25 : 名無しが 適當語り ID : VzupVt sU3  
>>>25  
1人……？

26 : 名無しが 適當語り ID : 0kgIC3AY6  
>>>25  
おや？

27 : 名無しが 適當語り ID : m8DHSSAOv



もう言い逃れは出来ない程に証拠は揃ってるけどな

28：名無しが適當語り ID：I/aV7Iv5l  
蘇ったらどっちにしろボタンの気持ち知れて皆ハッピーでは？

29：名無しが適當語り ID：6bCOqPSGy  
知らない方が美しい事もあるだろ

30：名無しが適當語り ID：T8s3TJy/H  
>>>28

もしかしたら本当に偶々挨拶しただけかもしれない……  
こうして外野が勝手に気づいているくらいが丁度ええよ

「お早う御座います、たづなさん」

「さん、ですか？」

「お早う御座います、たづな」

「はい！お早う御座います、ボタンっ！」

ようこそ。

「ご機嫌よう」

「ご機嫌よう、ボタン」

トレーナーの様な見た目の男性と他にも沢山のスタッフを連れて彼女と、トレーナーさんと2人きりの私。

ビデオ電話を除いたら実際に顔を合わせるのは2回目になる。

「良い、レースにしましょうね」

「全力でお相手させていただきます。ハイクレアさん」

金糸をふんだんに使った美しい装飾、紫と赤のコントラスト。並び立つだけでその差が歴然と分かってしまう存在。

でも、勝負の舞台で負けるつもりなんて無い。

そこにどんな身分の差や能力の差があろうとも、私は全力でぶつかるのみ。

I stand by

ゲートに入り、呼吸を落ち着かせる。

今日は私を除いて出走人数は9人。

10人目がゲートインを終えた音。

集中し、目の前が開けた瞬間に勢い良く飛び出す。

! They're off the ten Superstars

踏み出し、走り出して直ぐに横目に映る地面の起伏を分かり易く伝えてくる柵。

勢いを少しだけ落ち着かせ、自分の位置を陣取らせて貰う。

日本のバ場で海外のウマ娘が上手く走れない様に、私はこのバ場を上手く走れない。

今だってたった数百メートルを走ったくらいなのに息が上がってしまう。

I Group 1 Juddmonte International has passed about three furl

ongs from the start, but Brita  
n's Highclere is leading the p  
ack! Japan's Asebi Botan is be  
hind!

目の前を美しい勝負服のハイクレアさんが走っていて、私はその後ろ。綺麗に並んで3人程の集団でその背中を見つめている。

恐らく2バ身も無い様な差。

それでも、走り慣れていない私にとっては今直ぐにでも埋めてしまいたい程の10バ身にも感じられる差。

今一度、視線を動かして距離を確認する。

トレーナーさんと事前に研究したレース場で覚えた風景から考えて1000メートルは通過している。

ここからが正念場。

本当に怖い、適正の壁と莫大な経験との戦いだ。

With five furlongs to go, the  
horse girls in the back of the  
field are gradually starting t  
o advance their legs! Come on!  
It's now the moment of truth!

日本のレースでも苦手な蹄鉄を踏み込む音が鮮明に頭に響く、少しだけ心がザワザワとして思わず脚を進めそうになるが、理性で必死に押さえ付ける。

まだ動かない、もう少しだけ、あと、ほんの少しだけ。

Come on! The lead Highclere h  
as gone for the last spurt!

ハイクレアさんだけが1人、最後の直線に入る。

私も遅れて、並んでいた2人のウマ娘さんと後方から追い上げて来たウマ娘さんに追い抜かされて、漸く直線に入る。

「……………」

牡丹色の花弁が視界に舞う。

電撃が走る様に身体が震え、蹄鉄を踏み込む脚に力が湧く。

世界に今、色は要らない。

今いるのは、あの背中を追い越せる力と、狙いとなる輝く金糸の色だけ。

「さあ！勝負をしましょう!!」

「ええ！ワタシを捕まえてみて!!」

日本では味わえない。一世一代の大勝負。

私、凸凹の地面を走るの得意なんです！

俺の担当するウマ娘は、イギリスの地面を踏みながら得意げにそう言った。

「どうしてだ?」

心の底から出た疑問を投げ掛ければ、担当であるアセビボタンは自分の思い出をポツリポツリと話し始める。

「実家が山の近くで、昔からよく山で遊んでいたんです。山道って自分でも驚く程に凸凹で、歩き辛くて、後は」

日本だけど、今よりもずっと完璧でない様なターフの上を走っていた。

「そっちは夢ですけどね」

頬を掻きながら、照れた様に話す姿を見てこれが世に言う「ウマソウル」なのだなと考える。

例え夢だろうが、例え現実で無かろうが、イギリスのバ場に対応出来るのなら願ったり叶ったりで、こちらにも指導に力が入る。

「大丈夫だよ、ボタン。君の凸凹を走る力は、本物だ」

俺の目の前をバ場の違いをもろともせずスピードを上げて行くボタンの姿。

そもそもの話、彼女はとても頭が良い。どんなレースでも、どんなバ場でも一度走れば覚えてしまう。ウマ娘にとって、チートに似た性質を持っている。

「君は、このレースで一番完璧なんだ」  
その身体と記憶に刻まれた力があれば、君は最強だ。  
アセビボタンならばきつとヨーロッパの最高峰と渡り合える。

1人、2人、3人を抜かず。

目の前にはあと2人。

でも、それでも、距離が足りない。

せめてあと100……いや、50でも残っていれば彼女の背に追い付くのに。

駄目だ、足りない。

l Highclere wins Juddmonte International! And in second place was Asebi Botan from Japan!

ゴールした瞬間にがむしゃらに走った分のツケが回ってくる。先月、エクリプスステークスを走ったよりも段違いな疲労と、身体中の痛みで顔を顰める。

歓声もお互いを称え合う声も聞こえない。

そんな世界の中で唯一耳に入った音。

「ボタン。世界の壁、まだ高いでしょ?」

ほんの少し滑舌の甘さがある流暢な日本語。

目線を上げれば息が切れた程度、私とは正反対な様子のハイクレアさんの姿。

何度か深く呼吸をして、途切れ途切れに声を絞り出す。

「ええ……ほん、と、に」

「でも!本当に怖かった!……有難う。ワタシと走ってくれて、なんだか過去の自分を越えた様なの!!……愛しているわボタン!」

途端、私の身体は彼女の勝負服に包まれる。

背中に回された両手。私も今だけなら許されるのだろうかと思つて、

その腰に、両手を回す。

「わ、私もです……ハイクレアさん……それにしても、疲れました」

「ふふっ！明日はワタシと一緒にベッドでゴロゴロ、ね！」

「それはなんとまあ、素晴らしい提案です」

悔しさの味と、微笑みの暖かさ。

次に来る時は、リベンジを。

I f

## I f のプロフィール

「アタシの事、ちゃん付けしたら許さナイからな。」

A s e b i   S u z u n a

アセビスズナ

誕生日：4月24日

身長：163cm

体重：筋肉量が少し増えた

スリーサイズ：B85 W62 H88

口調が少し荒く、一見するとヤンキーと間違われるウマ娘。

先輩や後輩にも態度を変えずそのまま接する為、とことん嫌われるか、とことん気に入られるかの2択になり易い。

しかし、レースで負けると徹夜をしても反省会をするなど猪突猛進な所がある。

口には出さないが、とあるレースを勝ちたいと思っている。

耳飾りは「右」

鈴蘭の様な形をした髪飾り。

右耳にオペラオーと同じピアスタイプの黄色い花の耳飾り。

「継承」

アセビスズナ

芝B   ダB

短D   マC   中A   長B

逃C   先B   差A   追B

「その背中を追い掛けて」

最終コーナーに差し掛かるタイミングで後ろの方にいると、周りを牽制してプレッシャーを与え速度を落とし、代わりに自分が速度を上

げる。

固有二つ名

「繋がれる絆」

5つのクラシックレースから3つを勝利する。その際、必ず日本ダービーを勝利する。育成終了までにファン数を50万人以上獲得する。

アセビズズナのヒミツ①

「実は、お祝い事やイベントには積極的に参加したいタイプ。」

アセビズズナのヒミツ②

「実は、出掛ける時は1人より複数人いた方が楽しいと思っ  
ている。」

「ルーちゃんの最速。見ていてね。」

A s e b i L u p i n u s

アセビルピナス

誕生日：4月1日

身長：168cm

体重：洗練されている

スリーサイズ：B84 W64 H86

短距離レースなら、誰にも負けないと自負できる生粋のスプリンター。

見た目に似合わず脳筋な部分があり、レースにおいて作戦を守られる事はあまり無い。

尊敬する相手であるアセビボタンが付けた「ルーちゃん」という渾名を気に入っている。

耳飾りは「右」

本体はシルバーで、真ん中にライムグリーンの宝石が嵌め込まれた



シンプルなデザインのリング。

「音速、光速」

アセビルピナス

芝A ダD

短A マC 中E 長G

逃A 先C 差F 追G

「これがルーちゃんの走り方」

レースで終始前の方を走っていたら、勢いが付いて脚が速くなる。大逃げをしているともっと勢いが付く。

固有二つ名

「間延びした最速娘」

目標レースを含めて育成終了までに20戦以上の短距離レースに出走する。ファン数を40万人以上にする。

アセビルピナスのヒミツ①

「実は、せっかちだけどご飯はゆっくり食べる。」

アセビルピナスのヒミツ②

「実は、猫舌。」

「うらはのんびりと。ながい、ながーい道を歩くウマ娘。」

A s e b i R o a d

アセビロード

誕生日：3月21日

身長：165cm

体重：こう見えて増減なし

スリーサイズ：B87 W61 H89

常に眠そうな、何処か心ここに在らずといった雰囲気のウマ娘。そのふわふわとした様子からは想像もつかない程のスタミナ娘。

体力が有り余っているので、辞め時を教えないと1日中走っている事もザラにある。

――  
耳飾りは「右」

右耳にのみ黒い耳カバーを付け、付け根の所から鎖の様なチェーンが下がっている。

――  
「彼方まで届く脚」

アセビロード

芝A ダC

短G マG 中C 長A

逃E 先D 差C 追A

「見つけた道筋」

レース終盤までにスキルを5つ以上発動し、出遅れをしておらず、レース中に掛かっていたいなかったらとてつもない末脚を発揮できる。

固有二つ名

「未来を見つめて」

長距離の重賞レースへ5回以上出走し、勝利する。ステイヤーズステークスを2回勝利する。育成終了までに根岸ステークスを1回勝利する。

アセビロードのヒミツ①

「実は、1人称は人から移ったもの。」

アセビロードのヒミツ②

「実は、実はハードル走が学園1と噂されている。」

「吾が走った旅の成果は、世界へと」

A s e b i T s u b a k i

アセビツバキ

誕生日：6月18日

身長：171cm

体重：良いバランス

スリーサイズ：B90 W63 H83

何故か1人称だけが古臭いウマ娘。

包容力が高く、お姉さんになっている事が多い。

レースぶりはあと1歩という部分が多く、勝ち星自体は多くない。しかし、いつの日かこの脚が世界に届くと信じている。

耳飾りは「左」

両耳に黒い耳カバーと赤いリボン。

左の耳カバーにのみ、白い椿模様がはいつている。

「日の出を背負って」

アセビツバキ

芝B ダD

短C マB 中A 長E

逃C 先A 差E 追F

「Ever↓V」

作戦を「先行」でレースに出走し、レース中先頭から5番目までに着いていると周りのスタミナを奪いプレッシャーを与え、自分のスタミナを回復する。

固有二つ名

「旅の末に咲く」

アネモネステークス、スイートピーステークス、紫苑ステークスに勝利する。育成終了時までにはファン数を75万人以上にする。

アセビツバキのヒミツ①

「実は、時差ボケはあんまりしない。」

アセビツバキのヒミツ②

「実は、世界の水質とお土産屋さんに詳しい。」

「成長中。いいえ、歩き始めたばかりです！」

A s e b i K ō r o

アセビコウロ

誕生日：2月2日

身長：158cm

体重：まだまだ成長中

スリーサイズ：B80 W60 H85

まだまだ成長途中なウマ娘。

レースにしても、勉強にしても甘い所があり、結果が振るわない事  
もしばしば……。

しかし、憧れのウマ娘達に近づけるよう毎日のトレーニングは欠か  
す事が無い。

耳飾りは「右」

包装用にも見える簡素なりボンを下手法蝶々結びで飾っている。

「歩き始めたばかりの君」

アセビコウロ

芝C ダB

短C マD 中F 長G

逃D 先C 差B 追F

「いつか勝利を彩って」

最後の直線に入り、残り400メートルになると背中を押ししてくれ  
た皆の応援を思い出し、速度が上がる。

固有二つ名

「初めての栄誉」

育成終了までに目標レースを含め、合計20以上のレースに出走す  
る。その中でG3のレースを1回勝利し、ファン数を20万人以上に

する。

アセビコウロのヒミツ①

「実は、初対面の人からも可愛がられる事が多い。」

アセビコウロのヒミツ②

「実は、時々憧れの人を真似た私服を着ている。」

## アセビボタン、トレセン学園にて

「……ぱい……先輩ー」

教科書を脇に抱えてトレレーニングや、レースの事を考えながら特別教室へと向かっていけば、突然肩を掴まれて思わず身体が跳ねる。

首を左右に動かして、相手を確認すれば後輩であるスーちゃんが焦った様に私の顔を見つめている。

「スーちゃん？どうしたの？」

「どうしたのって、先輩コレ落としやがったから追っ掛けて来たのに、呼んでもハンノーしねえから！後、スーちゃん呼ぶな！」

「そうだったんだ。ごめんね、トレレーニングの事とか考えてて……有難う。助かった。スーちゃんは偉いね」

「だからアー！」

私から少しだけ下の目線にいるスーちゃん、アセビスズナが、可愛らしいほっぺを膨らませて地面を軽い力でトントンと不躰な地団駄を踏んだ。

駄目だよと言いながら、頭を撫でれば「撫でんなー！」なんて口では言いながらも可愛らしい2つの耳が横へと向いた。

「次からは気をつけるね」

「アア、気を付けんの」

「……じゃあ、私は移動だから。スーちゃんもサボらない様にね」  
「ン」

名残惜しいけれど、スーちゃんの頭から出を退けて目的の教室へ別々の方向へ脚を向ける。

それにしても、スーちゃんは相変わらず丁寧な口調では無いけれど、優しい子だな。

「……ア!!アタシの事またスーちゃんって呼んだ!!」

オイオイオイ、スズナちゃん可愛いやんけ!!!!

2 : 名無しが適当語り ID : V3tpCQo3s

アセビスズナ可愛い概念は幻覚じゃ無かったんや!

3 : 名無しが適当語り ID : Kh+zzgmy

牧場さんもとい、現馬主さん本当に有難う……有難う……

4 : 名無しが適当語り ID : 5uRHZUXK5

スズナちゃんが実装されたって事は、これからはボタンちゃんが動かし易くなるって事でFA?

5 : 名無しが適当語り ID : RvbRMsBod

>>>4

やったー!!!!

6 : 名無しが適当語り ID : dFoGaNi5

>>>4

待ってたんだ、この時をよオ

7 : 名無しが適当語り ID : FVg96iHc5

お姉さんしてるアセビボタン、良い。

8 : 名無しが適当語り ID : KdakiuI9M

>>>7

滅茶苦茶良い

9 : 名無しが適当語り ID : VCRIGEDOp

>>>7

堪らん

10 : 名無しが適当語り ID : 8z+xEPckc

ストーリーも可愛いですけど!!あの!!固有の2つ名とか!!

11 : 名無しが適当語り ID : QqAJJTvjl

ボタンの方が馬主さんに寄せてたのに対して、スズナはアセビの血を残すって所に寄せてきたな

12 : 名無しが適当語り ID : UBPCRXlOw

継承、背を追い掛ける、繋ぐ

13 : 名無しが適当語り ID : IBKYN5eNZ

なんだこの

14 : 名無しが適當語り ID : R o R S 7 M U o t  
 流石アセビの血やで  
 15 : 名無しが適當語り ID : g J M M M t b I T  
 にしても可愛い  
 16 : 名無しが適當語り ID : / 8 w O 7 J z + J  
 可愛い  
 17 : 名無しが適當語り ID : F V d K V P y E 3  
 身長はお姉ちゃんの方が高くて、体付きは  
 18 : 名無しが適當語り ID : b H i + R r u 4 M  
 >>>17  
 辞めないか!!!!  
 19 : 名無しが適當語り ID : l L V i P E Q m i  
 >>>17  
 屋上  
 20 : 名無しが適當語り ID : m U I x x 4 b 7 l  
 >>>20  
 死に方だけは選ばせてやる  
 21 : 名無しが適當語り ID : 4 t a o 2 v I U z  
 ボタンが俺の見た事の無い顔してた  
 22 : 名無しが適當語り ID : K e 2 Y w 9 z 3 S  
 >>>21  
 そりやするやろ。お前と違って実の息子なんやから。  
 23 : 名無しが適當語り ID : s k 9 S e 3 Z c X  
 >>>22  
 マジレス辞めて下さい泣いてしまいます。  
 24 : 名無しが適當語り ID : D a k K e f H K a  
 スズナちゃん、あんなにツンツンしてる割にはお出掛けは1人じや  
 嫌なタイプなんだく。へー、ふーん。  
 25 : 名無しが適當語り ID : A b X X / O M 2 m  
 >>>24  
 てえてえ



26 : 名無しが適當語り ID : J2Ed8lx6p

>>24

これはツンデレ

27 : 名無しが適當語り ID : OSYxda/C5

>>24

本当に牡馬か???

28 : 名無しが適當語り ID : doBdzQwh

>>27

耳飾りの位置間違ってるよなあ!?!?

29 : 名無しが適當語り ID : bowzwcRK

アセビズナ(全25戦6-7-4-8)

30 : 名無しが適當語り ID : cj0jWY/a

>>30

なんだこの可愛くない成績!?!?!?

## アセビボタン：いつか見る栄光

私はいつも同じ夢を見る。

それは、1人の女の<sup>ウマ娘</sup>子を追いつける夢。

だけどその夢は毎回私が負けて目が覚める。一応、ゴール板を同時に通過した様な気になった時が一番あの子に迫れた夢。

物心がついた時には見ていた様に思うその夢は、皐月の季節に近付くと見る頻度が増える。

何故、この時期なのかずっと気になってはいたけれど、きっと大きいレースに世間が盛り上がっているから私もそれに触発されるのだろう。

今年は、私もそのレースに出走する事が決まっている。

グレードの最上位に位置する名誉。

「夢の所為で調子を落とさなければ良いけれど……」

・  
・  
・

鹿毛色の髪の毛がキラキラと太陽の光を反射して輝いて、緑と黒のコントラストが特徴的な衣装を見に纏い、私の先に行くあの子。

顔を見た事は1度も無く、後ろ姿だけを私は見つめている。

能力も走り方も違うあの子と同じなのは、耳と尻尾がある事くらい。

きっと、私の前世は同じ<sup>ウマ娘</sup>馬なのだろう。それも、あの子とライバルか負けた事がある様な、そんな<sup>馬</sup>存在。

名前も顔も分からない彼女を”あの子”なんて勝手に勝手に呼んで、只の夢に悔しさを感じながらここまで来た。

それでも、私がどれだけ練習を重ねて昔より何倍も脚が早くなった今でも追いつける気がしない。

「……でも、今日は違う」

レース前の控え室で解けない様にと耳飾りのリボンを結び直して、

集中できる様にと靴紐をキツく結ぶ。

今日は1年間で開催されるレースの中でも特に注目されるレースで、この部屋までお客さんの声が届いてくる。

珍しく緊張をしているし、あの子に勝ちたいという気持ちで身体が震える。

私は、きつと変わった。

昔の様に1人であの子を目指さなくなった。

人の力を借りる有難さ、心強さを知った。

気付いていなかった沢山の気持ちと、知識を貰った。

沢山、沢山支えて貰った。

ベチンと両頬を叩く。

「…………… 大丈夫そうか？」

「はい。もう、大丈夫です」

「よしッ！じゃあ、俺からは1つ…………… 楽しんでこい、アセビボタン」

「ええ。楽しんできます、トレーナーさん」

・  
・  
・

【東京競馬場最後の直線！どのウマ娘が仕掛けるのか！先頭は未だピアンコグリモアが走ります!!リードは3バ身ッ！】

やっぱり、早いなあ。

何バ身か離れた先に栗毛の髪が輝いている。

東京競馬場、日本ダービー。ラストの約526米。

お客さんの興奮も最骨頂で、私達が最も全力を出す所。

脚は？

まだ大丈夫。

呼吸は？

教えられた通りに出来ている。

気持ちは？

絶対に、負けたくない。

苦手なバ群の中から飛び出す様に地面を踏み締める。

目の前の綱あ医く綱弱のA綱弱子Nを視界に収める。

世界から色が消えて、牡丹色の花卉が舞う。

今だけは、色も、音も、走り方を考える思考も要らない。

私の全力をもって、目の前を走る幻を打ち砕く。

【ここで一人、アセビボタンが抜け出したツツ!!!とんでもない加速だ

!!この末脚はゴールまで持つのか!持ってしまうのか!】

「さあ。勝負をしましょう」

全力で芝を駆け、ゴール板を通過する。

直ぐには止まらずに徐々に脚を緩めて歩く。

急いで掲示板に目を向ければ「確定」の2文字。

【日本ダービー、最も運のあるウマ娘が勝つと言われているこのレースを制したのは】

【アセビボタン!!!見事な末脚でした!!勝ちタイムは2:31:0!!】

お客さんの歓声!!が頭に響く。

掲示板を見つめていた視界が何故だか突然ぼやけて文字が見辛くなる。

全力で走り切った脚が震えて、思わず芝の上に座り込んだ。

「っー」

どうしよう。どうしよう。どうしよう。

こんな気持ちになるのは初めてで、上手く咀嚼できそうに無い。

ああ、こんな時どうすれば!

そうだ。そうだ、これはG1のレース。

それなら、皆さんと同じ事を私がしても、きっと許される。

「……や、つつつだあ”あ”あああ  
漸く、あなたの横顔を見れました。  
!!!!!!」

## アセビロード：ステップでリズムを刻んで

ウマ娘が走るレースは殆どが芝やダートといった平地競走であり、地方や中央の学校で見ても9割の生徒が平地競走で実績を上げたいと切磋琢磨している。

そんな中で、残りの1割のウマ娘は平地競走では無い所謂障害競走へと脚を向ける。

障害競走、人間で言う所のハードル走や、障害物競走に当たるウマ娘のレース。

平地とはまた違った過酷さと危険があり、G1に至っては1年に2度、重賞の数自体が少なく注目度も平地と比べてまだ低い。

そんな世界で、1人のウマ娘がゴール板を今、1着で通過した。

「アセビロードが今1着でゴールツツ!!デビューからは悔しい結果が多かったウマ娘が、障害レースでは未勝利からオープンまで4戦4勝！」

「ふう〜、お疲れ様でした」

「何言っただ涼しい顔しやがって」

「そんな事は無い。と思うんだけどね?」

「おーおー、後続に5バ身つけてたの見てたからな?後ろ全員バテてたぞ」

体操服についた砂埃を軽く払いながらトレーナーと笑いながら話すアセビロードと呼ばれるウマ娘。

平地競走では15戦2勝。2、3着を含めても全5勝。重賞に出走するも惨敗と錚々たるウマ娘が通う日本ウマ娘トレーニングセンター学園の中では中の下、下の中といった成績のウマ娘である。

そんなウマ娘を担当する若旅は彼女の走りを見て1つの仮説を立てた。

「体力があり過ぎて、逆に平地では上手く走れないのでは？」と。

馬鹿げた発想ではあるが、実際アセビロードは短距離く長距離の平地レースで息を切らした所を見た事が無い。勿論、普段のトレーニング時でも。

だからこそ、距離が長く、障害もある障害レースへと挑戦させてみた。

まあ、こんなにもハマるとは若旅伊吹も想像していなかった訳だが。

・

障害レースは面白い。うらはそう、思う。

何も無かった真っ直ぐな道を走り、カーブだけに気を付けるよりも、芝とダートが両方あって、ハードルも飛んで、水濠を飛び越える。

うらの体力を全部使って頑張れる。

「でも、怪我には要注意。ですね？」

・

アセビロードの快進撃は止まらない。

(障害)デビューからオープンまでを無敗で4勝し、重賞へと挑戦。2着、3着を繰り返しながらも連対率が高く、平地にいた時よりも生き生きと走れている様にも見える。

障害レースを始めてからは10戦5勝。昨日の東京ジャンプステークスでは2着に6馬身もの差を着けた。

正に、才能開花。アセビロードの本領は障害にあったのだ。

・

「中山大障害？ですか？」

「ああ、有馬記念と同じく、障害レースのメ。4,100mの長距離に

加え、アツプダウンの激しい道にハードル。盛り沢山のレースだな」  
「それを、うらが？」

「そうだ。農林水産省賞典中山大障害、J・G1の栄光を手にするチャンスがロードにも回ってきた」

「！やって、み、たい……凄く、楽しそう！」

「よし、そうこなくっちゃなあ！年末は、アセビズナとアセビロードで勝利を上げようか！」

・

・

1番走り易いシューズに障害の邪魔にならないパンツスタイル。多くても1年に2度しか袖を通す事が無いうらの勝負服。

「体調は？」

「大丈夫」

「身体に少しでも違和感はあるか？」

「無いよ」

「ロードが1番になる所、皆で見てるからな」

「任せて。うらは、頑張るよ」

・

・

「アセビロード！今単独でハードルを飛越！美しいフォームです！しかし、前方には3バ身。先頭には10バ身以上の差が出来上がっています！その末脚はレースを覆す事ができるのか！」

もう少し、もう少し、まだ行かない。

うらは少しのんびり屋さんだから、大丈夫ってなる迄は前に行きたくても耐える。

教えられた通りに走って、障害を超える。

「(ロードが見える迄、耐える)」

残りの3,000メートル。小さな光。

まだ、これからだよ。



「さあ！先頭は最終コーナーへと差し掛かる！アセビロードは漸くスピードを上げて来た！間に合うのか!!」

温まった脚の回転数を徐々に上げていく。

真っ直ぐ伸びる小さな光へ手を伸ばす。

見つけた道筋、見えた勝利。

最後のハードルを薙ぎ倒す様に飛越して、2歩で立て直し、後は全力で走る。

この無尽蔵な体力を残りの2ハロンで使い切る。

「この道は、うらのものツ!!」

友達と並んでレースを見る。

目的は、アセビロードという名前のウマ娘。

障害の飛越は美しく、見惚れてしまう。

「ねえ、私達もあんな風に走れるかな」

「俺は走るぞ」

「ま、あなたはそう言うわよね。それにしても凄い追い上げ」

「ハッ！俺もあれくらいできるけどな！」

「何言ってるのよ。あなたの飛越、見てて怖い程なのよ？」

「馬鹿野郎、効率が良いつて言え」

白い髪が風に揺れる。

水色の髪飾りが揺れる。

暮れの中山、大障害のゴール板前で2人のウマ娘が話している。

軽口を言いながらも、焼き付ける様に視線外さない。

静かな2人とは対照的に騒がしい観客に包まれて、彼女は、深い茶の髪色を靡かせて初のG1タイトルをもぎ取った。

「私もいつか、このレースに勝てるかしら」

「俺は全部勝つぞ。後、有馬にも出る」

「馬鹿みたいね。あなたは」

「馬鹿じゃねえ。やってやろうぜ、俺?????とお前?????で障害レースの伝説を作るんだ。そうだなあ……前王者、現王者って呼ばれたりなんかしてさ

！」

「前王者は勿論あなたよね？」

「んだとお!？」

## 色とりどりを渡しに

「ボタン様、今お時間宜しいですか？」

「ん？ええと、うん。大丈夫だよ」

「すみません。あの……これ……」

「これは、ブレスレット？」

「はい。海外へ遠征をしていましたので、そのお土産と言いますか」

「そういえば……見てたよ、おめでとう。お土産も有難うね」

「い、いえ！吾の實力は皆様のお力添えがあったからこそ！」

「ううん。謙遜しないで。確かに私達はお手伝いをしたけれど、勝ったのはツーちゃんの力だよ」

「……はい」

「ブレスレットは他の皆にも？」

「はい、トレーナーさんを含めチームのメンバーや友人の何人かに」

「それじゃあ、今日は一日学園を走り回らなきゃだね」

「ええ。頑張らないと、です」

「スズナさんッ！」

「ア？どーしたよ？」

「こちらを」

「ナンダー？ブレスレット？これを、アタシに？」

「はい。遠征のお土産と、トレーニングをお手伝いして頂いたお礼を兼ねて」

「ハッ！なんじゃそりゃ！」

「す、すみません……ご迷惑、でしたでしょうか？」

「そーじゃねー、トレーニングの礼は必要ねエ。同じチームだからな。ツバキはお土産デスー！つって、渡してくれば良いんだよ。一々トレーニングの礼とか考えんな」

「しかし、」

「しかしも駄菓子もネーの！良いか？返事ツ!!」

「は、はいッ!」

「うし。そんじやー。アリガトよ!」

「ルピナスさん!」

「んー?どうしました、かー?」

「お忙しい中、申し訳ありません。遠征から戻りましたので、お土産を渡したく」

「おー!見えました、見えました。おめでどうとお帰りーですねー?」

「有難う御座います。こちらを……」

「有難うー。ルーちゃん、大切に、大切にしますー!」

「はい。そうして頂けると、吾も嬉しいです」

「んふふ。相変わらずー、ツバキは可愛い。可愛いですねー」

「!?そ、そんな事!」

「そういう所が可愛いん、ですねー?」

「ロードッ!」

「お?うらに何か様なのかな?」

「土産だ。先日遠征から戻って来た」

「あー、確かそんな事をやっていたなあ。結果はどうだったんだ?」

「……お陰様で」

「それは、それは、めでたいなあ!良いねえ。青春だねえ」

「その無駄に俯瞰した様な口調はなんなんだ」

「何って、これがロードさんだろお?」

「ま、それはそうか。これ」

「有難う、綺麗だねえ。好きだよ、こういうの」

「だろうな。好きそうなのを選んだから」  
「んっふっふ。うらったら、愛されっ子」

「全員に渡してるが？」

「そーじゃ、無いんだよねえ〜！」

「コウロ、今大丈夫ですか？」

「は、はい！大丈夫です！先輩！」

「あなたにも世話になりました。これ、お土産です」

「そ！そそそそんない！！め、滅相もない！！？」

「いえ、お世話になりましたよ。有難う」

「あ、あわわわわ」

「そういえば、吾は見れませんでした。あなたも重賞のレースで勝ち星を上げたと聞きました。おめでとう」

「ぴゃん!!……恐れ多く!!」

「ふふ。今度は、コウロの祝勝会をしなければ、ですね」

「ぶ、武士の誉れ!?!」

「武士……?」

◇アセビズズナ：慈愛／晴れ晴れと

昔から、アタシの中からはナニカが抜け落ちていた。

ウマ娘という種族に生まれて、周りの男の子や、女の子よりも力が強くて速く走れる身体を動かしては、漠然と「どうしてだろう？」と疑問に感じていたんだ。

ウマ娘の友人は、走るのが好き！と言う。

お母さんからは、走るのが好き？と聞かれる。

お父さんからは、どんなレースに出たいか？と沢山のレースを見せて貰った。

その全てに、アタシは何の感情も湧かなかった。

G1という舞台に出れるのは凄いのだろう。

重賞に勝つのは素晴らしい名誉なのだろう。

トレーナーに指導され、メイクデビューをスタートするのは輝かしい毎日なのだろう。

でも、だからどうした？

ウマ娘には走りたいという思いが基本として備わっているらしいが、アタシは特にその気は無い。

何方かと言えば、地元でかけっ子をするくらいで丁度良いのだ。

華々しいレースよりも、アタシにはこの河川敷と砂場が似合っている。

「……ねえ、パパ。あの画面に映っているのはだあれ？」

「え？ああ、ズズナと同じウマ娘さんだね。アセビボタンって言うんだって。……凄いな、とんでもない脚だ」

あの日、あの時、あの場所でアタシの身体に抜け落ちたナニカを埋める様にして、別のナニカが無理矢理に詰め込まれた。

アセビボタン、アタシと少し名前の似ているウマ娘。

「アセビボタンツ!!」

「……………ん?」

電気屋さんに並んだテレビから衝撃を受けて早数ヶ月、アタシは今までは見向きもしなかったトレセン学園へと入学した。

周りのウマ娘の様な意欲は未だに無いが、それでも心動かされた存在がいるのは大きい筈だ。

「日本ダービー、負けたそうだなア?」

「あー、うん。そうだね。スーちゃんが期待してくれたのに、ごめんね」

「スーちゃん言うな!!……………嫌、今日は許してヤル。先輩」

「なあに?」

「アタシはダービー獲るからな」

「!……………うん。それなら応援しなきゃだね!」

別に先輩の為にダービーを獲る訳では無い。

それは向こうも、アタシも分かっている事実。

それなのに、どうしてか、こうして”宣言しておかなければ”と、身体が動くのだ。

これが彼奴らが言うウマソウル?運命的なナニかってやつ?

「マア、どうでもイーケド」

勝つのは簡単だ。

早く走ってゴールすりゃあ1着で、途中で抜かれたら負け。

だがアタシは元々の欲が少ないから、スイッチの入りが周りより何倍も遅い。

アタシの勝負は如何に油を早く温めるかだ。

2,400メートルなんて凄腕達のお陰で瞬きをした一瞬で終わっちゃう。

「スズナ、大丈夫か?」

「あ？誰にモノ言ってるやがる」

「それもそうだな。いけるか？」

「何を聞いてクルと思ったら、ハッ！笑わせんな。アタシは勝つぞ？今日のツキはアタシにしか向いていない、勝利なんてモノはアタシにしか渡されない」

「……言うじゃねえの」

「アア、言うさ。だから、トレーナーも確信を持ってゴール板の前に突っ立ってる」

「なんだそりや。楽しみになって来た」

「魅せてやるよ。このアタシ、アセビスズナの激情をな」

回路を回せ。

脳味噌を沸騰させろ。

無理矢理にでも回転数を上げる。

身体中の全てを呼吸も忘れるくらいに捲し立て、脚と闘志と肺へ理性が焼き切れるまで送り込む。

「全部、喰らい尽くすぞッ」

全ての芝を抉る程の踏み込み。

怪物すらも恐れる顔付き、その走り。

全てを置きぎるなんて美しさは要らない。

全てを、喰らい尽くして捨て去る。

スズナはまるで、東京優駿競走だけを走る為に生まれた様な馬でした。

母であるアセビボタンが最初に敗北をした同レースを息子が勝つなんて、まるで仇を打ったかの様です。

スズナは東京優駿競走を勝ってから、走る意欲はあるらしいのです



が、どうも芝の地面に立つ事を嫌がる様になりました。  
なので走る欲が残っている内は、別の県に移して走らせようと思いま  
す。

・  
・  
・

「ねえ、スーちゃん」

「んだよ」

「私。優勝レイを肩に掛けて、トロフィーを持ったスーちゃんと一緒に  
写真が撮りたいな」

「ソーカヨ」

「うん。……あつ、ごめんね。我儘言つて」

「ちげーよ。汗クセエから、シャワー浴びてくる。直ぐ戻るよ」

「スーちゃん。有難う。」

◇アセビルピナス：電撃6ハロンの隣にいるウマ

アセビルピナスという馬はとても不思議というか、癖のある馬で走り出した瞬間に鞭を入れて、それでスイッチが入らないと走れない。そんな馬でした。

恐らく、本質的にレースのルールをよく理解できていなかったのだと思います。

だからこそ此方側から走ってと合図を出して、ルピナス自身が走らなきやとならない限り、本気を出せなかった。

調教の時ですらその様子は変わらないので、そこだけは少し、苦労しましたね。

??

アセビルピナスというウマ娘はどことんスイッチの切り替えが下手であった。

ゲートが開いてスタートが上手くできても、それ以上の成果を出す事ができない。良くて掲示板入り。

ズブさの所為でそうなるのかと思って中・長距離を走らせてみたら体力が持たず、マイルで末脚を上手く使えたら御の字と生粋のスプリンター。

もしや走っている途中に考え過ぎるのかと思い、作戦を簡単に伝えてみてもゴール後には殆ど忘れてしまっている始末。

学園内で話題の委員長の様にも良いのだが、やはりスイッチの切り替えが問題に出てきてしまう。

「ルピナスさんよ〜」

「おー？ナーさん、どうしました。かー？」

「お前さんの走りをどうしようかって、考えて寝不足になっちゃったよ」

「それは、それは。ちゃんと寝なきや。ですなー？」

「そうなんだけどな、なあ、どうやったらレースをちゃんと走れるんだ？」

「どうと、言いましてもー。ゲートが開いて、1歩踏み出した瞬間に、駄目だ。つてなると、無理なん、ですよー」

「……そーかー」

「そーですー」

10月、もみじステークス。

出走人数は10人。アセビルピナスの結果は6着。

「お疲れ」

「お疲れ様、でしたー」

ルピナスは軽く滲んだ汗を拭きながら、ほわほわと何時もの調子で笑っている。

現在の戦績は10戦1勝。メイクデビューに勝利したのみで、4戦目に1着が降着した形で掲示板入りしたのが1回と、中々に伸び悩んだ結果である。

トレセン学園の上位の何パーセント達のようにG1を何勝とか、G1連覇だとかは目標にしていけないが、なんやかんやでG1を獲る素質はあるのだから、卒業迄に重賞の1個は獲らせてあげたい。

チームメンバーにもG1を獲るウマ娘がいるのだから、稽古を付けてもらうか? いいや、それはもうやったんだった。

「今日も」駄目だ”つてなったのか?」

「はいー。何となく、駄目だーつて」

「でも、メイクデビューは勝てたよな?」

「その時は、頭の中で、お花が咲く時みたいな、ふわあ〜つていう感覚が、ありましたー」

「お花が咲く?」

「はいー。歯車が噛み合わさる、とも言いますねー」

「歯車……なあ、試してみたい事があるんだ」

「?はいー。良いですよー」

メイクデビューの時、初めてだから緊張し過ぎない様にとルピナス

の背中を叩いたのを思い出した。  
もしかしたら、それが、

・  
・  
・  
11月。福島ジュニアステークス。

出走人数は16人。

「ルピナスはこれから、走る前に俺から、そして出走前に自分で何かアクションを起こして欲しい」

「アクションー？」

「そうだ。ルーティンと言えば良いのか、走るぞ！ってスイッチを入れられる様に」

「なるほどー」

「俺からは、そうだな。背中を叩くとか」

「じゃあー、ルーちゃんは、自分のお尻を叩きますー」

「お尻」

「はいー」

出走前、ルーちゃんとナーさんで新しい作戦を決める。

ルーちゃんは、どうしてかゲートが開いて踏み出した瞬間に駄目だつてなると、走れなくなる癖があつた。

2人で決めたルーティンはそれを無くせれば良いなあとという、苦肉の策らしい。

トレーナーさんから軽く背中を叩かれて、1歩を踏み出す。

ゲートの中、軽く自分のお尻を叩いた。

カチリ。

何故か、自分の中で”これだ”という感覚に襲われた。

「うん。やってみようかー」

・  
・  
・

「……うっそだろ、オイ」

1, 200 m。1分半もあれば終わってしまう短距離の勝負。  
それを、2人で決めたルーティンを行っただけで、今までの走りが  
嘘の様にアセビルピナスは圧勝した。

16人出走の、16番人気。穴ウマもしくは番狂わせ。

彼女の中で何が良い動きをしたのかは分からないが、漸く、アセビルピナスというウマ娘を大きな舞台上で走らせられる設計図が、頭の中で構築された。

??

―本日、アセビルピナス号で優勝されました小金井近江騎手です。

―では、最後になりますがこのレースを見ていたファンに向けて一言  
お願いします。

そうですね。まずは、今までアセビルピナスを応援して下さい、有  
難う御座いました。

今後はね、馬場の状態が、調教技術が変わったりなんかして、ルピナスの出したレースタイムも未来の強者達に塗り替えられていくと思います。

でもね、アセビルピナスはきつと、皆様が応援したアセビの最速は  
きつと、その強者達と肩をいつ迄も並べていると思います。

今日は凄いものを見た。とんでもない走りだ。アセビルピナスと走  
らせてみたいな。なんて言いながら、きつと記憶に残り続けます。

そんな強者の背に乗れた事、感謝しかありません。

本当にルピナスを応援して下さい、有難う御座いました。

―以上、優勝インタビューでした。

## 反転した歴史

ある日のメイクデビュー戦にてとあるウマ娘が初の勝利を収めた。  
芝2000メートル、出走人数は10人。

各々が緊張し、武者震いとは違った震えを携える中、8番のゼツケンを付けたウマ娘だけは澄ました顔のまま、その時を待っていた。

ゲートが開く、勢い良く飛び出したり、出遅れたり、掛かってしまったりと初々しい走りを見せる中、件のウマ娘だけは淡々と脚を進めている。

1000メートルを過ぎる頃には徐々にその差が現れた。

1バ身、2バ身、最終的には2着のウマ娘に対し6バ身もの差が開き、着順としては入学したてという事もあり2着のウマ娘へ「大差」でのゴール。

しかし、メイクデビューを見ていたトレーナー達は特に気にする事は無かった。

それは何故か。

そのウマ娘に、ヤバい奴が入学した！と思わせる覇気が無かったから。

シンボリルドルフや、ナリタブライアン、ミスターシービーが放っていたいつかのオーラが無かったから。

淡々と走り、淡々と終わらせるビギナーズラックで片付けられる走りをしたアセビボタンという名前のウマ娘。

数ヶ月後には「ターフの蹂躞者」と呼ばれるウマ娘である。

・  
・  
・

トレセン学園にとあるウマ娘がいた。

1950年代の日本にとある競走馬がいた。

そのウマは、負けを知らなかった。

その競走馬は、全戦全勝という結果を残した。

美しい姿でターフを駆けるそのウマ娘の名前は。

今でも「最強」の一角として刻まれるその競走馬の名前は。

走る。自分の力を過信せず、只、前だけを向いて走る。

日本ウマ娘トレーニングセンター学園に入学し、メイクデビューを果たしてから私は有り難い事に全戦全勝という結果を残していた。

でも、結果には特に興味が無い。

私は本能のままに走りたいただけなのだから。

【アセビボタンどんどん差を広げていく!!!】

風の噂で私の事を「ターフの蹂躞者」なんて形容する人がいた。

その人は私の走りを見て他のウマ娘が「可哀想だと思った」と言っていた。

【先週のオークスに続き、ダービーの栄冠までもをこのウマ娘は手にしてしまうのか!!】

インターネットで、私の走りが八百長である事を指摘していた人がいた。

私1人にレース結果を変える程の権力も、財力も無い為に初めて「何を言っているんだ」と思ってしまったけど、歴史あるレースに八百長をしているウマ娘の名前が載るなんてと言われたら、流石に気分は良くない。

【残り200メートル!!6番のクライネキステが迫りますが、ここで更にアセビボタン加速!!どうなっているんだこのウマ娘のスタミナは!!】

だから、誰も文句が言えない様に、私の実力を示す。

【こんなウマ娘、見た事がありません!!!先週のオークスに引き続き、なんと!日本ダービーまでもを制しました!!アセビボタン!!人々の記憶に刻まれる、花の名前です!!】

誰も文句を言わない。言わせない、そんな王者の1人になるんだ。

「アセビボタンさん、先ずは日本ダービー優勝おめでとう御座います！」

「有難う御座います。」

「オークスに続き、ダービーまでもを制覇した今、どんなお気持ちでしょうか！」

「自分でも良い走りが出来たと思います。そして、家族に堂々と報告が出来ますので、安心していきます。」

「目指すのは矢張り、3冠ですか？」

「そうですね。何も無ければ、挑戦したいと考えています」

「有難う御座います。では、最後に一言お願い致します！」

「これからも、頑張ります。」

「以上、アセビボタンさんの勝利ウマ娘インタビューでした！」



アセビツバキ：海を超えて、完璧へと至る

吾はきつと、才能が無いのです。

中央に位置する学園に通えているのも、オープンウマ娘になれたのも、今、こうしてG3のレースに出れているのも、全部運が良かったから。

吾の才能自体は本当に無くて、レース結果にも反映されている。17人中の16着。しかし、吾の後になっっている子はレース中、アクシデントがあり競争を中止したので吾が実質のドベ。

「……申し訳、ありません」

「大丈夫だ。今日は不良馬場でも走れるかの確認みたいなものだしな」

「それでもツー！」

「大丈夫だ」

「……はい」

トレーナーは確認だと言ってくれてはいるが、内心では「使えない」と思っているのだ。

そう言われるに吾は相応しい。

・  
・  
・

「ツーちゃん」

「！……ボタン様!？」

突然憧れのウマ娘である先輩から声を掛けられて背中を向ける。バレない様に、手早く目の端を擦った。

「御免なさい。タイミング、悪かったかな？」

「い、いえ！そんな事はありません！」

「そう？なら、失礼するね」

「はいッ！此方へ」

ボタン様が定位置座って、吾も自然と何時も座っている場所へと腰

を下ろす。

そういえば、ボタン様と2人きりになるの、初めてだ。

「ツーちゃん。隣、おいだよ」

「そんな、畏れ多い事は」

「良いから。お願い」

「……はい」

緊張しながら近くまで歩き、震える膝でボタン様の隣へと腰を再び下ろす。

「トレーナーさんから、元気が無いって聞いてね」

「元気が無い、ですか？」

「そう。思い詰めた顔をしているって……今日は、お休みの日だから、誰も来ないよ」

「……欲深い吾に失望、しているのです」

「……ウマ娘で、このトレセン学園に入学できて、メイクデビュー、1勝、2勝とクラスが上がって、オープンウマ娘になって、吾は結構凄いウマ娘なんだって勘違いして、いざ鼻高々に重賞へ挑戦したら掲示板に入る事も出来ない惨敗続き、勝手に調子に乗って道化師になっていた」

「トレセン学園に通える事、メイクデビューを勝てた事、オープンウマ娘になれた事が凄い事だって理解、しているんです。全体を見れば、オープンウマ娘になれない子、メイクデビューを勝ち上がれない子の方が多いのは理解、しているんです。……それなのに、偶々吾は早い段階でそれになれてしまったから、偶々でも勝ててしまったから、余計に己の力の無さが苦しくて、少し前迄自信満々にG1も夢じゃ無

いって息巻いていたのが恥ずかしくて」

止まらなかつた。止められなかつた。

こんな酷い姿を尊敬するチームリーダーに話すなど。

こんなの、言い訳をしながら不貞腐れているのと同じだ。

「……嫌いに、ならないで」

「へ？」

「御免なさい、御免なさい、もう、弱い姿なんて見せないから、これからは骨が折れてでも練習を頑張るから、早く強いウマ娘になるから、捨てないで」

どうしてか、涙が溢れた。吾に泣く権利なんて無いのに。

無意識に継り付いていた。

「ツーちゃんは、気を張り過ぎたんだね」

「確かにツーちゃんの言った事は正しいと思う。オープンウマ娘、メイクデビュー、それを楽々超えちゃう方が難しいって、でもね、ツーちゃんが責任を感じる事は無いんだよ」

「ローちゃんもさ、今は障害で沢山勝ち星を上げているけれど、その前は15回走って2回勝ったくらいなんだよ。ツーちゃんはどうか？前回の5回目くらいでしょ？焦るのはローちゃんの15回を超えてからでも遅く無いと思うんだ」

「今、ローちゃんに対して失礼な事言ったと思った？……それで良いんだよ、それくらい感覚で。長い旅を走る私達は、人生の中で何か1つだけでも輝く様な思い出を作れば。私はきつと、あの子に勝つ事。ツーちゃんはどう？」

優しい言葉。否定もされない、だけど、本当に必要な言葉は言ってくれない様な適当さ。

深く考えず、いつもチームの皆で話している時と何1つ変わらな。手を繋いでくれているのに、此方が引っ張れば直ぐに離されてしまう様な。

吾の何か1つ輝くもの。

そうだ、自分の身の丈に合わない馬鹿げた夢があつたんだ

「……海外のレースで、勝ちたい、です」

「そっか。それじゃあ、頑張つて練習、しないとだね。まずは、最低でもG1で3着入りかな」

「はい……！……へっ？」

・

・

「次の目標、桜花賞で3着入りだつて？」

「あ、あー、ハハ……はい」

「大好きなリーダーに泥付けたく無いよな？」

「ええ、まあ……」

「なら、練習しか、無いよな？」

「そー、です、ねー」

「ボタンからツバキのメンタルはもう大丈夫だつて言われたんで、今までの倍、今まで以上のキツさでメニュー組んできたからな」

「あははー、吾、ちよつと、実家に」

「海外レース、出るんだもんな？」

「yes, sir!!!」

265 : 名無しが適当語り ID : T2KJH / N t 2

最近アセビツバキちゃんの快進撃凄くね？

266 : 名無しが適当語り ID : u h z i k A d t 6

>>>265

分かる。

ちよつと前まで大丈夫か？この子つてなるくらい体調悪そうにしてたのに

267 : 名無しが適當語り ID : F / Y i x W s A s  
噂ではトレーナーからの扱きと、なんか諸々で吹っ切れたらしいけど

268 : 名無しが適當語り ID : J 2 P 5 k o / m H  
吹っ切れ過ぎでは???

269 : 名無しが適當語り ID : D F 6 T l R V 4 8  
ウマ娘ちゃんそういう所あるから

270 : 名無しが適當語り ID : 4 J r l 8 W i a /  
>>>269  
どういう所だよ

271 : 名無しが適當語り ID : b L K Z j U 8 c U  
でも惨敗だったのが徐々に着順上げてって、桜花賞では4着、宝塚ではクビ差で2着をもぎ取って次は海外やろ?

272 : 名無しが適當語り ID : X R Z A x 6 l D m  
海外は早く無いっすか?

273 : 名無しが適當語り ID : x N e T M x D x l  
本人の熱い希望やからな

274 : 名無しが適當語り ID : 7 0 S W 5 3 s K 9  
俺はツバキちゃんが無事走って、戻って来れたらそれでええわ

. . .

日本とは違う風、違う匂い、違う感触。

宝塚後、約1年以上をかけてこの場所で身体を作ってきた。

海外のこの芝にも殆ど慣れたし、後は当日の天気次第。

稍重までに止まってくれたなら吾はきつと、良い結果を残せる可能性がある。

芝、1600メートル、直線コース。出走人数は9人。

トレセン学園の歴史の中で、未だ1人しか勝っていないレース。

・  
・  
・

1次々とウマ娘がゲートに入ります。本日の見所は日本から挑戦するアセビツバキ。未だタイキシャトルしかなし得ていない偉業に挑戦します。1

静かにその時を待つ。

深呼吸をして、気持ちを込める。

周りのウマ娘達は吾の事など眼中に無いだろう。いくら長期遠征で身体を馴染ませてきたとはいえ、本場で何十年と練習してきた子達より劣っているのは明白だ。

1アセビツバキ、落ち着いた様子で、その時を待ちます。1

9人目のウマ娘がゲートへと入り、

1ゲートイン完了。今、スタートしました!!1

開いた瞬間、飛び出す。

1アセビツバキ、良いスタートを切りました!走りも問題無い様に見えます、これは激戦になるのでは無いでしょうか!1

走り始めた瞬間から体力を奪う日本とは違う芝。

周りには骨格から違う迫力のあるウマ娘達。

沿道に沿って立つ、沢山の吾以外を応援するファン達の声援。

1アセビツバキ500メートルを通過、前から4バ身程離れて現在5着の位置。トレーニングの成果か、表情には闘士が残っています  
が、どうなるか!1

この国に、吾の仲間はいない。

チームメンバーは日本にいるし、トレーナーさんの声も周りに掻き消されて吾には届かないだろう。

孤独の戦い。このターフではたった1人で立ち向かう大きな壁。

ーアセビツバキ！徐々に脚を早めていきますが、それは他のウマ娘も同じ！残り400メートル！ここからは速さ、そして一瞬の駆け引きが勝利を握る鍵となります!!ー

地面を踏み締めて、沢山の根が張る芝に蹄鉄の跡を残す。

桜花賞は4着、宝塚は2着、今まで掲示板入りも出来なかった吾が、大きなレースでそこまでの結果を残せた。

ボタン様が、トレーナーさんが、チームの皆が沢山沢山応援してくれた。練習をいつまでも付き合ってくれた。

なら、この瞬間も

「頑張れるだろッ!!!」

レースが終わったら、2度と走れなくなっても良い。

勝てるのなら、出来の悪かった吾が大きな舞台で勝てるのなら、この脚が砕けようが、命を削ろうが、何でも良い。

吾も、輝く1つを掴み取るんだ。

ーゴールツツ!!!最後は大混戦となりました、写真判定となります。アセビツバキは最後の追い上げが凄まじかったのですが、どうなるか。日本の中継からはアセビツバキが先着の様に見えましたが……

ゴール板を走り抜け、力が抜けてクールダウンも出来ないまま芝の上に倒れ込む。他の子達が心配をしてくれているけど、それに応える元気も無い。

過呼吸にも似た酷い呼吸をしながら、辛うじて霞む目線だけは掲示板へと向ける。

電気の光が、1着を指し示す部分へ吾の、アセビツバキの番号を灯す。

「今、結果が出た様です。……！アセビツバキ……… 1着  
!!!アセビツバキが1着の判定となりました!!フランス。ジャック・  
ル・マロワ賞。漸く咲いた美しき花！アセビツバキ!!小さな蕾を、海  
を越えたその場所でみごとに咲かせてみせました!!G1初勝利!!」  
頭が真っ白になって、周りが呼んでくれた担架に乗せられながら、  
涙が溢れた。

「やった、……やった……！」

吾も輝く1つに手が届いた。

もう、何も望むものは無い。

「ここで、アセビツバキの情報です。アセビツバキは入着後倒れ、医  
務室へと運ばれたそうです。幸い意識はしっかりしており、怪我等はし  
ていない様ですが…… レースの様子から、少し心配ですね。」



クリスマスは其々の思いの中で

「……それじゃあ、乾杯」

「シー」

「乾杯、ですー」

「かんぱーい」

「乾杯」

「か、かかか、かんぱーい」

チームシェアトに充てられた部屋の中で机を囲み、各々のお菓子を  
持ち寄って好きな飲み物で乾杯をする。

私はお茶を、スーちゃんは紅茶、ルーちゃんは牛乳で、ローちゃん  
は水、ツーちゃんがコーヒーマシンのコウちゃんが人参ジュース。

6人が全員バラバラで、机に広がるお菓子だって自分が飲む物に合  
わせてるから何処か不思議な組み合わせ。

それでも皆と過ごせるのが楽しくて、思わず頬が緩んだ。

・  
・  
・

「ローちゃんは、有馬記念を見に行くんだっけ？」

「はい。後輩が、出るらしく」

「後輩って、ロードの後輩も障害の選手じゃ無かったか？」

「そうだね。うらもビックリしたねえ、でも、投票で選ばれたらしいん  
だわ」

「成る程な……」

「あれ？投票と言えば、スーちゃんも投票で選ばれてなかったっけ？」

「ア？アタシはダービー勝ったからパス。それに、ファルコン先輩が  
来いってウルセーから、園田行ってくる」

「あら、気を付けて行くんだよ」

「オー……って、子供扱いスナナ!!」

「コウちゃんは？」

「無視スナナ!!」

「わ、わわわたくしはですね?! ええと、そのおゝ学園に残ってトレーニングです!!!」

「ルーちゃん、一緒。ですねー」

「へええ!!?!」

「そっか!?! 怪我だけはしない様にね」

「先輩として、ちゃんと責任。持ちますねー」

「うん。お願いね」

「あわわわわわ……」

「ツーちゃんは?」

「吾は、そうですね……実家に帰省しようかと」

「ツーちゃんはきつとそれが良いね。ちゃんと顔を合わせて、話しておいで。今年は凄い結果を出したんだしね」

「……はい!」

一通りメンバー全員の予定を聞いて少し温くなったお茶を飲む。

もし、1人で冬休みを過ごす様な子がいれば一緒にいようかと思っただけれど、杞憂で終わったみたい。

持って来たお煎餅をもう1枚手にして口に入れば、スーちゃんが何やら企んだ顔で私と肩を組む。

「つて、言うけどヨオ。先輩はドウするんだ」

私は、どうするか。

考えながら口の中のお煎餅を咀嚼して飲み込んで、また考える。

「そうだね。実家に戻って、いつもみたいに宴会。かなあ」

「フーン。面白くねえの」

実は、このチーム。他のチームと違って家族レベルで名前が似ているウマ娘達が集まっている割に、共に過ごすという事が殆ど無い。

一緒にトレーニングはするし、お出掛けもする。だけど、こうしたイベントや節目のタイミングで揃う事は今まで1度も無い。

まあ、でも、今日の机の上くらいバラバラでも仲良しなのに変わりはないから、別に良いかな。

仲良しだからこそ、普段は一緒にいないっていう関係性も素敵だよ

ね。

・  
・  
・

「すまん。遅れた、まだ間に合うか？」

そう言いながら、トレーナーさんが扉を開ける。

その手には缶に入ったコーンスープと、おつまみみたいなお菓子が  
入った詰め合わせ。

「ふふっ」

「?どうした?」

やっぱり、このチームは皆個性が強い。

まあ、こんな十人十色な皆が大好きなんだけどね。

アセビコウロ：まだ、走り始めたばかりの君へ。

わたしは今、船橋にある千葉ウマ娘フナバシトレーニングセンター学園に通う平凡なウマ娘です。

目指すレースはわたしの地元でもある浦和で開催されるさきたま杯と浦和記念です。

どうして浦和のトレセン学園に通っていないかは、まあ、後々教えるという事で……。

【今、先頭でゴールルツツツツ!! 第 回、浦和記念の勝者は船橋からやって来たアセビコウロ!! 2,000メートルの大どんでん返し! 素晴らしい末脚と、噂い込みでした!】

「……あ、あわわわ?!? やった……! やってしまいました!! 杜若<sup>つぼちゃん</sup>トレーナー!! ほ、ほほほんとにわたしの番号ですよね?!? ゼツケンと変わりありませんよね?!?」

「おー、オメデトー!。コウロ、ようやつとるわあ」

「な、なんですかその! やる気の無い言葉は!」

「何て言うかコウロが喜び過ぎてるからか、1週回ってあーしは虚無だわあ。……でも、なんか凄い事をしたんだあつてのは分かるよ。あーし、いつまでも、どんな時もどんな場所でも、コウロを応援してっからねえ」

「も、もっと喜んでくださーい!!」

「喜んでるよお」

携帯電話に入れて貰ったウマッターを開く。

これは、SNSと呼ばれるもので様々なウマ娘が利用していたり、

レースの情報が見れたりする便利なものだ。

私はインターネットに詳しく無いから、アカウントも作って貰ってフォロー？だったり、私が呟いた事は1度も無い。

フォロー？の数字だって1桁で、名前も全て知っている方々だけだ。

「浦和記念、新進気鋭のウマ娘が新たな勝利へと……か」

画面に映るのはローカル・シリーズと呼ばれるレースの1つで、私は経験の無いダートのレースである。

画面に大きく汗を光らせて、笑顔で笑う黒髪の少女と、隣で薄く笑うトレーナーらしき女性。

目指すのは、次のさきたま杯。今はJpnIIに設定されているものの、もう直ぐJpnIに格上げされるレース。

浦和記念より600メートルも短い1,400メートルで、アセビコウロが見せた脚が次のレースでも通用するかが鍵。

「……うん。この子、強いな」

・  
・  
・

アセビコウロ、それがわたしの名前。

戦績は8戦3勝、昨日の浦和記念を入れれば9戦4勝。

重賞は勝たせて頂いたものの、至って普通の、平凡なウマ娘。

オグリキャップさんや、ユキノビジンさんの様な地方から中央へ移籍して人気のまま結果を残す様な夢も見ることが、それは本当に限られたウマ娘が出来うる事で、わたしなんか

「私。貴方をスカウトしに来ました」

「……へ？」

「特別移籍、と言えば良いのでしょうか。アセビコウロさん。共に切磋琢磨する1人として、中央に来る気持ちはありませんか？」

と、思っていたんですけれど……。

お父さん、お母さん、私。アセビコウロは元気に頑張っています。今年の冬は、実家に顔を見せられなかった事は御免なさい。

今回はとても大切な用があり、久し振りに手紙を書きます。

今日、練習中にとあるウマ娘さんから声を掛けられました。あの中央で活躍しているアセビボタンさんです。

そんな凄い人が、わたしを中央のトレセン学園にスカウトしたいそうです。正直、今も手が震えています。

次の3連休の日、実家に帰ります。

中央の役員さんと、アセビボタンさんがお話をしたいそうです。

勿論。わたしのトレーナーさんも一緒です。

何故わたしに声が掛かったのか。周りのウマ娘さんを差し置いて何故わたしだったのかは分からない。それでもわたしは、結果がどんなものであれ頑張れるのなら頑張りたいです。

だから、今の気持ちは、わたしだけの気持ちとしてはスカウトのお話を受けようと思っています。

どうかスカウトのお話や、相談を聞いてくれると嬉しいです。

アセビコウロ

明けましておめでどう御座います

初詣というのは場所によって深夜から長蛇の列が形成され、賽銭を投げる迄に何時間も寒い中待つというのは最早風物詩であり、新年初の1大イベントである。

しかし、全ての寺社仏閣がそうでは無く、所謂有名どころ以外は静かな場所が多い。

特に地元の人間しか知らない様な場所だと特に。

「明けましておめでどう御座います。今年も、チームシェアトで頑張ろうね」

トレーニング以外では基本下ろしている髪を綺麗に纏め、見慣れない着物を見に纏うウマ娘が口を開く。

そのウマ娘の周りには5人のウマ娘がおり、個性豊かに其々の格好をしている。

スカジャンにショートパンツ。学校指定のコート。普段は見る事の無い髪型。珍しい海外ブランドの洋服、逆に着物に着られていたり様々。

「それじゃあ、初詣行こっか。終わる頃にはきつと初日の出も見られそうだね」

「オー」

「皆さんは、絵馬。書きますかー？」

「ローちゃんは書くよお」

「吾は絵馬と御神籤を」

「わ、わたしも書くかなー……なんて」

「うん。それじゃあ皆で新年初の運試し、だね」

6人はワイワイと会話に花を咲かせながら長い石段を登り始める。

登り切った神社は絵馬や御神籤、お守りや破魔矢の販売などしっかりとしているが何故か地元の人間＋地元のウマ娘＋観光でしか人がいる姿を見ない不思議な場所だ。

静かな境内で本坪鈴をガラガラと鳴らし、思い思いの硬貨を賽銭箱に投げ入れて手を合わせる。

「……ねえ、皆は何をお願いした？」

「……秘密」

「それは、乙女の内緒。ですねー」

「ふっふっふー」

「申し訳ありません。お願い事を言ってしまうと叶わなくなるという噂を聞きました……」

「ぎゃ、逆に！ボタン先輩はな、何を」

「そうだなあ……私も秘密。かな」

6人を除けばまだ数人しかいない境内でキャラキャラと笑う。

そうしていれば、頭を出し始めた太陽の光に目を奪われ耳が動いて、尻尾が揺れる。

導かれる様に敷地を囲う柵迄寄れば袴を来た男性から、お参りに来た近所の顔馴染みから気を付けてねと声を掛けられて、元気良く返事をした。

キラキラと太陽が煌めいて、世界を照らす。

見慣れない美しい風景に夢中になった。

《ボタン達は初詣か？》

「はい。トレーナーさんですか？後ろから声が聞こえます」

《おう、ちよっとした仲間とな……こっちは人が多過ぎて初日の出が昇るのを見逃した》

「それはそれは」



《来年、もう今年か……駆け出しトレーナーだが宜しく頼む》  
「はい！私からもどうぞ宜しくお願い致します。それと……」  
《それと？》

「」「明けてましておめでとう、トレーナー！」「」「」

《……なんだ勢揃いしてやがったか、おめでとうウマ娘達教え子達》

番組ジャック……？

「ほ、ボタンちゃんのぱちゅーぶ……？」

こんにちは。本日はゴールドシップさんの代打として出演をお願いされた私、アセビボタンがお届けします。

……と、言っても私は何をすれば。

い、いえーい。見えてますか？

ああ！やっぱり恥ずかしい……。

そ、そうだ……！」

「ア!?先輩なにスルんだよッ!?」

「スーちゃん、ほら、動画?を撮ってるから」

「スーちゃん言うな!!……ハア、こういうノハ適当に手を振ってれば良いんだよ」

「本当?」

「アー、ほんとほんと」

「……そっか!楽しんでますかー?」

「アツハツハ!!!先輩!!未だにコーゾクみてえな手の振り方シテンの!!!ヤバ!!」

395：名無しが適当語り ID：z v m 6 d l F v K

【速報】

アセビスズナ、笑い声がヤバい。

396：名無しが適当語り ID：j B Z f Q F x n L

現実でも中々見ないタイプのゲラだった

397：名無しが適当語り ID：l M Z F R d f q g

ボタンちゃんと仲良し

後輩属性

癖強めな話し方

ゲラ↑New

398：名無しが適當語り ID：gHYFoynyl

これだからアセビ冠は（褒め言葉）

399：名無しが適當語り ID：YbM7fFiOW

アセビズのぱかチューブ出演&てえてえやりとりは助かるが、スズナちゃんはほんまにこれで良かったんか？

400：名無しが適當語り ID：sdH7icn9O

アセビはまだシナリオの登場頻度も少ないし、ギャップを狙うなら良かったのでは??

401：名無しが適當語り ID：rCIYUYxxz

>>>400

ギャップに関してはボタンの史実で既に分からされてるだろいい加減にしろ!!

402：名無しが適當語り ID：TiU3Tf9nE

トレーナーがアセビボタンに分からされる同人誌とかニツチやな……幾らだ？

403：名無しが適當語り ID：CDP3MXuWp

財布を開こうとするんじゃない

404：名無しが適當語り ID：3aTbFGe+A

にしても今回のぱかチューブはタイトルコールの声から違うから、またゴルシが頭可笑しくなったのかと思った

405 : 名無しが適當語り ID : 8q92BnwEu

ゴルシが頭可笑しく無かった事なんてあるか? いや、無い (反語)

406 : 名無しが適當語り ID : Tg.jP.VCkEk

ゴールドシップ…: おもしろー馬…:

407 : 名無しが適當語り ID : 6xJkX49re

戦績とキャラクターの違いから脳がバグを起こす史実のゴールド  
シップさん

408 : 名無しが適當語り ID : Aas/dZHag

「牝馬? だいたい抱いたぜ!」

409 : 名無しが適當語り ID : 9phUt.jKnT

あながち間違っても無いのが

410 : 名無しが適當語り ID : CAgnRvgp/

種付け自体は競馬関係無く種として普通の事なのでセーフ

411 : 名無しが適當語り ID : 9ZyJlKRq4

馬は雌が誘って雄がそれに応えてだからな。抱いたぜ! よりも、誘  
われたから断らなかつたぜ!の方がしつくりくる

412 : 名無しが適當語り ID : ykNuastm/

>>>411

どっちにしろイケイケやんけ!!

413 : 名無しが適當語り ID : O5h5K/+f0

>>>412

涙拭けよ

4 1 4 : 名無しが適當語り ID : n O Z p i s 2 7 n

>> 4 1 3

泣いてないんだが  
!?!?!?!?!?

4 1 5 : 名無しが適當語り ID : E l c r N O b 5 B

アセビ親子の話題どこ? どこ?

4 1 6 : 名無しが適當語り ID : r l d K a a L l e

>> 4 1 5

ここで間違い無かった筈なんだけどな……

4 1 7 : 名無しが適當語り ID : p l d d i 2 x W t

俺、アセビスズナがアセビボタンに見せるツン大好き侍も申す者

(唐突な話題転換)。

4 1 8 : 名無しが適當語り ID : v d H b r o q G a

>> 4 1 7

分かる。

4 1 9 : 名無しが適當語り ID : b u Z r X t / v 2

>> 4 1 7

口では離れろとか、口調が結構強めなのに自分からは離れないし表情とか尻尾とかでは喜んでるのほんまさあ

4 2 0 : 名無しが適當語り ID : b E h k t s f 9 y

これだからスズナは牝馬って言われるんだぞ

4 2 1 : 名無しが適當語り ID : + 3 a D I p 8 S h

>> 4 2 0

これはまごう事なき牝馬の風格

4 2 2 : 名無しが適當語り ID : F G 8 1 Y r G E O

>>> 4 2 0

言い逃れできなくなっちゃったね……。

4 2 3 : 名無しが適當語り ID : M g b X x a X 0 1

というか、スズナちゃん育成ではこんな笑い方してなかったよね?!?!?  
ストーリー上と言われればそれ迄だけど、これは気を許した相手に  
なら素で笑う…ってコト!?

4 2 4 : 名無しが適當語り ID : 9 j + z n v + 1 d

トレーナーには気を許してない……?

4 2 5 : 名無しが適當語り ID : Y e V K U q s T O

……興奮してきたな。

4 2 6 : 名無しが適當語り ID : G z 5 P w d 8 D G

>>> 4 2 5

興奮する要素どこだよ(どこだよ)

4 2 7 : 名無しが適當語り ID : 2 / 1 A 3 c h I Z

>>> 4 2 6

俺らの好感度が入る余地が無い程にボタンへの好感度が高いつて  
ことやろ?

4 2 8 : 名無しが適當語り ID : i G p + o n 1 0 u

あ、あらく!?

4 2 9 : 名無しが適當語り ID : J 7 E p h t M + Y

キマシタワー!?

430 : 名無しが適當語り ID : c a a p w B d N h

だからウマ娘は百合じゃねえって!!! チャレンジャー海淵に沈めんぞ!!!

431 : 名無しが適當語り ID : 5 N g p O K I L X

チャレンジャー海淵とかガチやん

432 : 名無しが適當語り ID : 4 R E j d Q b L l

1番深い所来たな

433 : 名無しが適當語り ID : 0 5 C k g u x 5 8

深い所(誇張無し)

434 : 名無しが適當語り ID : U w A Y T T 7 i 3

今思ったけど、ゴールドシップはどうしていなかったんだ？

435 : 名無しが適當語り ID : S 6 v u V R l j t

>>>434

宇宙行つてたんやろ

436 : 名無しが適當語り ID : I L v t n h b t a

>>>434

ゴルシも忙しいだろうからな。洞窟でカジキマグロを仕入れるのは大変って聞くし

437 : 名無しが適當語り ID : 1 G e 9 K v L X L

>>>434

ゴールドシップなら宝塚の駅前で歌いながらたこ焼きを振舞ってる途中、飛び入りで大階段降りに行ってたよ

438 : 名無しが適當語り ID : S u x k + B t y B

くここまでまともな理由無し

4 3 9 : 名無しが 适当語り ID : 6 j Q 2 e S b 6 g

まあ、ゴルシがいなかったからこそ2人のてえてえが見れたというのでヨシッ!

4 4 0 : 名無しが 适当語り ID : b U C + t Z V 2 Z

アセビはほんとストーリーに出てこないからな

4 4 1 : 名無しが 适当語り ID : S N N 3 5 l Y u x

>>4 4 0

ビコーの事、忘れないでね……

4 4 2 : 名無しが 适当語り ID : G 9 H r + 9 X h i

>>4 4 1

マーちゃんも忘れて無いし、ビコーの事も忘れてないからビコーは早く来い

4 4 3 : 名無しが 适当語り ID : / o + 9 V p K / V

ビコーはイベストでも良いから出てきてクレメンス

4 4 4 : 名無しが 适当語り ID : V x C 8 + W T d Q

ウインディちゃんも御用意されたのに

4 4 5 : 名無しが 适当語り ID : v p n F l T g Z 6

ビコーペガサス「進捗が駄目って事だろ?」

4 4 6 : 名無しが 适当語り ID : Q v d y N e P B z

>>4 4 5

駄目にしないで下さい、オタクは待ってるんです



447 : 名無しが適當語り ID : OT3Gv1vVW  
いつからこんなにも涙が出るスレになったんだ？

448 : 名無しが適當語り ID : BaocNppbk  
>>>447

勝手に泣いてるだけなんだよなあ

449 : 名無しが適當語り ID : G72vZdW9s  
もつとアセビの話してホラホラ

450 : 名無しが適當語り ID : VxNpbLV4k  
アセビと言えば、ウマ娘関係無いけどカレンダーが出るらしいです  
ね

451 : 名無しが適當語り ID : VgicB6U4Z  
>>>450  
マジで関係無くて草。スレチヤろ

452 : 名無しが1 ID : liOE5VSU1  
>>>450  
スレ立てた人です!!

こちらのスレはアセビ冠名の馬(関係者)に関する事ならなんでも  
オーケーなので、じゃんじゃん語って下さい!!

カレンダー楽しみです!!

453 : 名無しが適當語り ID : 6qFdKUY3o  
カレンダーなあ、滅茶苦茶欲しいけど受注じゃ無いから予約戦争に  
負けそうなんよな

454 : 名無しが適當語り ID : 4tSsbBU1o  
sampleの文字が被せてあるけど隠し切れない写真の可愛さ

455 : 名無しが適當語り ID : J l q B d l j J F

関係者さんが撮ってくれる写真も助かるけど、プロのカメラマンさんが撮った写真にも高い栄養素がある

456 : 名無しが適當語り ID : Z 5 c / x J A x J

確か牧場運営してる高垣さん家の娘さんがカメラマンしてるんだっけか

457 : 名無しが適當語り ID : k t M 2 n Y m g G

>>>456

せやで。

しかも写真家としてまあまあ売れてる人だから、本来ならスケジュールに空きが無かった筈なのに「オイオイ、俺の家の馬だぞ？俺が撮らなくて誰が撮るんだよ(意識)」するくらいには家の動物大好きウーマンさんだ！

458 : 名無しが適當語り ID : D a W V A 3 p g a

あら、脳焼かれてる……

459 : 名無しが適當語り ID : u K 2 d b W L l /

通常運転やな(洗脳済み)

460 : 名無しが適當語り ID : T o O g C R R D H

まあ、馬だけでもとんでも無く金掛かるし微々たるものだとしてもカレンダーの売り上げを運営に充てて貰えればね、オタクは大満足ですよ

461 : 名無しが適當語り ID : f P h R N V 7 3 /

>>>460

それ

462 : 名無しが適當語り ID : 8 h O p g l l w R  
カレンダー見本として1〜5月までは写真出てたけど、6〜は明か  
されてないから楽しみなんだ

463 : 名無しが適當語り ID : E O g k l 7 L r Z

1月 : 犬

2月 : 馬 (アセビロード)

3月 : 羊 + アセビツバキ

4月 : 馬 (アセビツバキ)

5月 : 現役時代のゼツケンや優勝レイ

464 : 名無しが適當語り ID : q H f I D p J i Y

>>463

これ馬の他にも牧場で飼ってる動物の写真もあつて本当に家にい  
る動物皆好きなんやなつて

465 : 名無しが適當語り ID : J 6 n 4 G l t W S

まあ、円谷動物園を隣で見続けて、見続けた末に動物園を受け継い  
だ人やからな

466 : 名無しが適當語り ID : A J i Y B w w 0 3

>>465

高垣芳司氏からずっと動物園受け継いできて、1度も経営とかで行  
き詰まって無いの有能1族過ぎる

467 : 名無しが適當語り ID : A 6 o x N u 4 X 0

>>466

まあ、日本のみならず世界でも名が知れ渡ってる会社ですしお寿司

468 : 名無しが適當語り ID : e n 8 a f i b J K

なんか取引先のお偉いさんがとねっこ時代のコウロ君にメロメロ  
になってた話無かつたっけ？

469 : 名無しが適當語り ID : V9kf4OBBS

>>468

あの可愛さだけで契約取れたやつか

470 : 名無しが適當語り ID : w2N2pD76+

なにそれ知らない

471 : 名無しが適當語り ID : PUCamJwO7

海外の有名企業とお話しが

←

取引相手が動物好き

←

ウチ牧場やってますよ！見ます？

←

コウロ（とねっこ時代）を見て取引相手が一目惚れ

←

この子を養う為にお金ガツポガツポ稼ぎましょう！契約？オー  
ケーオーケー!!!

472 : 名無しが適當語り ID : 1S84gusht

>>471

分かん

473 : 名無しが適當語り ID : BgMg9Vaej

>>471

円谷先生の強盗説得事件と同じくらい分かん

474 : 名無しが適當語り ID : 1SsDAHqPN

>>471

意味分からん方法で物事を解決させる感じ、やっぱり類友やなあ

475：名無しが適當語り ID：m c P 6 g Q x e V

まあ、とねっこコウロは可愛いから仕方ないね

476：名無しが適當語り ID：R t E S L V 9 6 0

コウロ君パドックとか返し馬の時にぴよんぴよん跳ねてるの可愛いよね

477：名無しが適當語り ID：M q u C X Y D Z L

>>476

あれは可愛い

478：名無しが適當語り ID：v 6 k G d t 4 f X

雪にはしゃいだロードお爺ちゃんが跳ねてるのを見て真似したのが始まりと言われているコウロジャンプ

479：名無しが適當語り ID：f s 3 8 G s D v U

>>478

お爺ちゃん本当に心配になるからほどほどにしてくれ

480：名無しが適當語り ID：V u b G N f W x x

飛び跳ねに関してはチケゾーもしてるので

481：名無しが適當語り ID：j m u p f I 8 1 B

チケゾーは規格外過ぎるのよ

482：名無しが適當語り ID：4 A 2 / X K U U U

雪を見てはしゃぐG1優勝馬アセビロード(30歳)

483 : 名無しが適當語り ID : N / 6 B 4 Q d i s  
>>482

アセビロードの年齢知らなかったけど思った以上にお爺ちゃん  
だった

484 : 名無しが適當語り ID : v w o I I B m N 9  
ツバキさんも25歳くらいだっけ

485 : 名無しが適當語り ID : 0 7 f s q w 6 2 8  
ツバキ姐さんは来月で26歳になるんや……なるんか……元気で  
いて……

486 : 名無しが適當語り ID : x D 5 t Y 0 L z D  
>>485

もう26歳なんか、俺が現役を見ていた時代から約……ウツ……

487 : 名無しが適當語り ID : C s 8 k f a / 2 /  
競馬あるあるでダメージ負ってて草……うっ

488 : 名無しが適當語り ID : i a B m 6 H Y N B  
>>487  
オマエモナー

489 : 名無しが適當語り ID : I B / E + M o u l  
アセビの馬は長生きとは言うけど、やっぱり寿命がある訳で、会い  
たいね

490 : 名無しが適當語り ID : 8 z 5 V K S 5 S 2  
予約が取れません

491 : 名無しが適當語り ID : x e u A O l k + B

ウマ娘効果ホンマヤバいな

492 : 名無しが適當語り ID : 1MukQODTc

アセビが長生きなのは分かったけど、1番短命なのって誰なの？

493 : 名無しが適當語り ID : zqC63Ocx /

>>492

デビューは結局しなかったけどツバキ姐さんとコウロ君の間に1頭いて、その子が病気で20歳没だったはず

494 : 名無しが適當語り ID : xyUtWai / C

>>493

(馬換算で) 短命の法則が乱れる

## 寒い季節を熱くする

ジリジリと太陽の熱がコンクリートを加熱する7月。  
青々とした芝の上を歩くも、日本の日差しがマシになる筈も無く、  
汗が噴き出る。

地元も暑い地域ではあるものの、本土の方もまた違った暑さで参っ  
てしまう。

「……大丈夫か？」

「んー、今の所は、大丈夫。ですねー」

レース前の控え室。

ルピナスと共に水分を摂りながら、時間を待つ。

壁に設置されたモニターから現在行われているレースが映ってい  
るが、画面越しに暑さが伝わってくる。

「幾ら短距離とは言え油断して良いって訳では無いからな。体調に変  
な所があつたら、出走直前でも言ってくれ」

「あい。分かってますよー」

ルピナスは俺が担当している中でも屈指ののんびり屋だから、もし  
かしたら既に体調が悪くなっているのに気付いていないのかと邪推  
もするが、のほほんとした顔でお茶を飲んでるのを見ると、杞憂だ  
と安心する。

「……よし、そろそろ時間か」

集合時間に近付き、席を立つ。

俺に続いてルピナスも席を立ち、控え室の扉を開ける。

「それじゃあ、かましてこい最速娘」

「……うん。いっちょよ、走ってくるよー」

背中を軽く叩いて、ルピナスを見送る。

雰囲気は変わらないものの、顔付きはアスリートのものへと変わ



る。

ゆつくりと歩いて行く後ろ姿を確認して、ゴール板前へと移動した。

・  
・  
・

ー夏の日差しが厳しい中、ここ新潟競馬場1,000メートルで行われるG3、アイビスサマーダツシユへと出走するウマ娘達が次々にゲートへと入りますー

ゲートへと入る。

少し手狭でソワソワする気持ちを落ち着かせながら、自分のお尻を軽く叩く。

ーゼツケン18番が今、ゲートへと入りましたー

カチリと嵌ったナニカに意識を集中させて、目の前が晴れるのを待つ。

ーゲートが開いて、アイビスサマーダツシユ、今、スタートしました!!!  
ー

出だしは上々。

ルーちゃんは自分の枠番から近い内ラチに沿って走る。

でも、芝が少し荒れているから内には行き過ぎない。ルーちゃん  
は、ルーちゃんなりに走るだけ。

ーアセビルピナス内ラチに沿って1人旅!!半バ身後ろにリードマガジン、そこから1バ身はなれてラヴィアンローズ、ユイイツムニ、ミニペロニーが続きます。残り800メートル!ー

周りの皆は殆どが外ラチを走っているから様子が分かり易い。

黒髪の子がピツタリルーちゃんを追っていて、金髪の子がその後ろ、眼鏡の子、赤髪の子。

1,000メートルというスプリンターズステークス、高松宮記念よりも短いこのレースでは一瞬の油断が命取り。

ー残り400メートル!!ここで、ユイイツムニ、ミニペロニーが脚を進めました!おおっと、後方からフリルドマンダリンが突っ込んで

来たぞー!!!アセビルピナスは逃げ切れるのか!今回こそ、捕まっ  
てしまおうのか!!!

とあるウマ娘を誰かが「逃げて差す」と形容しているのを聞いた事がある。

それがどんな意味なのか、どういう事をしていたのかはルーちゃん  
が言われた本人では無いから分からない。

でも、そのウマ娘さんと一緒なのは、ルーちゃんも全力で走ってい  
る。ルーちゃんだけの先頭を走っている。

それだけだ。

ーアセビルピナス再加速!!!一度はフリルドマンダリンが踏みかけ  
た先頭を譲りません!!!残り100メートル!!ここまで来たらもうア  
セビルピナスは止まらないぞ!!!

アセビの最速を、証明する。

これが、ルーちゃんのもの。アセビルピナスの走りだよ。

ーまたまたアセビルピナスが短距離レースを逃げ切った!!!タイム  
はなんと53.7!!!レコードに迫るスピードでした!!!

「ふうーっ、ルーちゃん。勝利のV!熱々な季節を、更に熱々に、し  
ちやいましたー」

## 幻覚の中で出会う2人

「あの、落としましたよ」

あの日、あの時出会ったウマ娘の貴女。

話した時間は30分と2分半。

たったそれだけの時間だけど、私の心に深く深く残っている。

美しい思い出の1つ。

・

・

・

「でも、私は今、少しスランプで……勝てないんです」

「そうなんですネ」

「気持ちに身体が追い付かないというか、1歩を踏み出せ無いという  
か」

「成る程。私も土俵が違うとは言え、スランプを体験した事があるの  
で、お気持ちお察しします」

「へへっ……有難う御座います」

オジサンとウマ娘の学生が並んで話してるなんて、側から見たらど  
うなんだろうなあと思いつつ、その話に耳を傾ける。

懐かしいなあ、私もスランプになって何も出来ない日が続いて病み  
かけた日々を思い出して苦い顔になる。

でも、そうか、ウマ娘もスランプになるもんなんだな。

「……あの、貴女の次のレースは何ですか?」

「へっ? ああ、えっと、秋の天皇賞です」

「天皇賞! 私も名前だけは知っています!」

天皇賞、私が有馬記念と日本ダービーの次に知っている大きなレー  
スの名前。

たった30センチの隙間の向こうに座る彼女はこんなにも凄いウ  
マなのか。

「見に行きますね」

「えっ?!いい、いや!そんな!!こんな状態の私は絶対負けてしまうので!」

「いいえ、勝ち負けなどどうでも良いのです。袖振り合うも多生の縁。今日この縁で繋がった貴女の勇姿を私は見たいと思いました」

「……はい」

「あっ!今更ですけど、お名前は?私は円谷巽と言います」

「ボタンです。アセビボタン」

「アセビさん、貴女の旅路に幸多からん事を」

「はいっ!頑張ります、もう1度咲いてみせます」

毛先だけ黒い、人間には人工的にしか作る事の出来ない不思議な髪色。

頭の上で揺れる2つの耳、意思を持ったかの様に揺れる尻尾。

私とは全く違うウマ娘という種族の彼女。

接点も、関係性も全く無い筈の私達。

それでも、心の底から応援したいと思ってしまった。

・  
・  
・

人混みの中でもよく分かる特徴的な髪色。

あの時とは違う和装に似た綺麗な衣装。

皆、必死に走っていて、誰が勝っても可笑しく無い勝負。

東京の競馬場、最後の直線。初めて来たけれど、熱気に気圧されてしまった。

目的のあの子はまだ後ろで、沢山のライバルに囲まれている。

本来なら初めて見に来たレースではしゃぐなどみっともないと思つて、後ろの方で黙って居ようと。

こんなオジサンが声を荒げるなんて恥ずかしいかな、なんて考えていたのにこんな熱を見せつけられたら

「走れーツツツ!!」

まあ、人生で最初の最後なんだ手すりに身体を寄せて叫ぶくらいはやっても良いか。

「私が勝てたのは、とある人から応援されたからです。

その人はレースを普段は見ない人なのに、私の応援をしたいと今日のレースを見てくれました。

走っている時は色々な音が聞こえて応援の言葉を一つ一つ理解する事は難しいです。

でも、貴方の声は確かに届きました。

本当に有難う御座いました。

私は、もう少しだけ旅を試してみます。

」

「異君、突然家で倒れたと聞いたから顔を青くして飛んで来たのに、ナンド、案外ぴんぴんしているね？」

「ああ、嫌。恥ずかしながらこの歳で興奮から大声を上げてしまっただね、後々立ちくらみで」

「馬鹿だねえ……君、身体は弱い方なんだから自重しなさいな」

「芳司君には心配をかけた」

「全くだ。俺も、妻も心配した。一番は君の奥方だけだ」

◇(づ)高覧あれ、美しき名花の走り

走る相棒の背に乗って、呼吸を合わせる。

G1の舞台は他の重賞、レースと比べても緊張感があるものだが、今日は一層その気が強い。

誰しもが勝ちたいと願い、天上人へ勝利を捧げる栄誉を狙っているが、それは馬には分らない。理解出来ない概念だ。

だからこそ俺は、何時もの様に、彼女がすつと気持ち良く走れる様にアシストをするだけ。

2,000メートル。最後のコーナー前。

彼女のラストスパートを邪魔されない様に進路を取ろうと手綱を握り直せば、誰かから「まえにいきたい」と言われて思わず顔を不自然に上げてしまう。

目を動かして声の主を探しても勿論、そんな事を言う騎手はいない。

幻聴かと思い、レースへと今一度集中すれば再び「だいじょうぶ、いけるよ」と声が聞こえた。

初めての感覚と体験。

もしや馬の声が聞こえたのかと思つて、相棒の表情を窺えば今までとは違う、ギラギラと焼け尽くされる様な闘志を感じる。

「そうか。なら、信じよう……！」

鞭を1発、合図を送れば、それだけでスルスルと加速し小さな隙間を撃ち抜いて前に出る。

もう大丈夫だな。と、頭の片隅で感じる。

彼女は最高だ。と、確信する。

此処まで来たなら、俺ができるのは、たった1つ。

アセビボタンから振り落とされない様にする事だけだ。

あの日の天覧競馬を見たファンは口を揃えてこう言った。

「凄いものを見た」

最終コーナー前からの無鉄砲なラストスパート。

馬群の中をスルスルと飛び出す少し小柄な馬体。

最強だと言われた彼女が、最強のままファンと、チームと、あの最上階からご覧になっている2人へ魅せた走り。

かのヘブンリーロマンス、かのエイシンフラッシュとはまた違う敬意の示し方。

ゴール板を過ぎ去って先程とは違う、緩めた足取りで芝の真ん中へ綺麗に止まった未だ黒い馬体、鞍上がヘルメットを外しその首筋へ軽く2回「そのままできてね」と合図を送り噛み締める様に頭を深く、長く下げる。

それを真似たのか、只偶然そうなったかは誰にも分からないが、鞍上が頭を下げるその下で最強で最高の相棒も前脚を軽く曲げ、その頭を深く下げた。

ヘブンリーロマンスが礼儀正しいお辞儀。

エイシンフラッシュが格好良いお辞儀。

そう例えるとしたら、アセビボタンは少女がカーテシーをする様な「美しいお辞儀」だったのだ。

湧き上がる完成と拍手、それは人馬が共に検量室へと消えて尚、1人と1頭へ向けられ続けた。

123：名無しが適当語り ID：oTHftGGYY  
アセビボタンの天覧競馬好き

124 : 名無しが適當語り ID : U v Q c e G l l Q  
分かる

125 : 名無しが適當語り ID : w P i x m k V 0 9  
1日に1回見直してる気がする

126 : 名無しが適當語り ID : o y a W + c n T /  
レース自体も最高だけど、その後がもつと最高

127 : 名無しが適當語り ID : Y P X s x Y c T s  
騎手が馬上敬礼した後にアセビボタンも釣られてお辞儀する流れ  
が美しいんだ……

128 : 名無しが適當語り ID : n t A E B X I 6 d  
多分落ち着かせる為の首ポンだとは思うんだけど、結果的にお辞儀  
しようねの合図に見えて可愛い

129 : 名無しが適當語り ID : / V q q Q D p d M  
>>>128  
ボタン「オーミがお辞儀してる！私もやらなきゃ！」

130 : 名無しが適當語り ID : G F h v A 6 R 7 a  
>>>129  
可愛い

131 : 名無しが適當語り ID : G c B j U V o d h  
近江騎手勝利を噛み締め過ぎて10秒くらいお辞儀してたけど、ボ  
タンの方もずっとお辞儀してたの、ほんま、ほんま、

132 : 名無しが適當語り ID : g v v r e o P R E



ボタン、お前本当に馬か？

133 : 名無しが適當語り ID : F1V8Ak1DE

UMAかもしれない

134 : 名無しが適當語り ID : H+31b8JNu

い  
少なくともアセビボタンが可愛くて頭が良いという事は間違いな

135 : 名無しが適當語り ID : vk46ronSE

>>134

それだけは正しい

136 : 名無しが適當語り ID : dgg7LVhB2

>>134

ベストアンサーにしますね……

## ステップの確認事項

「ロード！次のレースは、根岸ステークスに決まったぞ」

「根岸、ステークスって、ダートの然も短距離じゃなかったかな？うらは障害レースに出ると思っていたのだけどね？」

「アセビロードが障害レースに行く事は決定事項だ。しかし、地面が殆ど芝とはいえ、ダートの場所もある。ロードが砂を走れるか、走れないか、言ってしまうえば確認の為だな。勿論、勝ったら勝ったで金星だ」

「勝つかー、ふむー、うら的にはプラス2, 000欲しいね」

トレーニング後のストレッチ、チームの皆と一緒にクールダウンをしていればトレーナーに声を掛けられて、まさかの提案に珍しく驚いてしまう。

他の皆だつてうらの適性外のレースへの提案で変な顔になっている。

「だけど、訳を聞いてみれば案外納得できるもので、出走枠を1つ潰した気分になって少し申し訳なくなるが、これもうらが成長する為だ。ご勘弁、だね。」

「ダートを走れるかの確認だが、勝負には本気でな」  
「勿論。そこは重々承知、本気で行くさ」

【東京競馬場。第11R。根岸ステークスに出走する全16人のウマ娘がゲートへと向かいます。注目のウマ娘はシャバランケ、チーフパーサー、デユンナ。逃げと得意とする3人は一体誰が逃亡者となるのか】

係員さんに案内されて、ゼッケンと同じ8番のゲートに入る。

「そしてアセビロード。普段は長距離、芝のレースに出走している彼女ですが、まさかのどんでん返しを起こせるのか」

次々とライバル達がゲートに入るのを待つ中で、うらの事が紹介されて少し照れ臭くなった。

今日は初めての砂。それに距離もうらにとっては短過ぎる。

「確認だから」

そんな大義名分を掲げれば勝てなくても良いのだろうが、適性外でもうらは1人のウマ娘として、勝ちたい。

ゲートの中で怒られない程度に脚を動かして、その時を待つ。

【第×回、根岸ステークス。スタートしましたッ!!】

ガコンと開いたゲートと同じタイミングで飛び出す。

うん、良い感じッ!

・  
・  
・  
【残り200の標識を通過! 現在先頭はチーフパーサー! その後ろをリードノベルが追っていて、その次ドユンナ、フリルドベリー! アセビロードは未だ最後方です!】

脚の感覚が違う、距離が足りない、経験も足りない!

やっぱり短距離の時間はうらには早過ぎる!

でも、でもでも! ここで諦めたら、障害レースで勝つなんて夢もまた夢。

まだ、道は見えていないけど、参考に見た過去の根岸ステークスでやっていたあのウマ娘さんみたいな追い込みを、やってみる。

【アセビロードが後方から一気に飛んで来たぞー!! 凄い脚だ!! 前に届くか! 届くか!! 届くか!!】

少し無理矢理に脚を使った所為で、1,400メートル走っただけなのに珍しく息が上がった。

流れる汗を拭って掲示板を見ればうらの番号である8は掲示板に入っていないかった。

判定の映像を見る限り、どうやら5着のウマ娘さんと頭の差で負けたらしい。

「根岸ステークスお疲れ様、ロード。凄い脚だった」

「うん。でも、負けてしまったねー」

「それはまあ、悔しいけれど、仕方のない所もあるさ……ダートでも走れそうか?」

「そーだねー。うらは、走れる。と!思うね」

「そうか。では、疲れが取れてから本格的に障害の練習を始めようか」

「あいあいさ!宜しく頼むね、トレーナー」

そんな話をして、ちよつとの休息を挟んで始まった障害レースの練習。

流石に本番と同じ障害は用意できないので、簡素な物にはなっているが種類の違う障害を並べて、芝の上にごどこかからトレーナーが持ってきた砂を撒く。

「トレーナー?あの、これは?」

「簡易版、芝とダートの境目だ」

「境目……?」

「俺も噂でしか聞いた事無いが、障害レース中の芝とダートが切り替わる部分で怪我やミスをするウマ娘が時々いるらしい」

「えー、本当なのかな」

「正直俺も半信半疑だ」

## 強者達が舞う、未だ高い壁

とある日、トレセン学園に響いた1つの叫び声。

肺活量を存分に生かしたその声の主は成長を見越した少しぶかぶかなジャージを着た黒髪のウマ娘である。

何故、そうなってしまったかは今からたった5分前に言われたとある言葉が引き金になっている。

・  
・  
・

未だ寒さが残るが、暖かいと感じられる日も少しずつ確認でき始められる様になった2月の某日。

チームシエアト、フルメンバーの6人でトレーニング前のストレッチをしていればトレーニングメニューが書かれた書類を挟んだバイナダーを持つトレーナー、若旅伊吹がアセビコウロに話し掛ける。

コウロはまさか怒られるのでは無いかとビクつきながらトレーナーの元へ近付いた。

「は、はい……な、何でしょうかあ……！」

「コウロは地方の重賞も獲ったウマ娘だけど、中央はまだ練習だけだろ？だから、そろそろ中央のレースにも挑戦させようと思つて。来週のダートレースに登録しておいた」

「！そ、そそそうですか！OPですか？それとも未勝利から？ですか？」

話す時の雰囲気とは裏腹にトレーナーからの言葉で手入れが行き届いたコウロの尻尾が揺れ、チームのメンバーはそれを微笑ましそうに見つめる。

だが、どんなレースに出るのかと聞いたコウロの想像を超えるタイトルがトレーナーの口から紡がれた。

「フェブラリーステークスだ」

「……………へ？」

「フェブラリーステークスに登録した」



「でも、こんな結果じゃG1なんて……」

「何言ってるんだ。コウロはまだ中央に来たばかりだろ？結果は急ぐものじゃ無い」

「で、でも……障害レースの先輩は有馬に出ても9着だって聞きました……」

「彼奴は別枠だ。絶対王者、100年に1度の天才、障害レースの最終障害って言われている奴と、コウロ違うんだよ」

「……はい」

「俺が教えた通りに走れたか？」

「……はい」

「今日は何で負けたと思う？」

「……歓声なんですけど、耳に響いて、慣れなくて」

「成る程な……よし、次行くぞ」

「へっ!?次!?!」

「明日からまた練習三昧だ。次こそ中央の重賞を獲るぞ」

「!……お、おす!!」

## 憧れと癖者とG1初勝利

1：名無しが適当語り ID：TPq4ZjCDv

【朗報】

終身名誉小金井騎手オタクの百合江水仙騎手がG1初勝利を挙げた模様。

クソオタクおめでどう  
!!!!!!!

2：名無しが適当語り ID：OU4YwnTlt

おめでどう!!限界オタク!!!

3：名無しが適当語り ID：f7KAmpb9h

めでたいなあ!言動以外!!!!

4：名無しが適当語り ID：IcClfBrCj

応援してて良かった……限界オタクさん……おめでどう……

5：名無しが適当語り ID：Ah/90EFhy

騎手全然分らないけど、G1初勝利という事でスレ覗いてみたらボロクソでワロタ

愛されてるんだよね???

6：名無しが適当語り ID：iu3Oy4FME

>>>5

めっちゃ愛されてるよ

7：名無しが適当語り ID：gdXjrU3YR

>>>5

(スレからも、騎手からも)愛されてる男だよ



8：名無しが適當語り ID：W+YZ/CVZC

乗馬経験無し、競馬村とも関係無しでありながら競馬学校を2番目の成績で卒業し、デビューから初勝利も早く、重賞でも中々良い成績を残しながらもG1は今回が初。

優勝インタビューで「馬が私を信じてくれて、斗真さんが私を信じてくれて、ファンが私を信じてくれた。だからこそ私が関係者の方々に信じる事ができて勝つ事ができた1勝です。皆で獲った大切な1勝です」

こんなん好きになっちゃうでしょ

元々おもしろー男だった事は置いておくとして

9：名無しが適當語り ID：VPWFwXt3

競馬学校卒業して斗真さんと初めて顔合わせた時、初めてじゃないです！ファンレターでご挨拶はしていたので！とか言ってたのほんま草

10：名無しが適當語り ID：GUlWjPsuW

>>>9

本人はド緊張してたから……

11：名無しが適當語り ID：36/jiA4dd

>>>9

それのお陰？お陰で小金井騎手に師事できたのでオツケーです

12：名無しが適當語り ID：x88n2+2SP

百合江騎手、小金井騎手リスペクトで馬降りる前まではガッツポーズとかあんまりしない人だけど、今回ばかりはガッツポーズ出ちゃってるの好き

13：名無しが適當語り ID：/VtXEOeOm

>>>12

分かる

14 : 名無しが適當語り ID : 44VrFu1P0

>>>12

すっかりカメラ抜かれて、ガッツポーズ後にあっ……ってなってるのも好き

15 : 名無しが適當語り ID : m1H/6DoJt

地下道に戻って来た時に小金井騎手が百合江騎手以上に喜んで泣いちちゃったのマジで「愛」だった

16 : 名無しが適當語り ID : zCzCYT6Zx

20年くらい前にもう馬に乗れなくても良いって言ってた男が周りに引き留められ、馬に乗り続けたこそその名シーンだった

17 : 名無しが適當語り ID : Eu7NzaXx1

>>>16

あの時、本当に騎手辞めてたら百合江騎手が騎手になる事も無くて、俺らのはわわってなる事もなかったんだもんな

18 : 名無しが適當語り ID : PP03yckZw

そう考えたら小金井騎手を引き留めた方もっと褒められて良いのでは？金一封くらい

19 : 名無しが適當語り ID : mLKEhxXNy

「百合江水仙が1着ー！ツ！あの日の背中を追い掛けて、漸くその背と並び立ちましたッ！G1、初勝利です!!!」

20 : 名無しが適當語り ID : navTZAAqG

>>>19

今年の上半期名実況入りやろ

21：名無しが適當語り ID：odKY/YEVj

>>19

小金井騎手が乗ってた馬と競り合った末の1着+この実況で俺の脳はもうボロボロ

22：名無しが適當語り ID：ClvjBbCA

思わずガッツポーズした百合江騎手の横を笑顔で通り過ぎる小金井騎手があまりにもね、良いんすよ……

23：名無しが適當語り ID：SA71mdv16

デビュー当時から小金井騎手を応援してて、その流れで百合江騎手も応援してたけど、今回ばかりは父親面になってしまった

24：名無しが適當語り ID：PAQZpsHaP

「私は只の斗真さんが好きなんじゃなくて、馬と触れ合っている斗真さんが好きなんすよ」

「1日だけ小金井姓を名乗りたい」

「私と斗真さんの年齢差が親子程あって本当に良かった」

25：名無しが適當語り ID：fDLY8hWTd

>>24

感動の中特級呪物をお出ししないで

26：名無しが適當語り ID：mpmi9xO/H

>>24

なにこれ。本当になに。

27：名無しが適當語り ID：TXkXBZovS

3つ目だけ意味が分からん

28：名無しが適當語り ID：Xh9Q6tnqS

>>27

「(初めて斗真さん呼びした時に小金井騎手からデカイ息子が突然できたみたいだな！と言われ)私と斗真さんの年齢差が親子程あって本当に良かった」

29：名無しが適當語り ID：jsa9WRYf9

>>28

鳥肌立った

30：名無しが適當語り ID：6n6gbPhO6

>>28

こんながレースではフェアプレー賞常習者とか嘘だろ

必死だった。今度こそだと思った。

私を信じてくれた人、私が信じた人に報いる為に唯一無二の相棒の背に乗ってターフを駆けた。

隣で誰かが私と競り合っている。

でも、今の私は、私達は、負けない。

ゴール板を駆け抜けて、私が1番になったのだと分かった時、普段は行わないガッツポーズが無意識に出た。

やっとだ。やっと、あの人の背中に並び立つ事ができたんだ。

沸騰する頭のままターフを余計に周って、私も地下道へと戻る。この歓声が全て相棒と私、仲間達に向けられていると思うと堪らない気持ちになった。

「おめでとー！」

「良くやった!」

「頑張ったな!」

沢山の言葉を貰って、馬から降りる。

どっと疲れが押し寄せてきて倒れそうになる身体を誰かに支えられて、抱き締められる。

親以外からこんな事をされるのは初めてで、誰かと思いい顔を向けたら、私の憧れる人の顔があつて

「おめでとう!! ああ、自分が勝った訳では無い筈なのに、なんだろうなこの感情!! おめでとう! 水仙!! 嬉しいなあ!!」

私以上に感情を爆発させて喜ぶ様を見て、私も釣られたのか腹の底から例える事のできない想いが湧き上がって、久し振りに涙が溢れる。

「はい……はい! やった、やりました!!! 私と、オンライハデイ相棒で!!!」

## ◇在りし日进行

あれは、10歳の誕生日を迎えて直ぐの話だ。

僕は走って数十分程の場所にあるとある施設に潜入した。

そこは海の近くにあつて、校庭よりも広いのに何をしているのか分からない場所。

両親からはお前にはまだ早いと言われたけれど、施設に入つて行く人達の楽しそうな表情を見たら氣になつて、仕方がなかつた。

誕生日前までにしっかりと調査して、その施設に入るには100円という大金が必要な事を知つた。しかし、僕の貯めに貯めたお小遣いを使えばなんとかする事ができるので問題はなかつた。

おじさんの後ろを歩いて親子を勝手に装い、念願の謎の施設に入る。

その場所は木が一本生えたグラウンドに、沢山の座る場所が並んだ謎の建物、更には最初に見たグラウンドよりも大きいグラウンド。

成る程、ここは運動ができる施設なのか。

納得と共に両親は何故この場所が僕には早いと言つたのか、何故運動施設なのに人がグラウンドの中に居ないのかが新しい疑問としてやつてきた。

「なあ、おじ」

疑問を解消しようとして近くにいたおじさんに話し掛けようと思つたら、小さなグラウンドの周りにいたおじさん達が声を上げて思わずそちらに釣られて顔を向ければ、なんと、グラウンドの中に馬がいたのだ。しかも10頭以上。

見慣れない動物と、訳の分からない施設にずっと頭が混乱していった。

「な、なあ、おじさん！どうして馬がいるの!？」

今度こそおじさんへ興奮氣味に話し掛ければ、おじさんは面倒臭そうに煙草を吸いながらここが「ケイバジョウ」である事を教えてくれた。ケイバジョウは沢山の馬を走らせて、1着になる馬を当てる遊び

ができるらしい。

「それ、僕もできる?!」

「ア?……ガキには無理だ」

「どうして?」

「1回遊ぶにはな、入場料の倍以上の金が掛かるんだよ」

「入場料の、倍……?」

頭がクラクラとした。

僕がここに入る為のお金を出すにもお小遣いを切りはたいて苦勞していたのに、高々1回遊ぶだけで倍以上なんて出せる訳が無い。

まさか、僕はとんでもないお金持ちの遊び場に来てしまったのかもしれない。

「坊主、お前何でこんな場所に来た」

「え?えつと、ずっとこの場所がどういうものか気になってて、先週10歳になったから、突入してみようと思ったんだ」

「ハッ、お前もクソみてえな場所が気になったモンだな」

おじさんは僕を鼻で笑いながら吸い終わった煙草を地面に押し付けて、2本目に火を付けると、どの馬が気になると聞いてきた。

僕は正直、毛の色の違いしか分からなかったけど、何となく目を奪われた馬を指差す。

「あれ!あの、3番の馬!」

「ほお、中々良い馬に目を付けるじゃねえの。あの馬はな、少し前にダービーに勝ったんだ」

「ダービー?」

「ああ、何万頭といるかもしれねえ馬の中で1番になった馬だ」

「!凄い!じゃあ、あの馬が1番だね!」

「嫌、分かんねえぞ。なんたって、ダービー馬の癖に今はこんな所にいるんだからな」

「?」

日本ダービーが凄いという事は分かったけれど、おじさんの言っていた言葉はよく理解ができなかった。

首を傾げる僕をおじさんは態々大きい方のグラウンドにまで連れ

て行つて、色々教えてくれた。

僕はおじさん達が持つ券？を買う事も出来ないが、3番の馬を応援しようと思つた。

馬がグラウンドに集まつて、一斉に走り出す。

僕が応援する馬は茶色い毛で、他と見分けが付けられなくて必死に「3」の文字を目で追つた。

馬の名前が分からなくて3番！頑張れ！って応援したら、隣のおじさんは笑っていた。

3番の馬はスタートが下手だったのか走り出してからはずっと、後ろの方にいて勝てそうにも無かつた。

だつて、3番の前を沢山の馬が走っていて、先頭なんかはもう何十メートルと離れている様にも見えたから。

口では応援しても、頭は冷静に負けの2文字を受け入れていた。目を惹かれて勝つて欲しい馬ではあつたが、遊びにしつかりと参加している訳では無いから仕方ないと思つた。

「僕の3番、勝てないね」

「ん？……ああ、まあ、初めてはそう思うわな」

「どういう意味？」

「競馬はな、人間のかけっこと違うんだよ」

見てみなど視線を誘導されて、大きいグラウンドへと目線を戻せば3番よりも後ろを走っていた白い馬が段々と前へ、前へ脚を進めていた。

3番もさつきよりも脚が速くなっている様にも見えて、思わず立ち上がる。

4本の脚で地面を蹴つて、徐々に、徐々に他の馬を追い越して行く。無理だと思つた1番前との差も狭まつて、瞬きをした内に遂には抜かしてしまつた。

周りの何人かのおじさん達が声を荒げているのも気にならないくらい心臓がバクバクと早く動いて、息が荒くなる。

「……凄い」

「おー、久し振りに良い走りしやがったな……5レース振りの勝利か」



「ね、ねえ！おじさん！あの馬、なんて名前なの?!」  
「あいつかあ？あいつはな」

2022年8月20日（土）

見ていた風景が歪んで、思わず目を開ける。

そこにはあのおじさんも競馬場すらも消えて、自分の家に戻っていた。

膝の上には1冊の本が乱雑に置いてあって、自分がどうしていたのかを思い出す。

昔の様には動かない不便になった身体で立ち上がり、水でも飲もうと部屋を出れば、見慣れた我が家が広がっている。

湯呑みを持って居間へと入れば、昨日から遊びに来ていた孫が携帯電話を弄って何やら嬉しそうに騒いでいる。

「どうしたんだ？」

「あつ！爺ちゃん！爺ちゃんって、競馬とか見てる？」

競馬。10歳の時分以降は勉強やら、仕事やらですっかり見なくなっていたもの。

けれどあの時の光景が目には焼き付いて、もう1度見たいと時々テレビで流していたもの

「少し見る程度だな」

「じゃ、じゃあさ！昔の馬は知ってる？」

「昔？突然どうしたんだよ。はまったのか？」

「……はまったというか、」

孫の口からポツリ、ポツリと放たれる先程喜んでいた訳。

今の時代は競走馬をモチーフにしたゲームが人気になり、孫もそれが好きで今はモチーフとなった競走馬を調べるのがブームなのだろう。

「はあ……だが、爺ちゃんだって有名な名前を知ってるくらいだからな、お前が好きな馬はなんて言うんだ？」

「えつとね、」

孫が口にした言葉。

その言葉はどうにも俺と、関わりがあり過ぎる名前です。笑ってしま

う。  
「懐かしいな。……アセビズナか。覚えてるよ、荒尾の海を背に  
して走り抜けた茶色の馬、差すのが得意な3番の馬」

もう、その馬が走る姿は見られない。

もう、その馬が走った場所に行く事も叶わない。

だけど、久し振りにその馬がその競馬場で走っている姿を思い出せ  
た。

「……今日は寿司取るか」

「え!? お祝い事なんて何もないよ?」

「爺ちゃんが今決めた。孫への感謝だ」

「尚更意味が分からないんだけど!」

飛べ、その手が触れる前に

中山競馬場。

明日の大レースと比べると少し寂しい雰囲気のあるこの場所で年に2回しか演奏されない、少しだけレアなファンファーレが鳴り響いた。

うらは今日、出走の予定は無いが仲良くしている子達の応援の為にこの場所にやって来た。

「頑張りな！怪我はしない様にね〜！」

ゲートへと向かう途中の2人に声を掛ければ芦毛の彼女は会釈を、鹿毛の彼女は今日も抜かすと意義込みをうらに残して歩いて行った。

何回か同じレースにも出走した2人は正しくライバルで、今日はジュウちゃんが勝ち星を上げるのか、それともデイトちゃんが才能を見せつけるのか。

4, 250メートルの戦いが今、始まった。

・

・

・

【現在先頭のアップトウデイトが5番目のハードルをジャンプしました！安定した飛越です!!……そして今、後続のオジュウチヨウサンが5番ハードルをジャンプしました！打って変わって薙ぎ倒す様な荒々しい飛越です！】

一瞬だけ止めていた息を吐く。

最後尾の子が無事ジャンプしたのを確認して拍手を贈る。

ジュウちゃんとデイトちゃんは同分野の選手でありながら、攻略方法は正反対だ。

デイトちゃんは模範的で綺麗な飛越をロスなく行い、ジュウちゃんは殆ど跨いでるに近い怪我するギリギリを攻める飛越。

だからうらはジュウちゃんがハードルに差し掛かった時には息を止めてしまう。

もう少し経験を積んだら、ちゃんと跳べるようになれば良いんだ

けどね。

「12番目のハードルをオジユウチヨウサンが今ジャンプしました！リードを5バ身程付けてアツプトウデイトが追います!!」

最後の直線。中山の400メートルも無いターフをジユウちゃん  
が1人で独走する。

トレーナーさんが変わってからには正に才能開花としか言い様の無い、王者の走り。

デイトちゃんも必死に食らい付いているのにその差は絶望的で追いつけない。

オジユウチヨウサン、1着。

アツプトウデイト、2着。

ゴール板を駆け抜けて、減速した2人が敵では無くライバルとなつて戻って来る。

「お疲れ様、なんだね」

「今日も俺の勝ちだな!」

「そうね、おめでとう。でも、相変わらず飛越は下手ね」

「は、はあ!?!勝者に対する第一声がそれかよ!?!」

「気を付けなさいって言ってるの」

「んだとお!?!」

「まーまー、2人共良く頑張りました。だから今日は、そういうの無しでお祝いをしようと思ってるんだけどね?」

「マジ!?!ゴチになります!」

「全く……貴方ってば」

「んふふ。良いライバルは、素晴らしいね」

「ライバル?」

「貴方が?」

性格も、レーススタイルも、生き方も違う2人が見つめ合つてギラギラとした闘志を目に写す。

「次も勝つ」

「……あつ！でも、ジユウちゃんは打ち上げ前にちやんと、危険な飛越をした事をトレーナーさんから絞られて来るんだよ」

「オジユウく、こつちおいで」

「げえ！もう来やがったのかよ!?!」

「ほら、早く行きなさい」

「……ちつ、こうなったら投げ飛ばしてでも逃げるしかないか……!」

## 炎に焚べる、新緑の香り

私のチームにはじやじやウマ娘がいる。

その子は口と素行が少し悪くて、レースにもあまり意欲的ではない。

成績はデビューから全戦全勝のストレートでオープンウマ娘入りの凄子なのに、それ以降は勝ち切れない。

ポテンシャルだけならきつと学園でも随一なのだからもう少し真面目に言っても、アタシには関係無いの一点張り。

ちよつとだけ難しい気性の頑張り屋さん。

「それじゃあ、頑張つてね。私は観客席で見てるから」

「別に、先輩ハもう帰つても良いんだケド」

「そんな事言わないで。私はスーちゃんの活躍が見たいんだから」

「スーちゃんつて呼ぶなし」

私とは違う洋装の勝負服に身を包んだスーちゃんこと、アセビズナは面倒臭そうに控室の椅子に座って脚を組んでいる。

これから始まるG1レースに出るとは思えない落ち着きようで、側から見れば緊張をしておらず、私から見たら案の定意識がどこにも向いていない。

「今日、勝てるかな？」

「どうだろうな。マア、悪い結果にはならないダロ」

「私、スーちゃんが久し振りに勝つ所、見たいよ」

「気が向いたらナ」

いつもと変わらない会話。

私にはスーちゃんの気持ちをごどうにかするなんて出来なくて、頑張れます様について祈る事しかできない。

暫くして、スーちゃんはスタッフさんに呼ばれて控室を出て行った。それを確認して、私も観客席へと向かう。

「……トレーナーさん。どうしたら、スーちゃんは走れるのでしょうか」

トレーナーさんが空けておいてくれた席に座って、ターフを見つめる。

私は今、スーちゃんへの期待よりも心配の方が大きくなっている。俺も分からん。模索してどうにかできないかと思っってはいるが、スズナからは回路が回らないとだけ言われてお手上げだ」

「回路、ですか？」

「そう。スズナの中には確かに譲れないモノがある。だけどそれはスズナの人生というよりは、スズナが目指すたった1つにしか作用しない。スズナが全てを費やして走るのはきつと人生の中でほんのひとつまみ程度の瞬間しかない」

「そう、なんですね……今のスーちゃんが信念から来るものなら、きつと、私のお小言なんて聞いて貰えないですね」

「そんな事言つてやるな。スズナの信念は、ボタンにもきつと良い方向に作用するさ」

ファンファーレが演奏される。

スタンドから近い場所に設置されたゲートへと勝負服姿のウマ娘達が落ち着いた様子でスムーズに枠入りを進める。

最後の1人が入り、一瞬の静寂。

「……始まる」

ガコンと一斉にゲートが開いてクラシックの最初の冠、皐月賞が始まった。

「……スーちゃん。お疲れ様」

「ン」

1：59：8で決着した皐月賞でアセビスズナは5着になった。

最後の末脚は上手く出来ていたけれど勝負所が少しだけ遅く、ギリ

ギリ掲示板に入るのが精一杯だった。

「スーちゃんはクラシックを目指しているから、次はダービーだね」  
「オウ」

「覚えてる？ スーちゃんが入学して、私と出会って直ぐの頃、ダービーで負けた私を挑発したの」

「事実ダロ？」

「それは、そうだけど。……あの時のスーちゃんはダービーに勝つて言っていたけれど、今も「アタシはダービーに勝つぞ」……そう、思ってるの、か、な……？」

私の言葉に割り入ったスーちゃんの言葉。

こんな事は珍しくて、思わず自分の手に落としていた視線をスーちゃんへと向ければ強い意志と、今までとは違う勝利へと喰らいついてしまう様な鋭い瞳と交差する。

初めて見た。アセビスズナが見せる本気の欲。

「スズナの中には確かに譲れないモノがある」

トレーナーさんの言葉がふと頭によぎる。

そうか、これが。

あの時限りの宣言なのでは無く、渴望し炎を燃やすそれが、スーちゃんの望むもの。



## あどけない君へ偉大な2分間を

わたしは昔より、ずっとずっと強くなったと思います。

最初は中央で結果を残すなんて夢物語だと思っていたけれど、わかさんトレーナーやチームの先輩達のお陰で名だたる強豪と遜色無い走り出来る様になりました。

目標だったさきたま杯と浦和記念にも勝てました。

そして、目標を達成した今、何を目標にすれば良いのか分からなくなりまして。

惨敗したフエブラリーステークスでも私は勝てる様になって、なんと言うか、強くなれたのは良い事なのに、ここまで来てしまうと心がびっくりして、前に進めないんです。

「わたしは、どうすれば良いんでしょうか」

目の前のわかさんトレーナーは難しそうな表情で、何かを考える。コウロはどうしたい？と聞かれても、わたしは答えられなかった。

目標を達成してしまつて、わたしの中のナニカが無くなったしまったかの様な感覚でどうにもレースへの意欲が湧かなくなっていた。

わたしの心は「走りしたい」「強くなりたい」って言っているのに身体が動いてくれない。

「地方のわたしが中央においでとスカウトされて、最初は皆に全く歯が立たなかったのにチームのお陰で、さきたま杯と浦和記念に勝つて、中央のレースにも勝つて、上手く行き過ぎた所為で……」

「それは全てコウロの努力があったからこそだ。俺達は少し背を押しただけでそれ以外はコウロが積み上げたものがあつたからこそ」

「でも、何かが無くなってしまった。贅沢な悩みの筈なのに、こんなにも苦しい」

わたし達はレースに出る度に他の17人の夢を破つて1番になる。17人を絶望に落としたながら栄光を掴む。

「……じゃあ、こうするのはどうだろう？コウロが目標を見つければじゃなくて、コウロが目標になる」

「わたしが、ですか？」

「ああ。コウロは地方から中央にやって来て、良い成績を残している。それは紛れも無く目標とされるに相応しいウマ娘だ」

「でも、わたしと同じ様な経歴を持っていてもっと凄いうマ娘さんは沢山います」

「だろうな。でも、コウロが唯一と呼べる栄光を手にしていれば同じなんて言葉は使えない、思われない」

「唯一？」

わかさんトレーナーが徐にノートパソコンの画面をわたしに向けて。そこに写っていたのはとあるレースの映像。

日本のレース場らしからぬ雰囲気と、方々で聞こえる日本語では無い言語。

「地方から中央を制する、そういうウマ娘はいた。だが、地方から中央を制して中央以外も制する。これは中々いないだろう？」

パソコンから流れるアナウンサーさんの声。

拙いリスリング力を駆使して聞こえたのは「ケンタツキーダービー」というタイトル。

わたしにも覚えがあるアメリカのG1レースで知名度、名誉共にとても高いメインレース。

「このレースで、地方から海外に飛んで尚且つ奇跡みたいな事をやったウマ娘が出走している。誰もが夢を見る走りをした凄い奴がいる」

紫色の勝負服。

高く結んだ黒髪のウマ娘。

「コウロも、こういうヒーローになれるんじゃないか？」

ヒーロー。わたしが、ヒーロー？

無理ですよ。わたしには。

思わず溢れた言葉は飲み込んだ。その代わりに別の言葉を吐き出す。

「わたしにもそんな事ができるでしょうか？」

「できる。とは、簡単に言えないな。スポーツの中で最も偉大な2分間と称されるレースだし、ダービーじゃ無かったとしても世界の壁は高い。だけど、一緒に行こうとは、言える」

「……わたしが、その舞台に行きたいと行ったら、着いて来てくれるんですか？」

「同じ飛行機、ファーストクラスを用意しよう」

思わず笑ってしまう。

ファーストクラスなんて莫大な出費、いくらトレーナーという職業でも難しい筈だ。

でもそんな事を言ってくれるくらい、わたしのことを信じてくれるなら。

「約束、ですからね」

「約束だ。これからは暫く、どうすればなんて言えなくなるからな」

「……はいっ！」

## 育成目標：オークスで3着以内

【第 回優勝牝馬、これから始まる2分半の戦いで今年の櫛の女王が決まります。1番人気は日本ダービーにも出走した異例のローテーションに挑戦するアセビボタンッ！】

建物が壊れんばかりの歓声に包まれながら、1人のウマ娘が地下道からその姿を表す。

毛先だけが黒い葦毛に左耳に結ばれた花飾りが付いたりボン。見慣れた紫色の制服とは違う、落ち着いた色で纏められた勝負服。

コツコツと音を響かせながら、落ち着いた様子でコンクリートを越えて芝の地面に脚を沈ませる。

周りがファンや友人、トレーナーへファンサービスをしながらゲートに向かう中、1輪の花だけは前だけを見て真っ直ぐに歩いて行く。

その目に牡丹の色を灯しながら。



【さあ、貴方の愛バが女王になる瞬間を見届けよう！第 回優勝牝馬が今、スタートしましたっ！】

一斉に開いた鉄の扉と同時に18人のウマ娘が飛び出した。レース前インタビューの通りにポジション取りが進んでいるが、1番人気に押されたアセビボタンは出遅れたのか後方に近い位置に収まっている。

【おおっとここで、アセビボタンが出遅れたか後方のレース運びとなりました！初めて見る位置取りですが、矢張り先週のダービーが響いたか！】

「……クソっ、やっぱり出遅れた！」

応援の声に掻き消される中で、1人の男だけが苦々しい顔をして第1コーナーを回って行ったウマ娘達の背を見送って、ターフビジョンに視線を移す。

男が見つめる葦毛のウマ娘は相変わらず先頭のウマ娘から10バ身以上を離された位置にいた。

「だが、これはまだ想定済み。作戦は伝えてあるし、他のウマ娘にも囲まれていない……!」

それに、ダービーの2着でスイッチが入ったのか出遅れという大きな要素が気にならない程に、彼女は今、最高の状態に仕上がっている。

1週間という短過ぎる休みの中で彼女は疲れを残す所か、更に上へ行った。

「お前の旅は、誰にも邪魔させない」

届かない声援。

それでも、言霊なんてスピリチュアル的な考えが信じられているのだから、その男も、全力で自分の教え子に言霊を乗せる。

「……走れ、ボタンっ」

▼  
第4コーナーに入る。

先頭で逃げるウマ娘さんの背中はこの位置では見えない。

ラストスパートを仕掛けるタイミング。でも、前は沢山のウマ娘さん達がいて、私はバ群に入っていく事が出来ないから内を進むのは難しい。

初めての後方で走るレース。初めてのバ群の交わり方。迷惑にならない様に気を付けてコーナーで態と膨らむ。

そして、直線でラストスパートッ!

【ここで、ここで!アセビボタンが外に持ち出してラストスパートを掛けるッ!東京レース場、残り約526メートル!連闘したその脚は坂を越える力が残っているのか!】

私かもしれない。次は頑張ろうって言われて終わる。

でも、私は自分の我儘を言ってダービーにも出走したのだから負ける事は出来ない。

ここで負けたら、不調のまま担当ウマ娘を出走させたなんて言われて、トレーナーさんも優しいから私を守ってしまう。

それだけは、それだけは嫌なんだよ。

私は、ここで負けられない。

ダービーに出したからなんて言わせない。そして、幻あの子の馬と隣で並び立てる様に。

「私が、勝つ!!」

このレースで、私は私の歴史負けを打ち破る。

「アセビボタンが今1着でゴールイン!!この瞬間に樫の女王が決まりました!女王の名はアセビボタン!“花の王”として名高い牡丹を名前に持つウマ娘が異例のローテーションで2冠達成!!前回の悔しい結果にリベンジすると共に、優勝として3冠が期待されます!!」

「……トレーナーさん」

「おめでとう、ボタン」

「次は、秋のイチヨウを獲りに行きませんか?私達ならきっと、できると思うんです」

「ああ、ああ!!獲りに行こう。俺がその道を完璧に整えてやるからな!」

「……はいつ。約束、です!」

何処かの世界で生まれた同じ名前の存在は日本ダービー後、低迷した時間を過ごす事となる。

だけど、その歴史を変えられるのならば。変えても許される世界ならば。

多くの夢を、その背に乗せて。

アナタがただ一つだけ、落としたものを

「……うん。書類関係はこれで全部、記入漏れと不備も無し。ようこそアセビスズナ、チームシエアトへ」

「宜しくお願いシマース」

広大なトレセン学園の中に設けられた一室。

時間を掛け、書類を満遍なく確認した責任者であり、トレーナーである若旅伊吹は焦茶の髪を高い位置でショートポニーにしたウマ娘、アセビスズナのチーム加入届けを受理し大切そうにファイルへと挟んだ。

チームシエアト、ペガスス座から名前を取ったそれは「チーム」とは名ばかりのアセビボタン、若旅伊吹のコンビであった。それが今、スズナが加入した事によりチームを冠する一步を踏み出したのだ。

少し癖のある文字で書かれた書類から顔を上げ、若旅は簡単な質問を、言ってしまうえば定型文の質問を投げ掛ける。

「えっと、なんて呼べば良い?」

「なんでもいい。アタシをちゃん付けしなければ」

「じゃあスズナで……スズナの目標は?」

「アセビボタンを扱き下ろすこと」

「えくくつと、あつ、名前が似てるしもしかして姉妹なのか?」

扱き下ろす。なんて、初対面の相手にはまず出ない言葉。

もし、アセビボタンが人から恨みを買ひ易い、気性に癖のあるウマ娘なら分かる話だが、実際の所気性難とボタンとでは辺戸岬から喜屋武岬くらい程遠い性格をしているウマ娘である。恨みなんて買う筈が無い。

その為若旅は2人が姉妹である事を予測した。

2人は共に「アセビ」の名が付いたウマ娘であり、血の繋がった家族ならばスズナが現在思春期であり、ボタンに対して少しだけ難しい時期なのだと考えた。

「あ? アイツとアタシは無関係だ。アタシはアタシの家族がいる」

「そ、そうなのか……」

しかし、予測は外れチームへと歓迎して直ぐに若旅はとんでもないウマ娘を受け入れてしまったと、胃を痛めそうになった。

だがそこはトレセン学園所属のトレーナーとして、ウマ娘同士の相性は今後どうにかすれば良いと頭の片隅に一旦追いやり、2つ目のこれもまた定型文の質問を投げ掛ける。

「アセビズズナの勝ちたいレースはなんだ？」

口にして仕舞えば5秒もいらぬ。20文字にも満たない質問に一瞬、アセビズズナの鈍い黄色の瞳が光る。

若旅が見えたのは、どこか無気力に見えるスズナの中の激しく燃えているような苛烈さ。

「……ダービーだ。日本ダービー、アタシはそれが欲しい。それ以外はいらない。例え、アタシが5年後には忘れ去られた存在だとしても、それだけは奪い取って行く……アタシを、ダービーで勝たせろ」  
広く無い。けれど、狭くも無い部屋が一瞬にして威圧感に支配される。呼吸が阻害されるかの様な不快感を覚える。

これが、アセビズズナが譲れないもの。

全てのウマ娘が、全てのトレーナーが、目指し、勝ったら引退しても良いなんて言葉があるその頂へと鎬を削る只1つだけ、たった1人にだけに与えられる栄誉。

「分かった。トレーナーとして、君を世代の最強へと連れて行こう」  
「当たり前ダナ」

硬く結ばれた手。それは、歓迎の合図でもあり運命共同体の始まりの一步。

デビュー戦、勝利。

条件戦、勝利。

オープン戦、勝利。



弥生賞、3着。

皐月賞、5着。

これが、アタシの成績だ。

オープン戦までは概ね順調に進んだが、それ以降のクラシックに係るレースには次に進めるギリギリでしか結果を残せない。真面目にやっても、何故か脚が進まない。

身体の不調も無く、レース運びや作戦だつて完璧なのに操られたかの様に結果が出ない。

これがアタシのウマソウルなんてものが起こす不具合なのか、カミサマからの天命なのかは分からない。

日本ダービーの事を考えるだけで胸の辺りがギラギラと何かが燃え盛る様な感覚になるのに、それ以外では心が震えない。

こんな状態で本当に勝てるのだろうか。アタシと違って、他の17人は1つの榮譽へ向かつて直向きに努力している。

アタシが日本ダービーに出走して、勝った後は？もし負けたとしたら？

ぐるぐると思考の海に吞まれて時間を使つても、答えは出ない。

「……虚無だ」

やっぱりアタシには、ナニモノナイ。

だけど、日本ダービーを勝ちたい。それだけは、虚無の中にある唯一の光。暖かき。欲。

僕は、例え偽善でも、お母さんの忘れモノを届けてあげたいんだ。

「……忘れモノって、ナンダ？」

アタシは今の今まで忘れ物なんかした事ないのに。

【第 回日本ダービー。今日、このレースで世代の最強が決まります。誰もが望み、目指す頂へと辿り着くのはどのウマ娘なのか】

【次は16番、アセビスズナ。あのアセビボタンと同チームという事で注目されましたが、直前の皐月賞とオープン後からの成績、大外枠

である事が尾を引いて、現在17番人気です。この人気薄をどうひっくり返すのか、目が離せないウマ娘です」

この場所にいる何十万のニンゲン達の中でアタシを目的にしているのは数える程しかないだろう。

だけど、それで良い。その方が大番狂わせをするのに丁度良い。

アタシの中で炎が燃えている。あんなに虚無だった中身が今だけは抱え切れない程に、震えている。

人気薄、大外枠から並み居る強豪共を差しおいて、アタシが最強になる。

そして、この場所を絶叫の渦に落としてやんよ。

【勝利の女神は一体誰に微笑みかけるのか！今、第 回日本ダービーがスタートしました!!!】

笑ってしまう程簡単に、救われる時もある

私は、死のうと思いました。

特に理由があつた訳ではありません。

家庭環境は良好で、友人にも恵まれ、苦しい事もあつたけど心を蝕まれ過ぎる程ではありませんでした。

でも、死のうと思つてしまつたのです。

人が自殺をする時突拍子も無く行動してしまうのと同じ様に、私も突拍子も無く死のうと、もしかしたら「死後の世界」というものへ興味があつたのかもしれませんが。

人が陰謀論にハマる様に、私も早く死後の世界を見たいという魅惑にハマつてしまつた。

毎日どうすれば苦しまずに死ねるのか、何処で死ねば比較的周りへ迷惑を掛けないのか考えました。

ある日の事です。

私はこんなにも理由無く死にたいと思つている中で、とある作品のキャラクターと出会いました。

現実の競走馬、サラブレッドを擬人化したゲームに登場した「アセビツバキ」という女の子。

私は昔から頑張る人が好きでした。

例えば部活、例えば習い事、例えば趣味と特に分別無く頑張っている人が好きでした。

だから、そのサラブレッドを擬人化したゲームも出てくるキャラクターが皆頑張る屋でとても好感が高かつたんです。

私が気になったアセビツバキという女の子は、最初、あまり活躍できていなかったのが努力を重ねた末に大きなレースに勝つことが出来た。

その生き様はとても好ましくて、私はモチーフになったサラブレッドに会いたいと思いました。

だけど、調べてみて自分が住む場所と、アセビツバキがいる場所は

離れていてゲームの影響もあつてか会おうと思つて簡単に会える存在ではありませんでした。

「アセビコウロ……？」

そんな時です、とある競走馬と出会つたのは。

私が好きな女の子と同じ名前を持つサラブレッド。

競走馬の世界には「冠名」という苗字の様なものがあつて、まさかと思ひ調べたら、アセビコウロはアセビツバキと同じ人が所有する競走馬でした。

私はアセビコウロが次のレースで地元の競馬場で走るといふ事を知つて、競馬場の入り方なんて知らなかつたのに、思わず脚を向けてしまいました。

「アセビコウロが1着でゴール！ツ！激しい競り合いの末に浦和記念制覇あ!!」

目の前のゴールを応援していた馬が駆け抜けた瞬間、心臓の音が聞こえました。

バクバクと息が乱れて、頑張れと書かれた人生初の馬券を握り締めていました。

アセビコウロがゴールの向こうから戻つて来た時、偶然にも私と目が合いました。

その瞬間、希死念慮に近い感情が私の中から消え去つていくのを感じました。

たつた一瞬、クリクリとした目に見つめられただけでノートを何冊も埋める程あつた感情が全て無くなったのです。

人間は、簡単な生き物でした。

自分でも驚く程に。

その昔、「感動秘話」と称したテレビ番組で、とあるレースを見た人が自殺を思い止まつた話を思い出して、

「こんな気持ち、だつたのかな」

辛うじて撮れた、画質が悪くて人の顔も潰れている様な口取りの写  
真を表示する携帯を握り締めて、漠然とそんな事を考えた。

心を震わせる力はきつと、皆が持っている。

うら達ウマ娘が走るレースは基本的に芝で走る平地レースが基本だ。その昔はダートも芝と比べたら格下のレースなんて思われている時期もあったけど、最近は「ダートは魔境」と呼ばれる程に強い子が沢山集まっている。

しかし、うらが走る障害はそうでは無い。

芝の上では息をする事が出来なかった子達の最終受け取り口、それが障害レース。

芝では二十三戦走ったけれど、重賞レースに申請すらも出来ない条件戦止まりで、未勝利を抜けるのに十三戦。然も勝ち鞍はその十三回目未勝利戦のみ。なんて子が、障害に転向した途端十二戦走って連帯率百パーセント、つまり一着と二着しか取らなかったという素晴らしい成績を記録した事実と、障害に転向してから才能開花したウマ娘の歴史は意外とある。

それなのに、知名度が低い。見て貰えない。

日本は平地レースの三流、四流扱いだし遠征先であるヨーロッパは障害の方が主流だけど、日本と比べて距離・馬場などが違い過ぎて目標にすら出来ない。そもそも地方レース場に障害コースが無いから重賞全てを合わせても年間で全十レース。平地が約百三十レースある事を考えたらその差はお察しである。G1に至っては年二勝って、URAにはもう少し頑張って貰いたいね。

「って、事で。うらは君達に期待しているんだね？」

「突然何だよ、後君達」って何だ」

「君達は、君達。だね？目の前のジュウちゃん、そして、デイトちゃん」

「は？彼奴に期待してるウ？」

「うん。あの子は正に模範。綺麗に飛ぶ」

「あんな奴がねえ」

「君は、荒々しい。見ていて心配になる、だけど、その強さはきつとヒ

トを惹き付ける。デイトちゃんと二人で障害レースの二代巨頭になるはずだ」

「ふーん……」

制服のうらと違って、体操服に身を包むジユウちゃんことオジユウチヨウサンは、つまらなさそうにストレッチを進める。目線の向こうでは、デイトちゃんことアップトウデイトが既にウォーミングアップのランニングを始めている。飛越だけでは無い、走る姿すら綺麗な姿勢。

思わず見惚れそうになるのを抑えて、目線を戻し、ジユウちゃんの周りにある高さの違うハードルを見つめる。もう少しで障害レースの重賞、東京ジャンプステークスなのに天下のトレセン学園ですら障害の練習にはこれ程の物しか用意出来ない。

芝のメイクデビューと比べ、障害の転向した後の未勝利戦だとUR Aが定める最低人数の五人でスタートする事もザラな事を考えれば設備にお金を掛けていられないという事も理解しているが、この現状を変えられないうら自身にうらは失望する。

「……そういえば、先輩は期待しねえの？」

「へっ？期待って、何にかな？」

「自分自身」

「……あー、えっと、うらはそこまでの力無いしくへへッ」

「そうか？俺とアップは、先輩の大障害見てこのガツコー来たのに」

「それは初耳だね!？」

「今初めて言ったからな」

サラリと告げられる初めての告白に思わず顔が熱くなる。

まさか、ジユウちゃんからこんな事を言われるなんて思ってもいなかったから、どう反応すれば良いのか分からない。

うらの走りに影響を受けてくれたのか、それは、とても、嬉しい事だね。

「うん。とっても嬉しいね。初めて言われた感じだ」

「そうか、言わない方が良かったか？」

「ふふっそんな事無いね！これからの障害界を宜しく頼むんだよ！」

うらが走った所で足を止めるのは片手に収まる程度だろう。それも普段は見慣れないものだからという好奇心から。

だが、デイトちゃんと言とジユウちゃんなら両手を飛び越えて何万人が目を止める存在になる筈だ。

圧倒的なカリスマ性と実力。平地レースで手に汗握る勝負を見る時と同じ熱狂で。

それだけの力が二人にはある。

ねえ、未来の王者達よ。

こんな背中なんて軽々と追いついてき、日本中から愛されるウマ娘になっちゃってね。

「それは先輩もだろ」

「ありや？声に出てた？」

「バツチリな」

「オジユウ！あなた、まだ準備終わってないの？」

「げえ、五月蠅いのが来た」



勝つたら一緒に

宝塚記念。

それは上半期の締め括り、実力ナンバー1を決めるレース。

「グランプリ」とも呼ばれるそれはファン投票を行い、上位10人が優先出走権を与えられる。吾は有難い事にファン投票10位でその名誉あるレースに出走出来る事が決まった。

「なんか、皆ピリピリしてる?」

「だろうな。上半期のトップを決めるのだから、多少なりとも空気は変わる」

「はえ、うらは初めて障害組で良かったって思うね?」

「何を言うか。お前も宝塚記念の前日に東京ジャンプステークスがあるのだろうか?」

「いや? いやいやいや、我々はあまり注目されないのです、ピリピリしないって言うか、あ、聞いた? 今回は出走人数10人だって、歴代最低人数に迫る勢いだね!」

「……はあ、少なくとも吾はロードの走りを楽しみにしているんだがな」

吾の前に座り能天気にかやロットジュースを口にするチームの間、アセビロードはもう何日か眠れば重賞本番であるのに緊張感が無い。

それは仕方の無い事なのか、彼女の言う通り注目がされないからなのか。

いや、違うな。

アセビロードは自身が走るレースを盛り上げたいと思っていても、その力が無い。と、吾達が走るレースには敵わないの思ってしまったている。

少し視野を広げれば、応援の声はあるというのに彼女はあまりにも機械に疎い。

「なあ、ロード」

「ん？なに？」

「次の東京ジャンプステークス、勝て」

「突然どうしたのさ？勝ちたいとは思っているね、当たり前だけど」

「吾も勝とう」

「へえ、珍しいね？ツバキはレース前に結果を決める様な物言いしな  
いと思ってた」

「吾とロード、土日の目玉レースを奪い取ってやろうじゃないか」

「えー？でもー、勝てるかは分からないね？レースに絶対は無い」

「いや、あるさ。吾はこんなにもお前と共に勝ちたいと思っているの  
だから」

レースに絶対は無い。たればを語るのも意味は無い。

だが、想う力は絶対で、それはきつと自分の未来を変える要素に  
なってくれる。

今の吾はトレーナーさんから見ても、ボタン様から見ても完璧な仕  
上がりで、ロードだって勝てるか分からないと言うがその身体は相変  
わらず完璧だ。

「レースの種類は違うが、過去にあったオークスの様に一緒に優勝イ  
ンタビューを受けたいな」

「ええ？うら達カメラの前で抱き着いちゃうの？」

「良いじゃないか。珍しいし、面白い」

「んふふ。じゃあくツバキがそこまで言うなら、うら頑張るよお？」

互いの小指を合わせる。

本当は、出走表を見た時に感じた恐怖を払拭したいと思ったからこ  
その提案。あんな名だたる名ウマ娘達に吾なんかが混ざってしまう  
たが故の目を逸らした話。

だけど、共に時間を過ごす仲間が同じ気持ちで走ってくれるなら。  
吾はきつと頑張れる。

◇「きつと、現れますから」

【並んだー並んだーゴールインツツツツ!!!  
!!!!

僅かに交わされたかアセビコウロ。ラスト200メートルからは南関東所属同士の激戦となりました!!】

何十キロと速度の出るサラブレッドの背に乗って、トップスピードでゴールを通過した瞬間、これは負けた。なんて騎手にはあるまじき一言が頭に浮かんだ。

接戦だった為に、一着争いをした相手騎手も俺も、アクションは起こさない。

カメラ判定が行われる時間は静かで、誰もが刻一刻と結果を待っている。

電光掲示板に五着から順に順位が表示され、一着は相手の番号が、二着には俺が乗るコウロの番号が表示される。

その差にしてハナ。

後から聞いたら、本当に五センチ程度、肉眼では判別し辛い程短い距離で俺は負けたのだった。

「悔しいな。ごめんな」

相棒のアセビコウロは人間の都合など知らないから、どこ吹く風で「頑張ったね」とファンから投げられた激励へ、嬉しそうに首を振っていた。

950：名無しが適當語り ID：HC4PJkmi g

JDDが終わって、最後のレースで南関東三冠が生まれると同時に、俺はアセビコウロを思い出したわ

951：名無しが適當語り ID：3rcYZOTt0  
分かる

952 : 名無しが適當語り ID : Ekn3rAr28  
俺か？

953 : 名無しが適當語り ID : +a0eNFohm  
アセビコウロなー、惜しかったんだよなー、ハナ差二着で南関東二冠馬。

954 : 名無しが適當語り ID : Ryj0aqJZ+  
でもあの時のJDDはJRA勢を置き去って、南関東所属二頭でクイーンズプマンテとテイエムプリキュアやったんだよな……

955 : 名無しが適當語り ID : RpxBl4pez  
>>>954  
やはりコウロもダートを魔境にした一角でわ???

956 : 名無しが適當語り ID : Hal4dnDqn  
コウロはな、G1とかJpn1に当たるレースをヤベー馬と比べたら勝って無いってだけで、あの時代にしては十分魔境勢だったのじやよ……

957 : 名無しが適當語り ID : lXpsT9Kzr  
あの時のJDDは勝てなかったから、優勝インタビューでは無いけど、競馬雑誌の記者さんが個人的にインタビューした動画滅茶苦茶良かったし、なんなら未来予知になってたのほんま……小金井斗真……

958 : 名無しが適當語り ID : 4mAMQkA/5  
言つてた事だいたい本当になったからな

959 : 名無しが適當語り ID : DtbxlmYF5  
競馬の神様絶対コウロ推しやる。それでコウロの物語にマルチエンディング付けたくなつたから昨日のレースを用意したやる。

960 : 名無しが適當語り ID : JrGgab sz L

あの動画南関東三冠もそうなんだけど、流れる様にマンダリンヒーローについても言及してて逆に怖くなったゾ

961 : 名無しが適當語り ID : qsfckkc d H

もしかや小金井斗真って未来人……？

962 : 名無しが適當語り ID : JGSqSSuIo

ヤバイタイムパトロールが

963 : 名無しが適當語り ID : AVvLogVbg

おいおいおい、日本の名ジョッキーを連れて行くんじゃないよ

964 : 名無しが適當語り ID : LC2dLPVUW

あの人一着にはなれなくても執念で馬券にはぶち込んでくるタイプだから下手に切れないんよな

965 : 名無しが適當語り ID : qIxEl9iGW

>>>964

分かる。15番人気で、前走、前前走も2桁順位の馬を4着にまで持って来た時は震えた

966 : 名無しが適當語り ID : vMHb720Yh

小金井騎手って規則は守るし、ペナルティ出されてるのも殆ど見た事無いのに、隙間は縫うわ少しでもインコースが空けばぶち込んでくるしで最近、本当に点数貰って無いの？って疑心暗鬼になってきた

967 : 名無しが適當語り ID : LU+G8YBaz

あの人毎鞍覚悟ガンギマリなので……

968 : 名無しが適當語り ID : gKm / nEmc3  
(心が) 鉄人会辞めろ

969 : 名無しが適當語り ID : J / sBo9ukg  
そんな人でも、コウロへの呼び掛けは♡付けまくってるので許して  
やって下さい

970 : 名無しが適當語り ID : 4wVIFdKpO  
最後小声でコウロに呼び掛けて、コウロも葉っぱ食いながら顔出  
てくるの良いよね

971 : 名無しが適當語り ID : +okfeUvFg  
エールちゃんの飯中に話し掛けるイケゾエを見た時の既視感はその  
れかぁ……

972 : 名無しが適當語り ID : VWIoTFXbZ  
俺もあんなイケオジから♡付けられながら名前呼ばれてえよ……

973 : 名無しが適當語り ID : tNV6ctp6E  
小金井騎手の事なんも知らなかったけど、ここの数レスだけで俄然  
気になってきたぞ

974 : 名無しが適當語り ID : NcdK9vIyv  
小金井斗真は良いぞ  
誇張無く、小金井騎手が乗る馬を複勝とかに脳死で入れてても全然  
入ってくる色んな意味で有難い人や。

975 : 名無しが適當語り ID : caZqsf + bP  
ファンサービスも結構してくれるしな

976 : 名無しが適當語り ID : ZlniBzRka

時間に余裕がある時のサイン会では、大人が群がる中不利になるちびっ子への優先時間作ってくれるの本当に推せる

977：名無しが適當語り ID：Pjb7N5eCR

「未成年の子がいたら、優先して前に通してあげて下さい」

この一言で息子が憧れの騎手からサイン貰えたので、本当に感謝しています。

978：名無しが適當語り ID：NqElbfmIy

サイン会の動画とか動画サイトにちよくちよく投稿されるけど、その時にサイン貰えなかった側が「このやろう」みたいな雰囲気になって無いの凄い。

979：名無しが適當語り ID：7B2eb7PKx

>>978

言い方悪いけど、小金井騎手は他と比べると結構な頻度でやってくれるから貰えなくてクソ！ってなるタイプの人とか、転売目的の人とかでもまあ、どうせ直ぐやるやろ的に思われてるんだと思う。レア度が低いというか。

980：名無しが適當語り ID：4k7AikAXH

>>979

なるほどなあ

981：名無しが適當語り ID：R7DBEB/Tn

レア度が低いってのもエッセンスとしてはあるかもだけど、礼儀正しいし、悪い噂聞かないし、駄目なら駄目ってちゃんと口にするし、ちびっ子への対応とか、他騎手から出る時のエピソードが悉く良い人過ぎるとか諸々のチリつもで総合的な好感度が高いんだと思う

982：名無しが適當語り ID：jcCoKGeRQ

昔から、自分は出来損ないなのでせめて生き方だけはしっかりしておきたいって言ってる人ですしお寿司

983 : 名無しが適當語り ID : 9UmsNo0Im  
なんだこれ小金井斗真ファンスレか？

984 : 名無しが適當語り ID : Sa84m9alb  
アセビの馬を語るスレは騎手のファンスレになりがち

985 : 名無しが適當語り ID : 9nhjX+xIK  
>>983

前スレなんて20レスくらい経ってからあんまりエピソードが残っていない小金井近江の話になって結局それで埋まったからな

986 : 名無しが適當語り ID : CsKcd78VV  
ええ……

987 : 名無しが適當語り ID : kZhfL0ZHR  
このスレはよく持った方だと思うよ

988 : 名無しが適當語り ID : reb0/Ft6e  
まあ、三冠の話題が今回は強かったからね

989 : 名無しが適當語り ID : ILYaWF2qr  
さつき小金井騎手なんも知らんって言った者なんだけど、家に小金井斗真騎手のサインあったわwww

【写真】

990 : 名無しが適當語り ID : IjH3+5VvE

>>989

なんで!?



991 : 名無しが適當語り ID : saN5oyewk

>>989

裏山

992 : 名無しが適當語り ID : vL3unZkcB

>>989

紙の雰囲気からして結構前のやつかな

993 : 989 ID : OvZadWuoy

全然記憶に残ってなかったんだけど、俺は小さい時から絵を描くのが好きで親父がそれならって競馬場連れてったみたいで、その時に持ってた落書き帳握り締めて子供特有の怖いもの無しで親父が飲み物買う為に少し目離れた隙に突撃してたらしい。

でも、俺はその時の事全く覚えて無かったからこのノートも只の落書き帳だと思って大掃除で捨てようとしたんだけど、親父がこれはつて覚えててくれたから無事だったっぽい。

親父に脚向けて寝れないわ。

994 : 名無しが適當語り ID : VBn2a8dLh

>>993

一生親父さんに感謝しろ

995 : 名無しが適當語り ID : 04pl5ZEeU

>>993

お礼にハワイとか連れて行け

996 : 名無しが適當語り ID : c8FrnlOCK

>>993

大人しく親孝行しろ

997 : 名無しが適当語り ID : uTqu5O/dI  
989 のノート小金井騎手の他にもなんか書いてね？

998 : 名無しが適当語り ID : A4EjERoa7

>>>997

あー、それは小金井騎手の他にも取り敢えず全員に強請ってたみたいで、厩務員さんと調教師さんと小金井騎手と一緒にいたもう一人の騎手の人のサインだと思う。多分。

999 : 名無しが適当語り ID : 1IjOy3lCS

優しい世界だけど、可愛らしいアホの子だったんやね君

## ◇眩しい色彩を

あいうえお

ねえ、スーちゃん。

スーちゃんは、どんな花火が好き？

ア？そんなんネーヨ。

ええ？本当に？

……ハア。

強いて言うナラ今持つてるコレだ。

線香花火？

アア。コイツはアタシと同じだ。

ほんの少し煌めいて、ソノ後は地面に落ちる。

アタシは、ダービーを勝ったウマ娘。だが、アタシの名前は後世にキツト伝わら無い。日本中を探したとしても、数年後二ハ、アタシの名前なんて消エ去ってイルサ。

そんな事無いよ。

知ってる？

人間も、ウマ娘も例外と記憶を覚えているものなんだよ。

だからね、何十年先の未来でも、小さな少年が皺々のお爺ちゃんになつたとしても、きつと、覚えているんだ。

ハッ！そんな奴ガ本当にいるのなら、ソイツは相当な物好きだ。

ルーちゃんも花火、楽しんでる？

およ？ええ、楽しんでますねー。

ルーちゃんはどの花火がお気に入りかな？

ピューンって飛んで行くのがルーちゃんみたいなので、お気に入りーはーロケット花火なんですけどー、ロケット花火は危険なので駄目ですって言われちゃいましたー。

そつか。残念だったね。

本当ですよー。だから、次はしがらみを受けずに、皆でもう一度、楽

しみたい。ですねー。

うん。またやろうね、絶対。

はいー！絶対。ですねー。

ローちゃんは、あんまり花火好きじゃないの？

へ？そんな事は、無いんですけどね？

本当？さっきから、あんまり手に持って無いみたいだったから……。

ああ、それは、うらはどちらかと言えば打ち上げ花火派なので。

あれ？そうだったの？

そうですねえ。そっちの方が浪漫がありますからね？

浪漫？

ええ。

空に咲くのはのは一瞬でも、大きな音と美しい色彩で沢山の目を奪う。

うらも障害レースをそんな世界にしたいのね。

意外とロマンチスト？

今更ですかね？

ツーちゃん。楽しんでる？

ツバキ様！……ええ、楽しんでます。

ツーちゃんはどの花火が気に入った？

そうですね。吾は、この花火が。

沢山の色が変わって吾の知る花火のイメージと違っていて、新しく、とても心惹かれます。

本当？

でも、確かに。ツーちゃんっぽいよ。この花火。

吾らしい、ですか？

うん。

目まぐるしく変わる色でも、全てが損なわれずに輝いている。それはきつと、世界にすら名前を刻んだツーちゃんも同じ。そんな！恐れ多い……。恐れ多くなんて無いよ。

そもそも、元気に走れるだけで、私達ウマ娘は奇跡なんだから。

コーウーちやーん。

はい!? ええ!! コウ口はここに!!  
んふふ。

驚かせちゃってごめんね? 楽しんでる?

ええ! 楽しんでます! とても! 素晴らしい程に! それはもう恭しく!

なら良かった。コウちゃんは、どの花火が楽しかったかな?

え、ええ! そうですね! わたしは、やっぱりオーソドックスなこれ!!! ががとても、良く、て、ですね……。!!!

そっかそっか。じゃあ、沢山用意して正解だったね。

楽しんでくれて、私も嬉しい。

ひゃい! トテモタノシミマス!!

うん。沢山楽しんで。

今度花火大会する時は、コウちゃんの活躍で奢って貰っちゃおうかな。

へ? え、えつと! きよ、きよ、恐悦しごくです!!!

嘘だよ。こういうのは年長者に払わせて。

でも、コウちゃんの活躍をお祝いしたいのは本当だからね。

は、はいい……。!!!

なあ、ポタンはどの花火が好きなんだ?

えー? そうですねえ。へび花火、でしょうか?

そうなのか? なんと言うか意外だな。

そうですか？まあ、確かにキラキラしている訳ではありませんからね。

でも、例え地味だとしても、物好きしか買わなかったとしても、今でもこの時間の中に残っている。

それって凄い事だと思いませんか？

確かに。それはそうだ。

……所で、トレーナーさんはどの花火が好きなんです？

花火か……そうだな。手筒花火、かな。

手筒花火？あの、物凄い火花を出して、ヒトが持っているやつですか？

おう。それぞれ。

えー？なんでです？

アレって、無病息災とか武運長久、家運隆盛みたいな意味があるんだろ？

ウマ娘を手助けするトレーナーとして、これ程ピッタリな花火もそう無いだろ。

確かに、そうかもしれませぬね。

あの人よりも優先できるもの

綺麗な花束。

桶に入った水。

火を入れて貰った提灯。

昔は「転ばない様に」とビクビクしながら歩いた石畳を辿る。

目標の様に一段と色とりどりの花が備えられたその前に立ち止まり、桶を地面に降ろす。

「じゃあ、良い感じにお花を供えちゃって」

「良い感じにと言っても、相変わらず供えられないというか」

「ほら！芳君、高身長！水！」

お母さんと、お兄ちゃん、夏の最中に帰ってくるあの人を迎えに行く為にやって来た山中のお寺。

お兄ちゃんがお墓の天辺から水を流して、気になった所を軽くスポンジで擦る。

私は備え付けの花立から溢れた花と合わせて敷地内に持って来た花束を並べる。

風に煙を揺らせて、提灯の目印を掲げる。

「帰って来れたかなあ」

「さあ。でも、帰って来てるでしょ。あのヒト家族も親族も知らないヒトも好きだから」

「それにしても暑いなあ……帰りにアイスでも食べに行くか？」

お兄ちゃんが汗を拭いながら腕を捲る。

お母さんも良いわねえなんて傘を差し直した。

「御免なさい。私、ここら辺で逃げさせて貰います」  
「え？」

「何だ予定でもあったのか？」

「そう。チームの皆とお祭りに行くんです！お寺の隣にあるバス停から乗って行くこうと思って」

「えー？送ってくよ。芳君が」

「そうそう、送るよ。俺が」

お兄ちゃんが車の鍵をポケットから取り出そうとするのを見て、私はそれにNOを出す。

「チームの皆とは、バスで合流しようって約束してるんです。だから、リーダーである私が乗っていないとビツクリされちゃいますから!」

「あら、そう?」

「ええ。では!一足お先に失礼しますね」

「気を付けなよ」

「うん!では、行つてきます!」

「行つてらっしゃい」

「帰る時は連絡しなさいね」

時計を確認して、予定まではあと5分。

バッグを掛け直して楽しみで少し早く動く心臓を押さえて、古びた錆だらけのバス停の隣に立つ。

お祭りの会場と此処はレースよりも長い距離で離れているのに、もう音が聞こえてくる様な錯覚に陥る。

やつて来たバスに乗って、整理券を取って、一番後ろの席に座る。

バスの中には私を除いたら1人しかいない。

でも、もう少しだけ進んだら。

サンダルを履いたスーちゃんが

「よお、センパイ」

って言って。

浴衣を着たローちゃんが

「こんにちは〜」

って言って。

お洒落をしたコウちゃんが

「ご機嫌よう」

なんて背伸びして。

運動靴を履いたルーちゃんが

「みなさん、こんにちはですねー」

って、アイスを食べながら乗って来て。



ツーちゃんは少しだけ大きな荷物を持って

「虫除け、冷却シート、水分補給の準備は充分です」  
って挨拶よりも先に得意げに笑って。

早く、会えないかな。

皆の様子を勝手に考えて、小さな笑い声が漏れた。

## 理解出来ないものに怪異の被せ物を

ねえ、知ってる？高等部の先輩の話。

ああ！それ知ってるよ！

名前は確か、アセビボタン先輩だよね？

そうそう！あの先輩がお化けを見れるって話！

お化け？私は特殊能力が使えるって聞いたけど。

えっ？僕は何十年も昔から生きてるウマ娘だって……。

あれ？

何か食い違うね。

話が違うって事は……なーんだ、やっぱり誰かが言い出した変な噂かあ。

それにしてもなんでこんなに話がごちゃごちゃになっているんだろう？

さあ？……まあ良いや！トレーニング行こ！

目指せG1ウマ娘ー！

中等部から生徒を受け入れるトレセン学園には、毎日数多くの初出不明の噂が囁かれている。

やれ、あそこの階段が1段増えただの。

やれ、○○先輩を2人見ただの。

やれ、食堂のご飯が一瞬で無くなっただの。

新しい噂が生まれては消え、生まれては消えを繰り返す。

最近噂の中心にあるのはG1ウマ娘「アセビボタン」。彼女は誰にでも優しく、何よりも強い。一目置かれ目標にされる憧れのお姉さん。

そんなアセビボタンが何故、噂が囁かれる様なウマ娘になったのか。

彼女は兎に角謎が多い。

周りの話を聞けど、自分の話をせず。

他のウマ娘と共に行動する姿を見れど、1人の時は何をやっているのか分からない。

ジツと何かを見ている時に話し掛けても特に対象はおらず、聞いてみても「特に何も」の一点張りで謎のまま。

それなのに、彼女が雨が降ると言えば雨が降り、酷い天気になると言えば雹や雷が鳴りと「特殊能力」だと括られても仕方が無い行動をよくしている。

アセビボタンの存在は、極々一部でトレセン学園の七不思議に昇華され様としていた。

トレセン学園のトレーナー室。

ペトリコールを漂わせる為に大粒の雨粒がコンクリートを叩いている。学園の中も湿度が上がり、何処か薄暗い。

何時もより質感の違うLEDの光を浴びながら、チームシエアトを掲げたチームメンバーの2人が其々の位置で椅子に座っている。

片方は脚を組んで、片方は机に向かい何かノートを記入しながら。

「ナア、せんぱーい」

「ん?どうしたのー?」

脚を組んだショートポニーテールの少しだけ目付きが鋭いアセビスズナが、目の前で机に向かう先輩アセビボタンへと声を上げる。

アセビボタンは顔を声の方向へ向ける事は無いが、両耳はアセビスズナの方向へ向けていた。

「先輩ってヨオ、死んでんの?」

「へっ!?どうしてそうなるのかな?」

「イヤだって、トレセン学園で先輩が霊が見エルだの超能力が使エルだの、何十年モ生きてるだのッて」

「いや、いやいや、そんな事無いよ〜」

アセビボタンは尻尾をパタパタと動かしながら、アセビスズナからの言葉を全て否定する。

だが、アセビスズナは納得のいかない様な顔でもう一度口を開く。

「でもよ、先輩が雨降るって言ったら降るシ、空が荒れるって言ったら荒れるジャン。何十年も生きてるカラ使える様にナツタんだろ？」

「雨、荒れる……ああ！それは空を見てるだけだよ」

「ソラ？」

「そう。よく言うでしょ？積乱雲があつたら雷とか、雹が降るって言われてて、燕が低く飛んだら雨が降るとか……何十年も生きてるのは……私と似ている芦毛のウマ娘が学園にいたんじゃ無いかなあ」

「ソンダケ？」

「多分。それに、当たらない事も多いし成功した時の話だけが1人歩きしてるんだらうね」

「……ナンダ。わくわくして損シタ」

妖怪の正体は一説に、自分とは違う身体的な特徴を持つ者や、精神的な疾患を持つ者をカテゴライズする為だったというものがある。

それと同じく、人々やウマ娘の特殊能力も大きな一つからほんの一部だけを切り取ったものなのかもしれない。

「つまんねー」

案外カッコいい事好きなアセビスズナは、灰色の空へ視線を動かして聞かれない声で、自分の興奮が打ち砕かれた事実が悪態をついた。

## ◇海に魅入られる

独特な海の匂い。

潮騒に包まれる世界。

誰もいないからと乱雑に靴と、靴下を砂浜に投げ捨て波に両脚を晒す。

潮風が制服と髪を揺らす。

昔から海が好きだった。

理由は無い。

ただ、懐かしさで胸がいつぱいになって、涙が出る程誇らしくなる。それに伴う記憶は無く、ファンタジーなまま溢れ出る感情に身を委ねている。

「脚がふやけてしまうよ」

「ア？」

突如、1人の世界に流れたもう一つの音。

振り向けば、1人の老人がコンクリートの階段に座っている。

知らない男だ。

アタシの中にある記憶に目の前の顔は無い。

「ここにヒト、いや、ウマ娘さんが来るのは珍しい……ほら、もう上がりにさい」

「海にドレだけいようガ、アタシの勝手だ」

「帰る時に、ふやけた脚の皮が捲れても良いのかい？」

柔らかく、けれど確信を突いた言葉に舌打ちを1つ。

波が届かないギリギリに捨てたバッグから、タオルとミネラルウォーターを取り出して軽く塩水を洗い流す。

「座って見る海も、良いものだよ」

「もう良いダロ」

「私が君と、話してみたいんだ」

「ジイサン……お前、不審者力？」

「昔からレース場に入り浸る不審者ではあるかもしれないね」

日差しで適度に熱せられたコンクリートの上に座る。

海の水が光を反射して、酷く目が眩む。

不思議と誰もいない海の真前で知らないジイサンと、ジイサンと何も関係の無いウマ娘。

「……ここら辺にはレース場が無くて、ウマ娘の子は皆ある程度の年になると他の県に移ってしまう事が多くてね、珍しいからつい話し掛けてしまった」

「ソーカヨ」

「君は、どうしてこの場所に？」

「カワイイコーハイチャンがレースに出っから一緒二連れて来られたんだよ」

「へえ。ここから近いとコクラかサガラ辺かな。後輩と言ったけれど、此処へは1人で？」

「悪イか？」

「嫌。この場所を選んでくれて、嬉しい限りだ」

杖を携えるジイサンの顔は海から離れる事は無い。

それなのに、その瞳は海では無い別の場所を、海を通したナニカを見ている様だった。

「ジイサン。ジイサンは、何を見てンダ？」

「何って、海だよ。大好きなんだ」

「違ウ。海の手、別のモンだ」

一瞬、驚いた様にアタシを映した両目。

「その昔、この場所にはレース場があったんだ」

ジイサンの口から出る、アタシの知らない歴史。成る程、それならば何を映したのか理解できる。

「海が見えてね。アラオの大きな海を背景に、沢山のウマ娘が競い合っていたんだ。私も、小さい頃に親へは何も言わず、勝手に入り込んでね。凄く、特別だったんだ」

「ナンダ。意外と悪ガキだったんだナ」

「ああ。とても、ヤンチャな子供だったよ」

「……もし、アタシがソノ無くなったアラオのレース場で走ったら、ジ

イサンは応援シテたか？」

適当に会話の糸口にでもと思って、何となく口にした言葉にジイサンはアタシがビビるくらい、真っ直ぐに、何の迷いも無く言葉を紡ぐ。

「勿論。最前列できっと、応援しているよ」

「それは、なんだか不気味だな」

酷いな。

軽い口調で言葉を吐いて、ジイサンは少年の様な顔で笑った。

間に合いませんーん!!!

学生ならば誰もが憂い、来ない事を祈る8月31日。

6人のウマ娘が1つの机を囲み、目の前のテキストやノートに視線を落とす。

「忘れてましたあ!!!!」

その内の1人、皆の末っ子、アセビコウロが目には涙を溜めながら叫ぶ。

目の前には「現代文」と書かれたテキストが開かれていた。

「コウロ。吾が1週間前に大丈夫かと聞いた時には、胸を張って大丈夫ですと」

「うう……ほ、本当なら大丈夫だったんですう!!ちゃんと予定も立てて……その通りにやって……でも現代文をうっかり予定に入れ忘れましたあ!!」

「……はあ。君の時々出るその注意力散漫は、どうにかならないのか?」

「ご、ごめんなさい!!」

泣きながら、それでも真面目に手を動かすコウロに年の近いツバキは溜息を吐きながらも優しく内容を教えていた。

そんな光景を見守る4人のウマ娘。の内、2人は同じ様に終わっていないであろう課題に追い詰められていた。

「ツーちゃん……後、終わってないのは?」

「シー、感想文とレースレポートと、絵描くヤツ」

「見事に全部創作系だ……本は読んだんだよね?」

「読んでナイ」

「え?」

「デモ、問題ねー。後書き読めば、なんとかなる」

「なんとかなるって……もう!」

年長者、アセビボタンの呆れと心配を他所にボタンから目を掛けられているアセビスズナは、表紙に大きく『臨床犯罪学者・火村英生の



推理』と書かれた小説を裏返した。

「ドラマ化してたから書き易かった」が感想文を終えてからのスズナの感想だった。

ミスで課題を忘れていたコウロ、何故だか創作系の課題のみを後回しにしていたスズナ、そして、もう1人。

「追い込みが間に合うかねえ」

「どうして逃げなかつたんですー?」

1番多く課題のテキストを重ねるウマ娘。アセビロード。

表情に焦りは無く、余裕だと言わんばかりであるが、明日9月1日の提出時間に間に合うかギリギリである。

「ルーちゃんは、もう夏休み始まって1週間で終わりましたけどー、どうして、まだ終わってないんですかー?」

「うらはエンジンの温まりが遅いんだね?」

「ふーん。手伝いますー?」

「お願いできると、嬉しいですよ」

「それでは、それではー。恵みの右手とー、左手をー、貸しますー」

「おお!それは助かってしまうんだね」

1冊、課題として出された冊子をロードの横に座っていた、最速ウマ娘アセビルピナスが手に取りスラスラと答えを書いていく。

もし先生にバレたら怒られてしまう行動を、この場所に嗜めるウマ娘はいない。

時間にして数十分、ロードが漸く半分を超えた英語の課題を横目に見、数学の冊子を閉じるルピナス。

「終わりましたー」

「おお。では、これもお願いします」

「はいー」

渡された原稿用紙と、1冊の小説が渡されたのを手にしたルピナスは『真夏の方程式』というタイトルを見て「映画見たから要らないですー」と、小説だけを返却した。

あまり緊迫感の無い、夏休みの終わりだった。

海外の冠を手任せよ、乙女。

ベタベタと貼られた様々な国旗のシールが特徴的なボロボロになったスーツケースをガラガラと引きながら、一人のウマ娘が日本の土地を踏み付ける。

シルバーのアクセサリや厚底の靴、頭に付けたフリルのカチューシャ、色の濃い髪の毛と両耳を揺らして彼女は懐かしそうに大きく呼吸した。

「お疲れ様です♪お待ちしておりました！」

緑色のスーツに身を包んだ駿川たづなは学園が用意した車の前で手を振る。

それに気付いて、スーツケースを乱雑に車に投げ込んだウマ娘は身に付けていたサングラスを外し、両眼に光る星型の瞳孔を晒しながらトレーナー以外に使うのは懐かしいものとなった日本語を口にする。

「よお！秘書さん。出迎え有難う。一時帰国したぜ」

「はいっ！海外のレースはどうでしたか？」

「あ？ンンまあ、君達の元に届いている通りだ。日本にいた頃よりは、少しだけ上手く走れた気がするね」

「それは良かったです！では、学園に戻りましょう♪」

「ああ。宜しく頼むわ」

静かなエンジン音を奏でながら、車が発進する。

彼女の目に映る変わった街の、変わらない街の風景。久し振りの左側を走る車道。どれもが懐かしく、自分の故郷に戻って来たのだと主張される。

鼻歌が溢れ、脚先が無意識に揺れるウマ娘の姿を隣に座る駿川たづなは微笑ましそうに見つめていた。

そのウマ娘は日本で大成しなかった。

メイクデビューは10着。まだまだこれからだ！と続く条件戦は1、9、13、8と掲示板にすら乗れない育成機関のトップであるト

レセン学園に通うウマ娘の中でも、下の下と呼ばれて可笑しくない惨状。長い歴史の中で記録にすら残らない沢山の1人。

しかし、そんなウマ娘に一つの光が訪れる。  
『アネモネステークス』1着。それは、クラシックに出られる奇跡の切符。

小さな小さな奇跡。だが、そのウマ娘にとってはとてつもない奇跡を抱えて出走した『桜花賞』。

「残念無念。掲示板が精々だったな、まあ、今までのポンコツ振りを考えるに、素晴らしい感じだな。漸く本格化、身体が仕上がってきたか？」

初めて着用した勝負服に付いた土を払いながらウマ娘は悔しがるウマ娘、涙を流すウマ娘の中で特に何もアクションを起こさず、ただ真顔のまま拳を握った。

身体を揺すられる。

閉じていた目を開け、いつの間にか辿り着いていた懐かしのトレセン学園が目に入ってから漸く眠ってしまったのだと気付く。

「ふふっ。よく眠っていましたね」

「あ？まあ、長旅なもんだったんでね」

身体を伸ばし、バキボキとなる関節の音を聞きながら車から降りて見慣れたスーツケースをもう一度手にしてから、堂々と歩く。

道行くウマ娘達が珍しそうな視線を向ける中、校舎の前に立つ生徒会長、皇帝・シンボリルドルフがそのウマ娘を視界に入れる。

「お疲れ様。君の帰りを首を長くして待っていたよ」

「あら？本当？俺なんかを生徒会長サマが待っていて良いの？」

「ああ。君の走りは正しく希望、一つの可能性を示すものだからね」

「そーかい。ならば、出来る限り頑張るさ。次は来年、サウジカップだね」

「……前途多望。我々は、君の走りに期待している」

「ハイハイ、面目躍如、面目躍如」

ウマ娘は、皇帝、理事長秘書に手を振り理事長室へ勝手に会話を切

り上げて歩いて行く。

そんな見る人が見たら許されないその行動も、慣れた二人は「相変わらず」だと顔を見合わせた。

彼女の名前は「アセビデージー」。

桜花賞後、ヨーロッパを渡り歩き、かの「女王陛下」へ投げキッスをするという不敬をやらかしたバカであり、海外の地で覚醒をした左耳の飾りが可愛らしいウマ娘である。

その馬は、突然変異。

その馬を表すのなら正に「異端」という言葉がよく似合う。

平均的な牝馬の肉体に、落ち着いた性格の尾花栗毛。

毛色特有の美しさと母父シンボリルドルフのネームバリユーもあつてかほんの少しだけ期待をされていた。

デビューは中央、中山にて。

その背に外国人騎手を乗せて、10着という大敗を記録した。

彼女に向けられた期待の眼差しは一気に落胆へと変わり、始まったのは騎手の批判と、父となる馬の批判、そして馬自身への批判。

勝手に期待しておきながら、大きな声で罵倒する。

続く未勝利戦は11着、9着、13着、8着。

掲示板にすら入れず批判の声ばかりが大きくなっても、厩舎のメンバーと馬主は信じ続けた。その馬は諦めなかった。その騎手は、一目惚れをした馬と共に成長していた。

奇跡が起きたのはリステッド、アネモネステークス。

その馬の瞳から、先頭まで10馬身以上ある短い中山の直線。何かが噛み合ったのか、はたまた一瞬の煌めきか、己の脚など気にしないとばかりのあまりに無計画過ぎる追い込み。

実況の興奮と、観客の異質なものを見たとばかりの静寂。

その光景を見た瞬間、その馬を所有するスーツ姿の人間だけが静かに「クラシック追加登録」の音を立てていた。

掌返し、昨日まで「見た目だけが良い」「出廻らしにもなれていない駄馬」「これで牡馬だったらお察し」などとコメントが溢れたインターネットの深い場所は、一転して「いけるんじゃないやね?」「やっぱ強いって思ってたんだよな」「漸く良さ出てきたな」というコメントが増え、本番『桜花賞』までの日々を心躍らせて待ち続けていた。

「……すみません。出れたのに」

馬から降りた騎手は厩舎のメンバーと、馬主に向かって頭を下げ

る。

約470メートルの最後の直線、騎手のタイミングが遅かったのか、中山競馬場よりも直線が長かったからなのかその馬はギリギリ掲示板に入れたもの、表彰台には立てなかった。

「いや、G1なんだ。他の馬も騎手も強い、我々から見ても仕掛け所も道中も悪くなかったよ」

「ごめんなさいでした」

その日、とある厩舎を根気強さで射止め、身を削った努力で中央競馬の通年免許すら取得した名無しの騎手は「悔しい」という大き過ぎる感情を理解した。

今までとは一味違う舞台で一番に出来なかった、なれなかったその悔しさは「次こそは負けない」という闘志を芽生えさせた。

次の舞台は、海外。

競馬の本番、イギリス。

女王すら見に来ると言われるロイヤルミーティングの3日目。『リブルスデールステークス』への出走が決定され、インターネットにおいて「クラシック捨ててダートも試さないとかかかりすぎワロタwww」なんて言われる珍事件。そして、尾花栗毛が世界を魅了する毎日の始まりだった。

その馬は、目を開ける。

ロイヤルミーティング3日目。

その美しい見た目と、新調した馬具を携えてアスコット競馬場の地面に蹄鉄の音を鳴らした。最低人気、日本からやって来たという話題以外は何の期待も、注目もされない牝馬。

「Pracujme spojene」

彼女の首筋を撫でて、一番綺麗に写る様に前髪を整えながら、誰も理解する事は無いであろう母国の言葉で激励をする。タイミング良く馬が嘶いたので笑って、緊張が解れる。

今日も、彼女に宿る星が輝いていた。

ドレスコートに包まれた観客は熱狂する。

イギリスの競馬を愛する人々の視線がただ一点を見つめている。

特徴的な三角形のコースを18頭の馬が走る。

最後の直線、日本の馬では上手く走れないと言われるヨーロッパの馬場を日本の馬が、日本の馬場と同じ様にスルスルと上がっていく。

遠い日本では、物好きな人間達が「いけっ!!!」と叫んだ。

日本ではリステッド以来の表彰台。3着。

レース後、一層警備の厳しい方へ馬が顔を向け大きく嘶いた。

「わたしが、レースの前の日に、勝ったら投げキスしましよねって、いっちやったよから」

たまたまだけだね。

そう言つて、騎手はどこか怖がる様にインタビュへと答えた。

ロイヤルミーティングが終わった7月の下旬。同じアスコット競馬場にその馬はもう一度蹄鉄の音を響かせた。

『キングジョージ6世&クイーンエリザベスステークス』

リベンジとばかりに燃える瞳はゴールだけをただ見据えて、今度こそ、その名をイギリスの競馬史に刻み付けた。

その馬は、旅をする。

シリウスシンボリ、フジノオーに続く長期の海外遠征。

その牝馬と騎手、スタッフ達「花の旅人」をチーム名としたメンバーはイギリスから始まり、スウェーデン、ドイツ、フランス、サウジアラビア、ドバイ、オーストラリア、香港、アメリカで歴史を刻んで、最終地点日本『有馬記念』で長い長い旅を終えた。

最終成績は22戦8勝。内、海外成績は14戦7勝。

G1を3勝の名牝。日本ではなんとも評価のし辛い変わった馬。

世界の競馬ファンを魅了してしまった魅力的な尾花栗毛の馬。

「まさか、こんな結果になるとは思わなかったよ。きつと日本で走り続けた方が入ってくる金も、出ていく金も、もつと変わっていた筈だ。でも、オーナーさんの所有している馬がこの子だけだったからこそ繋がった未来だ。この子が無事に走れて、結果を残せている。そんな幸せを俺達はこれからも支えていきたい」

調教師は、旅の最中そう話す。

これでもかと愛情を含んだ表情で、のんびりと草を食む牝馬を穏や

かに撫でていた。

インタビュ어의終わり、動画が切れる直前「インタビューですか」なんて、拙い日本語が入り込んだ。

その馬は、名を残す。

21世紀が始まってまだ20年も経っていない時代に一頭の面白い馬が現れた。

その馬の名は「アセビデージー」。クラシックでは有力馬の候補にすら上がらない、悲しい事によくいる歴史に何も残せない馬。

花開いたのはイギリス。

まるでこの場所こそが私のホームだと言わんばかりにタイトルを獲り、ヨーロッパの特徴的なコースと馬場を走り、次なる遠征先のフランスでは日本の悲願でもあり呪いでもある凱旋門賞で2着。

日本での成績が嘘の様にマイルから長距離、芝からダートという嘘みたいな適正の幅を持った謎の馬は訪れた国で人々を魅了し、その国の関係者を唸らせた。

彼女を語る上で、よく話題に上がるのが『サンルイレイハンデキャップ』。当時は『サンルイレイステークス』という名でデージーの母父であるシンボリルドルフが獲る事の出来なかったタイトルを彼女は手向けとばかりにダートと芝の境界線をもろともせず追い込んで見せた。

サンルイレイハンデキャップを勝ったのと同じタイミング、日本では多くの人があるゴールに拳を握った。

彼女は歴史に何も残せない筈だった馬。

しかし、走り続けたからこそ、その馬は自分自身の力で歴史に名を刻み、沢山のファンを手にしていたのだった。

アセビデージーに乗る騎手は引退式、最後のインタビューで言う。「やっぱり、ひとめぼれウソじゃ無いね。わたし、デージーのこと大好きよ。凄く、ハート、つながってるね」

アセビデージーに一目惚れをして、厩舎も、馬主すら口説いてしまった騎手はその馬に最期が来るまでずっと、ずっと、愛し続けた。始まりは「名無しの馬」「名無しの騎手」だった一人と一頭は、いつ



しか「アセビデージー」と「ルドルフ・コヴァーチュ」と呼ばれる様になり、人々が忘れられない存在となっていた。

数年後。とあるアプリゲームにて同名の「アセビデージー」が登場した。

アセビデージーは、キャラクターとしても人々の心を奪い、若手とは呼べなくなった騎手の心をもう1度奪ってしまったのだった。

## 皇帝へ無邪気に火を付けて

控え室として用意された部屋の中でゼツケンがしっかりと固定されているか確認をして、ストレッッチを行う。

筋を伸ばして、万が一にでも走っている時に不調を起こさない様に対策をする。

ピアスの緩みが無いか、ヘアピンの固定する力が緩んで無いか確かめる。

「デージー、大丈夫ですか？」

扉をコンコンと叩く音と、トレーナーの声。

大丈夫だと促せば、珍しくスーツに身を包んだ姿。

「ナンダ。めずらしいじゃねーか。そんなに着飾って」

「そんな事無いですね。いつも、わたしはこの格好です」

「そうかあ？少し前までTシャツだったじゃねーか」

「それは、出会った頃の話です。もう数年前ね」

拳を差し出され、自分の拳を合わせる。

小さな面積から伝わってくる温もりで火が燃える。

今回のレースはアウェーだ。俺はこの国で注目をされていない。

それでも俺は、目の前のトレーナーが応援してくれるだけで迷わないで済む。世界で一人、見てくれる人間がいれば俺は走れる。

「時間だよ。転ばない様に、楽しんでー！」

「ああ。見てろ、少しだけ楽しませてやるから」

青々とした芝。

周りの筋肉量や身長の違いウマ娘達。

英語で「お互い頑張りましょう」と友好的に挨拶をし合っても、瞳に映る炎は違う。

俺には俺の燃えるものがあって、相手には相手の燃えるものがある。

ゲートに入って、スタートのポーズを取る。深呼吸をして、目の前が開ける一瞬に集中する。

—The race has started!

スタートをしてから芝を蹴り、直ぐにやってくるコーナーを膨らみすぎない様に気を付けて、位置を後ろに取りながら通過する。

日本ではまず見ない変な形のコースではあるが、そんなの走っている分には関係無い。

コーナーを通過して、直線。このレース場は外側にダートがあるから、トレーナーからも散々気を付けろと言われた芝の中に突然現れるダートコース。それを突っ切って直線コース。

視界に映る観客と、風の音に混じる歓声。

俺の前を走るウマ娘達は逃げたり、抜かし抜かされをしていたり一人旅をさせて貰っている俺とは全く違う激しきを見せつけている。

最終コーナー。6人のウマ娘がコーナーを曲がりきって、俺だけ一人遅れて最終直線。泣いても笑っても跡が無い残り数百メートル。

「サア！勝負しようやッ！」

アウエーの中、この絶望ですらある何十バ身を差し切った瞬間、この場所はどれだけの困惑に包まれるのだろうか。

はたまた、やりやがったと少しの歓声が湧き上がるのか。

「想像するだけで、楽しいだろ……ッ!!」

たった1回で消耗し切った蹄鉄を眺めながら、向けられたカメラに投げキッスをした。

## 日本生まれジャパンカップ海外招待枠

1人のウマ娘が耳と尻尾を揺らしながら、手に持った一枚の書類をペラペラと揺らす。

その瞳はサングラスで隠れているといえど、何かを考えている様で、分かり易く口がへの字を作っていた。

「どうしたんですか？デージー」

「ん？ああ、コレ。ジャパンカップの出走登録」

「え!?ジャパンカップ出るですか!?オトトイル， Arc走ったのに!?」

「いやあ……俺もさ、キングジョージ勝って、凱旋門も5センチとかの差で2着。日本でもそろそろ頑張れそうじゃない?」

楽しそうに話しながら、デージーと呼ばれたウマ娘は手に持っていた紙を自身の契約したトレーナーへと渡す。

トレーナー、ルドルフ・コヴァーチュは紙を受け取ると記入するべき項目が全て埋められた文字を目で追う。

しかし、何年もの勉強を重ね読める様になった日本語の文章で「提出期限」と書かれた先の日付けは、既に過ぎ去った過去。

「これ、提出期限過ぎてますね。Copy?」

「いんや。普通に出してないけど?」

「……全くアナタは。いっしゅん驚きましたよ、ガイセンモンからジャパンカップまで約二ヶ月、移動も含めてどうするか思いました」

「あっはっは!流石の俺もそんな無茶はしないさ」

「無茶はしない……?だけど、スケジュールにあるメルボルンから香港への感覚がヤケに短いですね?」

「それは、仕方ないってやつだね!」

「……全く。メルボルンでの走りが影響あったら、香港は走りませんからね」

「わーっってるって!」

デージーはカラカラと笑う。

だが、その表情はどこか物足りなさそうに壁に掛かった絵画を見つめていた。

デージーがこういった表情をするのは初めてではなく、ルドルフは隣に座るとその頭を軽く撫でる。

「残念ですか。ジャパンカップに出られないのは」

「別に、特別ジャパンカップに出たい訳じゃない。ただ、応援も殆どないこの場所にいると、日本に嫉妬する」

「シット？」

「ああ。俺に走る力があれば、日本で力が使えれば今頃スゲー奴らと同じ様に歓声を向けられていたのかもしれない。この気持ちが悪沢で、世の中には何処にも走る力を見つけられなかった奴らがいる事も分かっているが、なんだろうな、俺は、欲張りだから。ターフから戻った時にお前以外もいて欲しいとも思う」

「デージー……」

「……願うしかない。この旅の末、俺達が歓声を向けられる事を」

「ラストランはアリマキネンですからね」

「その通り！有馬で走れるかどうかは知らんが、出たら出たでキャー！デージーちゃん！なんて言われるんだ!!俺は!!!」

「その為に、ガンバルですね？」

「おうとも。次はダート、やるぞ。ルドルフ」

「ええ。やりましょう、デージー」

拳を合わせる。ルドルフと比べたら小さな手。

応援もされない、日本から離れた地で2人の悪巧みは着々と実を結び始めていた。

「……あつ！ジャパンカップ海外ウマ娘枠で招待されない？」

「流石に無理」

「やっぱりか」

## 競走馬

### 50年代の競走馬：アセビボタン

どうか、どうか、私のこの脚があの人へ沢山の元気を分け与えられま  
す様に。

そして、

ずっとずっと、隣り合って歩いて行けます様に。

#### 生涯戦績

##### 【1950年】

新馬 一着

OP 一着

OP 一着

阪神3歳ステークス 一着

##### 【1951年】

櫻花賞 一着

東京優駿競走 二着

優駿牝馬競走 八着

##### 【1952年】

古呼馬 十二着

天皇賞(春) 十一着

古呼馬 九着

##### 【1953年】

天皇賞(秋) 一着

11戦6勝(6-1-0-4)

【主な勝鞍】※当時は格付け無し。

阪神3歳ステークス(阪神ジュベナイルフィリーズ)

櫻花賞(桜花賞)

天皇賞（秋）

【馬主】

円谷 翼

【主戦騎手】

小金井 近江

1948年4月16日生まれ。

日本の牧場で生まれた小柄な芦毛の牝馬。

大人しい性格で扱い易い馬ではあったが、気の強い馬が多かったその牧場ではそれが理由でいじめられっ子となっており、同じサラブレッドより人間の方へよく懐いていた。

とある日、牧場へ馬を買いに来ていた円谷翼とふれあい、お互いに相思相愛になった事から正式に円谷翼の持ち馬となり、「雪風」という名前を与えられた。

元々は、個人の乗馬や子供達の精神的な発達を目的に買われたのだが、円谷の友人である高垣芳司からの薦めで競走馬としてのデビューが決まる。

「アセビボタン」は円谷とその細君から贈られた御守りの名前である。競走馬としての能力はとても高いが、馬群を苦手としており先頭もしくは前目につける事が多かった。

G1を2勝してから挑んだ日本ダービーでは、出走前に他の馬が苦手なボタンが自ら隣にいた馬（トキノミノル）へと鼻を寄せ、挨拶をした初めての行動に主戦騎手を務めていた小金井は驚いたという。

ダービーにて2着になってからはオークスへと挑むがそこで惨敗、前の馬から大差を付けられての最下位となる。

疲れが残っていたとして長期の放牧となるが翌年のレースでも同じく前から大差を付けられての最下位となる。

その頃から、円谷の体調が悪化しており再び長期の放牧を経て翌年の天皇賞（秋）をラストランにする事が決定され、天皇賞（秋）では大きな声援に背中を押され、優勝をする。

引退後は、繁殖牝馬となり後のダービー馬であるアセビスズナを産んだ。

アセビボタンの不調の原因として「トキノミノルのその後を感じ取ったのではないか？」と「日に日に弱っていた田谷巽を見ていたからこそ気落ちしていたのでは？」という2つが挙げられる事が多い。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

ボタン↓牡丹（富貴、王者の風格など）



## 50〜60年代の競走馬：アセビスズナ

この名前を覚えておけ。  
ダービーという歴史の中にこの名前が刻まれた事を、お前だけは覚えておけ。

### 生涯成績

#### 【1958年】

新馬戦 一着  
条件戦 一着  
OP 一着

#### 【1959年】

OP 三着  
皐月賞 五着  
東京優駿 一着  
毎日杯 十着  
宝塚杯 八着  
セントライト記念 十一着  
菊花賞 十二着

#### 【1960年】荒尾移籍

B1 四着  
B1 一着  
A2 三着  
A2 二着  
A2 一着  
A2 一着  
A1 四着  
A1 一着  
A1 一着

|     |     |         |     |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |     |     |     |         |     |
|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|-----|
| A 2 | A 2 | 【1964年】 | A 1 | A 1 | A 1 | A 1 | A 1 | A 1 | 【1963年】 | A 1 | A 1 | A 1 | A 1 | A 2 | A 2 | A 2 | A 2 | A 2 | B 1 | B 1 | 【1962年】 | B 1 | B 2 | B 2 | A 2 | A 2 | A 2 | A 1 | A 1 | 【1961年】 | A 1 |
| 一着  | 一着  |         | 一着  | 一着  | 一着  | 四着  | 一着  | 一着  |         | 一着  | 一着  | 一着  | 一着  | 一着  | 一着  | 二着  | 四着  | 一着  | 四着  |     | 二着      | 一着  | 一着  | 五着  | 九着  | 七着  | 五着  | 六着  |     | 一着      |     |

A 1 四着  
A 1 一着  
A 1 一着  
A 1 一着

【1965年】

A 1 一着  
A 1 一着  
A 1 一着

63戦32勝(32—3—2—26)

【主な勝鞍】※当時は格付け無し。

東京優駿(日本ダービー)

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 近江↓伊波徳実<sup>イナミトクミ</sup>

1956年4月24日生まれ。幼名は「清波」。

円谷巽が作っていた牧場にて生まれたアセビボタンの初年度産駒となる鹿毛の牡馬。

気性はアセビボタンの血か大人しめ。しかし、スイッチが入ると少し暴れてしまうやんちゃっ子。脚が長く、今で言うモデル体型。

脚質はボタンとは反対の後方から徐々に追いつけるといふもの。

これは、アセビスズナが走る時にエンジンが掛かりにくい事が原因であり、上手く走れば逃げを選ぶ事も可能。

特筆すべきは、大外、低人気から一着をもぎ取った日本ダービーであり、母であるアセビボタンが獲る事の出来なかったタイトルを獲得した事からしばしば「孝行息子」や「敵討ち」などと言われる。

ダービー後は戦績が低迷し、地方への移籍をし好成績を納めていたが、スズナのすぐ後、中央でデビューしたシンザンを始めとする沢山のスター達の出現によって「アセビスズナ」の名前は忘れられ、知る人ぞ知る存在となった。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

スズナ↓菘（慈愛、晴れ晴れ）

【何故荒尾競馬場に移籍したのか】

スズナが生まれる前、荒尾競馬場には87戦60勝を記録したロカランギョク（架空馬）という馬がいました。しかし、馬主が高齢だった為にロカランギョクの引退を見届けて老衰します。

家族は馬を引き取るつもりが無く、仕事での縁を伝ってロカランギョクは高垣氏へ引き渡されます。

そして、ボタンとロカが夫婦になりスズナが生まれ、スズナが芝を嫌がってからはロカの縁を辿って荒尾の地に渡り、ロカランギョクに騎乗していた伊波が息子の主戦騎手となりました。

## 70年代の競走馬：アセビルピナス

先頭を走ればそれが勝ち。

先頭を走る。きっと、それが一番気持ち良いの。

僕の名前を知っていますか？

僕は、アセビルピナスと言います。

誰よりも速く走りたい。そんな感じですよ。

さあ、何も考えず、頭空っぽで走りましょうよ。

きっと、それが何よりも簡単で、楽しい事ですから。

### 生涯成績

#### 【1972年】

新馬戦 十着

条件戦 十一着

条件戦 十四着

条件戦 一着

条件戦 八着

条件戦 九着

#### 【1973年】

条件戦 五着

条件戦 四着

条件戦 七着

北海道3歳ステークス 三着

函館3歳ステークス 一着

京成杯3歳ステークス 一着

朝日杯3歳ステークス 四着

#### 【1974年】

京成杯 一着

阪急杯 五着

読売杯スプリンターズステークス 二着

【1975年】

中日新聞杯 十着

読売杯マイルズカップ 五着

阪急杯 三着

読売杯スプリンターズステークス 一着

CBC賞 二着

【1976年】

読売杯マイルズカップ 五着

安田記念 六着

京成杯オータムハンデキャップ 十着

カブトヤマ記念 五着

【1977年】

読売杯マイルズカップ 三着

北九州記念 十着

読売杯スプリンターズステークス 一着

有馬記念 九着

29戦6勝(6―2―3―18)

【主な勝鞍】※当時は格付け無し。

G1 読売杯スプリンターズステークス(1975年、1977年)

G2 京成杯3歳ステークス(京成杯3歳ステークス)

G3 函館3歳ステークス(函館2歳ステークス)

G3 京成杯

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 近江

1970年4月1日生まれ。幼名は「ハヤブサ」。

アセビ冠を代表する青毛のスプリンター。本命は1200メートル、1400メートルまでは勝負になるかもといった具合。

気性難という訳では無いが、頭が悪くレースというものを理解して

いなかった。

その為、合図が無いと走らなかつたり、歩き始めたりしてしまうので、スタートした直後に鞭で合図を送るのが最強を最強たらしめる要素だった。

70年代には短距離の選択肢が少なく、時代に困らされたサラブレッドの一頭でもある。

脚質は逃げ、中距離まで走れないサイレンススズカタイプ。

短距離の最強馬議論に名前が挙がる事は無いが、現代のレース体系ならばどうなっていただろう、もしあの馬とライバルだったら、など夢を語る議論にはよく名前が挙がる。

直向きに頑張る姿が応援され、投票により有馬記念への出走が決まりラストランとするが、先頭を走る遙か向こうのテンポイントを見つめながらヘロヘロになりながら最下位でゴールをした。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

ルピナス↓いつも幸せ、あなたは私の安らぎなど

## 90～04年代の競走馬：アセビロード

自分は割と出来ない子なので、同じには出来ませんが。  
ある意味で、目立つ事は可能なので。

### 生涯成績

#### 【1994年】

新馬戦 十着  
未勝利戦 十一着  
未勝利戦 十四着  
未勝利戦 十八着  
未勝利戦 五着  
未勝利戦 四着  
未勝利戦 三着

#### 【1995年】

未勝利戦 二着  
未勝利戦 九着  
未勝利戦 七着  
未勝利戦 十着  
未勝利戦 五着  
未勝利戦 四着  
未勝利戦 十四着  
未勝利戦 三着

#### 【1996年】障害転向

障害未勝利 一着  
障害OP 一着  
障害OP 一着  
障害OP 一着

#### 【1997年】



阪神障害ステークス(春) 三着  
新潟ジャンプステークス 二着  
京都大障害(春) 三着

【1998年】

阪神障害ステークス(春) 二着  
東京障害特別(春) 一着  
中山大障害 一着

【1999年】

障害OP 一着  
障害OP 三着  
阪神ジャンプステークス 五着  
中山大障害 三着

【2000年】

新潟ジャンプステークス 六着  
京都ハイジャンプ 五着

【2001年】

中山グランドジャンプ 一着  
阪神ジャンプステークス 三着  
中山大障害 二着

【2002年】

京都ジャンプステークス 一着  
京都ハイジャンプ 一着

【2003年】

京都ハイジャンプ 五着  
小倉サマージャンプ 十着  
障害OP 八着  
中山大障害 十着

【2004年】

中山グランドジャンプ 一着  
小倉サマージャンプ 一着  
中山大障害 一着

43戦13勝（13—4—7—21）

【主な勝鞍】

J・G1 中山グランドジャンプ（2001年、2004年）、中山大障害（2004年）

J・G2 京都ハイジャンプ（2002年）

J・G3 京都ジャンプステークス（2002年）、小倉サマージャンプ（2004年）

※格付け前重賞

東京障害特別（春）（東京ハイジャンプ）

中山大障害

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 斗真アスミナオユキ↓安曇直幸

1992年3月21日生まれ。幼名は「おじちゃん」。

大柄でのんびり屋さんな栗毛の牡馬。

デビュー戦は2000メートル。そこから長距離、マイル、スプリントと幅広い距離を走ったが、どの距離でも上手く走る事が出来ず、逆に短過ぎるのでは？と若き日の小金井斗真が進言し、他のサラブレッドと比べても足元の丈夫さがあり障害レースへと転向した。

障害転向後は秘めた才能が開花し、四連勝後、重賞戦線へと挑み好成績を納める。

平地レースでは世紀末霸王が舞台を彩り、摩天楼が新しい景色を魅せていたのでアセビロードが注目される事は無かったが、同じ障害レースを走る陣営からは「アセビロードの走りを真似しろ」と言われる程、その走りと飛越は美しかったという。

現役がとても長く、同じアセビの名を持つアセビツバキと一緒に引退をした。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

ロード↓「道」という意味

## 90～04年代の競走馬：アセビツバキ

期待に応えられない吾なんかをずっとずっと大切にしてくれただから。出来損ないでも走って良いのだと前を向かせてくれたから。だから、見ていて下さい。

感謝の言葉は通じなくても、この走りで証明します。

吾はその場所で、咲き誇って魅せますから。

この身体を撫でてくれたその温もりへ吾の感謝が伝わります様に。

### 生涯成績

#### 【1998年】

- 新馬戦 一着
- 条件戦 一着
- 条件戦 一着
- 条件戦 一着
- OP 一着
- OP 六着

#### 【1999年】

- 共同通信杯 七着
- チューリップ賞 八着
- すみれステークス 十着
- フラワーカップ 十六着
- 桜花賞 四着
- 優駿牝馬 八着
- 秋華賞 三着

#### 【2000年】

- 目黒記念 四着
- 宝塚記念 二着
- スパーキングレディーカップ（ダート） 八着

有馬記念 十着

【2001年】

中山金杯 一着

日経賞 一着

海外遠征

【2002年】

ジャック・ル・マロワ賞 一着

【2003年】

京都新聞杯 三着

朝日チャレンジカップ 一着

有馬記念 五着

【2004年】

共同通信杯 二着

安田記念 二着

天皇賞(秋) 三着

有馬記念 三着

27戦9勝(9―3―4―11)

【主な勝鞍】

G1 ジャック・ル・マロワ賞(2002年)

G2 日経賞(2001年)

G3 中山金杯(2001年)、朝日チャレンジカップ(2003年)

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 斗真

1996年6月18日生まれ。幼名は「お姉さん」。

産まれた時から手の掛からない芦毛の牝馬。

デビューしてから勝利を重ね、アセビの馬であり牝馬という事から期待を向けられるが、オープン戦で負けてから実力を発揮できない時期が続く様になる。クラシックにも運良く出走が叶ったが、秋華賞での三着が最高順位となった。

手は掛からないが牝馬らしい繊細さがあり、担当厩務員は優しく話し掛けたり、スキンシップをよく取ったとインタビュアーで答えている。

脚質はアセビボタンと似て先行で走る。馬群を怖がる事は無いが、隙間を縫う事は苦手。

一年以上の時間を使った長期の遠征では初めてのG1と共に、円谷異、高垣芳司へ海外G1を贈った。

遠征から戻り、日本でのレースに復帰してからは愛されるブロンズ、シルバーコレクターを続けた。

現役がとも長かった同じアセビの名を持つアセビロードと一緒に引退をした。

アセビの名を持つサラブレッドの中では一番「可愛い顔」をしているとの専らの噂で、牧場で撮られた写真がバズった結果、テレビのミニコーナーデビューをした事がある。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

ロード↓ツバキ（控えめな素晴らしさ↓申し分のない魅力、完全なる美しさなど）

## 2020年代の競走馬：アセビコウロ

あ、あのですね。  
わたしはこんなにも怖がりで、こんなにも出来ない事が多いのですが！  
走る事は好きなので！走る事で皆さんへ有難うを伝えられるのなら、わたしは沢山頑張りますので！  
これからも、宜しくお願いします!!

### 生涯戦績

#### 【2020年】船橋競馬場デビュー

- 新馬戦 二着
- C2 一着
- C2 三着
- B2 二着

#### 【2021年】

- 羽田盃 一着
- 東京ダービー 一着
- ジャパンダートダービー 二着
- A1 四着
- 浦和記念 一着

#### 【2022年】

- フェブラリーステークス 十四着
- 東京スプリント 四着
- さきたま杯 一着
- フリオソレジェンドカップ 一着
- 日本テレビ杯 二着
- 浦和記念 一着

#### 【2023年】

A1 三着

フェブラリーステークス 一着

京成盃グランドマイラーズ 二着

かしわ記念 三着

さきたま杯 一着

サマーチャンピオン 四着

マイルチャンピオンシップ南部杯 一着

浦和記念 一着

23戦11勝(11-5-3-4)

### 【主な勝鞍】

G1 フェブラリーステークス(2023年)

JpnI マイルチャンピオンシップ南部杯(2023年)

JpnII 浦和記念(2021年、2022年、2023年)、さき

たま杯(2022年、2023年)

南関東SI 羽田杯(2021年)、東京ダービー(2021年)

SIII フリオソレジエンドカップ(2022年)

### 【馬主】

高垣 琴

### 【主戦騎手】

ニッタヒスイ  
新田翡翠&小金井 斗真

2018年2月2日生まれ。幼名は「ピヨン君」。

大柄で怖がりな粕毛(に似た薄い青毛)で、走る時は必ずチークピーシーズとシャドーロールを付けていた。

所属は船橋ケイバだが、毎年『さきたま杯』と『浦和記念』に出走して優勝していくので、浦和競馬場からスカウトをされた事がある。

アセビの名を持つ競走馬の中では唯一のデビューから引退まで地方に所属し続けたサラブレッドであり、芝のレースへ挑戦をする事は無かった。ガチガチのダート専門馬。

脚質はスタート下手と、馬群を好まないなので差しを選ぶ事が多い。

文句無しの成績を記録しているが、地道な勝利を重ねていくタイプだったので、パフォーマンスの派手さが無く魔鏡と呼ばれるダートの

中では若干影が薄い。しかし、こう見えても3歳ダート二冠を達成している。

重賞の大きなレースでは観客も多く、その分コウロが怖がる素振りを見せる為、パドックからゲートが開くまで厩務員もしくは騎手が話し掛け続け意識を逸らしていた。

年を重ねてからはその怖がりもある程度改善し、知らない人から差し出された人参も食べられる様になった。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

コウロ↓航路



## 21世紀にいた競走馬：ポンポーツ トウカーナエ

イオは怪我をしてしまったので、約束を守る事は出来ません。  
なので、貴方にイオの心を託します。

### 生涯戦績

#### 【2004年】

新馬戦 二着  
未勝利 四着  
未勝利 六着

#### 【2005年】

未勝利 二着  
未勝利 一着  
5戦1勝（1―2―0―2）

#### 【馬主】

トカチユウゼン  
十勝夕禪

#### 【主戦騎手】

ハタノヤクモ  
波多野八雲

2002年7月16日生まれ。幼名は「アオちゃん」。

右目が魚目で尾花栗毛というとても珍しい見た目の牝馬。

あのデーブインパクトと同じ時代にデビューし、戦績では無く見た目で注目されていた馬。

新馬戦では騎手との折り合いが付かず二着となつてからは、四着、六着と続き年を跨いだ2005年の二戦目で初の勝利を飾った。

秋華賞には間に合う様に重賞やオープン戦で経験を積んでいこうとプランを練っている最中、調教中に怪我を負い引退となる。

その後は繁殖牝馬として活躍し、最後は功労馬そして看板馬として牧場で余生を過ごす。

そして、ポンポーツが引退してから10年以上経つたとある日、十

勝夕禪の持ち馬が有馬記念を優勝する。

十勝夕禪は日本ダービーよりも有馬記念へ熱意を向けている馬主で、インタビュアーを受けた時には「あの子には有馬記念を勝たせてあげたかったね」とコメントを残した。

あの子、についての言及は無かったが、きつとどこかの牧場で過ごしている牝馬に向けての言葉だったのだと噂されている。

ポンポーソ↓イタリアの音楽用語で華やかに、豪華に。

カナは小さい子が好きです。可愛いので。

小さい子はカナが絶対守ります。

その為に、強くなりますね。

強ければ強い程、守れる数も増えますから。

#### 生涯戦績

【2016年】佐賀競馬場デビュー

新馬戦 一着

B 1 一着

B 1 二着

B 2 二着

A 1 一着

【2017年】

飛燕賞 一着

九州ダービー栄城賞 一着

ロータスクラウン賞 一着

JBCスプリント 三着

名古屋グランプリ 四着

【2018年】

佐賀記念 一着

ダイオライト記念 一着

平安ステークス 二着  
プロキオンステークス 五着

日本テレビ盃 五着

クイーン賞 三着

東京大賞典 六着

【2019年】

TCK女王盃 一着

マリンカップ 七着

佐賀ヴィーナスカップ 四着

佐賀がばいダッシュ 一着

九州大賞典 二着

中島記念 二着

【2020年】

佐賀記念 六着

帝王賞 一着

東京大賞典 三着

【2021年】

黒潮賞 三着

兵庫チャンピオンシップ 三着

プロキオンステークス 二着

東京大賞典 二着

30戦11勝(11-7-5-7)

【主な勝鞍】

JpnI 帝王賞(2020年)

JpnIII ダイオライト記念(2018年)

JpnIII TCK女王(2019年)、佐賀記念(2018年)

【馬主】

イコマアオイ  
生駒葵

【主戦騎手】

イナミミユキ  
伊波実幸

2018年2月2日生まれ。幼名は「ホウちゃん」。

子供が大好き最強の鹿毛色の牝馬。

デビューしてから常に連対を記録し、伊波実幸と共に牝馬と女性騎手のコンビで佐賀三冠（九州三冠）を達成してからは交流戦にも顔を出す様になり、その強さを存分に発揮した。

馬主である生駒が沖繩の海を愛しており、身に付けたメンコは海を思わせるエメラルドグリーン生地、額の部分にはシーサーや珊瑚礁のワッペンを付け「佐賀一のお洒落さん」などと言われていた。

三冠間近のロータスクラウン賞では、目の横の部分に特別仕様の小さな真珠のワッペンが3つ付けられていた。

引退後、繁殖牝馬となつてからは10頭の産駒を生み、リードホースとなる。

人間、サラブレッド問わず子供好きで見学客の中に小さな子供や赤ちゃんがいと近付いて来て、その側から動かなかつたらしい。

トウカーナエ↓きよしちよう座にある恒星の名前

その身体に触れながら

何時も通りの時間に目を覚まして身体を起こす。

妻と子供達に挨拶をして、食事を終わらせて、仕事を始める前に異君の作った牧場へと脚を向ける。

遠くから聞こえる犬や猫の声を楽しみながら、馬が生活する馬房の扉を開ける。

まずは、オスの馬である譲り受けたロカ。

この子は競馬場でも見た事の無い、明るく特徴的な栗毛で少しだけ荒々しい性格をしているから最初の頃はどうしたもんかと頭を悩ませたが、今は子供達が今よりももっと小さかった時分を思い出して、接する方法にも慣れてきた。

癖なのか、パツパと歩く速度に合わせて早足で横に並び、放牧の為に作られた空間へ放す。

そうすれば瞬きをした瞬間には走って向こうの方へ行ってしまう。

もう一度歩いて来た道に戻って、別の扉を開ける。

そこには、ロカとは違い大人しいメスの馬ボタンがいる。

何となく挨拶をしながら、競走馬として走っていた時よりも、白い毛が混じる様になったその身体に触れて異常が無いか、確かめる。

この頃はお腹の膨らみも増して、もう少しすれば子供が生まれるのだろう。

「頑張ろうな、ワタシも牧場の人間も初めてだけど、きっと、良い子が生まれるぞ」

馬房からボタンを出しながら放牧地へと歩く。

まだ寂しいこの場所に仔馬が増えたら、賑やかで寂しさの無い場所になるだろう。

ああ、異君。

ワタシは未だに寂しいよ。

ボタンの子も、ボタンの未来も一緒に見ているものだと思っていたから。

なんて事を考えて、下を向けば、慰めてくれたのかボタンの鼻先が

頬に当たる。

「有難う……ボタン。ワタシが気落ちしていても仕方無いな」  
手綱を外し、柵で囲われたその場所の中にボタンを入れる。  
しかし、ボタンは動かずに、ワタシの隣で止まったまま。

「あははっ！君は、本当に優しいな」  
髪の毛を整える様に、その額に触れる。

黒と白が混じり合うボタンの風貌は、最近売り始めたと言う「ごま  
しお」によく似ていた。

この身体に触れられて

お早う。ほうじくん。よく眠れたかしら？

昨日はね、遠くでろかが怒っていたからわたしはあんまり眠れな  
かったの。

あとね、お腹の中でチビがわーって動いたから、ビックリしておし  
りを壁にぶつけてしまったわ。

痛くないけど、けがはしていないかしら？

「頑張ろうな、ワタシも牧場の人間も初めてだけど、きっと、良い子が  
生まれるぞ」

うん。頑張るよ。

いい子で生まれて、可愛いお顔をしていたら良いな。  
って、ほうじくんどうしたの？

今日はちよっぴりお顔が悲しそう。  
お腹でも痛くなっちゃったの？

仕方ないから、今日は隣にいてあげるね。

わたしの隣はつぶらやせんせいの場所だけど、ほうじくんならとく  
べつよ。

広いお庭は嬉しいけれど、がまんしてジツとほうじくんのちかくに  
いてあげる。

「あははっ！君は、本当に優しいな」  
そうでしょう？

わたしは、優しい子だから。  
優しいあなたにも優しくするの。

## 初めて見た、競馬の興奮。

熱狂とは正に、これを言うのだと肌で感じる。

レースへの熱狂、馬への熱狂、応援する馬の母もしくは父への熱狂、応援している冠名への熱狂。

様々な情念が渦巻いて、只目の前を見つめ続ける。

生まれてから初めて脚を踏み入れた競馬場。

『Racing Program』と書かれた冊子を捲りながら足並みを揃えて芝生を見つめる。

大きなレースがあると言うのに妻と娘息子は探検だと建物の中へ消えて行った。

大きく響くファンファーレと呼ばれる音楽。

順番にゲートへと入っていく16頭のサラブレッド。

手の中で握った小さな券には、がんばれと書かれている。

「さあっ！綺麗なスタートを決めて一斉に16頭の競走馬がまずは芝の地面を走ります!!先に抜け出したのは」

位置で言うとな右の奥。芝の上を走り出す色鮮やかなサラブレッド達。少し走って直ぐ、地面は砂へと変わり数字を掲げたその脚は本領を発揮する。

一番先に抜け出した6番は今も先頭を走り続けて、その次に7、9、12番が固まって少し開いた所に3、14、7、8、11番がいる。

電光掲示板の裏へとサラブレッド達が移動し、見易い画面に目を移す。

がんばれの対象は後ろの方を走る2番。競馬において前を走った方が良いのか、後ろの方を走った方が良いのかわからないから、ひたすらに祈る。

電光掲示板から相変わらず6番が飛び出して、その他が続く。

「さあ！先頭は変わらず!!ただ1頭のみが第3コーナーへと向かいます!!現在2番手を走る12番までには3馬身程のリードがあるが!!勝負は依然ここからです!!」



コーナーを曲がり、サラブレッドが少し、視界の中で少しだけ大きくなる。

2つ目のコーナーに差し掛かる手前、常に先頭を走っていた6番が失速。いや、速度を上げた後続に差を詰められる。

これは遅いのか、早いのか、自分の脳では理解出来ないが固まっていた集団が動く。

コーナーを曲がる。直ぐそこにサラブレッド達がいる。

【残り約500メートルの直線!!G1という栄誉へと触れるのは一体どの馬だツ!!】

会場のボルテージが上がる。シャワーの様に軽く小さな粒子が世界に舞う。

がんばれと応援する薄い毛色の2番が、脚を変える。

4本の脚で懸命に走る。

残り300メートル。

騎手が鞭を何度か振るって、合図を送り続ける。

残り150メートル。

その馬が3番手にまで上がってくる。

残り50メートル。

1着との差は、ほんの僅か。

手に力が入り、柵を握る指先が白く染まる。

少しだけ身体が前のめりになって、コンサートの様に大きな音が響く世界でしつかりと、前だけを見つめる。

届け、届け、届け、届け。

「届け……届けッ！届けッッッ!!コウロ!!」

熱狂。

大歓声。

頭がガンガンと鳴って、遠くで響く声を辛うじて拾う。

スピーカーに乗った声が地方所属のまま中央のG1を制した特別を伝える。もう、何年という単位で久し振りだった珍しい記録なのだと主張する。

肩の力が落ちる。

これを応援している馬の毎回で体験するのは大変だが、だからこそ勝った時の喜びも一入というもの。

「……君を、デビューの時から見ておけば良かったよ」

心を奪われてしまった。初めてなのに、見入ってしまった。

どうやらこれも、血筋なのかもしれない。

## 適当な人

何時もの様に、拘りよりも値段で選んだ煙草の煙を喫みながら仕事場に向かう。

動物の臭いが漂うその場所の扉を開けば一頭の茶色い馬がジツと、耳ばかりを動かして狭い馬房の中で佇んでいた。

「よオ。おはよーさん」

煙草を啜えたまま口を開けば反応をする様に、偶然鼻を鳴らす馬。ジブンはこの馬の世話を任された厩務員。という名のちやらんぼらん。学校は行かずに退学となり、仕事は直ぐに怒られてクビになる。ちやらんぼらんどころか世間から疎まれる出来損ない。

「まー、ま。そんなジブンでも出来てるのだから、楽な仕事ですわ。ホント」

何かを強請る様に前脚をガシガシと動かす馬をそんな事をしてどこか痛めたのなら怒られるのはジブンなのだからと宥めながら、餌をバケツの中に入れて、目の前に取り付ける。ちゃんと食ってるのかどうかを横目で確認して、新しく水を入れたバケツを地面に置いた。

「草って美味しいのかね？興味は無いんだけど」

適当に、それっぽくブラシをかけてやって食事の終わりを見届けてから外に出す。

よく晴れて、レース日和だな……と呟いた言葉に、再び茶色の馬はタイミング良く鼻を鳴らした。

吸い終わった煙草のカスを地面に捨てて、新しい物へ火を付けた。青空の中に一筋の灰色が混じるのを見ながらももう少しで隣の馬がレースに出る日だった事を思い出した。

トウキョウなんかの競馬場と違って、この場所の競馬場は酷く寂しい空気の匂いがする。

珍しい所と言えば、馬場から海が見えるくらい。

そんな金にもなりやしないこの場所を馬を曳きながら歩く。

パツカパツカと音を立てて、地面に落ちるソレを踏まない様にそれ

となく避けながら柵の向こうにいるオッサン共が口に啞える物へ依存の気持ちを向けながらただ、歩く。

「そんじゃ、今日も頼みますわ」

「はい。お願いします」

茶色と黒の勝負服を見に纏った伊波さんが乗り、嫌そうな顔をした馬の首を軽く叩きながらゲートへ向かうまでの道すがら、パドックから離れた場所で欠伸をした。

今日も空は晴れ渡っていた。

そして、こんな場所にも関わらずたった一人、オジサンなんて言葉では呼べない程の坊主がいたのが見えて、珍しーと誰にも聞こえない声で呟いた。

ガチャンコン。

軽い音を奏でて馬が飛び出す。別にジブンは賭ける側では無いので、勝ったら良いなあと思ひながら馬場を見つめる。

一応、レース後にはアイツの権利を持つ人の所に報告する約束をしてるので、特に何かを言われる事は無いが良い順位を獲ってくれた方がジブンの気持ち的にも有難い。

「かーて、勝て。なんか100勝くらい」

適当にボヤいていれば、レースは残り800メートル。

アセビスズナは未だ後方にいた。

ジブンの担当する茶色の馬はその昔、ダービーを勝った馬らしい。だいたい2000頭かそこらの数、その頂点。

まあ、確かに。アイツのレースぶりを見れば、強いんだろうなとは思うが、アイツがねえという思いに支配される。

無事1着を獲ってきた馬の額を撫でて、お疲れと声を掛ける。また鼻を鳴らされる。

「やつばよ、お前ジブンの言葉理解してるね?」

鼻はならない。

どっちなんだと文句を言えば、伊波さんが笑って「頭が良いんですね」なんて事を言うから、そうですね。と返す。

「ま、アタシは頭が良くて、ヤサシイ厩務員ですからね。そんなニンゲ

ンに世話されてたら頭も良くなるでしょうよ」  
「本当の事なのに、何故かスズナはジブンの脚を踏みつけようとした。」

## 障害3歳以上未勝利。

最後の最後まで希望を願った9月の第1週。

今までで1番と言っていい程の手応え。絶対に勝つのだとロードへ指示を送る。

今日は、本当に良い走りをしてくれた。

写真判定の末、3着となったアセビロードが進む未来は、「障害レース」となった。

それは、アセビロードの持つスタミナを加味したものであり、アセビロードの怖がらない性格を充分に活かせる舞台だと考えられたからである。

初めての障害練習。只の棒が地面に置いてある所から始めるトレーニングは、順調の一言だった。

初日には地面に置いた棒を跨いで、クロスされた棒も数日あれば超えられる様になった。

そして、いよいよ障害レースで見られる竹柵を前にする。高さこそ低い物となっているが、それでも立ち止まってしまう馬も数多くいる。

「よし、次はこれを頑張ろうな」

首筋をトントんと叩いて助走を付ける。

最初は立ち止まり、嫌な予感を感じるが、暫くすれば竹柵を理解して超えられる様になった。

次は障害レースでも使われる様な本格的な障害物。素材の違う物が並んだ連続障害を全て超えられる様に、怖がらない様に飛越する。

「よし、よし、上手だぞー」

1つの障害を越える度に出来ている事をしっかりと褒め、馬の気持ち達が途切れない様に進めていく。

ロードののんびりな性格を尊重しつつ、出来る事を進めて、何度も練習を繰り返す。

そうして、1年近くの時間を使い本番へ。

「ロードはのんびり屋で、レースでもエンジンが掛かるのが少し遅いので早め早めから促してあげて下さい」

障害3歳以上未勝利。

朝1番の客もまばらな競馬場のパドックを周回する中で、初めてアセビロードとタッグを組む安曇へロードをよく知る厩務員がその癖を共有する。

安曇は鐙の調節や、手綱の調節を行いながらその言葉に頷く。安曇はロードと同じく障害レースに於いては新人と呼ばれる部類の間だが、中々に良い成績を残す期待のルーキーだった。

「それでは、お願いします」

その言葉を最後に厩務員は離れ、ゲートが開く。

本番、1番初めの障害を飛越する。完歩に近い理想的な踏み切り位置。着地もほんの少し大勢は崩れたものの、問題ないと言える範囲。

ハミの反応も良く、理想的な走りをすると言っても過言では無い。

それなのに、平地では未勝利を抜ける事さえ叶わなかった。競馬の世界で考えるとよくある話ではあると言えてしまうものだけれど、それにしても不思議だった。

「そろそろ行くよ」

1000メートルを過ぎた辺りで誰にも聞こえない世界の中、安曇が声を掛ける。

ほんの少し手綱を緩めて拘束を解く。

それからは500メートルの間隔で手綱を緩めて合図を送る。

そうして、最終直線。

「行くよっーロード!!」

鞭を一回入れれば、綺麗にスピードを上げていき、ドンドンと前を走っていたサブレットの背に追い付く。

殆ど理想的な形の飛越はスピードを緩める事無く、勢いへと変わっていく。

残り100メートルを過ぎる頃には何十馬身とあった差は無くなり、前にはあと1頭のみ。

障害の未勝利戦においては中々見ない追い込み方。

観客席の何処かから「おお！」と声上がる。

アナウンサーが叫ぶ様に「アセビロード！初めての一等賞！」と口にした。

「お疲れ様。ロード君」

ゴールを過ぎ、脚を緩めたアセビロードの頭をわしやわしやと撫でれば嬉しいのか、うざったかったのか頭をブンブンと振る。

4歳の夏前。

アセビロードは、初めての勝利を飾った。



## 皆と走るⅡ最高

走るのは楽しい。

他の皆よりもつと先に立てたら嬉しいよね。

でも、1番楽しいのは皆と一緒に走ること。

それなのに上に乗ってるヒトも、僕のお世話をしてくれるヒトも走り終わった後に「シヨモシヨモ」って顔をしている。

なんでだろう？って思ったら、僕が走る時は1番先にゴールしないといけないらしい。

「でもさ、皆と一緒に走るのが楽しいんだよね？分かるかな？この気持ち」

顔を出して隣のオトモダチに話し掛ける。

「だけど、オトモダチは「そうかあ？」と僕の言葉をあんまり分かってくれない。オトモダチは僕と反対で、1番になるのが嬉しいらしい。」

「なんだよく、分かってくれないのか、僕の方がシヨウスウハ？ってやつー？」

頭を振りながら云々と唸っていれば、脚が壁にぶつかってガコンって音を立てた。オトモダチからは「五月蠅いぞ」と怒られた。

今度は僕が「シヨモシヨモ」って顔をする番だった。

そんな僕を見て何時もお世話をしてくれるヒトがどうしたんだって顔を撫でた。

あつ、もう少しだけ横つちよが良い……。

高垣芳司や小金井近江を少しだけ悩ませる馬。アセビルピナス。

現在9戦1勝、内掲示板入りが2回と中々に伸び悩んだ成績。様々な距離を走らせてみて短距離が1番力を発揮できる距離であるという事は分かったが、それ以上になると難しかった。

彼はレースというより他の馬との併走を楽しんでいるようで、どれだけ鞭を入れてもスピードを上げず、結果集団の中で流れる様にゴー

ルする。

「あの、高垣さん」

「ええ。なんでしょうか」

「次のレース、成功するかは分かりませんが、試してみたい事があります」

「……分かりました。お願いしますね」

『北海道3歳ステークス』11頭の馬が集まったゲートの中で小金井はポンポンと首を叩く。

特別興奮した様子は無く、何時も通りの落ち着き。

最後の馬が入り、ゲートが開く。

アセビルピナスが飛び出した瞬間に小金井は一発、鞭を入れた。

驚いて、アセビルピナスは普段の併走を楽しむ雰囲気から一転、掛かってしまったかの様にスルスルと前へ出る。

後は1200メートルを1番で走り切れる様に鞭を入れ、速度を落とさない様に走らせる。

1分と数十秒、最後は団子になってゴールの前を通過する。

アセビルピナスの確定した順位は「3」。

それでも初めてと言って良い競走馬らしい走りに小金井は普段よりも多く首筋を、頭を撫でた。

アセビルピナスはなんだか不思議そうな表情をしていた。

愛が世界を超えるのならば、

ガヤガヤと騒がしい居酒屋の真ん中で、酒を何口か肴と共に胃の中へ入れながら目の前に座る先輩へと話し掛ける。

数ヶ月前からずっと、頭に浮かんでいること。

「俺……転職？しようかなって……」

「転職？そりやまたどうして」

先輩は、不思議そうな顔で鮮やかな緑色をした枝豆を口にしながら、首を傾げる。

俺は、促されるままに自分の思いを吐き出した。

「今の仕事に、先輩の下で働く事に不満とか、嫌だなんて思う負の感情は一才無くて……逆に離れたくないって思うくらいなんですけど、この仕事と同じくらい挑戦してみたい！って思うものができて」

「へえ、それは素敵な事じゃん。ちなみに何か聞いても良い？」

「……牧場です」

「牧場？それまたアシスタントとは正反対。というか、掠りもしない所にいったね」

「自分でもそう思います。でも、キツカケがあって」

先輩はグラスを傾げ、何度か喉を動かす。

自分も唐揚げに手を伸ばして咀嚼し、何杯目かのビールを胃に流し込んだ。

相変わらず周りは騒がしくて、でも、自分達のテーブルは酷く静かだった。

「……牧場って言ってもさ、色々あるじゃん？牛、豚、鶏、羊とか」

「あー、馬です。競馬の、動画見て……スンマセン……」

「え？何で謝るのさ」

「いや、だって、競馬ってギャンブルの面もありますから、嫌な人は嫌だろうし」

「それもそっか。でも、大丈夫だよ。私は走る馬格好良い〜！って思ってるタイプだから」

「それは良かったです」

「馬ねく馬かく……格好良いよねく」

「はい！凄く！」

思わず大きな声が出て、先輩が驚いた様に目を大きく開く。酔いの回り始めた頭は一瞬で正気を取り戻し、先輩に頭を下げた。

「良いよ良いよ。夢中になれるものを見つけるのは大切だからね。……動物園、水族館にも言える事だけど、牧場も朝早いよく？今よりもずっと」

「それは承知の上です！って、先輩詳しいんですか？」

「詳しいっていうか、ちよつと知り合いがね……あ！なんなら話付けてあげようか？君が本気の本気なら、手伝わせて欲しいな」

「い、良いんですか!？」

「うん！良いよ。君が頑張れる子だっというのによく知ってるし、知り合いも何人か人材欲しいって言ってたし」

「有難う御座います!!……あの、所で動物とは全く関係ない所から牧場に進むのって……」

「全然大丈夫じゃない？今だって、脱サラしてくとかそれこそ競馬を見てくってという人もいるし。愛する気持ちと、最低限の体力さえあれば問題無いって」

「……良かったあ！」

少しの脱力の後、居住まいを直し、先輩へと頭を下げる。

「本当に、有難う御座います！高垣先輩！」

「どういたしまして。頑張れよ、知り合いの所は馬だけじゃ無くて色々いるから」

「お、押忍!!」

動画サイトのオススメで突然出てきた競馬の動画。

競馬には特に、深い思い出も、感情も、それこそ批判的な気持ちも一切無かった。

でも、サムネイルに映る一頭が白くて綺麗だったから、再生した。純粹に走る姿に目を惹かれた。素人でも分かり易い白い身体をぬかるんだ地面で汚れるのを厭わず懸命に走って、最後の一瞬まで人々の目を奪い続けた。

その馬が、目の前にいる。

俺はこの馬が現役で走っていた頃はまだ5歳か、6歳で数ヶ月前まで興味すら無かった。

あの動画だって、勝ってはいない。確か、3着だった筈だ。

それなのに、隣に立つ先輩に促されるまま触った掌から伝わる熱に、何故だか無性に泣きそうになった。

## 牡丹の思いは時の碧落に沈む

たくさんの人が見ている。

わたし達を応援しながら、キヤーって楽しそうに笑っている。わたしはその笑顔がもつともつと見れるように、頑張るぞ！って気持ちになる。

「こんにちは」

フンフン！って、頑張るぞの気持ちを持って歩いていけば、突然挨拶をされてびっくりする。

そんなわたしを見て、隣にいた知らない男の子はすみませんと笑った。

「嫌な子。驚かすなんてサイテイね」

「本当にシツレイしました。どうか、許してはくれませんか？お嬢さん」

「イヤ。わたし、お嬢さんじゃないもん。わたしはアセビボタンって言うのよ」

「それは、重ねて失礼を……ボクはトキノミノルと言います」

「トキノミノル、ミーちゃんね」

「ボクはオトコノコ、なのですが……」

ミーちゃんはなんだか恥ずかしそうに首を振る。

わたしは、隣の男の子と話してなんだか不思議な気持ちになる。隣にいるのはつぶらやせんせいとかほうじくんとか、こがねいじよつきーじゃ無いのに、わたしの嫌いな子達と同じなのにあんまり嫌に思わない。

「ねえ、どうしてあなたは大丈夫なの？」

「大丈夫。とは、どういう意味でしょう」

「わたしね、ヒトが好きなの。それ以外はキライ。でも、ミーちゃんは大丈夫なの。不思議」

そう言うと、ミーちゃんはさつきと変わってなんだか誇らしげに笑った。

もう直ぐで走る時間なのに、いつもと違って頑張るぞって気持ち以外の気持ちがあつて変な感じだ。

「ねえ。わたし、アセビボタンよ。宜しくねトキノミノルさん」

「……ボクの事は自由に呼んで下さい。宜しくお願いします。ボタン」

鼻を合わせる、わたし達の挨拶。

「今から走るでしょ。ね、おたがい頑張ろう」

「うん。全力で走りましょう」

そして、勝ったらボクをお願いを聞いてください。

勿論。ボタンが勝つても同じです。

「ふうん……でも、わたし、勝っちゃうよ？こう見えて、脚が速いの」

「何を言いますか。ボクもソウトウ速いです。とてもね」

位置について、よいい、ドン。

ミーちゃんはわたしの前を走る。ずっとずっと先頭を走っている。

わたしはその背中を見つめている。

こがねいじよつきーがわたしのニガテな所から外に出してくれて、漸く息ができるようだった。

合図があつて、全力で走る。オーちゃん、ヒーくん、ミーくんを追い抜いて、もう直ぐでゴール。

最後にイーくんを追い抜いて、ミーちゃんと並ぶ。

でも、勝てなかった。

初めて2番になった。

知らない感情が湧いてきて、あああ!!って叫んで、地面を叩く。

こがねいじよつきーに宥められていれば、目の前にミーちゃんがやって来る。

「ボクの、勝ちです……!」

誇らしげに、嬉しそうに、そう語って約束を口にする。

「また、一緒に走りましょうね!ボクもゼンリヨク、ボタンもゼンリヨクで!ボク、キミの事が好きなので!」

「分かった。また、走ろうね。わたしもヒト以外なら、あなたが一番すきよ」

言い合って、お別れをする。

それから、ミーちゃんと顔を合わせていない。

ミーちゃんが言った事なのにいつまでわたしを待たせるの。

わたし、オカアサンになっちゃったよ。

ミーちゃんが全力ってお願いしてきたのに、わたしはもう全力で走れないんだから。